續々群書類從

第十六

續々群書類從第十六

例言

一本編は雜部として、奈良正倉院文書の雙倉北雜物出用帳以下三十八種を收む。

一雙倉北雜物出用帳一卷　天平勝寶八歲十月より延曆三年三月に至る奈良正倉院收藏の藥品、其他寶物の出納の記なり。題名の雙倉北は、北方の雙倉を指せるなり。惜むらくは卷尾闕失せり。

一延曆六年曝凉帳一卷　延曆六年六月正倉院曝凉の時、現在せる寶物の目錄なり。卷首闕失せり。

一延曆十二年曝凉帳一卷　延曆十二年六月勅を奉じて、正倉院收藏の香藥幷に各種の寶物を曝凉點檢せし時の記錄なり。

一弘仁二年官物勘錄一卷　弘仁二年、東大寺の資財幷に正倉院官

物を點檢せし時の記錄なり。卷首闕失せり。

一雜物出入帳従弘仁至天長一卷　弘仁五年より天長三年に至る正倉院寶物の出納記なり。是亦卷首闕失せり。

一雜物出入繼文一卷　天平勝寶四年より齊衡三年まで、正倉院の藥品器物を進上せし文書を繼々に成卷したるものなり。これ亦卷首を闕失せり。但卷尾の齊衡三年雜財物帳に納班藺箱一合云云の文は、上文齊衡三年六月廿五日雜財物帳壹卷云々の末なる人勝二枚云々の文に續きたるを、何れの頃か貼り違へたるものなるべし。

一東大寺勅封藏目錄記二卷　上卷は建久四年御開封ありて、寶物を綱封藏に移されし事より、當時現在寶物の目錄、及び翌年寶物返納に至るまでを記し、下卷は寬元元年寶庫破損雨露頻侵の故を以て、勅封御物を西印藏に移しゝ事、及び弘安十一年四月、後深

草法皇南都に御幸ありし時御開封ありし事等を記せり。

一天正二年截香記一卷　天正二年、織田信長、正倉院收藏の蘭奢待一見の節、一寸四方截取り、一は禁裡に上り、一は自身拜領せし事の始末を記したるものなり。蘭奢待拜受の事は、東山義政以來中絶せしことゝて、當時東大寺の狼狽非常なりしことゝ、此記錄によりて知られたり。

一東大寺三藏御寶物御改之帳一卷　慶長十七年、正倉院寶物御改の節記したる目錄なり。此年三月盜寶庫に入り物品を竊取せしを以て、寶物點檢の擧ありしなり。

一慶長十九年藥師院實祐記一卷　初に三藏開封の次第を記し、次に天正二年織田信長截香の事、德川家康三藏修理の事、慶長十七年盜寶物を竊取し東大寺狼狽せし事、遂に盜を捕へて處刑せし事を記せり。

一正倉院御開封記草書一卷　元祿六年五月、正倉院御開封寶物點檢の事より、八月御開封及び下行米、其他雜用、古傳說、御開封儀式、還列次第、寶物行列次第等を東大寺執行藥師院祐想の記したるものなり。

一東大寺正倉院開封記一卷　前書と同時の開封記にして、初に寶物點檢の日程と其概要を記し、次に行列、下行米雜用品、寶物櫃の合文、四聖の賛等を記せり。本書は寶物點檢の場所に於て記したる者なれば前書と異りたる所あり、是彼參照すべきものなり。

一東大寺三倉開封勘例一卷　正倉院所藏の寶物は聖武天皇の御遺財にして、孝謙天皇幷に光明皇后より毘盧舍那佛に御施入ありしを、代々の勅封として傳來し、寬文六年度まで數次開封ありし次第を記したるもの、元祿六年會奉行金珠院庸性の調査せしものなり。

一二倉道具目錄一卷　元祿六年十月正倉院修理に付、諸寶物を南北二倉に移しゝ時の略目錄なり。

一正倉院御開封勘例等御尋之日記一卷　享保七年京都所司代の問合せに依り、東大寺より御開封勘例幷に口上書を進せし事を記し、次に此事につき寺務安井門跡と東大寺年預との往復文書をも掲げたり。

一東大寺古文書目錄一卷　奧書に享保十二年寫畢とあり、此時の調製歟其前のもの歟知るべからざれども、東大寺傳來古文書の大概は推知せらるゝなり。

一正倉院寶物御開封事書一卷　天保四年十月御開封の記事なり。文政の末年より寶庫の屋根大破に及びたるを以て、此年修繕を加ふると共に、寶物點檢をも行はれたるなり。奈良奉行梶野土佐守について、穗井田忠友が成卷文書を編纂せしは此時なり。

一天保四年正倉院御寶物目錄一卷　天保四年十月、正倉院寶物點檢の目錄にして、維新前に於ける正倉院の最後の目錄なり。以上十八種は奈良正倉院に係る文書にして、いづれも小杉榲邨氏の許諾を得て、同氏が多年の苦心に成れる徵古雜抄の中より抄錄したり。但書名は見易からんが爲に假に名付けたるものあり。此內天正二年截香記以下は黑川氏藏本を以て對校せり。

一仁和寺御室御物實錄一卷　本書は承平元年七月、御室より種々の物品を寺家の寶藏に納めし時の實錄帳紛失せしにより、天曆四年十一月、更に未納の物品を加へ調進せし實錄帳なり。原書は前田侯爵家藏卷子本にして、大內記菅原文時の連署及び宇多院印の四字の捺印あり。外題は菅原豐長の筆なりといふ。小杉氏の徵古雜抄本を採收す。

一本朝法家文書目錄一卷　本邦の法制に係る文書の目錄なり。律

令格式の外、現に傳はらざる書目も載せあれば、古代法制書類調査の參考に供すべし。徵古雜抄本を採收す。

一寺社寶物展閱目錄五卷　寬政四年柴野彥助(栗山)住吉內記(廣行)等幕命を奉じて、山城大和地方の古社寺寶物を點檢せし時の目錄にして、朱書にて各意見を附したり。黑川氏藏寫本を底本とし、別本を以て校訂す。

一但馬國太田文一卷　弘安八年、太田太郎左衛門政頼の注進せし但馬國の田文也。徵古雜抄本を採收し、史料本を以て校訂す。

一下京中出入之帳一卷　本書は外題肩書に元龜四年六月十八日とあり。本文によれば、下京中より出銀して殿樣初め家來一同に進上せし記錄なり。按ずるに殿樣は織田信長を云ふ歟。此年信長上洛して七月京中の地子錢を免除したる事あればなり。猶後考を竢つ。早稻田大學所藏原本により採收す。

一絲割符由緖書一卷　寛政十二年、京都絲割符伊藤權左衞門の其筋に差出したる由緖書にして、德川幕府の時、舶來の生絲を專買せる商人の由來を記したるものなり。農商務省藏寫本に據る。

一中家實錄二十卷　本書は故實有職に關する中原家の祕書なり。中原家は世々太政官の外記を職とし、恒例臨時の公事除目叙位等を奉行せし家にして、公文を書き先例を考ふる等に於て、職務上必要の書として彼の家に傳來せしものなり。卷二年中行事略の末尾の如き斷簡の箇所なきに非ず、又御稱號等の音訓は、一家の讀癖に過ぎざるものもあれど、參考に便なり。本書黑川氏藏寫本を以て底本とし、卷一より卷十三迄は木村正辭氏所藏本を以て校訂す。

一書大體一卷　本書は、武家書札禮を記したる古き物の一にして、古文書學の參考に資すべきものなり。奥書によれば、文明中越後

國上杉家の所望により、齋藤越前入道淨互の記したるものなり。されば釣雪老人とあるは同人の別號なるべし。越前入道未だ知るべからずといへども、齋藤親基ならん歟、後考を竢つ。黑川氏藏永正二年の古寫本を採收す。

一大安寺碑文一篇　奈良大安寺の碑文にして、寶龜六年淡海三船の撰なり。此碑今傳はらざれども、大安寺の由來と移轉地とを知るには、此文最も確實なる徵證とすべし。徵古雜抄本を採收す。

一三州俗聖起請十二箇條事一卷　傳來詳ならざれども、三河國に俗聖と稱する者あり、佛經に基き十二箇條を立てゝ一々訓誨を施したるもの、本文問答體に依り一々和歌を以て其意を示せり。黑川氏藏天治二年影寫本を採收す。

一僧妙達蘇生注記一卷　事實は取るに足らざれども、天治二年の寫本なれば、書中當時の地名を掲げたるところ、地理等の參考に

供すべきものあり。惜むらくは卷首を闕く。本書黑川氏藏影寫本を採收す。

一美福門院御文一通　仁平四年二月五日の御文なり。

一六條判官書狀四通　源爲義の高野聖人に與へたる消息なり。高野聖人は覺鑁なるべし。以上二點早稻田大學藏寫本を採收す。

一源義經搜索宣下請文一通　文治二年、源義經法隆寺に潜伏したりとの風聞により、逮捕の宣下を下されたるに、法隆寺は當時堂舍頹壞して黨類寄宿の瘍所なしとて差出したる請文なり。

一興福寺法隆寺牒狀二通　一通は建久九年興福寺より春日神木動座に付法隆寺に助勢を乞ひたる牒狀、他の一通は乾元二年法隆寺より太子入洛の擧に付興福寺に助勢を乞ひたる牒狀なり。

一宋人陳和卿濫妨停止下文一卷　山城國宇治郡小野隨心院古文書の一にして、奈良大佛殿再建につき殊功ありし陳和卿が、恩に

馴れて東大寺所領を押領し、又勸進上人の命に背き放恣の振舞多しとて、其罪狀を訴へたるにより、元久三年四月、其濫妨を停止せしめられたる院の下文なり。以上三點徵古雜抄本を採收す。

一筆海要津二卷　仁和寺の海憲僧都が祖父藤原通憲(信西)の遺作を輯錄したるものにして、中世浮屠間に行はれし願文の一班を窺ふに足れり。田中勘兵衛氏藏古寫本を採收す。

一上賀茂松下氏文書一卷　上賀茂松下氏の古文書にして、書中うち王とあるは祖先賀茂氏久を云ひ、西蓮とあるは藤原能茂をいへるなり。能茂は藤原秀能の養子となり、後鳥羽院に隨て隱岐までも奉仕せし人なり。氏久實は後鳥羽院の御落胤、院隱岐へ遷幸の後、屢、西蓮を介して往復せし消息即是なり。本書黑川氏所藏屋代弘賢影寫本を採收す。

一假面譜一卷　寬政九年刊、喜多古能の著にして、假面作者に關す

る古來の傳說を記し、古面鑑定の參考に供すべきものなり。

一和學講談所御用留抄一卷　本書はもと御用留と稱し、全部二十冊ありて和學講談所に於て公用に係る書類を書留めたるものなり。今其內より群書類從の編纂出版及び塙檢校の身分に關し參考となるべき部分を抄出し、是を續々群書類從の結尾に附す、蓋し微意の存するあるなり。本書早稻田大學藏塙氏原書より採收す。

一本編は文學博士小杉榲邨氏の監修の下に成り、赤堀又次郎氏の助言に負ふ所多し、玆に一言謝意を表す。

明治四十二年五月

續々群書類從第十六雜部

目錄

續々群書類從第十六雜部目錄終

續々群書類從第十六

雜部

雙倉北雜物出用帳 東寺司

人參伍拾斤小

右依二御製一施藥院合藥料下充如レ件、付二秦牛甘一

天平勝寶八歲十月三日主典葛井連

造寺長官佐伯宿禰

竪子葛木宿禰戸主

沙金貳仟壹拾陸兩

右依二御製一奉レ塗二大佛像一料下二充造寺司一、

天平勝寶九歲正月廿一日主典美努連

造寺司長官佐伯宿禰

判官紀朝臣

竪子巨萬朝臣

葛木宿禰戸主

冶葛參兩小

右依二飯高命婦宣一、進二內裏一、

天平寶字二年十二月十六日

造寺司次官高麗朝臣大山

判官上毛野君

竪子葛木宿禰戸主

桂心壹佰斤小

右依二御製一、充二施藥院一、付二藥園司尾張大海一、

天平寶字三年三月廿五日主典阿刀連酒主

造寺司次官高麗朝臣大山
判官河内惠師祖足
撿財使
禮部大輔市原王
坤宮大忠葛木宿禰戸主
鎭國次將田中朝臣多太麿
坤宮大疏池原君禾守
大内記日置造蓑麿
佐官平榮
大僧都良辨
三綱
知事承敎
少僧都慈訓
都維那仙主
可信善季

花氈陸拾漆枚 納白木辛櫃伍合
右裝束　御齋會堂料借充如件
付鳥取國万呂物部三狩
天平寶字三年四月廿九日主典阿刀連酒主

造寺司次官高麗朝臣大山
坤宮大忠葛木宿禰戸主
三綱
寺主承敎
都那仙主
可信法正

防葵一斤八兩幷紙　金石陵一斤十四兩幷紙
蜜陁僧二斤四兩幷紙　紫雪三斤幷紙
又一斤二兩幷合子　胡桐律六斤幷紙
新羅羊脂十二兩幷紙　石水氷六兩幷紙
檳榔子三百五十枚　鍾乳床四斤十四兩
呵梨勒二百枚　宍縱容十一斤四兩
犀角六斤十三兩幷帒　理石二斤八兩二分
麝香十四兩二分十齊　胡椒一斤十二兩二分
蕤核二斤三兩　寒水石五斤十兩
雷丸二斤四兩　鬼臼六兩

狼毒三斤十五兩　　冶葛三斤

右依二越前介外從五位下高丘連枚麿今月廿九日

宣旨一、卽附獻二於內裏一、

猬皮一兩施二安寬師一　　呵梨勒十枚

檳榔子十五枚　　芒消四兩已上三種施二唐曇淨師一

朴消一兩施二法進師一　　芒消一斤七兩

呵梨勒五十枚　　檳榔子廿枚

宍縱容二斤　　无食子廿枚

麝香六兩八齊已上六種施二諸人一料　甘草一辛櫃

大黃一辛櫃　　人心一辛櫃

桂心一辛櫃已上病者施料遷置二雙倉中間一　　鬼臼一兩施二明智師一

右依二同枚麻呂宣旨一、爲レ施二諸病一者出、

天平寶字五年三月廿九日

造寺司次官高麗朝臣大山

判官上毛野公眞人

使越前介高丘連比良麻呂

大僧都良辨

少僧都慈訓

律師法進　　三綱　上座　安寬

歐陽詢眞跡屛風壹具拾貳扇並高四尺八寸半廣一尺七寸半納二黃絁袋二口一

右依二因八麻命婦今月十二日宣一、借二充道鏡

禪師所一、（別筆）以天平寶字八年七月廿七日返上

收大僧都良辨三綱少都維那聞崇造寺司判官彌努連

左虎賁佐高麗朝臣廣山佐伯宿禰直守大外記高丘連

天平寶字六年十二月十四日主典阿刀連酒主

造寺司判官上毛野公眞人

使內匠頭正四位下高麗朝臣福信

左虎賁衞督從五位上藤原朝臣土滿侶

大僧都良辨

三綱　上座法師安寬

都維那僧承天

可信法師法正

桂心小壹佰伍拾斤

右依二賀陽釆女今月廿七日宣一、充二施藥院合藥料一、
付二內竪无位秦忌寸牛養一、
天平寶字八年七月廿七日
造寺司判官彌努連奧麿
佐伯宿禰眞守
使外從五位下行大外記兼內藏助高丘連比良麿
右虎賁衛佐外從五位下高麗朝臣廣山
大僧都堅太法師良興　三綱　小都維那僧聞崇

九月
十一日下御大刀肆拾捌口　黑作大刀肆拾口
御弓壹佰叁枝梓八十四枝　檀九枝　槻六枝　肥美一枝　阿惠一枝　蘇芳一枝
水牛角弓一枝
甲壹佰領桂甲九十領　短甲十領
靫參具納矢二百卌隻　背琴漆靫壹具納矢五十隻
胡祿玖拾陸具各納矢

納櫃貳拾貳合弓櫃五合、韓櫃十六合、矢櫃一合並着二鏁子布綱二條一
以前依二安寬法師今日宣一、獻二內裏一如レ件、即付二安寬師一、
天平寶字八年九月十一日
造寺司判佐伯宿禰眞守
主典志斐連麻呂
使法師安寬
大僧都賢太法師　三綱　可信洞眞

十月
十三日下撿定文壹卷第一
右九月十一日、進二內裏一兵器爲二比校一、進二內裏一如
レ件、
判官彌努連奧麿
主典志斐連麻呂
使大律師

大律師大禪師安寛

三綱　都維那承天

可信　法師乘軌

使右衛士督正五位下百濟朝臣足人

神護景雲四年

五月九日借下屛風參帖二帖薄墨馬形一帖散樂形

右爲レ樣下ニ置造寺司一

使從三位民部卿兼勅旨省大輔近江按察使藤原朝臣繩麻呂

從四位上中衛少將兼甲斐守勳二等坂上大忌寸苅田麻呂

從五位下守中務小輔石川朝臣眞守

大判官外從五位上美努宿禰奥麿

少判官正六位上志斐連麻呂

僧正進守賢大法師良辨

中鎭進守大法師平榮

少鎭脩學進守大法師實忠

小寺主傳燈進守法師承天

寶龜三年八月廿八日返上屛風參帖一帖散樂二帖薄墨馬形

右以ニ去神護景雲四年五月九日一、爲レ樣下ニ置造寺司一、令ニ返納一如レ件、

檢使正四位下行左大辨兼造西大寺司長官播磨守佐伯宿禰今毛人

從五位下行右衛士佐紀朝臣家守

造寺司大判官外從五位上美努連奥麿

主典正六位上葛井連荒海

主典正六位上阿刀宿禰與佐彌

寺主玄愷　都維那寂雲

可信寶業

可信承天

可信慚安

寶龜九年五月十八日下琵琶貳面

(別筆)
□「螺鈿紫檀琵琶一面綠地畫桿撥納ニ紫綾袋一淺綠﨟纈裏紅牙撥鏤撥

紫檀琵琶一面綠地畫桿撥納ニ紫綾袋一緋綾裏

（別筆）同十年十二月六日返上已了

右獻二內裏一如レ件

使從四位上行右衛士督兼常陸守藤原朝臣小黑麻呂

使從四位上行右衛士督兼常陸守藤原朝臣小黑麻呂

右少辨從五位下守紀朝臣古佐美

造寺司大判官正六位上山口忌寸嶋足

少判官正六位上柿本朝臣猪養

少判官正六位上勳十一等高松連內弓

主典從六位下勳十一等大和連虫麻呂

三綱

大都維那滿植

可信承天

寶龜十年十二月六日下治葛肆兩

右依二中納言藤原卿今月六日宣一、奉レ充二親王禪師

所一如レ件、

使從四位上行右衛士督兼常陸守藤原朝臣小黑麻呂

造寺司次官從五位下紀朝臣白麻呂

少判官正六位勳十一等高松連內弓

主典正六位下勳十一等大和連虫麻呂

三綱

大都維那僧惠瑤

天應元年八月十二日出

大小王眞跡書一卷　黃紙半張表裏書兩端黏二青褐紙一

（別筆）八月十八日且返納十二卷　納二白葛莒一合一

書法廿卷　納平脫箱一合　其裝具及紙行數詳二於獻入帳一

（別筆）八月十八日返納了

又「時々御製書四卷　其裝具及紙行數詳二於獻入帳一　納二白紫皂莒一合一

右進二於內裏一

撿挍使藤原朝臣家依

健部朝臣人上

造寺司次官桑原公足床

大判官佐伯宿禰福都理

少判官林忌寸稻麻呂

少判官大伴宿禰承通
主典多朝臣鷹養

三綱
上座大法師　　大都維那惠瑤
寺主善季

天應元年八月十八日返納物
雜集一卷 白麻紙紫檀軸紫羅褾綺帶 右平城宮御宇 後太上天皇御書
孝經一卷 麻紙瑪瑙軸滅紫紙褾綺帶 右平城宮御宇 中太上天皇御書
頭陁寺碑文并樂毅論杜家立成一卷 麻紙紫檀軸 紫羅褾綺帶
樂毅論一卷 白麻紙瑪瑙軸紫紙褾綺帶 右 二卷 皇太后御書
裛衣香二袋 一重六兩二分 一重十一兩一分
右並納二白葛箱一
書法壹拾貳卷
搨晉右將軍王羲之草書卷第一 廿五行黃紙紫檀軸紺綾褾綺帶
同羲之草書卷第二 五十三行蘇芳紙 紫檀軸 紺綾褾 綺帶
同羲之草書卷第三 卌行 黃紙 紫檀軸 紺綾褾 綺帶

同羲之草書卷第六 卌一行 黃紙 紫檀軸 紺綾褾 綺帶
同羲之草書卷第九 卌五行 黃紙 紫檀軸 紺綾褾 綺帶
同羲之草書卷第十 □五行 黃紙 紫檀軸 紺綾褾 綺帶
同羲之書卷第五十一 眞草千字文二百三行淺黃紙 紫檀軸 紺綾褾 綺帶
同羲之書卷第五十二 卌七行 黃紙 紫檀軸 紺綾褾 綺帶
同羲之書卷第五十四 廿一行 黃紙 紫檀軸 紺綾褾 綺帶
同羲之書卷第五十□ □五行 黃紙 紫檀軸 紺綾褾 綺帶
同羲之行書卷第六十 卌七行 黃紙 紫檀軸 紺綾褾 綺帶
同羲之扇書一卷 廿行 黃紙 紫檀花軸 碧地錦褾 綺帶
裛衣香三袋 一袋小一斤七兩一分 一袋小十三兩 一袋八兩二分
□□納銀平脫箱□□納高麗錦袋

同日出物
合雜藥漆種
桂心壹拾斤小　人參壹拾斤小
芒消參斤小　呵梨勒參佰枚
檳榔子伍拾枚　畢撥壹拾兩小
紫雪壹拾兩

一卷卌五行紺綾褾　黄紙綺帶　紫檀軸
一卷廿五行紺綾褾　黄紙綺帶　紫檀軸
藤原朝臣家依
（已下闕失）

延暦六年曝涼帳

（首闕）

□□金銀荘　三口銀荘

二口□□荘　十八口金漆銅作

二口金銅作　三口銀銅作

三口銀作　二口金

□□漆銀銅作

廿一口黒作

勘倉出帳

天平寶字三年十二月廿六日、出二一口一、

天平寶字八年九月十一日、附二安寛法師一進二　內裏一、

八十八口

□□□

右寶龜七年九月廿一日、勅使從四位下□右衛士督藤原朝臣小黒麻呂、刑部少輔從五位下紀朝臣難波麻呂所二勘定一、

見二口並杖刀

御弓一百張八十四張梓、六張槻、一張阿恵、八張檀、一張肥美、

別色□□三張一蘇芳、一□□、一小檀、

箭一百具　甲九十九領十領甲、八十九領桂甲、

已上四種、亦附二同法師一進二　內裏一、

全淺香一村重大卅三斤五兩

御鏡廿面徑二尺一寸七分已下九寸二分已上

漆胡瓶一口銀平脫　屏風一百帖廿一雑畫、三鳥毛、一鳥形、六十五夾纈、十﨟纈、

三帖水山畫　一帖唐國圖

一帖大唐勤政樓前觀樂圖

三帖大唐古樣宮殿畫

一帖古樣山水畫　二帖古樣本草畫

一帖古樣宮殿騎獵　三帖古人畫

一帖儛馬　一帖子女

二帖素畫夜遊　一帖鳥毛篆書

一帖鳥毛立女　一帖鳥毛疊成文書

一帖鳥書　　一帖百濟書
一帖古人宮殿　　十二帖山水夾纈
七帖奄室草木鶴夾纈
十二帖驎鹿草木夾纈　　五帖鹿草木夾纈
九帖鳥木石夾纈　　一帖鷹木夾纈
二帖鳥木夾纈　　二帖鷹鳥夾纈
一帖鷹鶴夾纈　　四帖古人鳥夾纈
十帖鳥草夾纈　　十帖蕳纈
白練綾大枕一枚　　御軾二枚
紫檀木書夾纈軾一枚　　御床二張
麝香卅劑重卅四兩一分并袋及裹小
用十八劑重廿兩二分
十劑重十四兩二分、天平寳字五年三月廿九日、依二越前介外從五位下—高丘連枚麿宣旨一、即付二進　內裹一
八劑重六兩、依二同宣旨施二諸人一料出、
欠一劑　撿挍使參議正四位上兵部卿侍從藤原朝臣家依　散位從五位下健部朝臣人上等撿定、
見廿一劑重廿二兩二分并袋及裹中品
犀角三箇一重二斤十三兩、一重一斤十五兩一分、一重一斤十兩一分

犀角一袋重六斤十三兩二分并袋、付二同枚麿一進二　內裹一
犀角器一枚破重十二兩二分　朴消七斤三兩二分并袋
用一兩依二同枚麿宣一施二唐法進法師一
見七斤二兩二分
蕤核五斤二兩并袋
用二斤三兩并袋(◎附カ)同枚麻呂進二　內裹一　損二分
見二斤十四兩二分并袋中品
小草二斤五兩二分并袋
欠一兩二分　見二斤四兩中品
檉撥根四斤一兩二分三銖
用十兩依二左大臣天應元年八月十八日宣一充二造寺司一
欠四兩二分三銖　見三斤三兩并袋
胡椒三斤九兩并袋
用一斤十二兩二分依二高丘枚麻呂宣一即付二進　內裹一
見一斤十二兩二分中品并袋
寒水石十九斤三兩
用五斤十兩依二同枚麻呂宣一即付二進　內裹一

欠一斤六兩　見十二斤三兩并袋
阿摩勒十兩一分并袋
欠二分　見九兩三分并袋中品
阿摩羅十五兩二分并袋
黒黄連三斤并袋
欠二兩一分　見二斤十三兩三分并袋中品
元靑一管重五兩并管中品
靑葙草二斤一分并袋
欠三分　見一斤十五兩二分并袋
白皮九斤四兩二分并袋中品
理石五斤十兩并袋
用二斤八兩二分附二同校麻呂一進二内裏一
見三斤一兩二分
禹餘粮一斤十一兩二分并袋中品
大一禹餘粮二斤十二兩并袋中品
龍骨五斤九兩一分并袋
五色龍骨七斤九兩三銖并袋

欠一兩三銖　見七斤八兩并袋中品
白□骨四斤十四兩三分并袋中品
龍角九斤四兩二分并袋中品
五色龍齒廿四斤六兩并袋中品
欠六兩　見廿四斤并袋中品
似龍骨石廿七斤三兩并袋、袋題二廿七斤一
欠十二兩　見廿六斤四兩并袋
雷丸八斤四兩三分并袋、袋題二八斤四兩一
用二斤四兩付二同校麻呂一進二内裏一
欠一兩二分　見五斤十四兩二分并袋中品
鬼臼十四兩并袋、袋題二十二兩三分一
用七兩
六兩、付二同校麻呂一進二内裏一
一兩、依二同校麻呂宣一施二明智法師一
見七兩中品
靑石脂六兩并袋中品　赤石脂七斤二兩并袋中品
紫鑛六十斤并袋

欠二斤四兩　見五十七斤十二兩并袋
右納㆓第一櫃㆒
鍾乳床十斤二兩并袋
用㆓四斤十四兩㆒付㆓同枚麻呂㆒進㆓　內裏㆒
欠三兩　見五斤一兩并袋中品
檳榔子七百廿五枚
用四百廿五枚
三百五十枚付㆓同枚麻呂㆒進㆓　內裏㆒
廿枚依㆓同枚麻呂宣㆒施㆓諸人㆒料出
五枚依㆓同枚麻呂宣㆒施㆓唐曇淨法師㆒
五十枚依㆓左大臣宣㆒充㆓造寺司㆒　欠二枚
見二百九十八枚虫喫中品
宍縱容廿七斤并袋、袋題㆓卅斤㆒、
用十三斤
十一斤四兩付㆓同枚麻呂㆒進㆓　內裏㆒
二斤依㆓同枚麻呂宣㆒施㆓諸人㆒料出
欠六斤七兩

見十斤五兩并袋虫喫　下品
巴豆十八斤并袋
欠十二兩　見十七斤四兩并袋虫喫　下品
无食子九百八枚袋題㆓一千七十三枚㆒
用廿枚依㆓同枚麻呂宣㆒施㆓諸人㆒料出、
欠二枚　見八百九十枚中品
厚朴十五斤十二兩并袋、袋題㆓十三斤八兩㆒、
欠一斤三兩二分　見十四斤八兩二分并袋中品
遠志廿斤九兩并袋
欠一斤一兩　見十九斤八兩并袋中品
呵梨勒一千五枚袋題㆓千枚㆒
用五百六十枚
二百枚付㆓同枚麻呂㆒進㆓　內裏㆒
十枚依㆓同枚麻呂宣㆒施㆓唐曇淨法師㆒
五十枚依㆓同枚麻呂宣㆒施㆓諸人㆒料出
三百枚依㆓左大臣宣㆒充㆓造寺司㆒
見四百卌枚中品

右納二第二櫃一

桂心五百六十斤 并袋

三櫃依二左大臣宣一、出充二造寺司并施薬院一、不レ顯二袋數一、但准計二百九十八斤皆用、

四櫃納二一袋八十一斤一 用二五十三斤一兩一、見廿七斤十五兩、

五櫃納二二袋一、一九十一斤、用二十五斤十四兩三分一、見七十五斤一兩一分、一九十斤、用二四斤十二兩三分一、見八十五斤三兩一分、

用三百七十一斤十二兩二分

一百斤、依二御製一充二施薬院一、

一百五十斤、依二賀陽釆女宣一充二同院一、

一百十一斤十二兩二分、依二同枚麻呂宣一充二造寺司一、

十斤、依二左大臣宣一充二同司一、

見一百八十八斤三兩二分 中品

芫花三百十二斤九兩 除レ袋

六櫃納二三袋一 一卌八斤十三兩一分、損五斤十三兩、見卌三斤一分、一卌四斤十一兩□□、損八斤十兩、見卌六斤一兩一分、一三斤五兩無損、

七櫃納二袋 一袋卌五斤七兩一分、損七斤八兩、見卌七斤十五兩一分、一卌九斤二兩、損八斤十一兩三分、見卌斤六兩一分、

八櫃納三袋 一卌四斤十兩、損四斤一兩三分、見卌斤八兩一分、一卌二斤十兩、損八斤十三兩三分、見卌三斤十二兩二分、一卌三斤六兩、損七斤十一兩三分、見卌五斤十兩一分、

損五十一斤十四兩三分

見二百六十斤十兩一分 虫喫 中品

人參五百卌七斤十二兩 并袋

九櫃納二二袋一 一百一斤并袋、損廿七斤十二兩三分、見八十二斤三兩一分并袋、一九十斤并袋、用六十斤、損廿八斤十四兩二分、見一斤一兩二分并袋、

十櫃納二袋 一百十一斤并袋、損廿五斤六兩三分、見八十五斤九兩一分、一九十三斤并袋、損廿五斤六兩三分、見六十七斤九兩一分、

十一櫃依二左大臣宣一充二造寺司一、不レ顯二袋數一、但准計七十三斤十二兩、

用六十斤

五十斤依二御製一充二施薬院一

十斤依二左大臣宣一充二造寺司一

損一百七斤八兩三分

見二百卌六斤七兩一分 虫喫 下品

大黃九百六十三斤十二兩 并袋

十二櫃納二二袋一 一百八十八斤八兩、損十八斤二兩一分、見百七十斤五兩三分、一百五十六斤、損廿斤十四兩三分、見百卅五斤一兩一分、

十三櫃依二左大臣宣一充二造寺司一、不レ顯二袋數一、但准計三百廿八斤四兩、

十四櫃納二二袋一 一百七十六斤八兩、損廿三斤八兩、見百五十三斤、一百十四斤八兩、損十二斤六兩三分、見百二斤一兩一分、

用三百廿八斤四兩損七十四斤十五兩三分
見五百五十九斤十一兩一分上品虫喫又虫失十二兩、
蔄蜜五百九十三斤四兩并袋
十五櫃納三二一袋一各百五十斤、各欠十二斤十四兩一分、各見百卅七斤一兩三分、
十六櫃納二一袋一百卅三斤四兩、欠廿七斤二兩一分、見百十六斤一兩三分、一百九十斤、欠卅斤十四兩一分見百十九斤一兩三分、
欠八十三斤十三兩　見五百九斤七兩
甘草九百十七斤六兩每櫃无レ袋、不レ顯二納數一、依二今所一レ有爲レ勘、
十七櫃依二左大臣宣一充二造寺司一、准計三百廿五斤、
十八櫃二百八十四斤十兩二分
十九櫃二百九十六斤十兩二分
用三百廿五斤
見五百八十一斤五兩虫喫　又虫失十一斤一兩并袋
芒硝一百廿七斤八兩并袋及壺
一袋七十九斤八兩　欠一斤十二兩三分
見七十七斤十一兩一分
一壺卌八斤　用四斤十一兩　欠二斤五兩三分
見卅斤十五兩一分

用四斤十一兩
四兩依二同枚麻呂宣一施二唐曇淨法師一
一斤七兩依二同枚麻呂宣一施二病者一料出
三斤依二左大臣宣一充二造寺司一
欠四斤二兩三分　見一百十八斤十兩二分中品
蔗糖六斤六兩并埦消蠹空埦勘獻物帳二斤十二兩三□
紫雪十三斤十三兩一分并壺合子
用四斤十二兩
四斤二兩并合子附二同枚麻呂一進內　十兩依二左大臣宣一充二造寺司一
欠七兩一分　見八斤十兩中品
胡桐律廿四斤并壺
用六斤附二同枚麻呂一進內　見十八斤中品
石鹽九斤三兩并埦
欠十五兩　見八斤四兩中品
猬皮三枚
用一兩依二同枚麻呂宣一施二安寬法師一
見二枚大半中品

新羅羊脂一斤八兩三分
用十二兩附二同校麻呂一進內　見十二兩三分
防葵廿四斤八兩并壺
用一斤八兩附二同校麻呂一進內
欠六斤十五兩二分　見十六斤二分中品
雲母粉一斤八兩并合子
蜜陁僧八斤十兩并壺
用二斤四兩附二同校麻呂一進內　見六斤六兩
戎鹽八斤十一兩并壺
欠二兩二分　見八斤八兩二分
金石陵八斤五兩二分并壺
用一斤十四兩附二同校麻呂一進內
見六斤七兩二分
石水氷五斤并壺
用六兩附二同校麻呂一進內　見四斤十兩
內藥一斤一兩一分并裹
右納二第廿櫃一

狼毒卅二斤十二兩并袋及壺
用三斤十五兩附二同校麻呂一進內　見卅八斤一兩上品
欠十二兩
冶葛卅二斤并壺　今勘定卅五斤二兩一分
用三斤三兩
三兩依二天平寶字二年十二月十六日飯高命婦宣一進內
三斤附二同校麻呂一進內
見卅一斤十五兩一分中品
右納二第廿一櫃一
銅鉢四口元盛二沙金一今空
屛風二帖歐陽脩眞跡書　又二帖王羲之諸隊書
花氈六十七枚天平寶字三年四月廿九日裝束御齋會堂料出
繡線鞋八兩　紫糸結鞋一兩
緋糸刺納鞋一兩　銀薫爐一合
銀平脫梳箱一合盛二琴笙琵琶等絃一
瑇瑁箸二雙　青斑鎭石十廷
金薄綵繪木鞘大刀子一口

大小王眞跡書一巻
人勝二枚
書屛風二帖虫喫緣記書五巻一珍寶記　一種々藥記　一書屛風幷氈等記　一書屛風記　一大小王眞跡記
以前依ニ太政官今月十三日符一、曝ニ涼香藥幷雜物一、亦簡ニ擇之一、即以ニ撿珍財帳一爲レ本、時有ニ疑似一、引ニ獻物帳一改正、亦依ニ出張一定レ數具レ件如レ前、謹解、
延暦六年六月廿六日
使衞門督從四位下石上朝臣家成
治部大輔從五位上紀朝臣作良
内藥侍醫正六位上難波連伊賀麻呂
僧綱律師兼別當傳燈大法師位病
威儀師傳燈大法師位安慧
三綱上座傳燈大法師位明一
寺主傳燈法師位勝位
都維那傳燈法師位滿影
造寺司長官從二位行大納言兼皇太子傳民部卿藤原朝臣在京
次官從五位上弓削宿禰鹽萬呂
大判官正六位上荒田井忌寸紀巨理
大判官正六位上勳十一等佐伯宿禰福都理
少判官正六位上下村主道主
少判官正六位上勳十一等賀茂朝臣梶万呂
主典正六位上廣井連嶋人
主典正六位上柿本朝臣弟足
主典正六位上葛井連秋篠寺別當

延暦十二年曝涼帳

東大寺使解　申曝涼香藥等事
合壹佰肆拾伍種　納二厨子貳口韓櫃參拾合一、收二納羂院西雙藏北端一
御書廿五卷　記書五卷
御袈裟九領　人勝二枚
念珠四具一水精一紫琉璃　一虎魄一紺琉璃　銅鉢四口
瑇瑁箸二雙　御禮服冠三箇
御凡冠一箇　御帛袷袍一領
襖子二領一絮綿一袷　汗衫一領
褶一腰羅褶　袴一腰絮綿
帶一條　袷幞子二條各二幅
帛綾袷袍一領　單衣一領
絮綿褶一腰羅褶　單幞子一條二幅
青兩面褥一床　綠絁三副帳一條
白練綾大枕一枚　御軾二枚

紫檀木畫夾纈軾一枚　御床二枚
御疊二枚錦端　金薄綵繪木鞘大刀子一口
金銅作唐刀子二口　金作小刀一口
金銀莊刀子六口　十合鞘刀子一口
三合鞘刀子三口　水角鞘刀子一口
犀角鞘刀子一口　班犀偃鼠皮帶一條
班貝結鞢帶一條　赤紫黑紫緒綬帶一條
錦袋一口納二麝香九兩二分一　袋一口盛二訶梨勒卅六顆雜玉卅丸一
笏三枚一牙一大魚骨　一通天牙　尺六枚二紅牙撥鏤二綠牙撥鏤　二白牙
木畫紫檀碁局一具弓裏藏二碁子壺一　木畫紫檀雙六局一具
碁子六百枚納二銀平脫合子四合一　雜玉雙六子一百六十九枚
雙六頭一百十七具一隻　紫檀琵琶二面一螺鈿
紅牙撥鏤笇子一百枚　紫檀阮咸一面螺鈿
紫檀五絃琵琶一面螺鈿　楸木瑟一面木畫
桐木箏一面木畫　琴二面一銀平文一漆
新羅琴二面金鏤　銀平脫梳箱一合納二琴箏琵琶等絃一
檜木倭琴二面

甘竹簫一口虫喫　呉竹笙一口
呉竹竿一口　彫石横笛一口
尺八四口一玉 一竹 一犀 一刻彫　彫石尺八一口折
白石鎮子十六箇師子兎 牛等形　青斑鎮石十延
銀薫爐一合　貝玦拾二箇
漆胡瓶一口銀平脱　百索鏤一卷
御鏡廿面徑二尺一寸七分已下 九寸二分已上　杖刀二口
屛風一面四帖廿一雑畫 四青 三鳥毛 一鳥形 六十五夾纈 十﨟纈
繡線鞋八兩　紫糸結鞋一兩
合香二斤十二兩大 納三帛袋一口　緋糸刺納鞋一兩
裛衣香五斤十五兩二分小井袋五口
犀角器一枚重十二兩二分 破　犀角坏二口
犀角一具二隻連底 重大四斤 十四兩一分　白犀角一枚長三尺二寸七分 重大六斤十兩二分
犀角一枚長二尺 重大三斤 六兩　斑犀一枚長七寸 重大一斤 十三兩二分
犀角三枚一重小二斤十三兩 一重小一斤 十兩一分 一重小一斤十五兩一分
淺香一村重大卅三斤五兩　麝香廿一剤重廿二兩二分 井袋及褁
紫雪八斤十兩並壺　㽵核二斤十四兩二分井袋

朴消七斤二兩二分井袋　小草二斤四兩
㯉撥根三斤三兩井袋　胡椒一斤十二兩二分井袋
寒水石十二斤三兩井袋　阿摩勒九兩三分井袋
菴摩羅十五兩二分井袋　元青一管重五兩井管
青葙草一斤十五兩二分井袋
黒黄連二斤十三兩三分井袋
白皮九斤四兩二分井袋　理石三斤一兩二分
禹餘粮一斤十一兩二分井袋
大一禹餘粮二斤十二兩井袋
龍骨五斤九兩一分井袋　五色龍骨七斤八兩井袋
白龍骨四斤十四兩三分井袋 龍角九斤四兩二分井袋
五色龍歯廿四斤井袋　似龍骨石廿六斤四兩井袋
雷丸五斤十四兩二分井袋　鬼臼七兩井袋
青石脂六兩井袋　赤石脂七斤二兩井袋
紫鑛五十七斤十二兩井袋　鍾乳床五斤一兩井袋
檳榔子二百九十八枚虫喫　宍縦容十斤五兩井袋虫喫
巴豆十七斤四兩井袋 虫喫　无食子八百九十枚

厚朴十四斤八兩二分并袋　遠志十九斤八兩并袋
呵梨勒四百卅枚　桂心一百八十八斤三兩二分
芫花二百五十七斤五兩二分虫喫
人參二百五斤八兩并袋　塵卅一斤
大黃五百五十九斤十一兩一分　塵十三斤二兩
蔄蜜五百九斤七兩
甘草五百八十一斤五兩并袋　塵十一斤十兩并袋
芒消一百十八斤十兩二分　蔗糖六斤六兩并垸
今勘消盡无實　胡桐律十八斤
石鹽八斤四兩　猬皮二枚大半
新羅羊脂十二兩三分　防葵十六斤二分
雲母粉一斤八兩并合子　蜜陀僧六斤六兩并壺
戎鹽八斤八兩二分　金石陵六斤七兩二分
石水氷四斤十兩并壺　內藥一斤一兩一分并褁
狼毒卅八斤一兩并袋及壺　冶葛卅一斤十五兩一分并壺

已上目錄

第一赤漆綾襴厨子收納

御書廿五卷雜集一卷、孝經一卷、頭陀寺碑文、并樂毅論杜家　卷、樂毅論一卷、大小王書共半紙背書一卷、王羲之書法廿卷、
金作小刀一口　斑犀偃鼠皮御帶一條
御刀子六口金銀莊　御袋一口盛二呵梨勒卅六顆雜小玉四十九丸
斑貝鞊鞢御帶一條　十合鞘御刀子一口
赤紫黑紫白綬御帶一條
三合鞘御刀子三口　水角鞘御刀子一口
犀角鞘御刀子一口　錦御袋一口納二麝香九兩二分
褁衣香五袋重五斤十五兩一分　笏三枚一牙一通天牙一大魚骨
尺六枚二紅牙撥鏤二綠牙撥鏤二白牙　紅牙撥鏤笇子一百枚
犀角坏二口　雙六頭一百十七具一隻
雜玉雙六子一百六十九枚　念珠四具一水精一虎魄一紫琉璃一碧琉璃
貝玦拾二箇　金銅作唐刀子二口
百索縷一卷　尺八四箇一玉一竹一樺纏一刻彫

第二赤漆欟木厨子收納

犀角一具二隻連底、重大四斤十四兩一分、上品、
白犀角一枚長三尺二寸七分、重大六斤十四兩二分、上品、

鈴以二十三年九月十五日一返收　鈴延暦十三年四月廿七日依二官牒一進二內裏一

犀角一枚 長二尺、重大三斤六兩 上品

生斑犀一枚 長七寸、重大一斤十三兩二分、中品

白石鎭子十六箇 獅子兕牛等形　銀平脫合子四合 納二碁子六百枚一

第一櫃收納

依二延暦十三年四月廿七日官牒一進二內裏十劑一鈴

麝香廿一劑 重廿二兩二分 并袋及裹 中品

依二延暦十三年四月廿七日官牒一進二內裏一枚重二斤十三兩一鈴

犀角三箇 一重二斤十三兩 一重一斤十五兩 一重一斤十兩一分

犀角器一枚 重十二兩二分 破　朴消七斤二兩二分 并袋

甤核二斤十四兩二分 并袋 中品　小草二斤四兩 并袋 中品

樺撥根三斤三兩 并袋　胡椒一斤十二兩二分 并袋 中品

寒水石十二斤三兩 并袋　阿摩勒九兩三分 并袋

菴摩羅十五兩二分 并袋　黑黃連二斤十三兩三分 并袋 中品

元靑一管 重五兩 并管 中品　靑葙草一斤十五兩二分 并袋

白皮九斤四兩二分 并袋 中品　理石三斤一兩二分 并袋

禹餘粮一斤十一兩二分 并袋 中品

大一禹餘粮二斤十二兩 并袋 中品

龍骨五斤九兩一分 并袋　五色龍骨七斤八兩 并袋 中品

白龍骨四斤十四兩二分 并袋 中骨　龍角九斤四兩二分 并袋 中品

五色龍齒廿四斤 并袋 中品　似龍骨石廿六斤四兩 并袋

雷丸五斤十四兩二分 并袋 中品　鬼臼七兩 中品

靑石脂六斤 并袋 中品　赤石脂七斤二兩 并袋 中品

紫鑛五十七斤十二兩 并袋

第二櫃收納

鍾乳床五斤一兩 并袋中品 依二十三年四月廿七日官牒一進二內裏百廿丸一鈴　檳榔子二百九十八枚 虫喫 中品

依二延暦十三年四月廿七日官牒一進二內裏 一兩一鈴

宍縱容十斤五兩 并袋上品 虫喫　巴豆十七斤四兩 并袋 下品 虫喫

无食子八百九十枚 中品　厚朴十四斤八兩二分 并袋 中品

遠志十九斤八兩 并袋 中品　呵梨勒四百卅枚 中品

第三櫃收納

八角鏡一面 重大四十八斤八兩 徑二尺一寸七分

八角鏡一面 重大十四斤十四兩 徑一尺四寸七分

八角鏡一面 重大十三斤十五兩 徑一尺四寸五分半

圓鏡一面 重大四十三斤八兩 徑一尺五寸八分

第四櫃收納

桂心一裹重廿七斤十五兩中品、

第五櫃收納

桂心二袋重一百六十斤四兩二分、中品、

第六櫃收納

芫花三袋重八十二斤六兩二分、虫喫、中品、

第七櫃收納

芫花二袋重七十八斤五兩二分、虫喫、中品、

第八櫃收納

芫花三袋重九十九斤十四兩三分、虫喫、中品、

第九櫃收納

人參二袋重八十一斤幷袋、虫喫、下品、　塵卅五斤

第十櫃收納

人參二袋重一百廿四斤八兩、虫喫、下品、　依二延暦十三年四月廿七日官牒一進二內裏百斤一訖

第十一櫃收納

淺香一村重大卅三斤五兩

第十二櫃收納

太黃二袋重三百五斤七兩、虫喫、上品、依二延暦十三年四月廿七日官牒一進二內裏佰斤一訖　塵十二斤二兩

第十三櫃收納

八角鏡一面重大五斤一兩、徑一尺一寸、　八角鏡一面重大四斤三兩、徑一尺、

圓鏡一面重大三斤七兩、徑九寸、　圓鏡一面重大三斤十三兩、徑九寸一分、

八角鏡一面重大四斤二兩、徑九寸六分、　圓鏡一面重大三斤十二兩、徑九寸一分、

圓鏡一面重大六斤一兩、徑一尺二寸五分、圓鏡一面重大一斤五兩、徑一尺二寸五分、

第十四櫃收納

大黃二袋重二百五十五斤一兩一分、虫喫、上品、

第十五櫃收納

袋重二百七十四斤三兩二分、幷袋、

第十六櫃收納

薦蜜二袋重二百卅五斤三兩二分、幷袋、

第十七櫃收納

八角鏡一面重大六斤一分、徑一尺七分、　八角鏡一面重大五斤一兩二分、徑一尺一分、

圓鏡一面重大四斤十五兩、徑九寸二分、　八角鏡一面重大三斤四兩、徑九寸二分

八角鏡一面重大五斤十三兩、徑一尺一寸三分、　圓鏡一面重大四斤十二兩、徑九寸三分、

八角鏡一面重大四斤十兩一分、徑一尺二分、　圓鏡一面重大六斤五兩、徑一尺七分、

第十八櫃收納

甘草二百八十四斤十兩二分　塵十一斤十兩

第十九櫃收納

依二延暦十三年四月廿七日官牒一進二內裏百斤一鈴

甘草二百九十六斤十兩二分

第廿櫃收納

芒消一百十八斤十兩二分（并袋及壺 中品）

依二延暦十三年四月廿七日官牒一進二內裏一（◎鈴字月廿ノ二字ノ右ニアリ）

紫雪八斤十兩（中品 并壺）　胡桐律十八斤（并壺 中品）

石鹽八斤四兩（并垸 中品）　猬皮二枚大半（中品）

新羅羊脂十一兩三分　防葵十六斤二分（中品 并壺）

雲母粉一斤八兩（并合子）　蜜陁僧六斤六兩（并壺）

戎鹽八斤八兩二分（并壺）　金石陵六斤七兩二分（并壺）

石水氷四斤十兩（并壺）　內薬一斤一兩一分（并嚢）

第廿一櫃收納

狼毒卅八斤一兩（上品 并袋及壺）　冶葛卅一斤十五兩一分（并壺 中品）

第廿二櫃收納

白練綾大枕一枚　御軾二枚

紫檀木畫夾纈軾一枚　金薄綵繪木鞘大刀子一口

人勝二枚

第廿三櫃收納

御製袈裟九領（納二革筥三口一）　一領刻納樹皮色（九條）

一領褐色紬（七條 金剛智三藏袈裟）　一領織成樹色七條

六領刻納樹皮色（七條）

第廿四櫃收納

木畫紫檀碁局一具（局裏藏二碁子壺一）

銀薰爐一口　銀平脫梳箱一合（盛二琴箏琵琶等絃一）

木畫紫檀雙六局一具

瑇瑁箸二雙　胡瓶子一口（銀畫）

第廿五櫃收納

銅鉢四口

第廿六櫃收納

禮服御冠二箇

一箇烏羅金銀寶珠餝、著二黒紫組纓二條一、納二赤漆

八角小櫃一合一、敷帛帳一條、布帳一條、緋地錦覆

一條、緋綱一條、
一箇以二鍮金鳳幷金銀葛形寶珠一莊、著二白線組緒二條一納二赤漆六角小櫃一合一、帛綾褥一枚、帛袷覆一條、鑛鏁子二隻、

第廿七櫃收納

禮服御冠二箇（禮冠一箇、有レ旒以二雜玉一餝　凡冠一箇、以二雜玉一餝）　納二赤漆小櫃一合一、敷帛帳一條、布帳一條、緋綱二條、居机、

第廿八櫃收納

帛袷袍一領　襖子二領（一絮綿　一袷）
汗衫一領　褶一腰（羅襴）
袴一腰（絮綿）　御帶一條
袷幞子二條（各二副）　帛綾袷袍一領
單衣一領　絮綿褶一腰
單幞子一條（二副）　合香二斤十二兩（太、納二帛袋一）
納二赤漆文欟木小櫃一合一、（牙床足、著二丸鏁子一）緋地錦覆一條、
敷帛帳一條　布帳一條、緋絁綱一條、

第廿九櫃收納

青兩面褥一床　綠絁三副帳一條

第卅小櫃收納

青斑鎮石十廷
御杖刀二口（納二細長櫃一）　紫檀五絃琵琶一面（螺鈿）
御床二枚　漆檀琵琶二面（一螺鈿）
御疊一枚（錦端）　紫檀阮咸一面（螺鈿）
琴二面（一銀平文　一漆）　桐木箏一面（木畫）
楸木瑟一面（木畫）　新羅琴二面（金鏤）
檜木倭琴二面　甘竹簫一口（虫喫）
吳竹笙一具　吳竹竽一口
彫石横笛一口　彫石尺八一口（折）
記書五卷（一珍寶記　一書屛風記　一種々藥記　一獻大小王眞跡記　一書屛風幷氈等記）
屛風一百四帖（廿一雜畫　六十五夾纈　四書　三鳥毛　十臈纈　一鳥形）
四帖書（二帖王羲之諸牒書）　三帖山水畫
一帖唐國圖　一帖大唐勤政樓前觀樂圖
三帖大唐古樣宮殿畫　一帖古樣山水畫
二帖古樣本草畫　一帖古樣宮殿騎獵

三帖古人畫　一帖舞馬
一帖子女　二帖素畫夜遊
一帖鳥毛篆書　一帖鳥毛立女
一帖鳥毛疊成文書　一帖鳥書
一帖百濟畫　一帖古人宮殿
十二帖山水夾纈　七帖菴室草木鶴夾纈
十二帖麟鹿草木夾纈　五帖鹿草木夾纈
九帖鳥木石夾纈　一帖鷹木夾纈
二帖鳥木夾纈　二帖鷹鳥夾纈
一帖鷹鶴夾纈　四帖古人鳥夾纈
十帖鳥草夾纈　十帖﨟纈

右被二太政官今月一日符一偁、被二右大臣去五月廿九日宣一偁、奉　レ勅、爲レ曝下涼在二彼寺一香藥上、宜レ遣二件人等一者、仍依二宣旨一、令レ向二彼寺一、宜知二此狀一、聽二使處分一、其少僧都玄憐及三綱與レ使共加二撿挍一者、謹奉二符旨一曝涼如レ件、謹解、

延曆十二年六月十一日

使從四位上守宮內卿兼行因幡守勳六等石上朝臣家成
從五位下行官奴正大春日朝臣淨足
外從五位下行內藥侍醫兼佑勳十一等廣海連男成
正六位上行中監物紀朝臣福足
僧綱少僧都傳燈大法師位玄憐
威儀師傳燈法師位方榮
三綱上座傳燈法師位慓釦
寺主傳燈法師位意行
都維那傳燈法師位隆瑞

合三通　一通進二內裏一　一通造案收二三綱所一　一通在二御藏一

弘仁二年官物勘錄

（首缺）

一領織成樹皮色七條　六領刻納樹皮□
誦數四貫一水精　一琥碧　一□石　一紺琉璃
　已上納二第一韓櫃一
屏風一百四帖廿一雜書、乃書、三鳥毛、一鳥形、六十五夾纈、六十﨟纈、
□帖書二帖王羲之諸牒書　三帖山水書
一帖唐國圖　一帖大唐勒政樓前□
三帖大唐古樣宮殿書　一帖古樣山水書
二帖古樣本草書　一帖古樣宮殿騎獵
三帖古人書　一帖儛馬
一帖子女　二帖素書夜遊
一帖鳥毛篆書　一帖鳥毛立女
一帖鳥毛疊成文書　一帖鳥書
一帖百濟書　一帖古人宮殿
十二帖山水夾纈　七帖菴室草木鶴夾纈

十二帖騏鹿草木夾纈　五帖鹿草木夾纈
九帖鳥木石夾纈　一帖鷹木夾纈
二帖鳥木夾纈　二帖鷹鳥夾纈
一帖鷹鶴夾纈　四帖古人鳥夾纈
十帖鳥草夾纈　十帖﨟纈

御鏡廿面
八角鏡一面徑二尺一寸七分、背鳥獸花形、緋緒、
圓鏡一面徑一尺五寸八分、背鳥花形、緋緒、
八角鏡一面徑一尺四寸五分、背鳥獸花形、緋綾緒、
八角鏡一面徑一尺四寸七分、並納二八角漆木櫃一、背無文、緋綾緒、
　已上納二第三櫃一
圓鏡一面徑一尺二寸五分、背螺鈿、緋緒、
圓鏡一面徑一尺二寸五分、漆塗、背金銀平文、
八角鏡一面徑一尺一寸、背螺鈿、緋緒、
八角鏡一面徑一尺、背螺鈿、紅羅錦緒、
圓鏡一面徑九寸一分、背螺鈿、緋緒、
圓鏡一面徑九寸、背螺鈿、緋緒、並納二漆塗革箱一、

圓鏡一面徑九寸一分、背螺鈿、緋緒 納二緣縫綾箱一
八角鏡一面 徑九寸六分、背漆塗、金銀平脫 緋緒、納二漆箱一
已上八面納二第十二韓櫃一
八角鏡一面徑九寸二分、背螺鈿、緋緒、
八角鏡一面徑一尺一寸三分、背鳥花形、緋緒、
圓鏡一面徑一尺七分、背鳥花形、緋緒、
八角鏡一面徑一尺七分、背龍形、緋緒、
八角鏡一面徑一尺一分、背鳥花形、緋緒、
八角鏡一面徑一尺二分、背鳥獸形、緋緒、
圓鏡一面徑九寸三分、背雲鳥形、緋緒、
圓鏡一面徑九寸三分、背山水虫形、緋緒、並納二漆塗革箱一
胡瓶一口銀平脫、鳥花形 頭有二紐鏁子一受三升五合一
已上納二第十七韓櫃一
犀角三箇 一重二斤一兩、長六寸、一重二斤四兩、長五寸四分、一重二斤十三兩、依二去延暦十三年四月廿七日官符一□□
麝香廿一劑 十劑依二去延暦十三年四月廿七日官符一進二內裏一、五劑依二十八年□□廿八日官符一進二內裏一、並下使石上朝臣家成、
定六劑重三兩小、
犀角器一口重十三兩小、破、 朴消七斤二兩二分并袋、欠二兩二分、定七斤、

蓬莪一斤十四兩并袋 檳榔三斤三兩并袋
胡椒一斤十二兩二分并袋 寒水石十二斤三兩并袋
菴麻羅十五兩二分并袋 阿麻勒九兩三分并袋
黑黃連二斤十三兩三分并袋 元青一管重五兩
青葙草一斤十五兩二分并袋、欠一兩二分、定一斤十四兩、
白及九斤三兩并袋、欠一兩二分、定九斤三兩、
理石三斤一兩二分并袋、欠一兩二分、定三斤
禹餘粮一斤十一兩二分并袋
大一禹餘粮二斤十二兩欠一兩二分、定二斤十兩二分、
龍骨五斤九兩一分并袋
五色龍骨七斤八兩并袋、欠四兩、定七斤四兩、
白龍骨四斤十四兩三分并袋、欠三分、定四斤十四兩、
龍角九斤四兩二分并袋、欠四兩二分、定九斤
五色龍齒廿四斤十兩并袋、欠六兩、定廿三斤十兩、
似龍骨石廿六斤四兩并袋
雷丸五斤十四兩二分并袋、欠二兩二分、定五斤十四兩、
鬼臼七兩并袋

青石脂六兩并袋　赤石脂七斤二兩并袋

小草二斤四兩 依二延暦十八年十月八日官符一進二内裏ヘ使石上家成、

紫鑛五十七斤十二兩并袋、欠九兩、定五十七斤三兩、

已上納二第四韓櫃一

鍾乳床五斤一兩并袋

檳榔子二百九十八枚欠四、依二去延暦十三年四月廿七日官符一進二内裏一百廿枚ヘ依二同年六月十三日官符一進二内裏一百枚ヘ依二十八年十月八日官符一進二内裏七十四枚ヘ並下使石上家成、

完繼容十斤五兩 依二去延暦十三年四月廿七日官符一進二内裏四兩ヘ依二去延暦廿一年十月十八日官符一進二内裏十四兩ヘ並使藤原大繼、欠十五兩ヘ定八斤十四兩、

巴豆十七斤四兩并袋、欠六兩、定十六斤十四兩、

無食子八百九十枚欠卅二枚、定八百卅八枚、

厚朴子十四斤八兩二分并袋　遠志十九斤八兩并袋

呵唎勒四百卅枚 依二延暦十三年九月十三日官符一進二内裏一百枚ヘ依二十八年十月八日官符一進二内裏一百枚ヘ并使石上家成、依二廿一年十月十八日官符一進二内裏一百枚ヘ使藤原朝臣ノ繼、欠七枚、定卅三枚、

桂心九十三斤三兩二分 依二延暦十八年十月八日官符一進二内裏八十斤ヘ使石上家成、依二廿二年正月廿三日寺三綱等解一給二衆僧病料二下二六斤ヘ依二廿四年十月十五日寺三綱等解一給二衆僧病料二下二九斤ヘ並使倭入鹿麿呂、

已上納二第二韓櫃一

欠一斤十一兩二分、定九十一斤八兩、

納二第五韓櫃一

芫花二百五十七斤五兩三分 虫食損、欠八斤十四兩三分、定二百卅八斤七兩、

九十四斤八兩納二袋三口一　納第八韓

八十三斤七兩納二袋二口一　納二第六韓櫃一

七十斤八兩納二袋二口一　納二第七韓櫃一

人參二百五十斤八兩 依二延暦十三年四月廿七日官符一進二内裏一百斤ヘ依二同年九月十三日官符一進二内裏二斤ヘ并使石上家成、依二廿一年十一月十八日官符一進二内裏一斤ヘ使藤原大繼、欠十二斤八兩、定一百卅五斤之中、塵卅五斤、布并袋三口、

納二第九韓櫃一

大黃五百六十斤八兩一分 依二延暦十三年四月廿七日官符一進二内裏一百斤ヘ依二同月同日官符一給二藤原内麻呂菅野真道各一斤ヘ依二同年九月十三日官符一進二内裏三斤ヘ使石上家成、依二十八年十一月八日官符一進二内裏二百斤ヘ同使、依二廿一年十一月十八日官符一進二内裏六十斤ヘ使藤原大繼、依二廿二年正月廿三日寺三綱解一給二衆僧一病料下二六斤ヘ使倭入鹿麿、欠二斤二兩一分、定一百八十六斤六兩之中、塵十三斤二兩并袋、

納二第十四韓櫃ヘ

蔗蜜五百九斤七兩 依二延暦廿四年十一月十五日官符ヘ六十斤奉レ固二大佛山形彩色一并爲二用種々ヘ下二置造寺所ヘ下使倭入鹿麿、欠廿四斤、定四百廿五斤七兩、

納二第十五韓櫃ヘ

甘草五百八十一斤五兩 依二延暦十三年四月廿七日官符一進二内裏一百斤ヘ依二同年九月十三日官

牒一進二內裏三斤一、依二十八年十一月八日官牒一進二內裏二百五十斤一、並使石上家成、依二廿一年十一月十八日官牒一進二內裏六十斤一、使藤原大繼、依二廿二年正月廿三日寺三綱解一給二衆僧病料六斤一、依二廿四年十一月十五日三綱解一給二衆僧病料九斤一、並使倭入鹿麿、欠九斤八兩、
定一百卅三斤十三兩、

納二第十八韓櫃一

芒消一百十八斤十兩二分幷袋壺
紫雪八斤十兩依二延暦十三年四月廿七日官牒一便內裏依貢進了、石上家成、
蔗糖在レ坑、无レ實、　胡同律十八斤幷壺
石鹽八斤四兩幷坑、欠十二兩、定七斤八兩、　猬皮二枚大半
新羅羊脂五斤十三兩幷坑
防葵十六斤二分幷袋壺、欠一兩一分、定十五斤十五兩、
雲母粉一斤八兩幷合子　蜜陁僧六斤六兩幷壺
戎鹽八斤八兩一分幷壺、欠一兩二分、定八斤七兩、
金石陵六斤七兩二分幷壺、欠一兩二分、定六斤六兩、
石水氷四斤十兩幷壺　內藥四斤幷坑袋

已上納二第廿韓櫃一

狼毒卅八斤一兩幷袋壺、欠一斤五兩、定卅六斤十二兩、
冶葛卅一斤十五兩一分幷袋壺、欠廿斤十四兩一分、定十一斤一兩、

納二第廿一韓櫃一

犀角一具重大四斤十四兩、二角連底、一角一尺三寸、一角長六寸
白犀角一枚依二去大同元年九月五日官符一進二內裏一、使巨勢野足朝臣、
犀角一枚重大三斤六兩、長二尺、　斑犀角一枚重大一斤十三兩二分、長七寸、
白石鎭子十六箇獅子形八、牛形六、兎形二、
銀平脫合子四合並納二碁子六百九一紺牙撥樓一百六十、紅撥樓一百六十、黑一百卅、白一百卅五、欠五、

已上納二漆塗厨子一

御書廿五卷雜集一卷、孝經一卷、頭陀寺碑文幷樂毅論杜家一卷、樂毅論一卷、大小王書幷牛紙背面書一卷、王羲之書法廿卷、
裛香二袋　金銀作御刀子一口納二深紅袋一
斑犀偃鼠皮御帶一腰　斑貝鞊鞢御帶一條
十鞘一具納二小刀六、錐一、木錯二、鍦一、
小水牛三鞘一具納二小刀子一　三鞘一具納二小刀子一
革三鞘一具納二小刀子一、着二赤紫綱緌帶一、　水牛一鞘納二小刀子一
犀角一鞘納二小刀子一　紫檀一鞘納二小刀子一
牙一鞘納二小刀子一　唐小刀子二柄並以二金玉一飾、着二鞊鞢緒一、
雜小刀子四柄二犀角、二牙、　牙笏一長一尺三寸二分
通天牙笏一枚長一尺一寸八分　大魚骨笏一枚長一尺二寸一分

御袋二口一緋絁納ニ麝香九両二分、一口錦納ニ呵唎勒卅六果、雜玉卅五丸、
撥樓尺六枚二紅牙、二綠牙、二白牙、　紅牙撥樓等子一百枚欠二
犀角坏二口一重小十両二分、一重小九両、
雙六頭一百十五具以ニ去延暦十二年六月十日勘帳ニ所レ欠二具一隻、
雜玉雙六子一百六十九枚　貝缺拾二箇
白紫縷一卷　尺八四管一竹、一樺纏、一刻彫、一玉、
已上納ニ綾欟十厨子一
檜木倭琴二張各裹ニ蒲纈袋一　銀平文琴一張
漆塗琴一張並納ニ赤紫袋一　螺鈿紫檀琵琶一面加ニ牙撥一納ニ赤紫袋一
紫檀琵琶一面加ニ黄楊撥一納ニ赤紫袋一　螺鈿紫檀五絃琵琶一面納ニ赤紫袋一
螺鈿紫檀阮咸一面納ニ赤紫袋一　桐木箏一張木畫納ニ蒲纈袋一
楸木瑟一張木畫納ニ蒲纈袋一　甘竹簫一口納ニ赤紫袋一
呉竹笙一口納ニ赤紫袋一　呉竹竽一口納ニ赤紫袋一
雕石横笛一口納ニ高麗錦袋一　雕石尺八一口納ニ高麗錦袋一折不用
金鏤新羅琴一張納ニ蒲纈袋一　金鏤新羅琴一張納ニ紫地錦袋一
已上納ニ棚厨子一
木畫紫檀碁局一具加ニ碁子器一納ニ龜甲龕一

木畫紫檀雙六局一具牙床脚納ニ漆塗縁邊隙龕一
已上二種納ニ第廿四韓櫃一
杖刀二口一刃長一尺九寸、漆塗鞘、納ニ黒紫紬袋一、一刃長二尺一寸六分、呉竹鞘、納ニ高麗錦袋一　並納ニ
細長櫃一、
納ニ棚厨子一
淺香一村重大卅三斤五両、径一尺三寸、長三尺五寸、
納ニ第□韓櫃一
白㲲綾大軾一枚着ニ夾纈羅帶一　御軾二枚一紫地鳳形錦、一長班錦、
紫檀木畫挾軾一枚着ニ白羅褥一
已上納ニ第廿二韓櫃一
御床二張並在ニ御疊并褥覆一
納ニ褥覆第廿九韓櫃一
繡線鞋八兩唐
納ニ小韓櫃一合一
紫糸結鞋一兩　緋糸刺納鞋一兩
銀薰爐一合　銀平脫梳箱一合納ニ雜琴絃一
玉箸二雙　青班石鎮子十廷

已上納ニ第十一韓櫃ニ

禮服御冠二箇（一箇皂羅金銀寶玉飾、着ニ黑紫組纓二條一、納ニ赤漆八角小辛櫃一合一、敷ニ白帳一條、布帳一條、緋地錦覆一條、緋綱一條一、一箇以ニ銀金薄幷金銀葛形寶珠一莊、着ニ白線組緒二條一、納ニ赤漆六角小韓櫃一合一、帛綾褥一枚、帛袷覆一條、鐵鑷子二隻）

已上納ニ第廿六韓櫃ニ

禮服御冠二箇（禮冠一箇、有レ旒以ニ雜玉一飾、九冠一箇、以ニ雜玉一飾、）

納ニ赤漆小辛櫃一合一、敷ニ帛帳一條、布帳一條、緋綱二條一居レ机、

已上納ニ第廿七韓櫃ニ

帛袷袍一領　襖子二領（一綵錦、一袷）

汗衫一領　褶一腰（羅褶）

袴一腰（綵錦）　御帶一條

袷幞子二條（各二副）　帛綾袷袍一領

單衣一領　綵錦褶一腰（羅褶）

單幞子一條（二副）　合香二斤十二兩（大納帛袋）

納ニ赤漆文欟木小櫃一合一、（其木足著ニ鐵鑷子一）緋地錦覆一條、

敷ニ帛帳一條、布帳一條　緋絁綱一條一、

已上納ニ第廿八韓櫃ニ

獻書五卷（一珍寶、一種々藥、一書屛風氈等、一書屛風、一大小王眞跡、納ニ革帛紫袋一）

右被ニ太政官今月七日符一偁、爲レ撿ニ彼寺資財幷官物一差ニ件人等一充レ使發遣、寺國承知、聽レ使處分者、今使等依ニ去延暦十二年曝凉使等撿帳用幷遺所官物勘錄一申送如レ件、謹解、

弘仁二年九月廿五日

使從五位下行圖書助藤原朝臣淨本

正六位上行中監物高階眞人石河

從五位上守右中辨藤原朝臣伊勢人

僧綱律師兼別當脩行大法師位修哲

三綱上座傳燈大法師位安禎

寺主傳燈法師位使

都維那傳燈滿位僧延忠

國司正五位下行介大中臣朝臣魚取

合三通（一通進ニ內裏一、一通收ニ御倉一）　一通留ニ三綱所一

雜物出入帳 從弘仁至天長

（首缺）

銀平脫合子四合幷納碁子六百

右納漆御厨子　弘仁二年九月廿四日

（別筆）以弘仁五年六月十七日下犀角四枚 二角口底一長一尺二寸 一長六寸

一長二尺　一長七寸　兩數各角付

右依二太政官六月十五日牒旨一、進上如レ件、

三綱

上座勝猷　都維那壽常

寺主伍淨

使大監物從五位下安倍朝臣兄麿

侍從從五位下藤原朝臣淨本

內藏助從五位下三島眞人助成

弘仁五年七月廿九日返納麝香陸劑 以二去六月十七日一所レ出

出桂心大參斤　人參大參斤　無食子壹佰丸

大黃大參斤　甘草大參斤　河梨勒卅三枚

胡椒小壹斤拾貳兩貳分

右依二大政官今月廿九日牒旨一、爲レ施二病僧一所レ出如レ件、

三綱

上座勝猷　都維那壽常

寺主伍淨

使侍從從五位下藤原朝臣淨本

少監物從六位橘朝臣繼麿

從五位下藤原朝臣高貞

以二弘仁五年九月十七日一出屛風並鎭子 並奉估料

合參拾陸帖　平商直古錢六百廿四貫六百文

蓬萊山水二帖 高七尺、並小破、各〃袋、

散藥一帖 高六尺、小破、緣綾袋、

唐國圖一帖 高六尺、小破、緣綾袋、

本草形二帖 並高五尺二寸、並小破、黃袋、

夜遊素繪二帖 高各五尺、小破、右布袋、

唐古樣宮殿畫三帖一帖高四尺八寸、中破、黄袋、二帖高各四尺八寸、一絁袋、一布袋、
唐宮殿騎獵二帖一帖高五尺五寸、小破、並布袋、一帖高四尺八寸、
池亭一帖高五尺、大破、布袋、
天台觀圖一帖高五尺、大破、布袋、
唐古人三帖一帖高五尺、大破、二帖各四枚、并高五尺四寸、小破、並黄袋、
唐女形一帖高五尺、小破、黄袋、
古樣山水一帖高五尺、布袋、
儛馬一帖高五尺、小破、黄袋、
書屛風四帖二帖各高四尺五寸、色紙、無袋、二帖各高四尺八寸、絁、大破、黄袋、
飛帛一帖高四尺、絲袋、
刻纈屛風十帖高各五尺、小破、並布袋、
白石鎭子十六枚師子菟牛形、
右依二太政官九月十四日符一所レ出如レ件、
三綱
上座勝猷　都維那壽常
寺主伍淨
使從五位上守中務大補兼行相摸守直世王

正六位上中監物百濟永豐
從五位下侍從藤原朝臣淨本
同八年五月廿七日返上　不破　並奉估料
以二弘仁五年十月十九日一出琴貳隻　瑇瑁箸貳雙
右依二太政官十月十六日符一所レ出如レ件、
三綱
上座勝猷　都維那壽常
寺主伍淨
使從五位上守中務大補兼行相摸守直世王
從六位下少監物橘朝臣繼麿
弘仁八年五月廿七日返納琴貳隻一隻以金銀平文之一隻漆琴
瑇瑁箸貳雙
右以二去弘仁五年十月十六日一、依二太政官符一所レ出琴
替返納如レ件、
三綱

上座長歳　　都維那
寺主
使大膳大夫從五位上三島直入助成
少監物正七位上紀朝臣不破萬侶

弘仁十一年十月三日下
大小王眞跡小半紙納二革細莒一
眞草書貳拾卷（別筆）納二張薄平文莒一
已上書本直佰伍拾貫文舊錢
綿鞋肆兩
男錦鞋壹兩
紫絲鞋壹兩（別筆）
已上直錢參貫陸佰文舊錢

三綱
上座　　都維那孝崇
寺主藥上
別當
使散位正四位下藤原朝臣眞夏
少監物從七位上大春日朝臣春野

左近衛少將從五位下和氣朝臣眞綱

弘仁十三年三月廿六日出
鏡伍面　雜香參種　五色絞糸貳條
右目錄
八角鏡二面
一面花鳥鏡重大五斤一兩二分徑一尺一分
一面鳥獸花鏡重大四斤七兩一分徑一尺二分
圓鏡三面
一面花鳥鏡重大六斤五兩徑一尺七分
一面雲鳥鏡重大四斤十二兩徑九寸二分
一面山水鳥鏡重大四斤十五兩徑九寸二分
已上各納二漆涅革莒一、別敷二緋綾褥一着、
淺香捌斤肆兩小　紫鑛捌斤肆兩小
麝香玖兩貳分小　五色絞糸貳條各長二丈
右依二大政官今月廿日牒一、爲レ用二行法之所々一下如レ件

三綱
寺主藥上　　　　都維那爲樂
可信法師
可信安稱
勅使
從四位上左近衞中將佐伯宿禰長繼
少監物正七位下柿本朝臣安□

五月六日下甘草參斤　人參參斤　桂心參斤
遠志參斤　大黃參斤以上大（書入）
（別書入）山華椒根拾兩不下穢无食子貳佰
右依二太政官弘仁十三年四月廿六日符旨一、衆僧病料
如レ件、
三綱
上座
寺主藥上
可信慈冠

可信
勅使
從五位下右近衞少將坂上宿禰淨野
中監物[　]一安倍朝臣礒良

弘仁十四年二月十九日下
箏琴壹面桐木木繪　紫檀琵琶壹面
紫檀五絃琵琶壹面螺鈿　新羅琴貳面金鏤
銀平文革莒壹合　楸木瑟壹面木畫
銀薰爐壹合重一斤八兩大　（別書入）御琴皆各[　]七
右依二右大臣二月十七日宣一、所レ出如レ件、
別當大法師位施秀
上座大法師位慈冠　都維那法師□□
寺主大法師位藥上
勅使
從五位下右近衞少將坂上宿禰淨野
中監物正六位上石川朝臣河魚

弘仁十四年四月十四日納雜物

新羅琴貳面並盛紫兩袋

一面表圖水形金塗畫、裏以二金薄一押二遠山幷雲鳥草等形一、罰面畫二日象一、

一面表圖以二金薄一押二輪草形鳳形一、裏以二金薄一、畫二大草形一、罰面畫二草鳥形一、

箏一面槻表桐裏、以二木繪一爲レ堺、以二蘇芳作足幷臨岳等一畫白□□

琵琶一面紫檀三合槽、龍船畫面□ 无柱一

右四面、去二月十九日所レ出、今相替施入如レ件、

五絃琵琶一面紫檀、螺鈿、龜甲畫面螺鈿、盛紫綾袋、

瑟一面紫檀臨岳、以二龜甲一餝三二端幷側盛八藕糸袋、

銀薰爐一合重一斤八兩

右參種、同日所レ出今返納□

右依二太政官今月十日牒旨一、請納如レ件、

別當大法師位

上座大法師位　都維那法師位

寺主大法師位樂上

勅使

右近衛中將從四位上橘朝臣氏弘

少監物從六位下賀茂朝臣本枝

天長三年九月一日下

甘草□斤　人參伍斤

太黄參斤　桂心伍斤

肉縦容壹斤　大一禹餘糧壹斤

遠志壹斤　蜜陁僧漆兩

右依二大政官八月十四日牒旨一、衆僧病（以下缺）

都維那安稱

雜物出入繼文

麝香一管　犀角一枚
雄黃一劑　牛黃一劑
犀角杯一口　玉杵一枚
天平勝寶四年四月八日

以二同日一依レ數下充付二秦牛養一
高丘比良麻呂奉
造寺判官彌努連奥麻呂
佐伯宿禰眞守
使高丘連比良麻呂
大僧都賢太法師良辨
右虎賁衛佐高麗朝臣廣山
三綱小都維那僧聞崇

施藥院解　申請藥事
桂心小壹佰伍拾斤假令十箇月料
右件藥既盡、覓レ買亦无、因レ此雜藥合作既停レ望、
且請件藥欲レ作レ施、今具レ狀謹請二處分一、謹解、
天平寶字八年七月廿五日　內豎无位秦忌寸牛養
知院事外從五位下行大外記兼內藏助高丘連比良麿
知院事僧　慈瓊
蚊屋采女宣、宜下請二東大寺所收一充中用之上者、
廿七日

治葛肆兩收二東大寺正藏一
右親王禪師所請
寶龜十年十二月六日
中納言藤原朝臣繩麻呂奉
造東大寺司
合請藥漆種
「桂心壹拾斤小　「人參壹拾斤小

「芒消參斤小　「呵梨勒參佰枚
「檳榔子伍拾枚　「畢撥根壹拾兩小
紫雪壹拾兩小
天應元年八月十六日
左大臣宣　參議藤原朝臣家依

以二延暦十八年十一月十一日一下、大黃貳佰斤□草貳
□、小草貳斤肆兩、檳榔子漆拾肆丸、桂心□
□呵梨勒貳佰顆、麝香伍劑　已上物納二漆泥
韓櫃貳合一、
右物依二今月八日官符旨一、進上如レ件、
三綱上座法師
寺主法師修哲
都維那住位僧伍淨
勅使宮內卿正四位下石上朝臣家成
中監物正六位上穗積朝臣道長
侍醫正六位上吉水連唐

以二延暦廿一年十一月廿一日一下、大黃貳拾斤、甘草貳
拾斤并大、人心壹斤小、呵梨勒壹佰顆、宍縱容壹拾肆
兩小、
右物依二今月十八日官符旨一、進上如レ件、
三綱上座滿位僧
寺主大法師位修哲
都維那位僧伍淨
勅使左京大夫從四位下藤原朝臣大繼
小監持紀朝臣大足

以二延暦廿二年正月廿三日一下、大黃貳斤大、
右奉レ固二大佛山形彩色一、幷爲レ用二種々一、下二置造
寺所一如レ件、
桂心參斤大　甘草參斤大
右件藥、病僧等施料、下二置三綱所一、
三綱上座壽堅

都維那　　寺主參福
律師兼別當大法師位修哲
勅使治（◎部カ）省大輔從四位下和朝臣今鹿麿
少監物正六位上紀伊朝臣大足
以二大同元年九月七日一下、白犀角一枚、長三尺一寸五分、重大六斤十兩二分、
右依二今月五日官符旨一、進上如レ件、
三綱上座滿位僧
寺主大法師位賢亮
都維那滿位伍淨
勅使從四位下行左京大夫兼左兵衞督下野守巨勢朝臣野足
少監物正六位上紀朝臣大足
（別書）　同年七月廿九日返二納六宴一、使名見二下帳一
以二弘仁五年六月十七日一下、麝香六劑　㓦犀角三兩一
分大、
御袈裟九領

一領刺納樹皮色九條　一領褐色紬□金綱習三藏袈裟
一領織成樹皮色七條　六領刺納樹皮色七條
誦數四貫一水精 一琥珀 一紫石 一紺琉璃
右納二第一韓櫃一
弘仁二年九月廿四日
（別書）
齊衡三年六月廿四日　實錄合
上　口　櫃
犀角坏二口一口小十兩一分 一口小九兩　南厨子
犀角四枚一枚長七寸重大一斤十三兩二分 一枚長二尺重大三斤六兩
二枚連一枚長一尺三寸 一枚長六寸　惣重大四斤十四兩
（別書）以上三種物直五百卅餘貫文 三綱所納了
已上北厨子
右依二太政官六月十五日牒旨一、進上如レ件、
三綱
上座勝猷
寺主伍淨　都惟那壽常

使大監物從五位下安倍朝臣兄麻呂
侍從從五位下藤原朝臣淨本
內藏助從五位下三島眞人助成

齊衡三年六月廿五日

雜財物帳　壹卷

就下大破難上レ加二修復一、仍其儘封納畢、

但右之卷末、石水氷四斤九兩以下、推而令二修補一、爲二後代一于レ左接加焉、

石水氷四斤九兩　內藥一斤四兩二分 幷裹

右納二第廿櫃一

狼毒十口斤二分 幷袋及壺 冶葛二斤三口十一兩二分 幷壺

右納二第廿一櫃一

右以二天平勝寶八歲六月廿一日一獻物

銀薰爐一合 重鐵幷大 ［　］

銀平脫梳箱一合 盛阮咸絃四條、琴絃十四條、箏絃十三條、琵琶絃七條、五絃琵琶絃五條 中絃五條、小絃五條、

瑇瑁箸兩 ［　］ 黑柿筒

靑斑鎭石拾廷

右以二天平勝寶八歲八月廿六日一獻物

金薄綵繪木鞘大刀子一口 双長一尺二分、双本金鏤、紫檀把金口幷鞘口鞘尾、

人勝二枚 一枚在二金薄字十六一 一枚押二綵繪女形等一口緣在二金薄裁物一

桂心貳斤　甘草貳斤 並大

右件藥病僧等施料如レ件、

三綱上座壽堅
寺主
都維那伍淨
別當大法位修哲

勅使治部大輔從四位下和朝臣今鹿麻呂
少監物正六位下賀茂朝臣赤兄

以二同日一下二銅鉢四口一、一口一斤九兩一分、一口二斤四兩二分、一口二斤一兩 一口一斤九兩、

右爲二供養一四王堂下如レ件、

三綱上座壽堅

寺主
都維那
別當大法師位修哲
勅使治部大輔從四位下和朝臣今鹿麻呂
少監物正六位下加茂朝臣赤兄

(首缺)
納二班繝箱一合一、
右以二天平寶字□□九年潤八月廿四日一獻物、
以二前雜財物等實數一申上如レ件、
齊衡三年六月廿五日正六位上行中監物紀朝臣柄成
使□□雅樂頭兼任備前介藤原朝臣貞敏
左衛門佐從五位上□行
三綱
都維那　僧安□
寺主傳燈滿位僧承安
上座傳燈滿位僧眞良
別當傳燈大法師位眞昶

僧綱
威儀師傳燈法師位善智

東大寺勅封藏目錄記上（建久以後等）

建久四年八月廿五日己未、天霽風靜、今日口東大寺勅封藏、令移置納物於綱封藏事、（修理也、）前日勅使等參向、各宿寺中、辰刻以前皆參之由、令官掌被催促、即申事相具、是爲寺家之沙汰、當北藏立三間幄一宇、（卯酉立之、長官別當坐高麗端、辨坐紫端、大監物史坐黃端、）史生官掌座在幄之西北、綱座在同西南、次各着座、長官（參議左大辨藤原朝臣着衣冠、而聽二人、）勅辨（左少辨藤原朝臣束帶、辨侍相從、）大監物（安倍泰思束帶、）史（右少史惟宗重光同、）已上西上南面着之、次別當、（前權僧正勝賢、長以下與對座、着香染衣、從僧六人在共、）史生（右史生紀良重束帶、）官掌、（左史生額並同、已上東座面、）次寺家三綱二人着座、（東上北面、史生造等與對座、）寺判官以下不及着座、徘徊幄北邊歟、次官掌起座召鎰、依時令開封藏、（預承取封進覽辨歟、）祝師捧幣帛、向辰巳方申祝畢、（衣冠、寄府歟、可尋、）藏戶開畢、勅使辨以下率入藏中、（直假階、）大略巡撿之後各退下、復本座、官掌召上寺家職掌（八人）等、（五六人許冠褐、寺家小綱等相加之、）令運出納物於幄前、次第人々撿知之、移納綱藏、重光起座到納物傍、執目錄、依辨仰也、史生官掌等行事、此間造東大寺（重源）聖人後乘房出來、見物衆徒群集、韓櫃數十合納物惟多之間、或有不知名字之物、或有一包繁多之物等、皆悉令運下者、持夫脛羸時尅推移之間、依難遂一日之覆勘、差遣史生良重於堂上、令取別目、目錄直移綱藏畢、但至于寶物者、猶撰進所令覽也、次中藏開撿畢、（同前、大監物鎰等到以上開之、）以南藏之納物令宿納一所畢、次官掌賜辨封令付綱藏、次勅封藏鎰并鎖等依時請取之、可參洛之由被仰下畢、此後退出酉尅悉畢、

寶物目六在別、

東大寺勅封藏開撿目錄

厨子一脚

納角帶一筋　下鞘一具（五員在緒）　大刀一腰

圍碁石八笥（白黑）　琴緒一筋

木地厨子一脚
納下鞘一具　笛三管牙二竹一　象牙笏三隻
口牙重二　同牙曲尺二　馬瑙唐帶一筋
海鐲子口　雙六賽　莒　同石一莒
圍碁石六笥白黑　笙一管　經不レ知レ名
書一巻同
玉冠二頭在レ臺
屛風二帖　屛風六十五帖
染付張櫃一合
納靑玉杯一口　瑠璃水瓶一口黑葛莒納レ之　瑠璃唾壺一口
色々帽子二枚在二錦袋一　帶一筋、
朱漆櫃一合
納白禮服二具一具太上天皇、一具皇太后宮、
朱漆韓櫃廿六合定廿二合者大小
一合納玉冠二頭眞朱、各納二朱漆櫃一、　琵琶一面　香納一口
一合納白笙一管　琵琶二面丸一　柳葛莒一合
一合納大丸鏡七面　紫檀圍碁枰一枚

納太刀十一腰　柳葛莒一合納二金銅佛具等一
一合納紫檀一切口一尺、長三尺、
一合納連子形莒一合　納錦小袋二枚　金銅帶
一筋　瑠璃水瓶一口　同器一口　碧瑠璃壺一口
小壺五口莒一合納レ之　納二花氈皮一帖一
一合納脇足四脚裏脇足三、白綾一、錦二、　紫檀螺鈿一
一合納黃熟香一切長三尺許、口一尺許、
一合納丁子皮員多
一合納大刀十二腰ワメ廿二云々　象牙笏一隻納レ莒
一合納藥壺十二口大小　水精念珠二連納二朱小莒一　金銅水
瓶一口
御物目六櫃一合
一合納香二袋
一合納丁子一裹　五色龍齒、種々藥袋等
一合納色々御衣等
一合納人參二袋
一合納鏡二面各納二黑漆莒一

五合納合藥々等
一合納鏡三面大二、小一、　銅鉢四口　鈉足付鉢五口
納鏡四面
朱漆細櫃一合
納黑漆杖一筋納劍長一尺八寸、　竹杖一筋納小劍、　各在袋、
同小櫃一合
納馬瑙石十果各納長
一櫃一合納仙人履四足
椙韓櫃一合
納水瓶一口　佛具等如花鬘物等也
白木辛櫃一合　錫杖一支納椙細櫃一合
納色々玉　錫杖廿支納椙細櫃一合被取出了
琴四張　琵琶一面

中藏

白大鹿角一支人云七寶鹿角云々
琵琶一面在錦袋　鐵丸透香納莒一合

一口津保腰　大筆一管長三尺　大墨一廷長二尺許
師子馬瑙二枚　犀角帶一筋　八花形唐鏡一面八角黒漆莒一合納之、
黒漆小莒二合　一合蓮實念珠一連　一合納小刀五
同小桶一口納白檀小佛一
銀鍉一口無口三百八兩云々　木繪莒一合內草鞋一足
香爐二口　小琴一張　經莒一合納梵網經一卷
八花形鏡一面徑一尺四寸、
辛鋤二支　小弓二張長四尺許、一張在絃、　爪竹　銀壺二口　八角臺一脚
一合納瑠璃大壺一口　內小壺一口　雙六枰一枚　圍碁枰一枚　白衾二領　鏡一面　紐平臺　具　蒔繪莒一合
龜甲莒一合納香爐一口　細櫃一合納笠等　黑葛靭一腰
一合納大鏡一面　莒四合納火打等　一合納玉帶一支
一合納御帽服基筆等　瑠璃壺十口大一、小九、　文机一脚
雙六枰一面
一合納鏡八面納莒ヲ不納、　象牙笛一管

一合納衣莒一合在レ覆　黑葛莒一合　莒二合一合木地、一合蒔繪、
一合納黑葛莒一枚納二色々糸組緒等一　覆鐵針三筋
一合納二黑漆小辛櫃一合一、納二禮服冠等赤覆等一、
一合納平文莒一合　小文臺一基　錦袋茵等折葛莒一
枚　背搔一支
一合納朱小櫃一合納白衣等　柳葛莒一枚
一合納柳葛莒一枚、納二鈴揷頭花等一、水精念數四連
納小莒一合　瑠璃壺盖一口　赤小櫃一合納香
柳葛莒三合大小納二色々糸等一
一合納黑漆櫃　一合納御衣等　唐錦等　犀角杯一口
一合納茵覆二帖莒三合各支上足
一合納白衾一領四口　黑漆宮一合
一合納銀鉢五口　同臺五基　柳葛莒一枚
一合納錦六帖　金銅花盤二枚　緋帶鋏等
榻辛櫃五十八合內
一合納花氈皮一枚朽損　履一足　小鈴等
一合納大刀　那岐刀

一合納香納一具　銀手洗一口　圍碁笥等
塗莒一合　納二小莒等一
一合納香盤一具在レ座　師子馬瑙二果　琵琶一面
一合納師子馬瑙二果、柳葛莒一合納錦、首比一枚納黑漆莒
一合納黑葛靭等　切目圍碁枰一脚　蘇芳一袋
一合納紫檀琵琶一面　琴一張已上錦袋　鞆等
一合納鞍二具各皆具　手綱轡　柳莒二合
一合納鞍三具各皆具　三合納二花氈皮一
一合納御衣衾等一合納六枚大辛櫃　横杖二筋納二錦袋一
如意一支　辛鋤二柄　擅子弓二筋納二錦袋一
竹御杖二筋　木枝一支　脇足一脚在二打敷一
四合納錫杖
一合納黑葛莒　一合納二色々糸等一　青白瑠璃等色々錦覆等
一合納柳葛莒　一合鏡大小廿一一方鏡亘、柳葛莒一合納二袈裟一
一合納柳葛莒一合　三衣袈裟御經莒納二梵網經一卷一
無之
鏡基一　丹墨一廷　諸序書二卷　代々書目錄一合
一合納小柳葛莒納二鐵針一色々糸袈裟在二風流一

香爐二柄　眞珠長笙二管　下鞘等樣細莒等
一合納薰陸香　琵琶一面　玉箒一支　背搔一支　象
牙尺八一枚
一合納錦覆七八帖許
一合納犀角一隻　圍碁枰一脚在二錦覆蓋一　花形莒一口納二下鞘一
一合納久世椂一口其鉢如二大牛角一
一合納柳葛莒一合　納水精念數等眞珠佛小帳一卷
纓綱唐綾茵等
一合納黑漆丸桶一合　同櫃一合納二馬瑙具一口、柳莒一合一、
水精玉　鏡一面　香爐莒一合
一合納鏡琴一面　大刀龜甲　佛光巡鈒在レ緒、　如意一
筋
二合納箭　三合納花氈皮　三合納綱等
一合納琵琶一面　鞍一具　二合納錫杖廿一本　一合
十一　一合十
一合納鉦鼓臺面打敷日隱綱等　一合納御佛櫃一合
一合納柳葛莒蓋一枚　臺幷打敷等

一合納如意一　龜甲一　柳葛莒一　黑漆莒二合
一合朱漆莒一合納二色々紙廿一卷一　柳葛莒二枚　錦袋一帖
一合納如意二　色々小玉在二象牙莒一合
一合納金銅花盤二枚大小　佛臺同打敷等
一合納御經軸等　聖武天皇御袈裟等
一合納櫃帶小綱等　三合供養法佛具等不レ知二員數一
一合納同鉢等幷香爐莒一合　玉花鬘一枚　銀花莒
一合
一合納鞍一具柳葛莒三合　錦袋三帖　一合納丹
黑柿小莒一合無之
納麝香一箇一斤八兩　龍齒犀角小器一口
件麝香、天平三年藤原宇合被レ進、度々在二實撿一、
白河院御時召二三兩一其代銀三百八十兩令二直給一
云々、
繪櫃一合
納木筆二管　大色紙二合　墨二廷　研一基
會前加納墨五廷　水精玉四果　眉間分

天平勝寶五年七月一日、撿納櫃銘如此、不知員
數、

鉢等

壺一口

小櫃一合

納鉢一本折損

空納韓櫃十合　同細櫃三合

建長四年八月廿五日

勅封藏寶物事

建久五年三月廿日、被返納了、藏修理以後也、
勅使右少辨藤原朝臣資實、右少史惟宗重光、右史生
紀良重、官掌同賴兼、大監物小槻宿禰有賴、鎰藤井
依時　造寺官長官左大辨宰相定長、判官中原朝臣基
康、別當前權僧正勝賢　寺家所司二人、綱所威從二
人、（勅封藏納物爲被渡也、）今度錫杖十支、重源上人依申請被
取出之、寺家作事之時爲役用者、右少辨可被
成子細、被置藏了。

弘安十一年四月廿五日、於東大寺新禪院、相扶
病躰令書寫畢、

造東大寺大勸進沙門重□花押

依恐紛失、建久日記表端讀之紙魚食之文字多
闕滅也、筆驛馳之前後、又亂脫者、逐一交易悉、
以餘本可勘而已、

右一卷

東大寺勅封藏記下 寛元以後

宗繼朝臣下向時

東大寺　勅封藏御物

朱漆辛櫃四十五合　同櫃一合
同細櫃一合　同細長櫃三合
張櫃一合　檜繪辛櫃一合畫二牡丹一
榻辛櫃卅五合　同櫃十三合
同繪櫃十三合　厨子二脚在二金物一
　已上有二納物一
朱漆榻櫃七合內或無レ蓋或破損　各空納
鴨毛屛風二帖在二金物一　屛風六十七帖在二金物一
八角臺一在二金物一　白木臺一
琴三張破損　沈一支長三尺餘
大鹿角一　鉡卅三內長卅一短二各上下鐵也
琴甲三　臺三脚大小
八足二脚　机九脚大小

木鋤榻　板十八
篦三束

件御物等、被レ移二置西印藏一號二上司倉一云々、今度可二實撿言上一之由、不レ被二仰下一之間、不レ可レ及二目錄沙汰一之旨、左少辨被レ申レ之、仍納物辛櫃已下者、付レ封運送之間、爲レ散二不審一、史生一人盛親、於二勅封藏一請二取之一、寺家三綱相二副之一、同一人經景、於二出倉校一置之、各取二員數目錄一、宗繼依二辨命一、同書目錄不レ見納物、運送之員數、以二彼是之目錄一勘合之處、當時之見在大略無二相違一者也、運送之間、使部幷寺家使小綱兵士等相二副之一、御物各納二印藏一了、件鎰可二進上一歟之由、別當法務雖レ被レ申、勅使辨不レ被レ請二取之一被レ置二寺家一了、抑彼物等、自二往昔一一向被レ納二置中藏一、以二綱封藏之物一、令レ置二北藏一云々、如二別當法務之被レ申者、以二中藏御物一置二同上輿一、以二助藏半一置二下輿一之、而混雜之御物少々在レ之、其上綱藏々中頃可二分別置一之由、辨頭被二下知一、不二召定一取分別取二置之一云々、但於二重

物ノ者、北藏御物之由、同日銘、
寬元元年閏七月廿三日
今云、宣旨案此長官被レ成之由、奉行史參向、彼寺存ニ日六許ノ歟、
左辨官下　大和國幷東大寺
使左少辨藤原朝臣親賴　從六人
大監物丹波朝臣尙長　從五人
右史生中原宗繼　從五人
主鈴河安氏　從三人
左史生紀盛親　從三人
右史生中原經景　同
左官掌中原重繼　從三人
使丁　十人　從各一人
右權中納言藤原朝臣資賴　奉レ勅、彼寺勅封藏雨露頻
侵、破損漸甚、爲レ加ニ修造於庫藏ノ、可レ移ニ寶貨於他所ノ、
爲レ令ニ監臨ノ、差ニ仕史人ノ發遣如レ件、國宜承知、使者
經レ彼之間、依レ例得ニ供給ノ、官符故下、
寬元元年閏七月廿日、　大史小槻宿禰
右中辨藤原朝臣
勅封藏東庭打ニ幄屋ノ諸司沙汰也
左少辨親賴　大監物尙長　右大史宗繼
已上南北行各南上西面、辨座敷ニ高禮端ノ、大監物以
下紫端、
官掌代良廣　史生盛親以下着ニ北橫切ノ、各東上南面、紫端、
寺家三綱等北上面別當法務定親已下也、
南端敷西行打レ幄是綱所度之、
先祝師舞人先成ニ捧幣帛ノ三拜、次官掌解ニ　勅封ノ也、
覽レ辨辨賜レ史、次着ニ衣冠ノ之輩兩三人、幷寺家公人、幷ニ三綱
官掌等、昇ニ寶藏ノ取ニ出寶物ノ、
寬元元年度如レ此所レ見候也、此外無ニ殊事ノ歟、
弘安十一年四月下旬、於ニ東大寺新禪院ノ以ニ故造
寺官重俊自筆本ノ令ニ書寫ノ了、極草亂忩之間任レ本
右筆而已、
造東大寺大勸進沙門□□花押
弘安十一年卯月廿三日、當寺　御幸之次、被レ開ニ勅封

藏ニ經ニ　叡覽ニ重寶目錄事、

合

紫檀厨子一脚　　木地厨子一脚

朱韓櫃廿六合内

一合納玉冠　　一合納白笙一管

小櫃一合納仙人履四足盜人取殘物入定

一合納御開眼墨筆等

一合納黑柿小筥一合

梠韓櫃卅五合内

一合納香盤一具

一合納紫檀琵琶一面不具鞍二口在レ之

一合納柳莒筥一合　一合納薰陸香

一合納琵琶一面　　一合納脇足一脚

綸櫃一合納大筆二管

鴨毛屏風二帖

已上被レ召ニ目錄ニ加點而被ニ召出ニ之分如レ此、

右一卷

天正二年截香記

天正二甲戌三月廿八日、織田信長於ニ多門山城ニ蘭奢待截ル東大寺記錄寫　但三藏開封記

正倉院開封之次第、甲戌三月廿八日、三藏開封之正日也、

一天正二年甲戌三月廿三日巳之刻、尾張國織田彈正忠信長之爲ニ使者ニ塙九郎衞門丞仁、筒井順慶被ニ相副ニ年預所當坊へ來牒也、其被レ申樣者、今度被レ越子細者、東大寺靈寶蘭奢待、信長致ニ拜見ニ候間、滿寺衆徒預ニ御同心ニ者、尤可レ爲ニ祝着ニ然者御寺領以下、隨分如ニ先規ニ可ニ申付ニ候由、能々可ニ申入ニ之旨、信長申趣演說也、　筒井塙九ハ客殿ニ居シテ、以ニテ中坊井上ヲ一塙喜三郎三人坊主京ノ年預江右之趣被レ申、年預返答云、遙々御辛勞也、急度滿寺へ遂ニ披露ニ自レ是可レ申之由演說畢、則三獻相調、各御酒參畢、上下百人程有レ之、

一、塙九歸宅之後、飜而自二筒井一以二使者一、信長使者明朝早々上洛候間、夕部ニ一途之可レ取二返事一旨牒送也、依レ之不レ移二時刻一、於二年預坊一唱二老若之集會一及二談合一、其間切々寺門之返事、催促之使者及二度度一、雖二決束之旨相急一、東山殿慈照院義政、奈良社參以來中絶之間、每事無案內也、火急之大事也、開封之儀式、從二往古一于レ今公方樣御事也、室町殿御社參之外ハ無レ之、新儀之競望、火急ノ案內、早束之返事、更不レ及二分別一、出仕老若及二赤面一、失二十方一只爲二亡然一、背二先規一無作法、則香之威失云々、寺門之瑕瑾旁難義之境目也、若今度之使者ニ不レ令二同心一者、忽寺社滅法之爲二洪基一歟、進退爰ニ極ル、是非更難レ解、依レ之集會及二夜景一、然所筒井順慶 寺門之返事、遲々不レ可レ然之趣、及二使者度々一間、不レ及レ力返事申送畢、其趣者信長蘭奢待可レ有二拜見一旨蒙レ仰畢、三ツ藏開封之事者、必公方樣奈良社參時奉レ開レ之、臨時之開封自二往古一于レ今無レ之、然處信長之儀ハ、內裏之御殿令二修造一、剩莫大之御料所奉二寄付一、退二朝敵者一、上 之奉レ成ニリ入洛一、可レ謂二公武御再興一之上ハ、御香拜見不レ及二餘儀一歟、但開封之儀式ハ、勅使勅封ヲ帶而被レ成二御下向一、開戶之後、當封ヲ付、先封ヲ取上、上洛之事先規也、則當寺別當被レ成二補任一、坊舍へ有二光臨一、洗香御拜見先例也、肝要不レ背二先例一樣之經二御沙汰一者、可レ爲二祝著一、若背二先規 於レ無二作法之義一者、此度洗香之威口失、又於二信長一モ自レ是啓二天下口遊一 如何歟、所詮如二有來之次第一之趣以、被レ成二開封一候御樣可レ預二御演說一旨返答畢、 筒井順慶塙九興福寺成身院ニ 被レ居之間、年預予訓莫英定以上三人、成身院へ罷出、右之趣申渡處、御同心尤以大慶候也、御寺領以下隨分可レ然二竟望一返答畢、

以廿三日之戌之刻程ニ、於二成身院一時宜如レ件、

一、如レ此先雖レ被二申定一而、可レ爲二來春之儀一歟、及二油斷一處 同廿七日ニ 信長奈良へ下向也、蘭奢待爲二

拜見一風聞也、滿寺仰天難レ及二筆力畢　木津迄被二
相付一候由注進候之間、若寺僧衆十四五人爲レ迎木
津迄下向、則對面目禮在レ之、多門山江被二落付一間、
年預予訓莫兩人自二寺門一使者ニ罷出、土産皆朱之數寄用二折敷一大小廿枚箱アリ、奏者塙九島田但馬對面之以前ニ、以二兩人一二三藏今無二
兵火等之難一不思儀之趣、幷東大寺由來等都合六ヶ
敷被二相諍一、最結句明日廿八日御香拜見之儀付、爲二
名代一同名可レ參幷御香之事、御倉へ信長自身參者
恣之仕歟可、口遊如何候間、多門山城江可レ預二持參一
寺僧衆之御前ニテ有樣可二請置一之旨被二申堅一、乾度
對面畢、

以上廿七日時宜如レ此候

一、同廿七日之夕部、御勅使日野耀資、三藏開封之爲二
御勅使一下向畢　宿坊可レ被二申付一由、年預所へ注
進、如レ此者雖レ爲二注進一、東南院ニ被レ居間、自二當寺一宿坊不二申付一也廿七日之晩景、當寺別
當職之儀ニ付、女房奉書お帶飛鳥侍從殿下向畢、西
室院之院主、未雖二童形一、以二先例一即今度別當任畢

其旨趣者、則此女房奉書ニ被レ載、滿寺へ可レ有二披
露一之由注進也、

即時ニ遂二披露一飛鳥殿大乘院ニ被レ居間、從二寺
門一以二兩使一一禮畢、

一、同廿八日辰之刻ニ、信長爲二名代一織田御房信長兄ノ
子、幷柴田、荒木信濃、島田但馬、塙九、菅屋、前田又左
衛門、福富、矢部善七郎、此外五人、名字不レ知筒井順慶、郡
山備後、八條松藏、井出若州、根尾、其外御前衆三十
人、年預所當坊被レ來三獻用意也、塙九諸事ハキマ
へ也、客殿へハ御房殿予、柴田、信濃、島田　順慶以
上六人、此外之衆座敷へハ不レ叶也、塙九被レ申間、
坊主衆廣緣ニテ三獻畢、

初コン三ノ膳折敷ホウサウ、二コン三ツ膳折敷サウメン、三コンスイセンシイタケニツクミ、以上年預坊ニテ沙汰如レ此、

一、三藏ヨリ十三間計ヲ東ニ、勅使ノ御座床ヲシク、
俄ナル故ニ、淺假屋ノ用意無レ之、御廊ノタヽミヲ
敷ク、勅使立エボシスイカンニテ被レ坐、床ノ左右
侍衆仕候也、

一、滿寺學侶、幷兩堂衆各々者、重衣白五帖ニテ、三藏ノ北ハヅレヨリ八間計東へ、長南へ向テ立畢、中程ヨリ東ハ學侶、中程ヨリ西堂衆也、中間衆上ミ下ニテ、裹頭ノウシロニ居ス、田舍衆徒幷密宗迄、悉ク廻章之大部上洛也、

一、宿老五人、年預一人、隆賢、實澄、英雅、訓英、淨實、憲祐、都合六人、法服靑甲ニテ三倉見使トシテ倉ノ前へ、又ハ橋上へノボリ、内へ不レ入シテ守護、

一、寶藏之内入衆事、執行藥師院一人法服白衣、大佛堂六人、合七人、内へ入リテ、裝束赤衣カフリ也、香ヲ尋ネ見ニ知之一、

一、香ヲ尋ル所ニ、中ノ大ナル櫃之内ニ、カネノ鉢ノ上ニ長四尺計ノ香アリ、同櫃中ニ大鹿ノ角アリ、コレヲ櫃ナガラ能々カラゲ、加用帳ニ持セ、多門山へノボル年預ト訓英ト執行、寺ヨリ香ニ付ク、信長ヨリハ佐久間衞門相付畢、則信長ヨリ、寺ヨリ三人へ以二使者一預ケ候テ、香ヲ給レバ、私ガマシキ故、寺僧衆前ニテ被レ給、然者香ノロマテ可レ出由被レ申間、三人中門迄出畢、時ノ使佐久間衞門鉢屋兩人也、香ノ櫃ヲ座敷前泉殿ノ最中ニカキスヱ、香ヲ取出シ、寺ノ大佛師トンシキ白五帖ニテ、ノコギリヲ持參メ、一寸四ホフヅ、二ツ切取畢、信長對二寺三人ニ一云ク、一ハ禁裏樣、一ハ我等拜領ト云リ、然後香櫃請取、佐久間ト同居メ本ノ倉へ納メ畢、

一、其後又自二信長一以二使者一、紅沈ト云香在レ之由承、同有二拜見一度候由被レ申候間、北ノ倉ノ内ヲ尋所ニ、口一尺長サ四尺計香アリ、幷闈碁番ト、同寺ノ三人相付、多門山へ持參ス、從二信長一以二使者一被レ申樣ハ、先例蘭奢待計被二取出一候、然者今度モ紅沈ヲバ不レ可レ給由被レ申、則被レ渡候間、請取如レ本奉納畢、暫後信長自身倉ノ内へ入一見メ被レ出畢、大佛へ參詣セラル丶カ、路次ヨリ佐久間衞門ヲ返、寺門へ被レ申事、紅沈モ天下無双之名香タル間、端ナル倉ニハ不レ可レ被レ置、中ナル蘭奢待ト一處ニ可レ被二入置一、圍碁番ヲ如レ本北ノ倉ニ可レ被レ置、又後ニハ難

レ知間、櫃ニ別々ニ香ノ銘ヲ書テ被ニ入置一、勅使日野殿、自身御文箱ニ勅封ヲ入テ、御持參アリテ付給畢、

一、三ツ倉之内、中ト北トノ倉ハ、勅封ヲ付テ、鏁鑰京都ヘ勅使ノ御隨身アリ、大裏ヘ被レ渡事先規也、依レ之勅封倉ト云也、南倉當寺ノ別當封ヲ付、三綱所出入スル故ニ、綱封倉ト云也、則今度モ勅封ヲハ、中ト北トノ二ツニ付ラレテ、南ノ倉ニハ寺務ノ封ヲ付畢、於ニ南倉ニ一者香不レ入間、不レ及レ開之由雖ニ演説一、何レモ被レ見度由、執心ノ間開レ之畢、

一、今度開封付、鏁鑰京都ヨリ不レ下間、難レ開如何、色色及ニ談合一、不レ及ニ別調法一間、番匠ヲ召シ、上ナル鏁カクシノ横木ヲ打ハナシ、下ナル鏁ヲ鍛冶ヲ召シスリキラセテ開キ畢、聽テ又鍛冶番匠ニ如レ本修理サセ相認畢、

一、今度開封付、先例之舊記、自ニ信長一雖レ被ニ相尋一、久中絶之間無ニ存知一、若寺之文庫ヲ相尋者可レ有レ之歟ナレモ、不日之不レ及レ力之趣返答、一圓舊記不レ出レ之也、

一、六堂幷公人衆一獻料可レ給由訴訟雖レ申、今度之次第一圓不ニ本式一間、可レ令ニ勘忍一之由申所、重而無ニ申分一也

一、於ニ執行一者、下行之趣舊記ニモ雖レ無レ之、餘ニ違而被レ申間、年預之以ニ故實一三計下行畢、不レ可レ成ニ後例一、年預私之故實如レ斯也、

一、勅使日野殿ヘハ、後日廿九日御樽代十貫文、奏者ヘ五十疋持參、信長ノ御使者令ニ同道一、自ニ寺門一以ニ兩使一御禮申畢、

一、凡今度次第云ニ不日一無案内、寺門之一大事不レ過レ之故、老若手ヲ取クミ馳走故、無ニ越度一先以事澄畢、併神慮之所レ成歟、中ニモ年預一人造作機遣、一夜白髮此謂歟、寺中諸處之サウ除、當日年預坊ニテ三獻、倉ノ下ニテ一献、以下寺門ノ造作過分之事也、事ノ次第九牛一毛擧レ之、

一、寺中サウ除事、餘不日之間難レ調故、處々サウ除申付畢、

一、信長歸路之刻、當寺へ盃臺小折一木立クキヤウシ被レ送畢、則於ニ年預坊ニ老若弁堂衆皆請メ一献調レ之、

天正二年甲戌三月廿九日　年預五師淨實判

東大寺三藏御寶物御改之帳 慶長十七年壬子霜月十三日

北之端下之段

い長持壹ツ　内　御鞍、但鐙有、四口入、

ろ長持壹ツ　内　百五拾貳、大小からかね鉢、三ツ同すかし鉢、壹ツ鏡、

は長持壹ツ　内　七具からかね垸、貳百拾四からかね鉢、三ツ同皿、七拾八茶匙、

に長持壹ツ　内　九拾具からかね御器、拾九同鉢、

ほ長持壹ツ　内貳拾六大小鏡、

へ長持壹ツ　内三面内壹面ニ家有碁盤、三ツ貳百八拾石有、但ごけ共ニ、石盤、壹面琵琶、

と長持壹ツ　内藥有但元箱共ニ書付有、

ち長持壹ツ　内丹有

り長持壹ツ　内拾五白赤もうせん、

ぬ長持壹ツ　内幕之綱白赤入有、

る長持壹ッ　內屋うらくふさ玉入有、

を長持壹ッ　內氣まん幡之道具入有、

わ長持壹ッ　內壹ッ玄よだい、壹ッ唐之箱色々こま道具有、壹ッまご、壹ッ鏡、三ッこり、

か長持壹ッ　內五ッ石盤但龍の文あり、

よ長持壹ッ　內壹ッ石盤、壹ッけうそく、壹ッ琵琶、壹ッ鳳凰法皇之金物、壹壺鹽硝、五足唐の沓、壹枚白もうせん、壹ッ明長持、

北之端二階

た長持壹ッ　內壹ッ藥色々有、貳拾六本しんちうのすたれのを、壹箱丁子有、

れ長持壹ッ　內壹面硯、壹面双六盤、貳ッ冠桶、六ッこり、壹ッ唐之小箱、三ッ唐之計算(ケイサン)、

そ長持壹ッ　內貳ッ蓮花之座、三ッてんがい、

つ長持壹ッ　內藥、但元花入有、

ね長持壹ッ　內壹ッ法皇之御筆、壹ッ御杖、壹ッ御尺八、壹張御弓、三ッまご、壹ッ御杖、壹ッさすが、壹ッびいどろの藥すり、壹ッ香箱、壹箱藥、壹ッこり、壹ッ鈴、七ッ鏡之家、壹ッ箱金に而紋有、壹ッ花立、壹ッ塗桶、壹ッ琵琶、

な長持壹ッ　內しやほん壹長持有、

ら長持壹ッ　內五枚白赤もうせん、

む長持壹ッ　內しとね壹長持入有、貳ッびいどろ之觴、

う長持壹ッ　內貳ッ御よりかゝり(靠)、貳走絹之幕、壹ッかうの箱但金紋有、

ゐ長持壹ッ　內拾三枚もうせん但紋有、

の長持壹ッ　內壹箱　經之軸、壹箱靑白赤唐紙、

お長持壹ッ　內人參入有、

く長持壹ッ　内壹箱鈴入有、
や長持壹ッ　内壹箱めなう石有、
ま長持壹ッ　内拾八振御太刀、壹張大しやみせん、
壹ッゑ香爐、壹管御笛、壹ッ御尺八、
壹筋石之帶、壹蓮水精之念珠、
け長持壹ッ　内壹面琴、貳面琵琶、壹ッ笙、壹ッ
御杖、壹箱下緒、壹ッ燒物之壺、貳
ッ明箱、
ふ長持壹ッ　内貳口鞍、壹口轡、貳懸牛泥障、
こ長持壹ッ　内壹ッ小箱色々小道具有、壹箱下鞘、
え長持壹ッ　内壹ッ笙、壹ッ前後劒有、三ッ箱、
て長持壹ッ　内七ッ鏡有、壹ッかねの輪有、
あ長持壹ッ　内貳口鞍、壹口轡、
さ長持壹ッ　内拾貳箱有、壹ッすいびん、貳ッゑ
香爐、壹ッかねの鉢、壹ッ三鈷、
き長持壹ッ　内色々小道具入有、壹ッ水瓶、
ゆ長持壹ッ

此内ニ御目錄有レ之（天皇御筆カ勅印ト相見エ大戌御朱印アリ、）然間先此櫃ヲ可レ出也、
内壹本ざうげ、拾けまん道具有、壹箱
筆墨經有、壹ッかねの輪、壹ッ鏡、
壹箱こま〳〵道具有、
め長持壹ッ　内貳口鞍、壹ッ佛之大座、
み長持壹ッ　内六本甘草、五本計算、壹ッざうげ
の尺八、壹袋肉桂、四ッ石之樣成藥、
貳ッ燒物之壺、
し長持壹ッ　内壹ッ燒物之壺、壹ッ唐織之琵琶袋、
貳袋藥有、壹ッ箱之蓋、
ゑ長持壹ッ　内壹巻曝布、絹之こま〳〵道具有、
ひ長持壹ッ　内貳ッ黑漆之筒、四ッ小箱、貳巻と
うし、
も長持壹ッ　内色々御衣之道具有、
せ長持壹ッ　内壹ッ御枕、壹ッまこの手、貳ッ箱、
壹ッ御手巾懸、壹ッ香合、
す長持壹ッ　内壹ッ板に佛ヲかな物に鑄付有、壹

ツ笙、四拾三振御太刀、壹面琵琶、

一長持壹ツ　内大ナル紅沈長さ二尺六寸四分、本口のふとさ同前也、うら口二尺二寸三分、本口切かき所一尺五寸、切々所三ケ一也。三ツ小キきれ、

二長持貳ツ　内壹ツ鹿角拾六俣、貳ツ紫檀、貳本木、蘭奢待有、長さ曲尺に五尺二寸五分、本口のふとさ四尺三寸、裏口一尺六寸二分、本口より半分過中うこあり、（人カ）壹張但大形の緒有御弓、貳筋たくぼく（啄木）の下緒、御幣有、七拾八大小からかね鉢、拾けまん、

附箋
合三拾四長持數

右御長持東大寺御修理ニ付、北藏より南御藏へ移レ之、又南御藏ニ有レ之、指もなき御道具は、北藏へ移し申候、

中之御藏下段

三長持貳拾六　内三ツ符を切盜申候、貳拾三符如レ昔有、

中之御藏二階

四長持壹ツ　内色々着類有、

五長持壹ツ　壹双鴨毛之屛風、

六長持壹ツ　内貳ツ但南御藏へ入銀壺、壹ツ臺、貳ツ鉢、

七長持壹ツ　拾三面、壹ツ板ニ佛拾四打付有、

八長持壹ツ　内壹ツ但南御藏へ入銀無口之提、壹ツ同鉢、壹ツ同鏡、

九長持壹ツ　内色々御しとねの道具入、

十長持壹ツ　内色々錦之幕入有、

い長持壹ツ　内色々古幕入有、貳ツ藏之鎰、

ろ長持壹ツ　内色々藥有、

は長持壹ツ　内壹ツ木之鉢、色々古幕有、

に長持壹ツ　内色々布幕有、壹ツ面有、

ほ長持壹ツ　内四拾九花かご、色々古幕有、

へ長持壹ツ　内絹之幕色々有、

と小長持壹ツ　壹ツ琴、壹張御弓、

ち長持壹ツ　内御經入有、

り長持壹ツ　内布古幕入有、

ぬ長持壹ツ　内絹古幕入有、

る長持壹ツ　内色々しとね入有、
を長持壹ツ　内色々藥入有、
わ拾九但是は前より明有之由、明長持、
か三拾同斷明長持、

鴨毛屏風文

種好田良易以得穀
君賢臣忠易以至豐
諂辭之語多悅會情
正直之言倒心逆耳
正直爲心神明所祐
禍福無門唯人所招
父母不愛不孝之子
明君不納不益之臣
清貧長樂濁富恒憂
孝當竭力忠則盡命
君臣不信國政不安

父母不信家閨不睦

慶長十九年藥師院實祐記

三綱所藥師院實祐

東大寺三藏私云

三藏開封之次第

一勅使假屋ニ御出仕、假屋中足院門ノ南、其後三綱兩人出仕ス、小綱六堂出仕ス、

一番ニ御藏梯ヲ上ル、三綱兩人、寺僧二人、一﨟二﨟役、寺僧ハ兩脇出仕ス、内ヘハ寺僧不レ叶、一番勅使出仕候所ヘ、御寺務ヨリ坊官兩使ニテ鎰持參　勅使請取三綱出仕シテ、勅使ヨリ鎰請取公人ヲ召、其鎰箱ヲ持セ、鍛冶大工横木ヲ打ハナシ、伶人ノ役カケカフリクロキ裝束袖アカニテ、先幣白ヲ參スル、此近代ハ幣白ハ寺僧一﨟役、六堂ノ一﨟、鎰ヲ手ニ持、八幡大菩薩ニ對シ東向ニシテ、寶藏ノ御戸開、ト三度ヨバワリ、其後三綱鎰ヲ合ス、鎰ヨリ以前ニ勅封ヲ切リ、小綱チ呼渡、小綱扇チヒロゲ請取、勅使ヘ渡、精進料幷訪分下行之儀、具ニ驗置候也、

一天正二年甲戌三月廿八日ニ、織田上總守信長南都ニ有ニ御下向一、蘭奢待御切可レ被レ成候由、寺門ヘ御案内被ニ申送一候、時之年預五師上生院淨實得業、則多門山ニ信長御座被レ成候付而、淨實彼山江被ニ罷上一御意ヲ請、寺門ニ披露ニテ、則寶藏ヲ天正二甲戌三月廿八日ニ御開候、信長南都ヘ御下向者、前日ニ而五三日ニ而御切被レ成候、勅使者日野殿輝資其時同日ニ重テ紅沈ヲモ被レ成ニ御切一候、右兩種ノ蘭紅多門山ヘ被ニ召寄一、御切候、其時香ニ付候而、上リ申衆上生院淨實得業、中證院春識得業、觀音院長乘房得業、三綱藥師院左京公實祐上座、幷公人丸共少々召連候テ、御香拜覽有テ、則大佛師成慶法眼幷備前守法橋也、被ニ仰付一御香御切リ候、

東大寺ニ御門跡院家衆ニ斷絶候而、其刻者御寺務之指引茂無レ之候、不動院伺可レ被レ申所無レ之故ニ、寺僧中ノ内、老僧衆ノ以ニ評議一被ニ沙汰一所也、彼寶藏ヘ者三綱藥師院左京公實祐計と公人丸ヲ召遣候

ニ入置者也、其外寺僧ナンドハ一切不レ可レ叶者也、
其時以二目錄一御香一々仁、三綱敎申者也、三綱所江
寺ヨリ訪有レ之、
三綱ヘ訪分拾貫精進料拾石、合拾石拾貫也、然ヲ
斗和市ニシテ、貳拾石ツヽ近代渡ル、
一小綱ヘ三石、一公人六人ヘ貳石ヅヽ、一得業衆ヘ
三石ヅヽ、
一其後家康公天下ノ依レ爲二主君一三藏可レ被レ加二御修
理一之旨被二仰出一、則奉行トシテ本多上野守、大久保
石見守、兌長老幷合按典藥藥師ノ壽命院、
勅使廣橋辨殿、勸修寺辨殿、寶藏御開キ有テ、蘭奢待奉行衆御拜
覽有テ、御切被レ成候事無レ之、御修理之樣躰計ニ
而、其儘伏見ヘ奉行衆御歸被レ成候、慶長七年壬寅
六月十一日、
一其後慶長八年癸卯二月廿五日ニ開封、內大臣家康
卿御修理之儀被二仰出一候而、則大和國之惣分仕置
被二仰付一候、大久保石見守請取、其內ノ甲田法順幷
小堀新介ト申候ハ、大和案內者ニ付而、石見守ゟ
新介兩人ニ被二仰付一候故ニ、其內ノ四束角右衛門
ゟ申仁、兩奉行ニ而御修理相調候、其時御寶物二
ツ御藏ヘ納、其時御道具出候、時ノ奉行本田上野
守、大久保石見ニ而候、二ツ藏迄出候路次中、奉
行寺僧衆學侶ニ候、其時長持新調ニ三拾合被二相
調一、鎖鎰調制、右ノ古櫃ヲ入替被レ申候、則勅使如二
先例一剛封藏ハ（◎以下缺失）
右ノ寶藏慶長拾五年庚戌七月廿一日ニ、大風吹大佛假
屋倒伏候、當寺之僧自身罷出、材木等取置候、其奉行
ヲ福藏院北林院中證院兩三人仕由ニテ、彼三人スヾ
ム由ニテ寶藏之下江切々參候而、盜人ニ可レ入由談合、
今兩三人申合、北ノ藏ノ下ヲ切破、盜人ニ入候ヲ、慶
長拾七壬子三月廿一日ニ、上生院口賢房法印、無量
壽院長圓房得業、清涼院卿公擬講、內々不思議成寶
物、方々ヨリ出候而、沽却之由、風聞承及、右之日
彼寶藏ヲ相尋見出、得業中評定ヲ成シ、當國守護代ニ

付、大久保石見守之內、鈴木左馬助奈良之代官ニ付而、被レ經二案內一、都之奉行板倉伊賀守へ及二談合一、其時內大臣ハ、駿河國ニ御在國被レ成候、其時分ハ副將軍之位ヲ下リ、大御所ト號ス、驪而注進候而被レ得二御諚一、方々才覺候而、先彼御藏ニ假屋ヲ作、勅使ヲ可二申下一候由用意候而、同年霜月十二日ニ勅使柳原辨殿則四聖坊御下向、奉行者永井彌右衛門殿ト申仁ニテ候、大御所ノ子息惣領將軍ト號ス、今武藏國江戶將軍ニ候、天下御讓ニ付而江戶ヨリ御改候節霜月十三日ニ御藏開畢、三綱正法院少綱快實都維那 然所ニ彼盜人御穿鑿之儀者 假屋被レ成二御立一候付而、大久保石見守殿、下奉行杉田九郎兵衛見分候、慶長拾七壬子閏十月廿一日ニ被レ參候、當寺老若中三藏へ呼寄、假屋躰如二前々一無二相違一哉と被レ尋、其次年ニ福藏院北林院中證院ヲ奈良ノ中坊へ同道候て、其內ニ搦候テ、同廿四日杉田九郎兵衛召シ被二罷上一、京都所司代板倉伊賀守前而、彼盜人共沽却申候賣買之相手、訴

人ニ罷出、及二對決一白狀仕、京都籠ニ閏十月廿四日ヨリ被二召籠一候、十二月廿九日ニ、籠ヨリ出シ、其日伏見迄參、伏見ノ籠へ一夜入、三十日ニ奈良へ曳下、中坊ノ籠仁入、其夜夜半計ニ猿澤ノ池ノハタニ詰籠ヲ作入置候、籠ハ一人ヅヽ仕切ホタ足迄打候而、壬子十二月三十日ヨリ奈良町中ヨリ晝拾人充夜貳拾人ヅヽ、番等相居候、奉行大久保石見守ヨリ三人ヅヽ相添候、然所ニ癸丑卯月廿五日ニ、石見守相果、大御所ヨリ跡々子共迄無レ殘七人成敗候、依レ之奈良中ノ所司代モ相違候而、筒井之當國一國申付、時ノ中坊ト申ハ、衆徒ニ而候、筒井者此八ケ年以前ニ蒙二勘氣一相果候、雖レ然彼御內ノ中坊者無二相違一身上ニヨリ、本知トテ、中坊ニ奈良ヲ被二仰付一候、依レ之彼福藏院北林院學順ト申候而、此學順者、右ノ賣物ノ相使ヲ仕タル依レ科同罪ニ籠者候テ、甲寅二月十七日ニ籠ヨリ曳出シ、奈良坂ノ北高座ニテ、ハタ物ニ上ゲ候而成敗畢、中證院者籠朽ニ而丑ノ年之卯月初ニ

相果畢・只今成敗者三人也、彼福藏院者、東大寺衆徒ノ戌亥大夫ト申人之子也、北林院者春日社家ノ中西ト申人之子也、中證院者白土ノ腹、父者楢原之同名衆人子也、學順者中證院妹聟也、在所者山城國東小田原之新四郎ト申者ノ子也、山城大和之境目之平野ノ茶屋ガ子也　抑彼三人之有様、上古モ末代モ不ニ聞及一次第也、東大寺僧成敗モ今初也、是程之曲事重罪人モ初也、聖武天皇以來、代々室町殿コソ、香ヲ御切候、亦御道具ヲ拜見ナド、申コトコソアレ、タメシナキコトゾ、前代未聞、舊記ニ難レ載次第也、中證院跡式者、無量壽院長圓得業江、北林院者、清冷院卿公權律師江・大御所ヨリ被ニ仰付一福藏院者、惣寺ノ集會所ニ成ル、念佛堂モ福藏院支配故、闕所ト成テ下拾五日者寺ヘ渡ル、是ハ彼福藏院ノ式部卿山上ノ孫成故ニ讓得タルヲ、今跡式闕所ニ成故ニ、寺ヘ上ル、山上ノ妃ノ子也、念佛堂之儀者、東南院門跡江可レ渡儀、尤可レ爲ニ本儀一歟、然ヲ闕所タル故ニ寺ヘ、

慶長拾九甲寅二月拾七日ニ書注

正倉院御開封記草書 元祿六癸酉五月十六日

執行藥師坊祐想

一、今年三倉御開封之故者、寛文六丙午年四月三日御開封以來至ニ今年一迄凡年暦廿八年、故御倉及ニ破損一之旨、從ニ寺務宮ハ以ニ南曹辨一被レ經ニ奏聞ハ則爲レ被レ加ニ御修理一　勅使申下、御開封之儀式被レ行、于レ時元祿六癸酉龍集五月十四日也、專寺末寺衆僧三綱諸役人等、於ニ金珠院一集會、三倉邊出仕儀式習禮畢、　十三日寺務宮二品濟深法親王幷撿使從五位下神尾飛驒守藤原元知朝臣下向、　十四日　勅使日野藏人右少辨正五位下藤原有富朝臣下向、十六日辰鐘於ニ金珠院一專寺末寺衆僧諸役人等集會、　巳一點寺務宮着ニ純色五條島タスキ指貫ハ寺務坊官三綱神主奉幣師正倉院御出座、　同刻御奉行兼撿使神尾飛驒守着ニ大紋ハ供奉行粧、依レ爲レ細略不レ記レ之、出座同時本寺末寺衆僧立列、　移ニ會所坊ハ自ニ藥醫門一正倉院出仕、　次　勅使藏人右少辨正五位下藤原有富朝臣御出座、前供二人帶劒、平禮二人布衣四人左右供奉、御倉於ニ南邊一下レ轅步行、　次寺務使二松式部卿法眼慶隆、着ニ純色鈍白袈裟大紋指貫ハ淨土堂僧順長持ニ鎰箱一前供、　次三綱藥師院執行都維那祐想着ニ去眼平袈裟ハ六堂冠赤衣、小綱法服白裳白ゝ條、大佛師純色白五條、前供、次神主上司民部從五位上紀重延束帶、幣立持、御幣持前供祓莒大麻香爐散米持等供奉、次奉幣師伶人上將監從五位下行狛宿禰近方、束帶、鎭主御幣持散米持前供、　次諸役人等立列、　自ニ藥醫門一正藏院出仕、　去ニ御倉軒一事十間許、　東邊構ニ二間十四間之假屋ハ　勅使寺務撿使奉行執行等着座、　以ニ北之端一爲ニ　勅使御座ハ其次爲ニ寺務之御座ハ其次爲ニ執行座ハ其次爲ニ撿使御奉行座ハ當ニ于御倉艮ハ南向構ニ二間五間之假屋ハ本寺末寺衆僧褁頭立列、平公人三役承仕等付ニ左右一供奉、　則衆僧假屋前四方薄端二枚設レ之、三役承仕坐ニ東方ハ白衣公人床木居相方南向、　次大佛師小綱六堂等者、　三綱供奉假屋前以レ中爲ニ上座ハ于ニ左右一相分、各次第床木居雙、　方ニ西向中御倉東軒ハ北方

疊一帖設之、神主東首着座、同南方疊一帖設之、奉幣師東首着座、其前薄端四枚于左右敷之、北方御幣役人（禰宜）居于其後邊、大麻持居于南方、幣立役人（禰宜）居于其後邊、祓箱持居、同南方疊一帖設之、奉幣師東首着座、其前薄端四枚敷之、北方前米持（寺侍）坐于其後邊、供奉之布衣坐南方、鎮守御幣持（寺侍）坐于其後邊、供奉布衣坐御倉巽角、撿使假屋當于南方構二間五間之假屋、番匠鍛冶等坐之、御倉去軒事二軒許、南構二間五間之假屋、與力同心爲番所晝夜守之也、上件各座席究后、自寺務御倉鎰被渡勅使、（坊官至勅使御座渡之而退）次三綱勅使至假屋受取鎰莒、皈坐、（六堂二﨟持之、小綱等供奉、）次番匠起座至于御倉、自中倉始南北之放横木、次神主起座登階於假縁上祓作法修之、次奉幣仕起座、中御倉於階之下、奉幣作法修之、次六堂一﨟起座、至三綱假屋縁上、于時小綱起座假屋之入內、自三綱請取於折鎰渡之、則一﨟其鎰持兩手進庭上、向八幡宮高指上三拜而

寶倉御戸開キト高聲三度唱之皈座、次三綱起座進中倉、（小綱兩入供奉）切勅封而懷中至北倉、亦切勅封、以兩御封檜扇子戴之、勅使登于假屋入于內蹲踞、然而勅使下御座兩封請之納之請取於兩封以紙包之、有御懷中著本座、于時三綱御前退、至于南倉切御封、於扇子戴之、寺務之至于假屋入內蹲踞、而奉捧御封、假屋皈座、呼小綱令持鎰莒、有暫三綱進于御倉、小綱六堂隨行、（但二﨟持鎰莒）先至中倉、登于階、小綱并六堂一﨟（白杖）、二﨟持鎰八合、左右隨、於假縁一﨟持白杖向東立時、三綱入雲形內合鎰、又以折鎰開御戸、次證明之寺僧、出假屋、登于階、次六堂燈明荒薦等持登階、自御戸口荒薦敷之、六堂一﨟以白杖拂御前、先燈明、次證明、三綱末々六堂左右連入內、小綱自階下如本假屋前皈座、三綱取出寶物、公人荷之、六堂以白杖拂御前至會所坊、黒衣之寺僧兩人奉行之、而次三綱閉封御戸、證明六堂等各皈假屋、次勅

使寺務御奉行移二會所坊一、實物點撿、三綱隨行、次神主奉幣仕、番匠鍛冶悉皈宿、御實物點撿後、如レ本納二辛櫃一、寺務宮御封付レ之、而黑衣寺僧兩人路次奉行供奉、二倉納レ之畢、（依レ爲二倉御修理一假納レ之）、勅使寺務御奉行各々御退出、及二申刻一當日之儀式、凡上件　第二日辰鐘勅使寺務御奉行者、于二於會所坊一御着座、裹頭之寺僧證明三綱番匠鍛冶等、各如二初日一、正倉院出仕、假屋着、番匠鍛冶等着二青襖一、證明寺僧自二今日一改二法服衲衣一被レ用二絹衣一、三綱裝束如二當日一、佛師小綱六堂等供奉同斷也、（但二臈持二錦茵一）、證明三綱六堂登レ階入二御倉中一、三綱寶物取二出之一、一番二黃熟香其外櫃數多出レ之、御倉閉レ戸而三綱假封レ之、各御香供奉、以二白木綿一蓋レ櫃、青襖着荷レ之、至二于會所坊一、勅使寺務御奉行入二御覽一、行列左注レ之、第三日紅沈香出レ之、其儀式如レ昨焉、至二第四日一儀式同斷、三綱改二裝束一着二重衣白五條一、佛師偏衫供奉、小綱六堂等者如二當日一、至二第五日一御倉寶物悉取二出之一、御點撿事終而二倉納レ之、寺務之御封付レ之、午刻各次第退散訖、

御寶物御點撿事

三綱自二御倉一取出所之辛櫃、青襖着荷持レ之、而六堂一臈黑（◎客カ）衣之寺僧于二左右一供奉而至二會所坊一、自二唐戸一入二各殿一、荒薦之上居二置之一、然而三綱于二御倉一刺二假鎖一封レ之、而會所坊行、寺僧中擬講衆兩人與二三綱一取二出之一、勅使寺務撿使一々御點撿目錄寫レ之、公人掃二除之一、而如レ元納レ櫃、以二出世後見寺務之御封一申下令レ付レ之、六堂一臈掛二御前一、黑衣寺僧路次供奉而納二二倉一畢、

二種御香御點撿事

自二御倉一取二出御香辛櫃一、青襖着荷レ之、證明三綱佛師小綱六堂等左右供奉、而至二會所坊一荒薦之上居二置之一、以二出世後見一、自二寺務一櫃之鎰申下而三綱開レ之、御香出取、白木之手レ案敷二白布一、其上拜レ之　勅使寺務撿使御點撿事終、于二次間一居二置之一、諸人成レ群拜レ之也　其日一日者上段置レ之也　勅使寺務撿使等、御休

息之間者、寺僧兩人與二三綱一御香之同間着座而守二護之一訖、御香行列、于二於會所坊一座席等、左記レ之。

假屋之事

勅使寺務撿使三綱等之假屋、南北十四間、東西二間一棟、以二北端二間一爲二勅使御座一敷二高麗疊一、其上小紋端之厚疊一疊設レ之也、其次以二一間三間一爲二寺務御座一敷二高麗端疊一、其上繧繝端之厚疊設レ之、其次以二一間三間一爲二三綱座一、其次以二一間三間一爲二撿使奉行座一、南端以二二間四方一撿使奉行供奉僮僕候但土間設二薄端一也、本寺末寺衆僧裹頭之假屋、南北行二間東西五間也、御倉之南邊二間五間、儲二假屋一爲二與力同心警固之番所一、巽角同設二假屋一而番匠鍛冶等候也、但西方二間四方土間、中御倉東軒階之北之邊、疊一疊設レ之神主座、其前軒外薄端四枚設レ之、御幣大麻被莒散米香爐等之役人爾宜候也、同階之南疊一疊設レ之、奉幣師座、其前軒外薄端四枚設レ之、鎭主之御幣散米等之役人寺侍候也、大佛師小綱六堂公人等者、三綱之假屋之前、左右相分次第用二床木一平公人承仕三役等者、寺僧之假屋之前ニ一列床木居也、

御開封前之事

御開封治定之旨、從二出世御後見一隨二寺務之御下知一、三綱所ヘ御牒被二申送一、其文言、

正倉院御開封、五月十六日令二治定一候、如二先規一諸役人方可レ被二相催一之旨、御寺務宮御氣色之所レ候、恐々謹言、

四月十九日　出世御後見權律師隆慶判

執行大貳都維那御房

上包表ニ　執行　大貳都維那御房　權律師隆慶

ウラニ出世御後見

如レ此認、以二使者一但着二上下一被二申送一者也、返牒之案文

正倉院御開封、五月十六日治定、御寺務宮御氣色之旨得二其意一存候、如二先規一諸役人方可レ致レ營經二下知一候、祐想恐惶謹言、

四月十九日　執行都維那祐想判

出世御後見御房

上包表ニ　出世御後見御房　執行都維那祐想拜請

翌日自ニ執行所一佛師小綱六堂衆中へ、以レ狀催レ之、其案文、

正倉院御開封、五月十六日令ニ治定一候、如ニ先規一各無ニ相違一可レ有ニ出仕一、依而下知如レ件、

四月廿日　執行都維那祐想

大佛師中

小綱　中

大佛殿堂童子中

如レ右三通別紙認、使者遣但上下着、也、返言追而伺公之旨、後刻各來也、平公人大工鍛冶等江ハ、以ニ使者一同上下着、可レ渡レ申旨候、何時ニ可レ被レ成ニ執行所へ一之由申送、各來參之刻、十六日御開封有レ之候、別火精進任ニ先例ニ可レ有ニ出仕一之旨、申付畢、

一、五月十三日自ニ會奉行一、明日御開封習禮有レ之候、諸役人方相催巳鐘集會所江出仕候旨、以ニ小綱一被ニ申送一也、仍而大佛師小綱六堂公人大工鍛冶等江十四日習禮有レ之候、以ニ巳刻前一執行所へ各可レ有ニ來參一旨、以ニ使者一申付畢、

一、十四日巳鐘諸役人召連集會所江出仕、重衣白五條、於ニ金銖院對屋ニ三綱之爲ニ集會所一、行列之次第別記レ之、

一、十五日明日出仕爲ニ供奉一、小綱六堂公人等江以ニ廻章一相觸也、番匠鍛冶等江ハ明辰刻前ニ、集會所江直ニ出仕可レ有レ之旨以レ使申付畢、觸狀案文左注レ之、

大佛師民部老同松之坊　小綱源哲老同玄賀老

六堂中秀行　清貞　行勝　正貞　淸次　淸長

明日卯鐘定於ニ禪花坊邊一、來儀可レ有レ之者也、

五月十五日　執行所

前精進之事

一、自ニ五月九日一於ニ禪慶房一入ニ精進一、早天行水社參遶堂、着ニ重衣白五條一、自ニ正倉院鎮主一始、釋迦八幡二月堂法華堂等也、此間ニ門口幷居間口注連繩引也、但外ニ文字花紙糞、毎日

行水社參同斷、任二古法一當日自二三日前一別火、荒薦等用レ之、境内外禁足、至二三十日一御寶物御點撿事終、其後別火不レ用之也、穢忌如レ常、右之通諸役人可レ致二精進別火一者也、

一、守僧成業夘拾壹人、七ヶ日前精進、內三ヶ日別火也、其外寺僧兩堂末寺等者不レ及二別火一、但下行米不レ淨之故也、

一、勅使寺務撿使等於二會所坊一御休息饗膳、至二供奉侍下人等一迄給レ之、三綱證明幷公人等依レ爲二別火一、皈二于宿坊一中飯也、

一、御閉封治定之旨、從二出世御後見一以レ牒被レ催レ之、

其文言、

來月七日巳時、正倉院御閉封被二仰出一之間、如二先規一諸役人等可レ被二相催一之旨、御寺務宮御氣色所ニ候、恐惶謹言、

七月廿六日　權律師隆慶

執行藥師院御房

上包表　執行藥師院御房　權律師隆慶

ウラニ出世御後見

如レ此認、以二使者一被二申送一者也、返牒案文

來七日巳刻、正藏院御閉封被二仰出一之旨、如二先規之一諸役人方江可レ被レ營經二下知一候、恐惶謹言、

七月廿六日　執行都維那祐想判

出世御後見御房

上包表出世御後見御房　執行都維那祐想拜請

翌日自二執行所一、佛師小綱六堂衆中へ、以レ狀催レ之

其案文、

來月七日巳刻、正藏院御閉封治定候、如二先規一各無二相違一可レ有二出仕一、仍而下知如レ斯、

七月廿七日　執行都維那祐想

大佛師

小綱中

大佛殿堂童子中

右之通認遣二使者一也、平公人大工鍛冶等へハ、御閉封之趣、無二相違一出仕可レ有レ之旨以二使者一渡レ申也、

同年八月七日正倉院御開封

一、八月六日　勅使日野右少辨正五位下藤原有富朝臣御下向、宿坊上生院ヘ未刻御着、同日寺務勸修寺二品法親王濟深御下向、宿坊深井坊申刻着、翌日七日辰鐘本寺末寺之衆僧於ニ金珠院一集會、同刻勅使寺務御奉行、御寶物會所於ニ四聖坊一御着座、證明三綱佛師小綱六堂等者、於ニ會所坊對屋一集會、兩種御香今般從ニ征夷大將軍綱吉公一御寄付之移ニ新櫃一、修覆之御屏風、其外御寶物箱新調有レ之分、寺僧三綱自ニ辛櫃一取出、　勅使寺務御奉行入ニ御覽一、御點撿終テ如レ元納レ之、御香之櫃剌レ錠畢　其後奉行寺務衆僧　勅使寺務之坊官鎰箱役神主奉幣仕番匠鍛冶次第ニ于ニ於正倉院一出仕、各假屋着、次御寶物荷靑襖着、六堂一萵持ニ白杖一御前ニ立、證明兩人三綱佛師小綱六堂公人平公人供奉至ニ御倉一各登レ階、寶物納ニ御倉一也、(行列左注レ之、)佛師者自ニ階下一直ニ三綱假屋前行床木居、寶物御倉ニ納畢、次三綱閉ニ御戸一、證明下レ階、裹頭入ニ假屋一、六堂一萵三四五六萵至ニ三綱假屋前一床木居　平公人者裹頭假屋前床木居、小綱二人六堂二萵者持ニ鎰箱一、三綱ニ隨假縁之上ニ居也、三綱自ニ南倉一始中北倉剌レ錠、小綱二人六堂二萵持ニ鎰箱一供奉寶物入ニ從倉一時、鍛冶起座持ニ錠幷道具等一至ニ階下一、三之錠渡ス、小綱請ニ取之一、三綱ニ進レ之、三綱雲形之入レ内鎖レ錠、畢入ニ假屋一、小綱六堂二萵鍛冶隨レ後各着ニ本座一、次三綱至ニ勅使之假屋一、登レ縁蹲踞而入レ內、于レ時勅使下座自ニ御懷中一御封一包被レ渡レ之、三綱以ニ檜扇子一受レ之、至ニ于中御倉一、雲形入レ內付レ之也、小綱幷六堂持ニ御封之細繩竹皮等一隨行、又至ニ敕使之假屋一、北御倉之受ニ御封一付レ之也、(但作法同レ前、)又至ニ寺務之假屋一、登レ縁蹲踞而入レ內時、寺務自ニ懷中一御封一包取出被レ渡ニ置之一、則以ニ檜扇子一受レ之、至ニ南倉一付レ之、皈ニ假屋一也、但寺務不ニ出仕一之時、出世後見爲ニ御名代一、寺務之於ニ假屋一着座、被レ出ニ御封一、然時者、遣ニ小綱一而請ニ御封一、三綱付レ之、依レ去以ニ南之倉一號ニ綱封倉一也、又寺務未補之時者、三綱之封付

レ之者也、次大工起座、三ノ之倉入二横木一也、但御封爲レ介レ无二聊爾一小綱一人付二置御倉一也、次三綱但小綱一人六堂（二藤持二鎰箱一供奉）、次神主起座至二勅使假屋一、上レ緣入レ內鎰莒之解レ包、開レ蓋入二御覽一、如レ元包レ之、置二勅使座左一皈二假屋一、次寺務之坊官起座、至二勅使假屋一請二取鎰莒一、皈二于假屋一置二寺務座左一也、次神主起座至二中御倉一二拜登レ階、於二假緣上一向二御戶口一祓修レ之畢、指二幣横木一皈座、北南御倉同斷。次伶人中御倉之階下於二荒薦上一奉幣、又於二鎭主前一奉幣、畢皈座、作法如二開封時一也、次勅使寺務奉行裹頭三綱神主伶人番匠鍛冶等次第還レ列、勅使寺務奉行者、於二會所坊一御休息、饗膳等有レ之、余者直皈二宿所一也、

一、同年七月至二中旬一、三倉御修理幷鴨毛之屛風修覆等悉出來也、依レ之八月七日ニ御閉封可レ被二執行一之旨、於二寺門一披露、八月六日勅使日野右少辨藤原有富朝臣御下向、未刻於二宿坊上生院一御着、同寺務二品法親王濟深御下向、申刻於二宿坊深井坊一御着、翌日七日辰

鐘本寺末寺之寺衆僧、寺務之坊官神主伶人、其外諸役者、各於二金珠院一集會、以下前文八月六日勅使日野右少辨正五位藤原有富朝臣云々トアル文ニ同シ、

但シ別本ニハ八月六日云々ノ條ナシ、按ズルニ原稿ト修正セシ記錄ナド、兩樣ノ間ニ於テ此等差アルナラン、今ハ略ス、

下行米之事

一寺僧成業分拾壹人、米三拾三石（但一口別三石充、人數時隨不レ同、）

一三綱一口、精進料拾石、訪分拾石、合米貳拾石、

但惣園假屋以下雜具等悉拜二受之一、

一執筆一口、訪分米三石、（御寶物目錄記之役也、）

一神主一口、裝束精進料、合米五石、

一奉幣仕一口、勘辰料七石、啓白料三石、鎭主御供料三石、精進料七石、裝束料五石、都合貳拾五石、

一大佛師二口、精進料幷扶助分（一口五石充、）合拾石、

一小綱二口、精進料幷扶助分（一口別三石充）合六石、

一六堂公人六石精進幷裝束料（一口別三石充、）合拾八石、

一平公人十口、精進料（一口別二石充）合貳拾石、裝束料一口別銀子一枚充 合白銀拾枚、

一番匠三口、精進幷裝束料（一口別五石充）合拾五石、

一鍛冶一口 精進并装束料合五石、錠調進料九石、但錠一代三石充也、錠三ヶ代合九石也、
右之通下行米從ニ大樹公一被レ充ニ行之一、則時之代官竹村八郎兵衛ヨリ被レ渡レ之、四聖坊請取配ニ分之一也、惣圍假屋以下至ニ莚薦等之雜具一迄、一々從ニ關東一御沙汰也、粗左注レ之、
一細引五筋 一白木綿櫃之蓋拾五 一櫃雨蓋拾五、
一同荷棒拾五本 一縵幕但於ニ會所一坊一用レ之、二張 一白幕於ニ同所一用レ之、二張 一白床木三脚但御倉錠開時、又御封切時用レ之、
右此分者御用ニ相立、閉封之時御倉へ納レ之者也、
一燈油五升 一雜巾布五端 一藁箒六本
一手箒四ッ 一油筒二ッ 一火打箱 一ッ
一荒繩 入次第
右此分者自ニ前方一三綱所へ受ニ取之一置、御倉之御用ニ遣レ之、御用以後相殘分者三綱所へ納レ之者也、但公儀之帳面ニ、此分者遣捨ト注レ之也、

一細緒繩六筋 一竹皮一把 右者御封之用也、
一手桶并杓三本三ッ、是者御倉階下ニ一ッ充置レ之、手水桶也、 一盞 水桶并杓二本二ッ是者御倉之内之用、 一手行燈燈明用五ッ 一箕御倉内掃除用、三丁 一傘并袋、御香御拾出之時用、一本 一丹波表御倉内之用、四枚
一豐嶋莚御倉内之用、十五枚 一荒薦五拾壹枚
此分御用以後執行所江被レ下者也、
御閉封以後、執行拜領之分一々以ニ書立手形一、會所四聖坊江差ニ出案文一、

三倉御開封拜受之覺

一米貳拾石此代銀九百二拾目 一御倉錠前古鞘木 三口分
一同所緣板付欄干之道具三通 一同所假錠 三
一同所古錠 三 一同所雲形 三鈞
一惣圍之竹垣 一假屋但二間ニ十四間 一軒
一同但二間ニ五間 三軒 一假屋之疊 六拾八帖
一同薄端 十五枚 一同簾 十二間
一番所 貳軒 一雪隱 八軒
一御寶物之傘付袋一本 一薦 五十一枚

一莚　百六十一枚　一豊島莚　十五枚
一丹波表　四枚　一行燈　五ツ
一手桶付杓五本　五ツ　一箕　三丁

右之通、如ニ先規ニ不レ殘拜受仕候、以上、

元祿六癸酉年八月十二日　執行藥師院　都維那祐想印判

御寶物會所四聖坊

右之通相認、八月十二日御寶物會所四聖坊ヘ持參畢、

一五月廿日、御寶物共悉取出、御點撿等終而後、以ニ人步一令ニ御倉內掃除一畢、御修理之事者、當國御代官竹村八郎兵衛殿江被ニ仰付一、則同廿七日御倉御見分有レ之畢、鴨毛屏風御修覆之事、從ニ寺務宮一御願有レ之故、從ニ公方家一御寄付可レ有レ之旨、六月四日御奉行神尾飛驒守殿江、寺務宮御家人山口內匠出世御後見年預五師等三人被ニ呼寄一、被ニ申渡一者也、依レ之京都大經師內匠被ニ召下一、於ニ金珠院一御修覆有レ之也、每日寺僧面々替々相詰、從ニ公儀一以ニ與力一人一充被ニ見廻一者也、觀音之屏風繪屏風等、以上廿七枚修覆有レ之、此內十八枚者、從ニ公儀一出來、九枚者從ニ寺中一修覆有レ之者也、兩種御香之櫃、其外小道具之箱等、今度新調有レ之、悉從ニ公方家一御寄付也、

一建久四年北中之御倉破損之時、開ニ綱封倉一移ニ置寶物一也、其後寬喜二年、北ノ勅封倉、南之綱封倉破損之時、開ニ中之勅封倉一移ニ置兩方之寶物一者也、又至ニ近代一慶長八年癸卯二月廿五日開封、從ニ內大臣家康公一被レ加ニ御修理一之時、以ニ油倉之二倉一、准ニ綱封倉之一被レ移レ之、本田上野守大久保石見守爲ニ奉行一云々、准ニ此例一今度御修理之間、三倉之寶物悉被レ移ニ之于二倉一者也、往古者此倉南北中乍レ三勅封也、綱封倉顚倒破脚之後、南倉之寶物移ニ之于北中南倉一、而以ニ南倉一爲ニ綱封倉一、仍非ニ勅封一寺務之爲ニ御封一云々、

一御屏風之御修覆、新調之箱等出來之間、六月廿八日御修覆所於二金珠院一御奉行神尾飛騨守殿御見分有レ之、其後于二二倉一假被レ納二置之一、七月八日九日寺務之御家八岡本土佐守寺僧三綱小綱公人等出二合於二二倉一今度箱新調有レ之候、寳物共入替合紋等付替、南北中三ケ所分仕分置也、其後御倉御修理悉出來故、八月七日御閉封可レ有レ之旨相究、仍八月朔日御寳物共、悉從二二倉一被レ納レ移二于正倉院一、剌二於假鎖一寺務之御封付二置之一也、寺僧三綱寺務之御家人岡本土佐守小綱公人等出、與力一人橋本權兵衛同心四人從二御奉行所一被レ出レ之、三倉邊警固有レ之畢、至二七日一御閉封之朝、卯刻證明寺僧兩人出世御後見年預三綱等公人召連先出二三倉一寺務之御封切開、南之御倉二種之御香、御修覆之御屏風、其外今度箱新調之御寳物取二出之一、於二會所坊一、勅使寺務宮御奉行等入二御覽一、二種之御香今度新調之櫃ニ入替、寺務ノ御封付レ之畢、事終而退、各裝束相調也、衆僧諸役人等、於二金珠院一集會、巳刻勅使寺務宮專寺末寺衆僧諸役者等于二正倉院一出仕、次二種之御香、其外寳物櫃等、證明寺僧兩人三綱大佛師小綱公人等供奉而出、從二會所坊藥醫門一奉二納于御倉一、三綱閉二御戸一剌二於鎖一訖而、于二假屋一着座、其次第委別書記畢、御修覆之御屏風者、先寺中于二寳倉一被二出置一、又重而御開封之時、奉納可レ然旨言上有レ之、而寺中寳倉ニ被二移置一者也、儀式事畢而還レ烈、其後改二裝束一着二素絹一、勅使寺務宮等ヘ伺公、御祝言申上畢、次年預四聖坊會奉行金珠院地藏院兩人等立合、三倉惣園假屋等被二引渡一故請取畢、仍夜番等從二此方一置レ之也、翌八日御奉行神尾飛騨守殿江參上御閉封首尾能相濟珍重之旨、爲二御祝儀一御菓子一臺持參畢、御寺務宮御宿坊ヘ相詰、御祝儀等拜領申畢、勅使今朝御發駕也、九日寺務宮還御故、御輿之供奉ニ而一坂迄御見送申歸畢、一乘院宮江御使者被二仰付一故、

相勤也、十日上京御寺務宮江爲二御祝一伺公、白布獻上畢、

一三倉假屋圍等、從二去八日一コボチ、跡掃除等申付、十二日御下行米假屋圍、其外雜具等悉如二先規一拜領仕候旨、目錄請取相認、御寶物會所四聖坊へ遣、翌十三日御奉行所神尾飛驒守殿江參上、今度御下行物假屋圍等、如二先規一悉拜領仕忝旨、御禮申入畢、

御開封儀式次第之事

一元祿六癸酉五月十四日巳鐘、於二正倉院一儀式習禮有レ之、（於二金珠院一各集會、寺僧三綱等者二重衣白五條、寺務之坊官鳥緞神主伶人狩衣、其外諸役人裝束略式、）同十六日辰鐘於二金珠院一、專寺末寺衆僧寺務之坊官三綱神主伶人諸役人等各集會、同巳鐘撿使奉行於二假屋一御出座、（後二早天一與力一同心警固、）同刻寺務於二假屋一御出座、（御裝束着二純色五條鳥襷指貫一、繧繝端重疊設レ之、其上數二茵蓐一、供奉之坊官、諸大夫等御座後邊候、）同刻學侶兩堂末寺等衆僧出仕、承仕三役公人等行列、（於二北方假屋一出仕、裹頭立列、西首前例學侶、次兩堂末寺次第立列、僮僕後邊居、承仕三役公人等、裹頭之前居二于床木一、）

一勅使於二假屋一御着座、（大紋端重疊設レ之、供奉官人從二後戸一入二御座之後邊一候、）次鎰箱役寺務坊官出仕、（着二重衣一、淨土堂僧持二於鎰箱一先行也、坊官登二假屋緣一、取二鎰箱一而入レ內、御座左置レ之、退而後邊候、裝束着二純色紋白五條大紋指貫等一、）次三綱於二假屋一出仕、（六堂小綱大佛師前供、三綱着座之後、小綱取二於水瓶一座左置レ之、佛師小綱六堂等者、各左右相分居二于床木一、以レ中爲二上首一、行列位服等別注レ之也、）次神主出仕、（中御倉東軒北方疊一帖設レ之、向レ東着座、其前左右薄端四枚敷レ之、左方禰宜持二白幣一座、其後持二大麻一坐、右方禰宜持二青白幣一立レ坐、其後同持二祓箱一坐、）次奉幣仕出仕、（中御倉東軒南方疊一帖設レ之、向レ東着座、其前左右薄端四枚敷レ之、左方褐衣寺侍持二散米一坐、後方布衣侍座、右方褐衣寺侍持二鎮主御幣一坐、後方布衣侍坐、御幣者御祓而從二神主一被レ渡レ之、鎮守御幣也、）次番匠着二於假屋一、（但令レ持二道具箱一也、）次鍛冶着二於假屋一、（但令レ持二道具箱一也、）

儀式

一從二寺務一御倉鎰被レ渡二于勅使一、（淨土堂僧二令レ持二鎰箱一、坊官至二勅使假屋一、登レ緣取二鎰箱一入レ內、蹲踞而解レ包、開レ蓋入二於御覽一、御座左置レ之歸座、）次三綱至二勅使假屋一請二取於鎰箱一、（但小綱一人、六堂二臈一人召具、至二勅使假屋一登レ緣蹲踞而入レ內、解二鎰箱包一開レ蓋改レ之、如レ元包レ之持退、從二緣上一渡二小綱一、小綱請二取之一渡二六堂一、二綱於二假屋一皈座之後、小綱取レ之置二座右一也、）次番匠起座、至二于御倉一放二於横木一、（但先至二中御倉前一、三拜而登レ階放レ之、御封不レ解儀二可レ爲二用捨一者也、北南御倉同斷、）次神主起座被レ修レ之。（但至二中御倉一時、布衣侍幣立祓箱香爐散米等假

縁上置レ之退、然而神主一拜而登二假縁上一被修レ之、北南御倉同斷、　次伶人奉幣、但褐衣寺侍起座、至二于中御倉階前一、莚薦之上跪置二散米一、則伶人起座進二階下莚薦上一時、褐衣寺侍至二神主前一、神人白幣請二取之一、至二伶人之前一渡レ之、伶人取レ幣向二御倉一奉幣、終而褐衣又取レ幣登レ階、立二置於御戶口一、伶人又至二鎭守前莚薦上一、褐衣寺侍取二白幣一渡レ之、伶人取レ之奉幣、終而褐衣亦取レ幣、社前立二置之一、而後伶人皈座也、褐衣亦登二御倉一取二於彼幣一、如レ元神人渡レ之也、次鎭守之前之取二於白幣一退、如レ元伶人之前座也、

次六堂一﨟至二三綱假屋一、請二取於鎰一、但小綱登二三綱假屋一、開二鎰箱蓋一折鎰取出渡レ之、一﨟登レ縁蹲踞而請二取之一進也、　次一﨟寶倉御戶開ト三聲唱レ之、但三綱假屋之前四五間西方、至二中之大道一持二於鎰兩手一、向二八幡宮方一三拜而高指上、高聲三度唱レ之也、而後三綱之假屋來、鎰渡二小綱一、小綱請二取之一、至二三綱前一、如レ元納レ箱退也、　次三綱切二於　勅封幷寺務封一、入二于御覽一、先呼二小綱一以二瓶水一洗レ手、召二具小綱二人一、進二御倉一、小綱擧二雲形一入二三綱內一也、先中御倉切二於勅封一納二懷中一、又至二北御倉一切二於勅封一、以二兩封一於二扇子一載レ之、至二勅使假屋一、登レ椽蹲踞而入レ內奉二御封一、于レ時勅使下座令レ請二取於兩封一、以レ紙包レ之有二御懷中一也、三綱御前退、又至二南御倉一切二寺務之御封一、檜扇子載レ之至二寺務假屋一入レ內、謹而奉レ渡二御封一而後皈二於假屋一、暫休息、此間可レ用二事調一也、

開戶儀式

一三綱合レ鎰、先呼二小綱一、以二瓶水一洗レ手、出二於假屋一、至二中御倉一、六堂小綱前供、一﨟持二白杖一、二﨟持二﨟箱一、三﨟四﨟持二燈明一、五﨟六﨟持レ薦、三綱登レ階入二雲形內一時、小綱二人六堂一﨟二﨟登レ階、一﨟持二白杖一向二東椽上一立、小綱取レ鎰進二三綱一、則三綱合レ鎰也、但鎰治番匠見二三綱起座一、各持二道具箱一進二階下一、若不レ開時呼二鍛冶一、爲レ令レ放レ之也、

一次三綱以二折鎰一擧レ樞開レ戶、三﨟以下之六堂持二燈明莚薦木一登レ階也、各入內事證明寺僧來待合也、小綱者皈二本座一床木居、

一次學侶一﨟二﨟出二證明一、但自二褁頭之假屋一召二具從僧一人、小結一人一、至二中御倉一登レ階、于レ時六堂自二御戶口一莚薦敷掛、一﨟持二白杖一控二御前一、先燈明次證明、三綱六堂左右隨入內也、證明之寺僧內見畢、又出二外椽上一左右合面居二床木一、從僧小結等階之後邊候、寶物出時下レ階皈二假屋一也、寺僧入二倉內一事、近來雖レ無レ之、今度寶物依二寺務之仰一、證明兩人者可レ入レ內之條、相定畢、

一次三綱出二寶物一、但兼日寺務之得二御意一以二目錄一取二出之一、

一次公人荷二寶物一運二會所坊一、但六堂一﨟持二白杖一扣二御前一、學侶成業已上兩人充、左右隨守二護之一、從二第二日一中間者褁頭之內、下﨟分兩人充供奉、學侶耳也、出二寶物一時、於二雲形內一、以二白木綿一蓋レ櫃可レ出レ之也、古來公人雖レ運レ之、近代公人與レ人故、庄下百姓着二青襖一令レ運レ之、自レ元六堂平公人等供奉、

一次三綱閉二御戶一刺二假錠一、但私之封付レ之、二﨟令レ持レ鎰皈二假屋一、假錠者自二鍛冶一調進也、

一次還列、勅使寺務撿使奉行三綱等移二會所坊一、三綱寶物取出御點撿有レ之、神主伶人番匠鍛冶等直退散、寶物點撿之事別記レ之、

御閉封儀式次第之事

一同年八月七日、辰鐘專寺末寺衆僧坊官神主伶人諸

役人等於二金珠院一集會、

一同刻證明三綱佛師小綱六堂等於二會所坊一集會也、會所者、四聖坊也、以二對屋一爲二三綱集會所一也、

一同刻勅使寺務奉行於二會所坊一御着座、但兩種之御香移二新調櫃一、御修覆之屛風、其外御寶物箱新調之分、一々御點撿畢、付早天與力同心警固、

一同巳鐘奉行於二假屋一御出座、

一次寺務於二假屋一御出座、但御裝束行列等如二開封一、

一次學侶兩堂末寺於二假屋一出仕、裹頭立列、公人承仕三役等前供行列如二初日一、

一次勅使於二假屋一御出座、但御裝束行列等如二開封時一、

一次鎰箱役寺務坊官出仕、但淨土堂僧持二鎰箱一前供、裝束行列等如二開封時一、

一次神主奉幣 仕番匠 鍛冶等出仕、裝束行列等如二開封時一、

一次御寶物納二於御倉一、但勅使寺務奉行衆僧諸役人等、各假屋着座、終而後御寶物移二御倉一也、御寶物之櫃、青襖着令レ荷レ之、六堂一﨟持二白杖一、佛二御前一、證明三綱佛師小綱六堂公人平公人等 左右供奉而至二于御倉一、三綱開二御戸一、入內、奉レ納二御寶物一、閉二御戸一也、而後證明下レ階入、裹頭假屋六堂同下レ階、至二三綱假屋前一床木居、平公人者、裹頭假屋前床木居也、佛師者依二御倉用事一□□從二堂下一直至二三綱假屋前一床木居也、小綱二人、鎰箱持六堂者、三綱隨二其儀一、階之上居也、寶物之行列前記レ之、

一次三綱刺レ鎖、開二御戸一時、鍛冶起座、持レ鎖、幷道具箱階下來渡レ鎖、小綱請二取之一、三綱於二雲形之內一刺レ鎖而假屋皈也、

一次三綱至二勅使之假屋一、請二取御封一付レ之、先呼二小綱一、以二瓶水一洗レ手、六堂持封レ之、緖繩竹皮等隨行、三綱起座、至二勅使假屋一登レ椽入內、蹲跪、于レ時勅使下レ座、自二懷中一御封取出、被レ渡レ之、則三綱以二檜扇子一受レ之、御前退、至二中之御倉一、入二雲形內一、以二緖繩一搭レ鎖之、雙方ユ眞中ニテ結下、御封三ニ折、彼緖目ニ卷、其上以二細糸一卷、亦以二竹皮一包レ之、以レ糸其上卷也、但開封之時、能々可二見置一之也、中御倉附二御封一畢、又至二勅使假屋一、如レ前請二取御封一、至二北御倉一附レ之也、附終而又至二寺務之假屋一、從レ椽入內、于レ時寺務自二懷中一御封一包取出、直三綱ニ被レ渡レ之、則以二檜扇一受レ之、而御前退、至二南御倉一附レ之也、附樣勅使同樣、而後假屋歸座、但寺務御出座無レ之時ハ、爲二御名代一出世役見寺務之假屋着座、而被二御封出一者也、然時先以二小綱一請二取之一者也、

一次番匠起座入二於横木一、先中之御倉入二於横木一、次北御倉、次南御倉、如レ斯次第入レ之也、但小綱一人椽之上ニ付二置之一、爲レ令レ無二御封聊爾一也、

一次三綱至二勅使假屋一渡二鎰箱一、但小綱一人、六堂二﨟持二鎰箱一供奉、三綱至二勅使假屋一登レ椽時、小綱鎰箱進、三綱取レ之入レ內跪、於二勅使御前一鎰箱解レ包開レ蓋令二御覽一、如レ初包レ之御座之左方置レ之、退出假屋皈座、

一次寺務之坊官至二勅使假屋一、請二取鎰箱一、但假屋之入內跪、於二勅使御前一、鎰箱之解レ包開レ蓋改レ之、亦如レ初包レ之、御前退、自二椽上一鎰箱ヲ渡二淨土堂僧一皈、寺務之假屋御座ニ左置レ之也、

一次神主淸秡、但起座至二中御倉一、一拜而登階、於二椽上一向二戸口一祓修レ之、而幣指二横木一、下レ階皈座、北南御倉同斷、

一次伶人奉幣、但御倉階下於二茣蓙上一奉幣、又於二鎮守御前一奉幣畢、而皈座 作法如二開封時一也、

一次勅使寺務奉行裹頭三綱神主伶人諸役人諸役等、

各次第ニ退散也、

還列之次第

裹頭之寺僧、次勅使、次寺務、次三綱、次神主、次伶人、
次番匠、次鍛冶、次奉行、撿使等也、

御寶物之行列

白杖御前赤衣公人同小綱大佛師 赤衣公人同小綱大佛師 學侶一﨟從僧小結 同二﨟從僧小結

三綱小結青襖 鎰箱持赤衣公人 水瓶角盥力者 白衣公人同同 寶物辛櫃 白衣公人同同

傘持 寶物辛櫃 白衣公人同 白衣公人同

右正倉院御開封之記一卷者、近世雖レ爲二邂逅之儀一、予幸而遇レ時預二其事一、其儀式逐一無二錯亂一相勤事已畢、仍暇日書二其次第一、以互多所二記錄一也、唯聊備二後胤之龜鏡之千一一云爾、

于時元祿六癸酉八月日　執行大貳都維那祐想

東大寺正倉院開封記

元祿六年癸酉五月十六日、正倉院御開封儀式、
十四日午刻、儀式之習禮、
十六日辰刻、本寺末寺之衆僧役人集會、同日與力同心幷警固等來ル、同日巳刻寺務御出座、同巳時御奉行御出座、

行列

巳刻、本寺末寺衆僧納衆申ニ裹頭一出仕、諸役人隨從、次勅使御出仕、次鎰箱ノ役出仕、寺務之坊官勤レ之、次三綱出仕、神主出仕、次奉幣使出仕、次番匠鍛冶出仕、

儀式

從二寺務一御倉鎰被レ渡二勅使一、次三綱至二勅使假屋一鎰箱請二取之一、次番匠倉ノ放二横木一、次神主三倉前ニ行着、祓之作法、次有二奉幣使作法一、次ニ六堂一﨟々々立テ辰巳ノ方ニ向テ、鎰ヲ指上テ寶倉ノ御戸開ト三反云

畢、次三綱切ニ勅封弁寺務封一入ニ御覽一、次三綱合レ鎰、亦以ニ折鎰一開ニ御戶一、次六堂三﨟四﨟階ノ北南兩方ヨリ一度ニ登ル、其後一﨟梅ノスワイニテ答有テ、燈明御倉ヘ入ル丶、次六堂ニ人立テ薦ヲ寶倉之口ヘ敷掛ル、次學侶一﨟二﨟證明ニ出ツ、次三綱弁公人出御、實物渡ニ直垂着一、直垂着荷ニ御寶物一至ニ會所坊一、次三綱閉ニ御戶一、歸ニ假屋一、次寺務勅使御奉行移ニ會所坊一、御寶物取揃役、

見性院　賢性
清涼院　興海

中御倉下之壇

初日十六日

御長持一荷、內ニ屛風一雙　鴨毛屛風一雙 但十二枚、長サ五尺三分、横一尺九寸五分一雙、高サ八寸竹ブチニテ丸ビヤウナリ、

四十一合文長持壹荷之內

御茵蓐二荷　襪子壹荷　五色玉 百五十、但指渡五寸五分之挽物ニ入ル、

孫手壹ケ 但長二尺、横二寸、厚二寸、　箱二ケ 指渡一尺三寸四方、高一尺五分、

但蓋無レ之、

丸臺壹ケ 裏ニ吉祥堂ト書付有レ之、指渡一尺五寸、高サ三寸二分足共ニ、

四角臺貳ケ 內壹ニ千手堂ト書付有レ之、但足無レ之、　打鋪貳ケ

籠柳壹ケ 壹尺二寸四方　御衣裳壹ケ

南御倉下之壇

第二日十七日

御長持八荷　二合文長持壹荷內

㊂新合文 黃熟香 長五尺壹寸、小切壹長壹尺、本口周リ三尺九寸　本口指渡三寸五分、本口指渡一尺四寸、末ノ股一尺五分、末口廻リ壹尺五寸、中廻リ二尺七寸三分、末口指渡七寸、惣重目三貫五百目、御幣在レ之、

二合文長持壹荷之內

唐木之御弓立壹個 長四尺壹寸、但下ゟ一尺一寸、上ニ横木アリ、長八寸、

東大寺子日鋤 天平寶字二年正月ト書付在レ之、

鹿角一本 但十六股　御弓一張 長五尺四寸、絃打テ在レ之、但人形之繪アリ、

御杖二本 長五尺三寸、本ニテ廻リ七分、但皮ツキ、　啄木之緒二筋 長サ

瓔珞玉ノ切アリ

よ合文長持壹荷之內

御沓五足内一足地猩々皮ニテ、残四足ハ錦ニテ、　白毛氈一枚長八尺二寸、横四尺一寸、
屏風挾金物七十二本小蝶華耕アリ、　御琵琶一面
馬瑙石盤壹ケ但唐獅子讃アリ、　御脇息壹ケ
金紫銅華入壹ケ　象牙之尺壹本
投壺ノ矢七本但矢ノ根チレ十五六本アリ、　巻經四巻
匙子二本　御脇息壹ケ但足一ツ無レ之、
鳳凰金物壹ケ　鹽硝壹壺
ハ合文長持壹荷之内
鏡二面内圓鏡一面、裏ニ十二支有レ之、指渡二尺、
銀ノ鍋釣アリ壹ケ　指渡一尺六寸、高サ八寸、
唐銅ノ鉢壹ケ　指渡一尺一寸、高サ六寸、重目五斤四兩ト書付アリ、
す合文長持壹荷之内長持書付、新調年號慶長、
御太刀四十二振内鎗三本、但箱入、　御琵琶一面但甲計アリ、
簫壹ケ　板佛貳ケ
ニ合文長持壹荷之内
籠柳ノ蓋壹ケ但四角　塗物ノ蓋壹ケ但六角
臺ノ底足緣取壹ケ　下鞘七腰、黒塗小箱入、但木札アリ、長一寸横六分橋夫

入捧物ト書付アリ、
漢竹之笛壹管　象牙尺壹本
簫　壹ケ東大寺ト書付アリ、此外小道具共有レ之
笛二管　小枝笛一管長一尺三寸、本口八分、末口七分、枝二寸八分、但枝三本アリ
青石ノ龜造物壹ケ凡四寸計、石笛一管但彫物アリ、
染象牙ノ尺一本　瑪瑙ノ杯一口回リ九寸五分、重サ十兩三分ト書付、
瑪瑙ノ皿但龜ノ甲ノ形長六寸、横五寸、壹ケ　．尺八壹ケ
菊香盃壹ケ指渡一尺、横五寸裏ニ戒壇トアリ、　虹龍壹ケ但干物
如意壹ケ色々彫物アリ、七寶ヲ以造レ之、
籠柳壹ケ内絹切色々アリ同幹下鞘七寶ノ小玉アリ、
ゝ合文長持壹荷之内
瓔珞之吹玉三斗程有リ、
わ合文長持壹荷之内
籠柳三ツ但指渡一尺一寸、内一ニ甘草卅本餘アリ、色黒、
象牙之札壹ケ　所長サ五寸九分、横二寸、厚四分、
仁王會獻舍那同銘文、佛餞香壹材、裏ニ天平勝寶五年歳次癸巳三月廿九日
如意壹ケ　箱ノ蓋壹ケ長一尺五寸、横九寸、深一寸六分但赤旃檀、

御鏡壹面指渡六寸、外ニ家有レ之但八花形、
唐銅盃壹ケ　指渡二尺、但馬ノ菲紋有レ之、
細籠文夾壹ケ　長二尺一寸、横一尺三寸、高一尺一寸、
象牙尺ノ類壹ケ　長一尺、横一寸二分、銘文アリ、
平城宮御宇中太上天皇恒持心經裏ニ天平勝寶五年歳次癸巳二月廿九日、
籠栁壹ケ内聖武天皇御書、獻香不レ知ト書付アリ、其外小道具共アリ、
唐銅御器　九十具　但入子四ツトニツ、
銀壺水鉢二ケ　廻リ六尺五寸、高一尺三寸、口廣一尺四寸、但唐草謡アリ、内ニカ子輪臺アリ、
裏銘ニ大寺ト壺臺重目十二斤牛ト彫付アリ、
銀鉢二ケ内一ツ足無レ之、但八華形、

第三日十八日

御長持三十荷　長持壹荷之内新調

大紅沈長三尺四寸、本口指渡九寸五分、末口指渡九寸五分、眞中丸ミ三尺二寸十分、切欠迄二尺四寸二分、
惣重目四貫七百五十匁、但小切三ツ共、小切壹ツ六寸二分、同九寸一分但シラタ、同一尺五寸五分、

ひ合文長持壹荷之内

黑塗酒器貳ケ長三尺六寸五分、本口一尺一寸、本口指渡一尺一寸、横八寸、
繪唐紙二卷　小唐紙一卷
黑塗小箱五ツ但硯箱也、但装唐櫃巾二尺五寸、高二尺壹寸、長三尺五寸、

い合文長持壹荷之内

御鞍鐙四口分但皆具、何モ白木ノ鞍ホ子、
長持壹荷之内新調
五色唐紙等筥十九卷　御經軸一函

㊁新合文長持一荷之内

御鞍二口皆具　馬絹七ツ　押懸二掛
轡二口

つ合文長持壹荷之内

藥栖羌花ト有レ之、

き合文長持壹荷之内

金物燒物壺類四ツ　出物一ケ内ニ水精玉アリ、
金子ノ花入壹ケ　彫透大香爐蓋壹ケ

け合文長持壹荷之内新調

琴一張　簫一管　黑塗明文夾壹ケ
箱一荷但瑋水精玉アリ、　琵琶甲二ケ
御杖但琥珀一本長三尺九寸五分、櫟八ツ、　八華形箱ノミ

一ケ　壺一ケ

ふ合文長持壹荷之内新調

御鞍鐙二口皆具　障泥四掛

馬氈二ツ　轡二口

⊜合文長持壹荷之内

面十内壹ツ及ニ破損ハ　壺壹ケ但阿蘭陀燒

㊆合文長持壹荷之内

面十二内獅子首有レ之、　板佛二枚

貝一フメツ貝

花合文長持壹荷之内朱唐櫃

繪毛氈十一枚

二十一合文長持壹荷之内唐櫃

繪毛氈八枚

お合文長持壹荷之内

藥種三色内人參所袋ニ入、同二色モ布袋ニ入、一百十斤ト書付アリ、

た合文長持壹荷之内

佛臺座二ツ　眞鍮簾ノ穗二十六本

丁字一函　八華形鏡ノ家壹ケ

二十五合文長持壹荷之内唐櫃

火鉢二ツ指渡ノ尺三寸、高七寸、足共ニ、但足六ツアリ、唐獅子、

三十合文長持壹荷之内

唐銅椀皿共ニ百七十七　唐銅匙子二百二十七

ほ合文長持壹荷之内

御鏡二十七面内壹面裏ニ菱ノ花模樣アリ、但指渡ノ尺三寸、同家ニ入、内八角一面徑一尺七分、重目大六斤壹分、

紙札ニ書付盤龍背緋絁帶漆皮箱緋綾襯盛

長持壹荷之内

玉箒二本　簫二ケ

八華形臺一ツ東小塔ト書付アリ　玉幡三ケ

柄香爐壹ケ　サスカ十三本　絹帶類一筋

水瓶壹ケ

中り合文長持壹荷之内新

御鏡壹ケ但四方　水晶ノ玉大小六ツ

墨十挺銘文日新羅楊家上墨　筆十本

象牙壹本長五尺、廻九寸、　黒塗文夾壹ケ內記錄御經卷物等數多有レ之、
れ合文長持壹荷之內唐櫃
雙六拌一面長二尺三寸、横一尺一寸八分、　瑪瑙硯石一ケ但六角、
冠桶壹ツ　籠柳壹ケ一尺二寸四方、　墨ノ折三挺
染象牙尺ノ類壹本其外木ノ、切ギアリ
む合文長持壹荷之內
ヒイトロ水瓶一ケ無レ底　同鉢壹ケ
御葫蘆ノ道具共色々但口三色アリ、
ま合文長持壹荷之內
太皷琴四線一ケ銅柄香爐壹ケ
如意琥珀一ケ但家有ニ東大寺ト書付アリ、　御弓立壹ケ
黒塗文夾一ケ內笛二管、內水晶之念珠一連、內不帶一筋、
鉢壹ケ　太刀二十振
み合文長持壹荷之內
甘草六本　象牙尺八壹ケ
如石藥四ケ鍾乳石一、滑石一其外、　ケサン五ケ
肉桂一袋　壺燒物四丁

中之倉下之櫃
四合文長持壹荷之內
矢籠壹櫃但三十二、矢根共、　不知箱二ケ
れ合文長持壹荷之內
御杖二本長五尺二寸五分、横シユモク一尺一寸十分、　木ノ水瓶一ケ
ヒイトロノ茶碗一ケ指渡四寸五分、高二寸六分、但鱗形アリ、
御鏡家七ツ
七寶念珠一連　如意二ケ琥珀
孫ノ手二ケ琥珀
御弓一ケ但折テアリ、　象牙笛一管　サスカ一ケ
蒔繪箱一ケ內ニ碁石アリ、　ヒヨン壹ケ　柄香爐一ケ
象牙ノ尺一ケ
開眼供養御筆一本長二尺一寸、差渡二寸五分、軸書付ニ文治元年八月廿八日開眼法皇用レ之、天平之筆
上十九合文長持壹荷之內
御鏡壹ケ　銀ノ鉢三ツ
銀ノ齋鉢幷臺四ツ
㋳合文長持壹荷之內

竹根ノ矢一櫃
サ合文長持壹荷之内
シヤホン　一ケ
四合文長持壹荷之内
御衣ノ類數多アリ但クチ損、
第四日十九日　御長持六十九荷
帳外之鑓　二十一筋
へ合文長持壹荷之内
碁盤三面 指ノ一尺六寸三分四方、高四寸二分、但寸法ハ三面共同事也、一面ニ象アリ、赤石百三十三、悉ク唐繪アリ、黒石百二十、何モ碁ケ共、
琵琶一面　四線一面　石磬二ケ
ほ合文長持壹荷之内
絹ツヽレアリ
ぬ合文長持壹荷之内唐櫃
絹ツヽレ幷幕縄付白赤　サスカ一本
青黄絲一巻　木厨子一ケ但壺ノ形
セ合文長持壹荷之内新

琉璢如意一ケ 高一尺三寸五分　横一尺、足高サ一寸　分、東大寺ト書付アリ　上ノスキ一尺二寸五分、同ツヽ四寸五分、
[illegible]壹ケ 但古帳ハ手巾掛トアリ、　御枕一ケ
丸香函壹ケ 内ニ念珠アリ　香盆一ケ
手合文長持壹荷之内
箱壹ケ 内ヒイトロ酒器アリ、
絹切數多有レ之
山合文長持壹荷之内
籠柳幷皮籠 但櫃有レ之、
勝合文長持壹荷之内
花籠一匣
り合文長持壹荷之内
毛氈赤白紫十五枚　面壹ケ
平合文長持壹荷之内
鏡大小七面
ろ合文長持壹荷之内
唐銅鉢大小百二十一　透鉢三ケ 内廻リ香爐一ケ、同斗ノ透鉢一ケ、

寶新合々長持壹荷之内

藥種 先半ト書付アリ

東合文長持壹荷之内

琴二面　圓木弓一張 長五尺五寸、巾三寸三分、

華合文長持壹荷之内

藥種大黄一櫃

そ同長持壹荷之内

御寄懸壹ケ 長二尺六寸、幅九寸、高六寸、御寄懸壹ケ 長二尺三寸、幅一尺二寸、高九寸、

聖武天皇御袈裟一匣 但四丈入ト、但金ノ紋共アリ、

う合文長持壹荷之内

蓮華座貳ケ　天蓋貳ケ

鍮石ノ鉢壹ケ　御光後光壹ケ

え合文長持壹荷之内

簫壹ケ 但頭竹長一尺五寸四分、　函三ケ 内籠二ツ有之、

春新合文長持壹荷之内唐櫃

八華形鏡一面 指渡一尺一寸五分、裏ニ花鳥唐草アリ、

張合文長持壹荷之内

御幡ノ道具損シ有之、

や合文長持壹荷之内

瑪瑙石 長一尺二寸、厚一寸八分、　壹箱 但少キ朱唐櫃ニ十本入有之、

五十二合文長持壹荷之内

御衣ノ類色々有共鏡ノ破臺一ツ

夏新合文長持壹荷之内

絹ノ幕ノ切々有之

十合文長持壹荷之内

御衣ノ切類多有之

西新文長持壹荷之内

金ノ置上阿彌陀一躰 御長五寸三分、横三寸七分、佛ノ御長三寸二分、但大竺佛、其外佛具色々アリ、

南合文長持壹荷之内

函三ケ 御衣ノ切共有之、別ニ出分テアリ、

秋合文長持壹荷之内

木鉢壹ケ　燒物鉢十六

蓮合文長持壹荷之内

天蓋ノ道具色々有レ之
綿合文長持壹荷之內
面十一内獅子頭壹ツ
紀合文長持壹荷之內
鼓ノ筒二十三
羅合文長持壹荷之內
幡朽損數多有レ之
寒合文長持壹荷之內
御座ノ切レ一櫃有レ之
殿合文長持壹荷之內
御經ノ切、水帳寫、其外反古共數多、
は合文長持壹荷之內
唐銅ノ枕七具　唐銅ノ鉢二百二十
唐銅ノ皿三ヶ　匙子七十八
鷲新合文長持壹荷之內
御衣切色々
ら合文長持壹荷之內

毛氈白赤五枚
草新合文長持壹荷之內
面十二
木新合文長持壹荷之內
面二十一
林合文長持壹荷之內
花籠數多有レ之
め合文長持壹荷之內
御鞍二口　華形臺一ヶ　轡一口
鐙一掛
安合文長持壹荷之內
花籠數多有レ之
乾合文長持壹荷之內
古天蓋損
宗合文長持壹荷之內唐櫃
古面ノ闕タル數多有レ之
坤合文長持壹荷之內唐櫃

蓮華座一ヶ　釣燈臺壹ツ其外佛具有レ之、
巽合文長持壹荷之內
古キ御茵蓐之類有レ之
金合文長持壹荷之內
面三十五
紫合文長持壹荷之內
面三ケ幷御衣ノ朽損アリ、
ゐ合文長持壹荷之內
白毛氈十三枚但紋アリ、
御合文新長持壹荷之內
大面壹口幷御衣ノ朽損アリ、
說同長持壹荷之內
古幡ノ切一櫃
卦同長持壹荷之內
糸幡ノ切有レ之、
宸同長持壹荷之內
御沓ノ類有レ之、

恒同長持壹荷之內
古布ノ類數多有レ之、
伽同長持壹荷之內
古布ノ類數多有レ之、
雉同長持壹荷之內
花籠損タル有レ之、
釋同長持壹荷之內
花籠有レ之、
良合文長持壹荷之內
佛餉ヲ盛ル金子道具　金子ノ火鉢壹ケ
德同長持壹荷之內
燒物鉢之類有レ之、
尊同長持壹荷之內
寶鐸四ツ　金具之類有レ之、
鏡同長持壹荷之內
瑪瑙之石盤五ケ
ゐ合文長持壹荷之內新

古絹幷唐布類有レ之、

麟新合文長持壹荷之內唐櫃

木ノ花形盆ノ類一櫃

さ合文長持壹荷之內

拂子壹ツ 長二尺ニテ四寸 柄共、毛ノ長一方板巾二寸三分、 柄香爐二ケ

臺二ケ 三鈷壹ケ 水瓶一ケ

金剛盤一ケ 金鉢一 但唐銅ニテ、其外絹道具共有レ之、

鳳新合文長持壹荷之內

面十五

如同長持壹荷之內

花籠一櫃

儀同長持壹荷之內

古布切共

信同長持壹荷之內

古絹切共

瑄合文長持壹荷之內

塵芥

堂同長持壹荷之內

古花籠有レ之

玻同長持壹荷之內

古道具幷絹切有レ之、

月同長持壹荷之內

古布切有レ之、

性合文長持壹荷之內

古花籠三ケ 板佛壹ケ

禮合文長持壹荷之內

古絹切色々有レ之、

古花籠

卯合文長持壹荷之內

古盆ノ損タル

長同長持壹荷之內

損タル面一函

未同長持壹荷之內

古布一匣

甲合文長持壹荷之内（唐櫃）

絹類色々有レ之、

第五日廿日　御長持十八荷

永合文長持壹荷之内

錫杖幷鉾有レ之、

く同新長持壹荷之内

鈴ノ類一函、

ち同同長持壹荷之内

丹（有レ之）幷函壹ツ、

さ同長持壹荷之内

藥種（芫ヒト書付アリ、）

し合文長持壹荷之内

壺（燒物）壹ケ　琵琶袋　唐紙壹ツ

ち合文長持壹荷之内

藥種二袋　櫃之蓋壹ケ　瑠璃壺壹ケ（其外細道具アリ、）

に新合文長持壹荷之内

御衣ノ類色々有之、

銀鉢八枚　唐銅（大小）六十五枚　象牙尺二本

久同長持壹荷之内（唐櫃）

しやほん有レ之、

て同長持壹荷之内（唐櫃）

鏡十面（共ニ、但絹覆有レ之、）　金子箱壹ケ

た合文長持壹荷之内（唐櫃）

華蔓ノ道具有レ之、

ぬ合文長持壹荷之内（唐櫃）

幕綱（白赤幷絹切色々）

行新合長持壹ケ之内（唐櫃）

布切幕ノ類有レ之、

見同長持壹荷之内（唐櫃）

藥種有レ之、

白同長持壹荷之内（唐櫃）

絹類有レ之、

赤同長持壹荷之内（唐櫃）

塵芥

龍同長持壹荷之內唐櫃
麈芥
黄同長持壹荷之內同
布ノ朽損タル有レ之、
青同長持壹荷之內
麈芥有レ之、
南中御倉ニ、屏風百餘雙、內十八枚繪有、但絹地色々繪模樣アリ、
屏風長四尺六寸　横壹尺九寸五分、
九木弓幷鉾數多有レ之、
御長持總合百二十六個、已之刻ニ相濟、

初日行列之次第

一
右　一公人白丁々々三役白袴有緌　承仕白袴重衣　學侶一臈　法眼從僧一人　衲衣小結一人　素襖一人
左　一公人白丁々々三役同斷　承仕同斷　學侶一臈　法眼從僧一人　衲衣小結一人　素襖一人

二
右傘持白丁　沓持白丁　衲衆　小結一人傘持白丁　素襖一人沓持白丁　甲衆　鈍色小結一人傘持白丁　襟甲素襖一人沓持白丁
左同斷　衲衆　同斷　同斷　甲衆　同斷　同斷

三
右重衣衆裹頭　素襖一人白丁　兩童　重衣素襖一人　裹頭白丁一人　元興寺　同斷
左重衣衆裹頭　同斷　兩童　重衣裹頭　同斷　元興寺　同斷

四
右新藥師寺　同斷　高山寺　同斷　法樂寺　同斷
左新藥師寺　同斷　高山寺　同斷　法樂寺　同斷

五
右　安信寺　同斷　勅使　素襖一人　裝束純色指貫紋白
左　安信寺　同斷　素襖一人　寺務功官　御倉鎰莒役　持鎰莒一人

念佛堂々僧

六
中
右方　素襖一人傘持　白丁　六堂冠赤衣　小綱　法眼白裳白五帖
左方　素襖一人沓持　白丁　六堂冠赤衣　小綱　同斷

七
右　佛師純色白五帖　右　直垂着一人　上下着二人　傘持白丁
中　三綱法眼平袈裟
左　佛師同斷　左　水瓶角盥白丁一人　上下着二人　沓持白丁

八
右　幣立禰宜　右　祓箱　布衣　香爐　素襖上下着一人
中　神主安部居　束帶
左　御幣禰宜　左　大麻　布衣　散米莒　素襖上下着一人

九
右　傘持白丁　狩衣一人
中　座持白丁　鎮守御幣　手侍寺僧　布衣一人　中　奉幣使　束帯　素襖一人
左　沓持白丁　狩衣一人　素襖一人

十
右傘持白丁
中圓座持白丁　番匠束帶　同衣冠　同布衣　中鍛冶束帶
左沓持白丁
勅使藏人右少辨正五位下藤原朝臣輝元日野家
寺務　勸修寺宮二品濟深親王
奉行兼撿使神尾飛騨守
證明一﨟寳嚴院實賢
同　二﨟惣持院英秀
出世御後見尊光院隆慶
會所兼年預四聖坊晋性
金殊院庸性
同　地藏院淨性
三倉御開封ニ付御下行米
現米三百石此內支配
三石　寳嚴院
同　惣持院
同　尊光院
同　上生院
同　見性院
同　淸凉院
同　四聖坊
同　禪花坊
同　妙嚴院
同　金殊院
同　地藏院
右老僧方十一人也、依レ時而增減有レ之事ニ御座候、
二拾石　執行　藥師院
内拾石精進料
拾石扶助方
三石　書記　正法院
三石　祓主　上司式部
内三石　幣帛料
壹石　三倉鎭守御幣料
壹石　精進料

二十五石　上將監
内
三石　奉幣料
三石　鎭守御供料
壹石　軾料
七石　勘辰料
五石　裝束料
七石　精進料
五石　佛師民部
同　同　松坊
三石　小綱源哲
同　小綱玄賀
右小綱二人、依ㇾ時而人數増減有ㇾ之事ニ御座候、
三石　公人六堂三郎左衛門
同　同　惣右衛門
同　同　五兵衛
同　同　市郎兵衛
同　同　五郎兵衛
同　同　九兵衛
二石　平公人　彌三郎
同　庄九郎
同　久三郎
同　次郎右衛門
同　次兵衛
同　長松
同　彥三郎
同　庄左衛門
同　平十郎
同　九一郎
右平公人十人也、是も依ㇾ時而人數増減有ㇾ之事ニ候也、
三石　大工本座ノ﨟安太夫
同　同二﨟　五郎介
同　新座　﨟仁左衛門
拾四石　鍛冶　與兵衛

内 九石御鏡幷鎰三ツ料
五石　精進料
下行米合　百六拾三石
殘米　百三拾七石
此内ヨリ平公人十人ヘ銀十枚裝束料ニ遣ス、
右十枚之銀米ニメ九石三斗四升六合也
右之殘米百貳拾七石六斗五升四合
是ニテ會所坊賄方也
上通リ二汁五菜　中通リ一汁二菜　下　握飯
御開封之間禁酒　御役人之外中食無レ之
御開封ニ付入用物
御倉三口雲形　三鉤
御道具指懸大傘　一本
同　袋　一ツ
御倉内御用雜薦　五十一枚
御倉方御用莚　百六十五枚
同所御用豊島莚　十五枚

同　御用丹波表　四枚
同　御用　行燈　五ツ
同　御用　手桶　五ツ内二ツ蓋付
同　御用　箕　三丁
右者御開封相濟申候而、執行方ヘ如二先規一相渡候也、
御倉御封用細苧繩　六筋
同　御用竹皮　十枚
右者御倉御用入也
御倉錠之鞘木　三口分但大工手間共ニ
蘭奢待　机　一ツ
紅沈香　机　一ツ
雨神御香机うち敷　二ツ
幔幕　二張
同串　二本
床机　三脚
會所坊客殿白幕　二張

御道具覆　拾五
同　雨覆　拾五
御長持棒　拾五本
細　引　五筋
右者御開封相濟申候而、御倉へ納申候也、
雜巾布　五端
太藁繩　七束
細藁繩　七束
しべ箒　拾本
油　五升
燈心　五把
土器　二拾枚
竹筒油指　二ツ
火打箱　一具
會所坊客殿敷薦　九拾六枚
右者遣捨候物也
以上

鎮守社是者、御倉御修覆之節、必御造營有レ之事ニ候、
右遷宮入用米
二石　奉幣料　二石　神供料
五石　裝束料　四石　精進料
三石　雜用料　白布　二　端
右ハ八幡宮神官取レ之
右之通相違無レ之候、以上、
元祿六年酉五月六日　御寶物會所兼年預
四聖坊
右三倉御開封日記者、當寺四聖坊以レ本寫レ之、
于レ時元祿第七戌三月十六日酉刻ニ書終畢、
御倉之內ノ櫃之合文
四十一ニ㊁ニ｜よ八｜すこ｜る｜わ一｜ひ｜いの｜㊁つ｜き｜け｜ふ㊂㊆
花廿一た｜た｜廿五卅ほ十三中｜れむ｜はみ｜四ね｜㊦廿四上十
九へ｜ほ｜ぬ｜せ｜㊢山勝り｜平ゑ｜寶東華｜そろ｜白春張｜や五十二
夏十西南秋蓮經ニ靈寒嚴は鷲｜ら草木林め｜安乾宗坤巽
金紫ゐ｜御說卦震坦伽雉释艮法曾鏡ゑ｜麟さ｜鳳如儀信壇

東大寺三倉開封勘例

當寺　勅封倉名正倉院　所納寶物者

本願感神皇帝御遺財也、當ニ皇帝崩後七々御諱晨一、孝謙天皇幷光明皇后有レ旨、悉被レ施ニ入毘盧舍那佛一、仍レ之寶倉有ニ帝王御代々　勅封一、

一後鳥羽院　建久四癸丑年八月廿五日、御開封、勅使左少辨藤原朝臣、大監物安部泰忠、別當前權僧正勝賢、

此年有ニ御倉修復一也、修復之間、移ニ置寶物於綱封倉一、三倉之外別有ニ綱封倉一、以ニ別當印一封レ之、三綱出　故名、中古此倉朽損、故以ニ三倉內之南倉一代レ之、三倉元中北南共有ニ　勅封一、北後中北爲ニ　勅封一、南倉爲ニ綱封一、

一同五甲寅年三月廿一日、御倉修復成就、寶物返ニ納御倉一、

勅使右少辨藤原資忠、大監物小槻宿禰有頼、

此時依ニ勸進上人重源請一、御倉內錫杖十枝出與レ之、　勅使記ニ此事於御倉內ニ云々、

一後堀河院　寬喜二庚寅年十二月廿七日、御開封、勅使左少辨平時兼、大監物中原師世　別當代權少僧都定親、

此年十月廿七日夜、盜賊入ニ御倉一、取ニ寶物一故實ニ撿之一

一四條院、嘉禎三丁酉年六月三日、御開封、勅使右中辨藤原季頼、大監物賀茂守榮、主鎰伴爲蓮

此年有ニ　勅命一、撿ニ知御倉寶物一、

一四條院、延應元己亥年十一月廿六日、御開封、勅使左少辨藤原顯朝、大監物丹波尙長、主鎰河康輔、

此年九條禪定殿下、於ニ當時戒壇院一受戒、翌日寶物御覽、

一四條院、仁治三壬寅年三月十三日、御開封、

勅使左少辨平時繼、大監物丹波尙長、主鎰河安氏、

此年三月十八日、後嵯峨帝即位、故御倉內玉御冠幷諸臣禮服等、被ニ　勅奏進一、

一同年三月廿二日、　玉御冠幷諸臣禮服等返納、
勅使權左少辨藤原、大監物紀朝臣文平、主鎰河安
氏、
一後嵯峨院、寛元四丙午九年九月廿八日、寶物自二上
司倉一返二納御倉一、按移二置上司倉一時、當レ有二開封之來由一、紀錄未二分明一、
勅使左中辨藤原定頼、大監物丹波尙長、別當代權
少僧都定濟、
一後深草院、建長六甲寅年七月六日御開封、勅使權
右中辨藤原資定、少監物平久近、主鎰伴爲連、
此年六月十七日、迅雷落二御倉東西北端一、扉幷柱
六本碎破、依レ之修復、
一後深草院、正嘉二戊午年正月廿二日、御開封、
勅使右（◎左イ）中辨高輔、別當定親
此年岡屋禪定殿下、於二當寺戒壇院一受戒、翌日
寶物御覽、
一龜山院、文應二辛未年九月五日、御開封、弘長改
元年也、
此年九月一日、一院爲二七大寺御巡禮一、御二幸　南
都一、於二當寺一寶物御覽、故無二勅使一歟、
一龜山院、弘長二壬戌年八月廿一日御開封、
勅使右少辨資宣、別當前大僧正聖基、
記曰、去年御幸時御袈裟被二　召出一、依二嚴重之
御夢想一被レ返二納寶倉一云々、
一後花園院、永享元己酉年九月廿四日、御開封、
勅使藏人右少辨明豐、
一同寛正六乙酉年九月廿四日、御開封、勅使、
此年九月、室町殿將軍義政春日社參詣、於二當寺一寶
物御覽、御香被二召上一、記曰截レ香法一寸四方宛一箇、其一獻二禁裡一、其一獻二將軍一、又截二五分四方一箇一獻二別當一云々、兩種御香同然、
一正親町院、天正二甲戌年三月廿八日、御開封、
勅使日野輝資、
此年織田信長有二懇望一、寶物拜見、請レ截二蘭奢待一、
紅沈香不レ截レ之、
一後陽成院、慶長七壬寅年六月十一日、御開封

勅使 廣橋辨某 勧修寺辨某　撿使本田上野介　奉行大久保石見守

此年東照大權現、御修理之儀依レ被ニ仰出一、爲ニ寶物點撿一也、

一同八癸卯年二月廿五日、御開封、

勅使　　奉行大久保石見守

撿使小堀新介

此年寶倉御修理有レ之、

一後水尾院慶長十七壬子年十一月十三日、御開封、

勅使柳原辨某、撿使永井彌右衛門、奉行鈴木左馬介、

此年閏十月廿四日、盗賊入ニ寶倉一事及ニ露顯一、即搦ニ出之一被レ渡ニ京都一、依レ之寶物實撿之旨、被ニ仰出一也、

一寛文六丙午年三月四日、御開封、

勅使日野辨資茂　撿使川口源兵衛

奉行土屋忠次郎

寶倉年久無ニ御開封一、爲ニ寶物點撿一、訴ニ御開封之儀東都一、依レ之被ニ仰出一也、

右

正倉院御開封勘例、以下當寺記錄幷院口暨三綱所ニ私記一等上錄レ之者也、

元祿六癸酉年　五月

會奉行　　金珠院庸性

二倉道具目錄　元祿六年十一月十一日　東大寺老僧中

北倉

一御輿 臺共、内ニ有ニ銅道具ハ　三ツ
一扉　十四枚
一衾障子　三枚
一四方輿　壹組
一大皷之筒　五ツ
一厨子　壹ツ
一鉾 内朱塗十一本、黒塗二本、　十三本
一鞍掛　三ツ
一虗箱　十
一檜櫃　壹ツ
一惣位牌　壹ツ
一反古箱　壹ツ
一虗箱之内古道具　壹ツ

一六足之虗箱　壹ツ
一面大箱ニ入　壹ツ
一朱塗ワク臺 荷桙 拵イ　四ツ
一カツラ桶　三ツ
一朱塗櫃馬具入　壹ツ
一面 朱塗櫃　壹ツ
一反古 同櫃　五ツ
一大般若　十帙
一金道具　壹箱
一御輿幡切 朱塗櫃　壹箱
一同鞍古幕 同　二箱
一樂器 同　壹箱
一幡、神馬道具、　壹箱
一古道具　壹箱
一古道具　壹箱
一皷胴　壹箱
一古袈裟　一櫃

一古瓶等　壹箱
一腹鼓　壹箱
一古繡切　二箱
一弓折　壹ク、リ

南倉

一記錄箱　壹ツ
一經供養幡　二十三
一大雙紙宸翰花嚴經　壹箱入
一十六羅漢　壹箱入
一光燈臺　箱入
一銅鉢　同
一青地花生　同
一面　壹櫃
一三具足　同
一半鐘　壹ツ
一幡　壹箱
一大般若經　雜々

一三倉道具　壹長持
一同木形圖　壹箱
一同床机　三脚
一華籠　壹箱
一楾角盥　同
一香爐箱　同
一鐘鼓　貳ツ
一面小箱　三ツ
一大童子中童子等ノ裝束　半櫃壹ツ
一三鼓　壹箱
一紙鞋四海　壹箱
一幔幕　二張
一同串　六本
一鉾　二本
一大幡　壹箱
一華幔　壹箱
一記錄　壹箱

一若狹國硯石　壹箱
一官符十二冊　壹箱
一西國方記錄　壹箱
一銅鉢幷臺等　壹櫃
一釋迦多寶鑄佛　箱入
一同貳躰木像　二箱入
一纒綱疊　壹疊
一大紋　同
同半疊　同
一柄香爐十枚　壹箱
一數衆箱　同
一檜扇子十五本　同
一鹿頭　二ツ
一經供養釋迦　一躰箱入
一十弟子畫像　一幅
一世親菩薩畫像　壹箱
長持壹ヶ之内

一紺紙金泥法花一部　箱入
一八幡緣起　二箱
一金胎兩部板木
一綸旨　壹箱
一重吽字　壹箱
一賴朝御書　壹卷
一勅書卷物　小箱入
一賴朝御書寫義持
一尊氏家卷物　二卷
一勸進帳　六卷
一法華經釋　壹卷
一官符　壹箱
已上
一三倉繪屛風　貳拾七枚
一鴫毛屛風一箱入　拾貳枚
半長持之内　千部經之用
一大童子裝束　壹具

一中童子　壹具
一力者　二具
一白張　二具
一笠袋　壹ツ
一水瓶角盥　壹ツ
已上
長持一匣之内
一中童子裝束　三具
一大童子　三具
一力者　四具
一白丁烏帽共　拾九具
一笠袋　拾四
一幔幡　三張
一定者法師裝束　壹具
一チキリ　拾二具
已上
長持一匣之内

一御朱印　壹箱
一西國證文箱　二ツ
一市本田地帳　一包
一公所屋敷帳箱　一ツ
一新禪院眞言院惣勘帳
一雜々證文箱
一佛性院上之坊罪科ニ付書物　拾通
一還城樂面　一箱
一三倉記錄答　二ツ
一同鎰箱　壹ツ
已上
一五師子之如意　壹箱
一西國反古箱　壹ツ
以上
今度三倉御修理ニ付、寶物移ニ于二倉一、此時悉令ニ改校一、尙如ニ先規一猥不レ可レ有ニ出入一者也、
年預五師

元祿六癸酉年十月十一日

四聖坊判
清涼院判
見性院判
上生院判
尊光院判

倉奉行　一﨟
寶嚴院實賢法印御房
同　二﨟
惣持院英秀法印御房

正倉院御開封勘例等御尋之日記 享保七寅年十一月　日

年預伍師　性海

一享保七年十月廿九日、番所當番中條五左衛門ヨリ、切紙ニ而、被二申談一度義有レ之候間、只今參候樣ニト申來ニ付、即刻參上申候處、被二仰渡一趣者、京都御所司代松平伊賀守殿ヨリ、以二御書付一東大寺勅封藏之譯、委細書付差越候樣ニト申來候間、御書付之趣、具ニ書付可二差出一旨被二仰渡一、伊賀守殿ヨリ之御書付請取畢、

東大寺ニ有レ之候寶藏者、　勅封之由兼テ承傳候、右之勅封之藏、何ヶ所有レ之候哉、　勅封ト有レ之候ヘバ、往古ヨリ終ニ開キ不レ申事ニ候哉、又者御用ニテ候歟、或ハ時節ニヨリ、開キ申義モ有レ之候哉、左候ハヽ、如何樣之譯ニテ、開キ申事ニ候哉、只今有レ之候封、何之頃ニ開キ候儘ニ而、其後開キ不レ申トノ儀ニ候哉、

右之趣委細御聞合、御申越可レ被レ成候、
一十一月二日、遂二會合一、正倉院御開封勘例幷口上書、
衆評之上、認レ之畢、勘例一卷別紙ニ有レ之、
一同三日、勘例一卷、口上書相添　御番所ヘ持參申所、
中條五左衛門被二申渡一趣者、一通者京都御所司ヘ
參、一通者當番所ニ留候間、兩通相調參候樣ニト
有レ之、諾レ之畢、
一同十五日　正倉院御開封ニ付勘例幷口上書二通、
一同廿四日、辰刻從二御寺務安門主一御飛脚到來、此日
年預所ニテ地藏講經營有レ之、早速令二披露一、御返答
相認畢、
依レ仰態以二飛翰一令二啓達一候、先以彌別條無レ之
候哉、被レ爲二聞渡一思召候、
一今日傳奏衆ヨリ、以レ使御家來一人可二差遣一旨申
來候ニ付　淡路守參上候所、於二御月番一中山大納
言被二仰渡一候者、　東大寺三倉之儀ニ付、　御尋有
レ之候、則其趣別紙書付進申候、此通御尋被二仰出一
旨ニ候間、　往古近代御開封之例共、　無二漏脱一可
レ被レ遂二吟味一、委細書付可二差上一候、尤急御用之旨
被二仰出一候間、來ル廿六日中ニ　傳奏衆ヘ　御差出
被レ遊候間、　晝夜被二相考一早々御認可二差上一候、
且又此儀ニ付不レ及二再往之御尋一候樣、委書付可
レ被二差出一旨、於二傳奏衆一被レ入二御念一御申渡候間、
以二其旨一巨細ニ被二書付一、御差出可レ被レ成候、
一去年於二關東一、古文書等被レ入二高覽一候節、三倉御
寶物等、御尋之御沙汰者無レ之候哉、若左樣之儀モ
有レ之候ハヾ、其節地藏院龍松院被二申上一候旨趣
相違無レ之樣ニ、被レ入レ念書付可二差上一候事、
一右三倉御寶物、幷御代々御開封之年月等之考、急
ニ難レ成儀モ可レ有レ之候者、其段斷之趣被二書付一、
御差越可レ有レ之候、其段ヲ以早速傳奏衆ヘ可レ被二
仰入一候、尤右御斷之品　其元ヨリ到來之書付、直
ニ御差出可レ被レ遊候間、　其心得ニ而御認可レ被二
差越一候、急御用ト有レ之候間、及二延引一品々ニモ

候ハヾ、爲ニ御念一其趣御届被ニ仰入置一度候ニ付、
此段被ニ仰遣一候、乍レ然早速相知レ御認越之事ニ
候ハヾ、不レ及ニ其儀一候、
一今日御尋被ニ仰出一候所ハ、右之通ニ御座候、先年
勸修寺御門跡、御寺務之節、御開封有レ之候　其
節御寺務方之義幷御開封之記錄、御下行等之品、
是亦委細御書付可レ被ニ差出一候、乍レ然此義者急々
之義ニ而者無レ之候間、跡ヨリ被ニ相考一御差上候
テモ不レ苦候、是者御寺務へ重而御尋モ有レ之候
節、兼而爲ニ御覺悟一候ニ付被ニ仰遣一候、尤モ其節
之御開封者、何ノ譯ニテ御開封ト申義モ御書付
可レ被ニ差出一候、右之趣早々可ニ申達一旨ニ付、如
レ此御座候、恐惶謹言、
十一月廿三日子上刻出　河野淡路守判
榎本式部卿判
御後見　不動院御房
年預　禪華坊御房

傳奏衆ヨリ御尋之覺書
一東大寺三倉御寶藏有レ之由、右之御寶藏イツ頃建
候哉事、
一右御寶藏勅封、イヅレノ御代ヨリ　勅封被ニ附
初一候哉事、
一右之御寶藏、往古ヨリ御代々御開封之年月等、
不レ殘被ニ相考一書付可レ被ニ指出一候事、
十一月廿三日
右之通申來ニ付、返翰差上候文言、
依レ仰御飛翰致ニ拜見一候、寒氣甚敷御座候へ共、
御門主樣倍御機嫌能被レ爲レ遊ニ御座一恐悅奉レ存
候、當境滿寺別條無ニ御座一候、
一當寺御寶藏之儀ニ付　傳奏衆ヨリ御尋之品、御
書付之趣、來ル廿六日中ニ相考無ニ漏脫一委細書
付可ニ差上一旨仰之趣承知仕候、右書付之儀、大概
者相知可レ申候へ共、巨細之譯、古記等相考之儀
御座候へバ、早卒難レ致ニ出來一候、依レ之日限之儀

少々及ニ延引ニ可レ申候、考出來次第早速可ニ差上ニ
候、此等之趣宜預ニ御披露ニ候、恐惶謹言、

十一月廿四日巳下刻出之　年預　禪花坊判
御後見　不動院判

榎本式部卿御房
河野淡路守殿

一右申來御尋四品之内、最初之御尋、御倉之建始幷勅
封之附キ始、此二ケ條難レ知、舊記相考候處、
要錄第五別當章ニ
代六十二少僧都仁海長元二年任寺務四年同二三四五
件任解除會不レ行、長元四年正月十一日
始建ニ西院ニ撿挍僧正所爲也、正倉院動用
御倉仆、
如レ此有レ之爲ニ後勘ニ記ス

一同廿六日、申刻安門主ヨリ御飛脚到來文言、
態飛翰致ニ啓達ニ候、一昨日 旨、御報亥下刻ニ相達、
則遂ニ披露ニ候、昨廿五日以ニ右之書面ニ中山大納言
殿ヘ被ニ仰入ニ候處、大納言御返答被ニ仰入ニ候者、無ニ
漏脱ニ書付被ニ差出ニ候樣、東大寺ヘ被ニ仰付ニ候、右
少之間取申儀者、尤之儀ニ御座候ヘ共、一日者延
引不レ苦、乍レ然急々御用之儀候間、明廿七日中ニ、
差出被レ成候ヘバ可レ然旨御座候、此儀者關東之御
用ト此方ニモ被レ察候間、其元無御油斷有レ之間鋪
候ヘ共、片時モ早ク出來次第、夜通ニ成共御差上
可レ被レ成候、此段再往可ニ申述ニ旨仰ニ付、如レ此御
座候、恐惶謹言、

辰下刻出十一月廿六日　河野淡路守判
榎本式部卿判

御後見不動院御房
年預　禪華坊御房

右之御返答文言、
御飛翰致ニ拜見ニ候、然者御寶藏之一件、去ル廿四日
御返答申上候趣 中山殿ヘ被ニ仰達ニ候處、急之御用
ニ候間、明廿七日中ニ差出可レ申旨、委細之御紙上奉

レ畏候、淸書出來今晚中ニモ、飛脚可ニ差出ー候、宜
預ニ御披露ー候、恐惶謹言、

十一月廿六日　　年預禪華坊判
　　　　　　　　御後見不動院判

榎本式部卿殿
河野淡路守殿

一同夜亥下刻、安門主へ書物差上ル飛翰文言、

以ニ飛札ー致ニ啓上ー候、然者三倉御開封之勘例幷
御實物目錄差上申候、
一御開封ニ付御寺務方之儀幷記錄、御下行等之品、
書付可ニ指上ー旨、先書ニ被ニ仰聞ー奉レ畏候、追而
相考書付可ニ指上ー候、且又今般傳奏衆へ指上候
勘例、同樣等之寫、是又追而可ニ差上ー候、此段宜
預ニ御披露ー候、恐惶謹言、

十一月廿六日　　年預禪華坊判
　　　　　　　　御後見不動院判

榎本式部卿殿
河野淡路守殿

右之通相認出畢、勘例幷目錄之扣、別紙在レ之、二通共
奉書立文表包、

一廿八日、右之御返翰到來、

御使札致ニ拜見ー候、則遂ニ披露ー候、然者三倉御開
封之勘例幷御實物目錄、被ニ相認ー御差上被レ成、
則遂ニ披露ー候處、即刻中山大納言殿へ御指出可
レ被レ成思召候、早速致ニ出來ー御滿悅思召候、
一御開封ニ付、御寺務之義幷記錄下行等之品、追
而被ニ相考ー御指上可レ被レ成之旨、得ニ其意ー思召
候、且又此度傳奏衆へ御指出候、勘例目錄等之寫、
追而此御方へも御指上可レ被レ成由、是又被ニ聞召ー
候、此等之趣、宜及ニ御報ー之旨御座候、恐惶謹言、

十一月廿七日　　河野淡路守判
　　　　　　　　榎本式部卿判

御後見不動院御房
年預　禪花坊御房

東大寺古文書目錄

一金銅御記文銅板ニ彫レ之　一枚
是當寺創草ノ御記文、天平勝寶元年、本願聖武
天皇寺家ニ被レ置、世金銅銘ト稱者是也、
一東大寺封伍仟戸勅書　一通
天平勝寶元年、聖武天皇封戸施入之勅書、則天皇
之震翰、
一同封伍仟戸勅書　一通
天平寶字四年七月廿三日、高野天皇寺家ニ賜
レ之、天皇御璽之御印有レ之、太師從一位藤原惠
美朝臣書筆、
一同封戸牒狀　一通
天平勝寶四年十月廿五日、寺家爲ニ雜用一賜木（◎折カ）也、
造東大寺印押レ之、官人連名有レ之、各諱自書レ之、
一東大寺堺內四至　一通
堺內四至ノ圖也、天平勝寶八年六月九日、依
レ勅開山良辨僧正ニ賜所也、官人連名有レ之、諱各
自書レ之、
一太政官符
歷朝被レ補ニ別當俗造司知事等一度々賜所也、此中
古名士之諱各自書レ之、物體殊勝之物也、
內二卷
別當官符、從ニ貞觀十三年一至ニ長和三年一、長和五
年以後數多、悉太政官印有レ之、
一卷俗別當官符、從ニ貞觀十三年一至ニ天仁二年一、
悉太政官印有レ之、
二卷造司知事綱牒官符、從ニ承和五年一至ニ仁和三
年一、從ニ寛平二年一至ニ天元二年一、太政官印或僧綱
印有レ之、
一綸旨
寺家種々有レ事度々、歷朝所レ賜之綸旨院宣、雜
集爲ニ二卷一、年號不分明、此中大佛殿依ニ燒亡一元

龜二年徳川參河守樣へ被ㇾ進　綸旨有ㇾ之、
一歷朝東大寺諸國封戶庄園券文　四十一卷
內
一卷、天平十二年以後、此中ニ山城國印、宇治郡印有ㇾ之、
一卷、天平廿年以後、此中伊賀國印、阿拜郡印有ㇾ之、
五卷、天平勝寶七八九年、此中阿波國印、越前國印有ㇾ之、
一卷、天平勝寶八年水成瀨繪圖、此中攝津國印有ㇾ之、
五卷、天平寶字元二三八年、越前國印、坂井郡印、越中國印、有ㇾ之、
八卷、天平神護元二三年、此中越前國印、足羽郡印、大和國印、十市郡印、因幡國印、民部印有ㇾ之、（頭書）九卷アリ
一卷、神護景雲元年、此中越中國印有ㇾ之、
一卷、延曆廿三年、此中僧綱印　大和國印、山城國印、東寺司政印有ㇾ之、
三卷、承和七年以後九年、此中因幡國印、阿波國印有ㇾ之、又有ㇾ印難ㇾ見、
一卷、嘉祥二年、
一卷、貞觀八年、
二卷、天曆四五年、此中東大寺印、越前國足羽郡印有ㇾ之、
二卷、天德三四年、此中太政官印有ㇾ之、
一卷、天祿二年以後、
一卷、寬和三年、
一卷、正曆二年、此中大和國添上郡印有ㇾ之、
一卷、天永二年、
三卷、永久四五年、
一卷、康和二年、
一卷、永萬元年、
一東大寺奴婢籍帳　九卷

從ニ朝庭一被ニ施入一所之諸國奴婢之字記レ之、

內

七卷、天平勝寶元二八年、下總國印有レ之、

一卷、天平感寶元年、此中左京印、但馬國印、近江國印、丹後國印、美濃國印有レ之、

一卷　寶龜三年、

一酒人內親王園施入帳　一卷

弘仁九年三月廿七日、內親王家之印押レ之、

一寺家臨時政務文書　一卷

從ニ久安三年一至ニ天喜四年一、寺家有レ事度々所レ賜宣旨寺解綱牒等之文書也、

一古文書

寺家就ニ種々雜事一、歷朝所レ賜之官符宣下文等也、

此中太政官印、施藥院印等有レ之、

一諸國御封文書下　但上卷紛失　一卷

諸國司寺領運送等之文書、寬德二年以後、此中種種事雜集爲レ卷、

一修造文書上　但下卷紛失　一卷

寺家損色作事度々所レ賜之　宣旨或注進等之文書也、

享保十二丁未年十一月十日ニ寫シ畢

正倉院寶物御開封事書（天保四癸巳年十月）

十月十四日、朝少雨、晝四ッ時ヨリ快晴、
一勸修寺宮今口半刻御出門、伏見六地藏町大禪寺御晝休、同所江　禁裏御所ヨリ、御使ヲ以被ニ進物下レ之、午刻過同所御發輿、宇治橋御渡越、宇治川茶師星野宗意方江被レ爲レ入御小休有レ之、夫ヨリ奈良街道御通行、酉上刻頃長池驛御本陣淸水三右衞門方江御着輿、

十月十五日、快晴、晝九時頃ヨリ曇、夕七時過少雨、無レ程止、
一今卯半刻長池御旅館御出門、玉水驛造酒屋淸水政右衞門御小休、木津堤木津川御渡越、同驛御本陣海老屋太兵衞御晝休、奈良坂邊東大寺衆徒其外御出迎、酉上刻南都御着、東大寺內御旅館惣持院江入御、

十月十六日、朝曇、四ッ時ヨリ晴、
一今□刻御出門、寺門內大佛堂、二月堂、三月堂、四月堂、觀音、八幡宮御參詣、夫ヨリ春日社同若宮等御參詣相濟、還御之節、正倉院御寶藏幷假屋等　御內見有レ之、
一今午半刻再御出門、會所坊江被レ爲レ成御點撿所、其外御內覽、龍松院江被レ爲レ入、夫ヨリ猿澤池御覽、興福寺諸堂社御參詣、申半刻一乘院宮ヘ御啓問、御樂等有レ之、夜亥半刻還御、

十月十七日、快晴、寒冷、
一今午刻過御出門、法華寺、西大寺、唐招提寺、其他御參詣、酉半刻過還御、

十月十八日、快晴、夕八ッ時過大曇少雨、直晴、
一今日御開封ニ付、奈良奉行梶野土佐守參殿、御對面御口祝給レ之、巳半刻御出門御假屋ヘ被レ爲レ入、御寶藏御開封之式相濟、直ニ四聖（◎原本作州所之坊今據矢野本改）坊ヘ被レ爲レ入　勅使坊城左少辨殿幷撿使梶野土佐守、一

同御列座ニ而、御寶物御點撿有レ之、相濟而申下刻還御、

一今日之次第圖面等後ニ記レ之、

一長持一棹印シ相濟、

十月十九日、晴、夕八半時頃少雨直止、

一今□刻過之御供揃ニ而、四聖坊へ被レ爲レ成、御點撿相濟候而、申刻還御、

一今日御點撿相濟候分、

みふちゑ亥すゆにひやも、其外印不レ知、都合拾五棹、

十月廿日、快晴、夕八ッ時頃曇、夜ニ入雨、

一今□刻早メノ御供揃ニ而、四聖坊江被レ爲レ入、御點撿相濟、申半刻還御、

一今日御點撿相濟候分、都合廿七棹、

黄の白朝せ常むこまけ雨は玉くう日ふけてる列

荒なり陶を往

十月廿一日、快晴、時々曇、

一今□刻早メ御供揃ニ而、四聖坊へ被レ爲レ入、御點撿相濟候而、申半刻過還御、

一今日御點撿相濟候分　都合二拾四棹、内七棹印不二相分一

餘皇さよ臣わた雲歳固な致劒蓋れ衣やらろ號え

は芥つ洪へ

十月廿二日、雨、晝九ッ時ヨリ晴、

一今卯半刻過、一乘院宮惣持院へ被レ爲レ入、當御門主御同伴ニ而、四聖坊へ被レ爲レ成、御點撿有レ之　午刻過一門樣還御、其後又々御點撿相濟候分有レ之、申刻前還御、

一今日御點撿相濟候分、都合十六棹、内三棹印不分明、

め巨陽寒麗天地制珠發鳥宿河

十月廿三日、快晴暖和、

一今卯半刻御供揃ニ而、四聖坊へ被レ爲レ入、御點撿相濟、御晝休後、戒壇院へ被レ爲レ成、夫ヨリ龍松院へ被レ爲レ成、於ニ勸進所ニ同所寶物等御點撿、尤坊城殿御同伴、申刻過還御、

一今申半刻前之御供揃ニ而、再御出門有レ之、新屋町元興寺ヘ被レ爲レ成、五重塔ヘ被レ爲レ上、諸堂御參詣、酉上刻還御、

一今日御點撿相濟候分廿四棹、内六棹印不ニ相分ハ

閏律蓋夜闕か秋堆龍ぬのへと大霜宇字水

十月廿四日、快晴、晝時ヨリ曇、

一今卯刻之御供揃ニ而、四聖坊ヘ被レ爲レ入、御點撿有レ之、御晝休後、御寶藏内、坊城殿御立合御撿分相濟、再四聖坊ヘ被レ爲レ入、御點撿有レ之、未半刻相濟、坊城殿御一同眞言院ヘ御參詣、夫ヨリ東南院被レ爲レ成、蘭奢待紅風香再御覽、御休息之内、雜人江拜見被ニ仰付ハ、夫ヨリ院内東照宮ヘ御參詣有レ之、申半刻過還御、

一今日御點撿相濟候分拾六棹、内五棹印不ニ相分ハ

露水文騰奈暑調呂張來き

一御開封當日　宮御方御法服色目、坊城殿束帶色目後記ニ、奉行鐙直垂シカマノカチ色、常紋ヲ大紋ニ押シ、鮫柄ノ相口ヲ具、卷柄の太刀ヲ持、翌日ヨリ左少辨殿衣冠、又ハ狩衣之着用候、奉行ハ熨斗目半袴、

十月廿五日、快晴、夕七ツ時ヨリ夜ニ入雨、八ツ時地震有レ之、

一今卯刻之御供揃ニ而、辰半刻南都御出立、木津驛御本陣海老屋太兵衛御晝休、木津川御渡、玉水驛清水清右衛門方御小休、申半刻長池御本陣清水三右衛門方ヘ御着輿、

一先年ハ御歸京之節、宇治橋ヨリ御乘船被レ成候ヨシ、

十月廿六日、雨、四時頃大雨、晝後止、夕八ツ時ヨリ晴、

一今卯半刻過御供揃、辰上刻御發輿、宇治川菊屋市右衛門方ニ而御晝休、夫ヨリ六地藏町大禪寺御小休有レ之、申刻頃御本殿江還御、

一東大寺四聖坊ト申者、聖武天皇、行基菩薩、婆羅門僧正、良辨僧正等之四聖ノ畫像ヲ安置イタシ候故、

諸大夫　　侍
山口近江守敬徳　大音出羽介豐義
御用人　御文文方　樂人
落合玄蕃　大音外記　水谷大膳　多右近將監
御近習
村田左京　山口將監　若井藏人　原　在　明
永田主殿　富樫右衛門　國分番長
御醫師
海老池[illegible]渡法橋
坊城左少辨殿衣文方　雜掌
西池主水　三木數馬　酒井俊記
東大寺承仕　公人六堂
中尾尙詮　中尾尙頎　中左源次　增田勇也
御寺務宮御宿坊　惣持院　梶野土佐守用人 盒戸小左衛門
勅使坊城殿宿坊　御用掛佐藤周助
御會所　四聖坊　吉松彥助
一山惣會所　全珠坊　御用掛同人組與力玉井與十郎

勸修寺宮御供方下宿　草巖院　中條良藏
橋本喜久右衛門
御用掛同人組同心　大井市郎右衛門
松田十郎兵衛

東大寺正倉院御開封年月日

後鳥羽帝 建久四癸丑年八月廿五日
後堀河帝 寛喜三庚寅年十二月廿七日卅八年目
四條帝 嘉禎三丁酉年六月三日八年目
同帝 延應元己亥年十一月廿六日三年目
同帝 仁治三年壬寅年三月十三日四年目
後嵯峨帝 寛元四丙午年九月廿八日五年目
後深草帝 建長六甲寅年七月六日九年目
同帝 正嘉戊午年正月廿二日五年目
龜山帝 文應二辛酉年九月五日四年目

龜山帝 弘長二壬戌年八月廿一日翌年
後花園帝 永享元己酉年九月廿四日百六十八年目
同帝 寛正乙酉年九月廿四日三十七年目
正親町 天正二甲戌年三月廿八日百十年目
後陽成帝 慶長七壬寅年六月十一日廿九年目
同帝 慶長八癸卯年二月廿五日翌年
後水尾帝 同十七壬子年十一月十三日十年目
靈元帝 寛文六丙午年三月四日五十五年目
東山帝 元祿六癸巳年五月十六日二十八年目
今上帝 天保四癸巳年十月十八日百四十一年目

寛文六丙午年三月四日御開封三月七日御閉封
勅使 日野權右少辨藤原資茂 撿使 川口源兵衛
奉行 土屋忠次郎
證明一﨟 二﨟
勝滿院實秀 地藏院淨慶
會所 四聖坊 年預
會奉行 見性院賢英 會奉行惣持院英秀

執行 筆師
清秡上司從五位下紀延貞 勘辰兼奉幣使上 近豐

元祿六癸酉年五月十八日御開封八月七日御閉封
勅使從五位上日野右少辨藤原輝光 寺務勸修寺二品濟深法親王
奉行神尾飛彈守藤原元和 證明一﨟寶嚴院法印權大僧正實賢
二﨟惣持院法印權大僧都英秀 出世御後見尊光院權律師隆慶
會所兼年預四聖坊擬講晉生 會奉行金琳院庸性法師
會奉行地藏院淨性法師 執行藥師院祐想都維那
筆師正法院重實都維那 清秡上司民部少輔紀延重
勘辰兼奉幣使上左近衛將監狛近方

天保四癸巳年十月十八日御開封
勅使坊城藏人左少辨藤原俊克 寺務勸修寺無品濟範入道親王
奉行兼撿使梶野土佐守藤原良村 證明一﨟清凉院法印權大僧都 永宜
證明二﨟四聖坊法印權少僧都宗荐 出世御後見 清凉院兼帶
會所四聖坊兼帶 會奉行龍松院中將法印公周
執行藥師院少納言上座法眼諄實 筆師正法院大藏卿實延
勘辰兼奉幣使上越後守狛近興 清秡上司出羽守紀延寅

右御開封ノ一條ハ、去文政十三年之頃、正倉院御寶藏ノ御屋根向、及ニ大破一ニ付、寺門より御寺務蓮草院御門主へ申上、尤も奈良奉行井上丹波守よりも、關東表へ及ニ言上一、舊記御調等有レ之、被レ遂ニ奏聞一、彌御開封之上、御取締可ニ仰付一趣、關東より御下知有レ之。彼是往還手間取候上 御寺務之御門主遷化被レ爲レ在、當宮江御寺務職被ニ仰出一、去春中御開封可レ有レ之候處、故障之義出來、如レ斯延引、漸去冬御參向、勅使左少辨殿御立合、奉行兼撿使ニハ、梶野土佐守御次席ニテ、御一同御寶物御點撿有レ之、其御次第嚴儀なる事、いわん方なし、四聖坊ニ而、寶物御撿分相濟候以後、御唐櫃長持之るい、寺門内八幡宮社前文庫、東南院御境内御文庫、南所之内へ假ニ被ニ相納一、御倉御修復出來之上、如レ元御立合、目出度御納ニ可ニ相成一よし、正倉院御屋根向、其外御修復御用途、梶井土州被ニ取調一、所司代太田備後守殿へ申立、夫より關東伺相濟候上、御修復ニ相懸リ候儀ニ付、御開封者 當夏之末か秋にも可ニ相成一之由之沙汰ニ御座候、

天保五年二月

天保四年巳十月十八日辰刻

正倉院御開封

寺務宮御宿坊　惣持院
勅使　同　正觀院
町奉行所休息　龍松院
同與力同心詰所　妙嚴院
一山集會所　金珠院
寶物御點撿會所坊　四聖坊

會所坊掟書玄關見付

一開封ニ付御寶物拜見之儀役人之外ハ一切停止之事
一火用心之事
一喧嘩口論附禁酒之事

十月　土佐守

同 客殿次板間南手幷 門内幷塀東門

覺

一火用心專一之事
一高聲發言不義爭論雜談之事
一上下混亂不禮之事
一門內出入札之事
一禁酒之事

以上　印　土佐守

行列書（略之）

三倉警固與力二人ノシメ麻上下　同心小頭　御同心數槍二十筋
御奉行用人ノシメ麻上下　給人　同右各供同斷
三倉御假屋入用積方中井岡次郎棟梁安田清五郎
御修理積方　同斷　塚本賢次郎
東大寺方掛り　中尾尚禎
假屋受負大工　東向丁　佐兵衛
三倉證明　清凉院　四聖坊
二倉證明　金藏院　惣持院

會奉行　上生院　龍松院
天保四年巳十月十八日記之　兼年預　執行藥師院

○天保四年癸巳十月十八日、南都東大寺御寶藏家根替ニ付御開封、卯刻ヨリ始、以前家根替ハ、寛文六年三月ヨリ至ニ七日ハ東大寺ハ山科宮勸修寺御預地ナリ、

勅使　正二位院別當坊城大納言之俊明卿　蓋裏ニハ坊城左少辨藤原俊克トアリ
寺務　勸修寺濟範入道親王

御開封御儀式

最初山科宮樣御預リ之鍵御勅使へ渡、役使院殿請取、御勅使ヨリ御大工御鍛冶へ御使者參ル、兩人中ノ戸開貫ヌキヲ切ル、左右ノ戸開クモ同斷、神官御祈禱有リ　夫ヨリ御社へ備へ物御祈禱有リ、夫ヨリ役使院殿戸開封ヲハヅシ、尤中北ノ封御勅使之御前へ持行、此時御勅使五疊臺ヨリ下ラセ給ヒテ、右封印御改、南戸開封印ハ山科樣御改、此譯ハ南ノ御藏ハ、東大寺ノ御寶物故如レ此　夫ヨリ御大工御鍛冶仕丁役使

院殿鍵ヲ持行明ケ給ヘドモ、年數相立アカザル故、御鍛冶職ニ仰ラレ戸ヲ開、一山御一老聖蓮院殿御寶藏ノ御寶物ヲ出シ、四聖坊殿ヘ持行、尤御寶物出ス節ハ、梅ノズハエニテ祝詞ヲ上、尤御普請成就マデ、御寶物春日ノ邊八幡宮御寶藏ヘ移シ奉リ、晝夜共御番嚴重也、又四聖坊殿ニテ寶物御改十九日ヨリ廿七日ニ至ル、

右御儀式申ノ刻終、右御寶藏開封略圖一枚スリノモノアリ、コヽニ其要ヲ摘抄ス、

榲邨按ニ、コノヲリ穗井田忠友ガ東大寺正倉院成卷四十五文書ヲモノシツルナリ、明治九年、ソノ文書ヲ淺草文庫ニ於テ手マサグリシ時、文書櫃ノ蓋裏ニ、此御開閉ノ係リ役員及ビ成卷撰者穗井田繆助、大江忠友トカケル一紙ヲ貼付セルヲ見出テ、其ノ成卷文書寫ノハシツカタニウツシ添ヘタリキ、然ルヲ今亦コノ一紙ノ摺物ヲ、或人ノ所藏反古帖ノ中ニ就テ見出ツルガナツカシサニ、見ステ難クテ、其要旨ヲコヽニウツシ出ス、

正倉院御寶物目錄　天保四年御開封

中御倉 一し　慶長八年御新調 長持一箇內

壺燒物　一
琵琶袋唐織　一
藥種　二袋
櫃蓋
瑠璃壺壺八ッ內一ッ瑠璃　一
小道具入箱　一
此內藥種　古錢サイカク　大サ三寸計 赤キ珊瑚ノ如モノ
其外ガンコ　大サ二寸計

中御倉 一み　慶長八年御新調 長持一箇內

甘草　六本
象牙尺八　一箇笛歟笙歟
文鎮　五箇
如石藥今案鐘乳石　四箇滑石一ッ

肉桂　一袋

燒物壺　四箇

水晶網 織物包綿筒、古文書黃ナル紙也、

白木挽物器物　鐘乳　放下石　クワツ石

茶色成石　袋入器物 内蓮ノ葉、一葉佛前ノ遺花歟、如意ノ形、ホリ物アレ、

黑白ノ玉　三島ホリ燒物ノカケ目錄一通

燒物笛　紙包古切入　トウ、ホワレ

藥種數品　白リウコツ袋入　袋齊衡三年六月上旬トアリ、

ワレ器物　白木挽物藥種入具其外數品

藥種　念珠ノキレ　數品一包不分

石木　カン水石内赤キ糸アリ

中御倉
一ふ　慶長八年御新調
長持一箇内

御鞍鐙但鞍一ツシマカキ　二口

轡　二口

沈障　四掛

馬氈鞍覆ナリ　二ツ

中御倉
一ち

丹有弁箱二 一ツ丹入、内錠ヲテンアリ、包紙ニ天平勝寶三年六月上旬同五年其外不分、

中御倉
一ゑ
琴ノ小口天平勝寶三年
慶長八年御新調
長持一箇内　黑器物内數品

古絹類　コウケツ切アリ、内幡ノ破ニ二丈二尺六寸
東大寺大佛殿ト書付アリ、

唐布

鉢燒物　同臺燒物　鉢　臺

古冠破　一

鈴

瑠璃玉　一

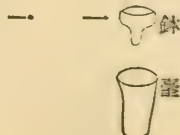
織物打シキ天平勝寶三年東大寺獻物机ト書付アリ、

額ノ樣成盃　二枚

朽木サイシキアリ、

南御倉
一玄　辛櫃一箇内桐操足二紐付

黃熟香　蘭奢待　重目二貫五百目
長サ五尺一寸
本口周リ三尺九寸
本口差渡一尺四寸
末口周リ一尺五寸
末口差亘七寸
中周リ二尺七寸三分

小切
長サ一尺
本口差亘三寸五分
末ノ股一寸五分

內箱上ワ書

黃熟香 東大寺 正倉院

中御倉 一す 慶長八年御新調 長持一箇內

御太刀 四十二振 內三本錦箱入

御琵琶 一面 甲斗

箭 一

板佛 二箇

笙 一

金物花形 數不知

中御倉 一ゆ 御杖 一 慶長八年御新調 長持一箇內

御鏡 一 四角

水晶玉 大小六

璽 十挺

筆 十本

黑塗文夾 一箇 內水晶念珠 笛二管
內色々卷物有レ之、但記錄御經類有レ之、

象牙 一本 長サ五尺 小口差亘三寸餘

花鳥金物鈴四ッ付ニ但一枚鈴なし

大金輪 差亘三尺餘 一
穴

箙 矢一本三羽 一
疊ノ目ノ如アミ黑色

中御倉 一に 長持一箇內

鐵棒 長サ四尺餘 一

唐銅鉢類

銀鉢 八

唐銅鉢 大小 六十五

中御倉 一ひ 長持一箇內

象牙笏 二本

酒器 黑塗 一荷 長サ三尺六寸五分、橫一尺一寸、元口一尺一寸、末口一尺一寸

繪唐紙 大三卷小一卷 四卷

箱 內琵琶子シ一 花形ラテン其外小道具 三 硯箱之形也 大小アリ

文匣 內丁子入一袋 一

箱ノ蓋 一

中御倉 一や 長持一箇內

瑠璃石 但小キ朱辛櫃ニ入、長一尺二寸、厚一寸八分、巾二寸五分、

一　拂子　一
一　龜甲サシ　一
其外小道具アリ
慶長八年御新調
長持一箇内
一も
一　御衣類色々有　古織物數多
一黄　辛櫃一箇内箱操足二ツ付
一　紅沈香　惣重目四貫七百五十目
惣長サ三尺四寸　小切一六寸二分
本口百九寸五分　小切一九寸一分但シラメ
末口百九寸五分
眞中九シ一尺二寸五分　小切一一尺五寸五分
慶長八年御新調
一の　長持一箇内
一　五色唐紙　一箱ニ九巻牛蒡巾
一　御經軸　一箱數不レ知
元祿六年御開封之節、從ニ公儀ニ被ニ仰付ニ分別箱入、白朝ニ箱也、
一白　長持一箇内
一　唐金水瓶
一　御袈裟　二條黒塗文夾　一帖
蒔繪箱　一帖
一　開眼御筆　一本

一　琥珀御杖　一本長三尺九寸五分
節八椒木一尺六寸
一　柄香爐　一
一　瑞碧珠數　一
一　如意琥珀　一
此三色ニ箱入
一　假水晶茶碗　一
一　同水瓶　一
一　金紫銅花入　一
一　貝匙子　十四本
一　木水瓶　一
一　金螺御文匣　一
内
香色御袈裟　一條
慶長八年御新調
一朝　長持一箇
一　假水晶鉢　一
一　黒塗文夾　一内記錄
古文書
一　八角鏡　一面
一　八花形大鏡赤絹張箱入、裏文字アリ八卦アリ、　一面
一　八花形小鏡　一面
一　玉帶　二本箱入
一　糞掃衣御袈裟　一帖
一　琵琶裏斗

南御倉
一セ　長持一箇
但如意歟、東大寺ト書付有、
麻姑手長一尺三寸五分、上ニテヌキ一尺二寸五分、横一尺一寸三分、同幅四寸五分、金物有、
手巾　一　サスガ　二本
磬臺　青黃絹糸歟
御枕錦　一卷　御倚懸同　一
木厨子但壺　丸香箱ラテン　一内數珠有
箱彩色操足　一箇内ニ假水晶水器瑠璃鉢　香盃　一箇
笛　二本　天冠金物
慶長八年御新調
一常　長持二箇內
棊磐　三面一尺六寸三分四方、高四寸二分、一面家有レ之、
赤石百三十三
黑石百二十、但黑赤共花鳥之繡有、何モ棊笥共、
南御倉
一む　長持一箇內
御茵蓐　廿三道具色々アリ
但打敷之類也、三十三之内打敷書付、以神護景雲二年四月三日東大寺行幸献大佛殿

南御倉
一こ　長持一箇內
骨柳蓋　一箇但四角
塗物蓋　一箇但四角
臺底足　一箇
下鞘　七腰
但木札長一寸、横六分、橘夫人奉物書付有、
漢竹笛　一管
象牙笏　一
笙　一管東大寺ト書付アリ
此外小道具共有レ之
小枝ノ笛　一管長一尺三寸、本口八分、末口七分、枝二寸八分、
青石龜造物　一箇凡四寸計有
石ノ笛　一管但彫物有
染象牙尺　一
瑪瑙杯　一口周リ九寸七分重サ十兩三分
同皿　一箇
尺八　三箇長サ六寸、橫五寸、但龜甲ノ形、

菊香盆　一箇亘一尺、但裏飛壇ト書付横五寸有、
尼龍但干物　一箇
如意但彫物アリ七寶ヲ以造レ之、　一箇
籠柳此内絹切色々有、幃下鞘七寶ノ小玉有、　一箇
小辛櫃内文鎮（サンゴ）、小刀數多、　一箇
琵琶ノ破染象牙ヘチ、瑪瑙杯、象眼クワノサキ、

南御倉
一ま　慶長八年御新調
長持一箇内

大鐙琴　一箇今案四線繪圖有
銅柄香爐
如意珖瑁、家有、東大寺ト書付アリ、　一本
御弓立　一箇
黑塗文夾内笛二管、石帶一筋、水精念珠二連入、　一箇
鉾　一本
太刀　二十振
子日クワ

一け　長持一箇内

御衣類　塵芥
南御倉
一う　慶長八年御新調
長持一箇内
御寄懸内一長サ二尺六寸、幅九寸、高サ六寸、但地紫錦・内一長サ二尺三寸、幅一尺二寸、高サ九寸、但白綾、
聖武天皇御袈裟　一箇
香色四丈御袈裟　四衣
内　香色　大衣金紋有　其外茵褥

北御倉
一日　辛櫃一箇内
面　十破損一

一ね　長持一箇内
御杖　二本長サ五尺二寸五分椒木一尺一寸五分
木水瓶　一箇
假水晶茶碗　一箇但鱗形地紋高サ二寸差亘四寸五分
御鏡家　七
七寶念珠　一連端碧ノ珠數一條柄香爐箱ニ入
琥珀念珠　一連
麻古手　二箇
如意　二箇
御弓　一但折有レ之

象牙笛　一管
サスガ　一箇
蒔繪箱內碁有　一箇
ヒヨン　一箇
象牙尺　一箇
開眼供養御筆　一本長サ二尺一寸亘二尺九寸
御筆軸書付有、文治元年八月廿八日開眼、法皇用之天平筆、

一け　長持一箇內
琴　一面　笙　一箇
黑赤キ文夾　一箇　箱　一箇
琵琶甲　二箇　御杖　一箇長三尺九寸五分節八ツ
八花形箱寶　一箇　壺　一箇

中御倉
一て　辛櫃一箇內
鏡　七面但家共絹蓋
金之輪

同
一百　長持一箇內
瓔珞之吹玉　三斗程有
其外鈴金物數多有レ之

同
一列　長持一箇內
玉帶　二本箱入　八花形臺　一東小塔ト書付有
笙　二　玉幡　三掛
サスガ　十三本　絹帶類　一筋
水瓶　一箇

南御倉
一芜　長持一箇內
鞍　二口　轡　二口
馬絹　七箇　押懸　二掛

中御倉
一な　辛櫃一箇內
繪毛氈　十二枚

中御倉
一り　長持一箇內
毛氈內十九枚繪、一枚白、十五枚赤白紫、五枚赤白、　四十枚
面　一

南御倉
一陶　長持一箇內
銀壺但唐草畫樣、內一ツカ子轉臺有、　二周六尺五寸、高一尺三寸、口廣一尺四寸、
輪臺彩付銘、重目十二斤、東大寺銘壺臺、　二

八花形足付鉢　一

銀鉢　二

唐銅御器　九十具 但入子四ツト二ツ

中御倉 一を　辛櫃一箇內

本蠶之道具　其外瑪瑙石破損類數多

北御倉 一雨　長持一箇內

天蓋道具色々有 內蟠裏天平勝寶四年四月　六角箱入

同 一は　辛櫃一箇內

同 一玉　長持一箇內

花籠 數多有レ之　張箱蓋　一

三角箱　一　獅子頭　一

北御倉 一く　龍王面 慶長八年御新調 一　長持一箇內

鈴類

同 一往　長持一箇內 但朽有レ之

御衣類 內御シトウズ有レ之

一　長持一箇內

御幣アリ　唐木御弓立一 長四尺一寸、但下ヨリ一尺一寸五分、橫木有、長八寸

子日辛鋤 東大寺獻、天平寶字二年正月ト書付有、

鹿角 但六股ト云傳　一本

御弓　一張 長サ二尺八寸 但唐八ノ絡絃折レテ在レ之

御杖 但皮付　二本

啄木ノ緒　二筋 長六尺九寸

瓔珞ノ玉切有

鏡 但大小數多

虹龍　一干物

一　辛櫃一箇內 其外不レ分品多有レ之、箱ノ蓋、

篋

一　長持一箇內

菊花形木地盆　一

不レ分品　二　御杖 內壹本龜甲 壹本竹　二

一餘　長持一箇內

琴　二面　丸木弓　一張 長五尺五寸 丸三寸一分

南御倉 一皇　長持一箇六尺餘內

錫杖　三　鉾

南御倉 一さ　辛櫃一箇內

拂子長二尺柄共、板幅二寸三分、毛ノ長サ三分ニテ四寸

柄香爐　二箇　臺　二箇

三鈷トツコ歟　一箇　水瓶　一箇

金剛盤　一箇　金ノ鉢　一箇　其外小道具共有レ之但唐金

南御倉 一よ　辛櫃一箇横二尺三寸、長三尺六寸五分、高二尺五寸、

御沓内 一足猩々緋 一足錦　五足

白毛氈　一枚長サ八尺二寸 横四尺一寸

屏風夾金物　七十二本

御琵琶　一面破損ニ成テアリ

瑪瑙石盤　一面獅子ノ畫有

御脇息　一箇

金紫銅花入　一箇

象牙笏　一本

投壺箭　七本矢根十六本 或折損

卷經　四卷

匙子　二本

鳳凰金物　一箇

鹽硝　一箇

南御倉 一臣　辛櫃一箇內

記錄類

一　辛櫃一箇內

繪毛氈

南御倉 一わ　長持一箇內

籠柳内廿艸三十本有、色黑、亘一尺一寸 深三寸

象牙札銘文 裏　仁王會献盧舍那佛淺香壹對 天平勝寶五年歲次癸巳三月廿九日

如意　一

箱蒔赤栴檀箱蓋ト有　一

御鏡但八花形　一面亘六寸 外家[illegible]

唐銅盆但馬ノ直紋有

綱籠文夾

象牙笏類　一長一尺　横一寸二分
銘文　平城宮御宇中太上天皇恒持心經
裏　天平勝寶五年歳癸巳三月廿九日
籠柳　一
内ニ　聖武皇帝　御筆　唐紙ノ切　献者不レ知
其外小道具共在レ之
フゴ　内切入
龍但干物　二
南御倉
一た　朱辛櫃一箇内
佛臺座　二　眞鍮簾ノ穗　二十六本
丁子　一箱　鞆　數不レ知
藥種　一袋　八花形鏡之家　一箇
箱内和同珍開古錢　數不レ知
南御倉
一雲　長持一箇内
金佛阿彌陀　長サ五寸三分
但天竺佛　横　三寸七分
金直上佛佛長三寸六分
小板佛　一　其外金物多
花形器物　二
南御倉
一歳　辛櫃一箇内

大鏡但八花形　二面亘二尺一寸五分
裏花鳥唐艸
中御倉
一な　辛櫃一箇内
繪毛氈　八枚
南御倉
一致　辛櫃一箇内
木鉢　一　燒物鉢　十六
一劒　辛櫃一箇内
佛具蓮花臺一
釣灯臺一
黒漆彩色箱　一
南御倉
一薑　辛櫃一箇但六角櫃
瑪瑙石盤　五面
中御倉
一れ　辛櫃一箇内
双六盤但木欒
并筒サイ有　一面長二尺三寸五分、横一尺一寸、厚一寸五分、
石硯但六角
瑪瑙石　一箇
冠桶　一箇
籠柳内小キ織物包之筒壹ツ　一箇一尺二寸四分
墨折　三挺
繪圖其外木切有染象牙尺ノ類

南御倉 一ら　辛櫃一箇內

中御倉 一そ　繪毛氈但赤白　五枚　赤キ切〳〵

長持一箇內

蓮花座　二箇　天蓋井天蓋具　二箇

鍮石鉢鍮錫鉢一箇　後光佛後光　一箇

同 一ろ　長持一箇內

唐銅鉢　百廿一　透鉢　三箇內一廻リ香爐 一銀透鉢

中御倉 一號　辛櫃一箇內

古御茵蓐類井幡毛氈等

同 一江　長持一箇內

笙　一箇兩方鈒不レ見 頭竹一尺五寸四分

箱內籠二 壺矢一　三

一　長持一箇內

八角鏡徑一尺七分 繁龍背緋絁帯漆皮箱緋綾覕盛

小鏡丸其外鏡數不知多　二箇

南御倉 一辰　辛櫃一箇內

瑪火鉢但獅子鐶四ッ　二足六ッ 亘一尺三寸 高七寸足共

シトウズ　錦笠

中御倉 一芥　辛櫃一箇內

寶鉢內寶着天平勝寶九年三月二日　金具類

北御倉 一つ　辛櫃一箇內

藥種先年書付在レ之　釣香爐　一箇

龜甲猪口　一箇

一　俵包

鉾但打物三尺餘　三十本

中御倉 一は　辛櫃一箇內

唐銅椀　七具　同鉢青銅鉢　二百二十 二百六ノ一

同皿　三箇　匙子　七十八

銀鉢　百二十三枚

中御倉 一洪　長持一箇內

鏡內圓鏡一面裏ニ十二祠有、亘二尺、八花形一面、亘一尺七寸、　二面

銀鍋亘一尺六寸 高八寸　一箇

唐銅鉢亘一尺一寸、高六寸、但重目五斤四兩書付有、　一箇

中御倉 一へ　辛櫃一箇內

一め（同）　長持一箇內
琵琶（四線五線）　二面　石盤　二面
御鞍　二箇　轡　一口
花形臺　二箇（內大小）　鐙　一掛
角臺　一箇　錠　一箇
一巨　辛櫃一箇內
面　品々　黑塗鞁ノ胴（四共形違）四箇
一陽（中御倉）　長持一箇內
御衣ノ切數多（御衣幷御茵蓐幕細絹）
一寒（北御倉）　長持一箇內
銀平鉢（足付）　二箇　同平鉢　三
同兩面鉢　一
一麗（北御倉）　長持一箇內
面　十二　銀平鉢　一箇
一天（南御倉）　長持一箇內
鷹毛御屛風　一雙（但十二枚）
一地（同）　長持一箇內

繪屛風　二十四枚（但內六枚觀音像）
一制（中御倉）　辛櫃一箇內
シャボン有　鉢　一箇
一珠（北御倉）　辛櫃一箇內
大面　一　御衣朽有
一　辛櫃一箇內
面　鏡
一　長持一箇內
丸木弓　數十本
一鳥（北御倉）　辛櫃一箇內
面
一宿（北御倉）　長持一箇內
唐銅碗皿　百七十七　唐銅匙子　二百六十七
一河（同）　辛櫃一箇內
花籠　一櫃　木鉢（蓋付）　一
一　辛櫃一箇內
八角ノ大臺上ニ鈑付　一箇

北御倉
一律　長持一箇內
御幡道具損有レ之　三櫃　幡柄　八本
同
一加　長持一箇內
面　十二　板佛　二枚
貝フメツ貝　一箇
同
一闕　辛櫃一箇內
面　三　御衣朽損タル者
鉢鞘　佛手
三足花皿
北御倉
一　長持一箇內
花籠　金ノ輪
一　長持一箇內
御衣類切
一秋　長持一箇內
面
北御倉
一ぬ　長持一箇內
絹ツヽレ幕ノ紐

一つ　長持一箇內
唐藥種
一と　長持一箇內
藥種芫花
北御倉
一大　長持一箇內
幡切類
一霜　長持一箇內
ゴザノ切
中御倉
一宇　朱辛櫃一箇內
御茵蓐　二　機子　一
五色玉　百五十計
麻姑手　但亘五寸五分厚二寸二分　挽物香筥ニ入
箱　差渡一尺三寸四分高サ一寸五分但蓋ナシ　二箇
丸キ臺　籠御圓臺ト有、差亘一尺五寸五分、高三寸二分足共四足付　一箇　裏ニ吉祥堂ト書付有
四角ノ臺　內一ツ千手堂ト書付有但無レ之　二箇
打鋪　二箇　籠柳　一
御衣之裳　一

絹幕綱　　　シャボン
一　辛櫃一箇內
面
花籠
鉢
北御倉一呂　長持一箇內
古御衣類
鏡ノ破同臺　　六角ノ櫃　鉾ノ穗
北御倉一張　辛櫃一箇內
矢籠三十三幷矢三十本根共　一櫃
箱何共名付ガタシ　二箇
彩色六角ノ臺高サ四寸、寬壽ト書付アリ、　一箇
矢　　數十本
北御倉一來　長持一箇內
竹根矢　一櫃
一　辛櫃一箇內
琴ノ板損シ　三枚

北御倉一き　辛櫃一箇內
金物燒物壺之類　　四ツ
挽物曲物ノ內ニ水晶ノ玉有
銅水瓶
盃黑塗　　三箇
彫スカシ　大香爐蓋　　彩色板　一
一　辛櫃一箇內
吉華形木地ノ盃　　數不レ知
竹　一本　　龜甲杖法師道鏡ノ杖　一本
不レ分品
一　辛櫃一箇內
拂子　　柄香爐
小道具類　　皮文夾
金皮文夾蓋
塵芥其外不レ開分略レ之

仁和寺御室御物實錄

合
金銀泥繪御厨子壹基有二金銅鏁子兩面覆一
純金金剛界卅七尊像　銀光但七尊金銅座
一躰四寸
四躰各二寸五分
卅二躰各一寸五分
純金二寸阿彌陀佛壹躰
同脇士菩薩像貳躰
木像四王像貳躰
以上五躰安二置高八寸黑漆圓佛殿一
金銅佛像參躰
一躰七寸毘盧遮那佛
一躰五寸无量壽佛
一躰五寸藥師佛

純金四寸觀音像壹躰
白檀五佛像　納二同木八角寶殿一覆岐佐木筒
唐破合佛殿陸基
一基白檀高八寸外有二彫物一
一基黑漆高八寸安二置金佛一
一基黑漆高七寸安二置白檀佛一
三基白木高各五寸一基入二黑漆筒一
筐甲御厨子壹基有二鐵鏁子一
兩部印佛貳枚各入二兎褐袋一
胎藏界中五十三尊印佛壹枚
金剛界卅七尊并十六尊五大尊外部廿天等印佛一枚
胎藏九尊印佛壹枚
彌勒淨土印佛壹枚
延命印佛壹枚有二錦袋一
鏡印佛壹面有二黑漆莒一
黑漆塔印佛壹枚
唐織佛貳卷

文殊像壹卷
符印壹枚
以上納二岐佐木筥一合一有二兎褐縫立一
法華經壹部複一卷　納二黑漆管并牙管一入二錦袋一
最勝王經壹部複一卷　納二黑漆管一入二布袋一
仁王經壹部
金剛般若經壹卷以上三卷複一卷　納二墨塗管一入二布袋一
大般若經品名壹卷　納二黑漆管一入二布袋一
金剛般若經壹卷　理趣經壹卷
雜眞言壹卷　兩部小儀軌壹卷
雜咒壹卷　以上五卷入二布袋一
孔雀王咒壹卷　岐佐木香小壺貳口各入二沉香粉一
以上惣納二金銀蒔繪牙象筥一合一有二兎褐縫立花足等一
金銅八寸五股鈴壹口鑄二着三股形一
同五股壹枚　同三股壹枚
同獨股壹枚　同四寸羯磨壹枚
同金剛盤壹枚　同輪壹枚入二錦袋一

同七寸五股鈴壹口　同五寸寶鈴壹口有二水精壺一加二金銅盤一枚一
以上納二白鑞村濃塵木筥一合一有二兎褐縫立一
金銅三寸五分五股鈴壹口　純金同寸五股壹枚
銀同寸三股壹枚　同獨股壹枚
同輪壹枚　金銅四寸鉀壹枚
同羯磨肆枚　同金剛盤壹枚
同五寸寶鈴壹口有二水精壺一　同八寸鐝肆枚
同九寸五分五股壹枚　同三股壹枚
白銅七寸五股壹枚　同三股壹枚
以上納二白鑞村濃塵木筥一合一有二兎褐縫立一
跋折羅壹枚入二黑漆平筥一副二相傳記文一　跋折羅錫杖壹枚入二納袋一
菩提樹葉壹枚納二木筥一　銀隨求鐶壹枚納二陁羅尼一入二黑漆筒一
師子明壹枚入二編袋一
以上納二蒔繪張筥一合一
青茶垸提壺壹口　白茶垸蓮華形壺壹口加レ蓋
白茶垸小壺貳口　白瑠璃壺壹口加二黑柿蓋并盤一
紺瑠璃小壺壹口　銀小戸瓶壹口大六兩三分有二木母一

以上納二黒漆革莒一合一

劒肆柄各入レ袋

一柄靜觀僧正有レ緒　一柄壹演僧正

一柄有金剛鈴柄　一柄

不動尊索貳條　璃迦壹口

麈尾壹枚　金剛鈴壹口

牛角經袋壹管　護摩杓貳枚

唐白銅髮刀壹枚　水精御枕壹枚

御耳鑷色取平莒壹合納二銀御耳鑷一枚、木耳鑷三枚、銀鑷子一枚、綿少々一

竹布御手巾貳條　納二淺香押物平莒一合一

牛黃壹枚入二錦袋一

筺乙御厨子壹基鏁子同上

三衣壹具赤色金信僧正貢　納二金銀蒔繪一合一有二錦縫立一青鈍色袋

三衣壹具鈍色源典侍請水寺諷誦物者　納二黒漆莒一合一有二紫色綾袋一

唐紬惣衣壹條青色廿五條　納二黒漆莒一合一有二綺袋一蒔繪居莒

唐蓮布惣衣壹條青色副二唐記文一明達法師貢　納二蒔繪莒一合一有二布錦縫立青鈍色綾袋一

唐布惣衣壹條赤色加二横被一　納二黒漆莒一合一有二綾縫立錦覆布袋等一

荷布袈裟壹條木蘭色加二𩋙文綾横被一法三親王　納二葛莒一合一有二縫立一

布袈裟壹條赤色加二横被一請延僧都貢　納二白鑞平塵莒一合一有二綾袋居莒等一

迦葉竹布袈裟壹條赤色加二横被一大納言昇朝臣貢　納二葛莒一合一有二帀袋一

五衣壹具鈍色中宮御衣　納二蘇芳莒一合一有二銀筋鈍色綾袋一

五衣壹具黒色小八條家　納二銀蒔繪莒一合一有二袋居莒等一

青茶垸御硯壹口　白鑞瓶壹口

尺壹枚　小刀壹柄

續墨壹枚　筆貳管

以上納二岐佐木莒一合一有二白鑞置口一

銀御銚壹口大十二兩　同水瓶輪壹枚小五兩三分

青瓷坏壹口　朱中盤壹枚

高松槌子壹枚　權衡壹具

以上納二漆地螺鈿莒一合一有二白鑞置口、錦縫立一

銀銚壹口大八兩三分加二黒柿盤一口一　銀水瓶輪壹枚小七兩

黒水精槌子壹枚　銀權衡壹具重小四兩一分、盤小三兩一分、

以上納二榎木莒一合一有二白鑞置口一

岐佐木甲御厨子壹基有二金銅鏁十兎褐覆一

菩提子御咒珠捌連

一連水精辻同珠算　納ニ純金筥一合一有ニ錦縫立一　大一斤五兩一分

一連水精向辻同腋珠各八同珠算　納ニ銀筥一合一有ニ錦縫立一　大十三兩一分三朱

一連水精辻同腋珠廿二同珠算　納ニ銀筥一合一有ニ錦縫立一　大十三兩

一連水精對辻同腋珠各八同珠算　納ニ銀筥一合一　大十二兩

一連水精辻腋珠八同珠算　納ニ銀筥一合一有ニ錦縫立一　大七兩一分

一連水精辻同腋珠八同珠算　納ニ銀筥一合一有ニ錦縫立一　大十三兩一分

一連水精辻同腋珠卅八同珠算　納ニ銀筥一合一　大七兩三分

一連同辻紫檀腋珠十六琥珀珠算　納ニ銀筥一合一有ニ綾縫立一　小十兩

以上惣納ニ淺香筥一合一有ニ白鑞置口花足一

金剛子御咒珠肆連

一連同辻珠算　納ニ銀筥一合一有ニ兎褐縫立一　大十三兩三分三朱

一連琥珀辻同珠算　納ニ銀筥一合一有ニ錦縫立一　大十四兩

一連水精辻同腋珠十同珠算　納ニ蒔繪筥一合一有ニ綾縫立一

一連水精辻同腋珠六同珠算　納ニ蒔繪筥一合一有ニ縫立一

蓮子御咒珠貳連

一連水精辻赤木腋珠十同珠算　納ニ蒔繪筥一合一有ニ縫立一

一連以ㇾ金入ニ目磨一琥珀對辻同腋珠各二同珠算　納ニ銀筥一合一有ニ錦縫立一　大七兩一分

以上六連惣納ニ榿木筥一合一有ニ白鑞置口、羅縫立一

金青玉御咒珠參連　納ニ蒔繪筥一合一有ニ縫立一

一連琥珀辻水精琥珀珠算

一連琥珀辻水精珠算

一連水精對辻水精幷青珠咒算

琥珀御咒珠貳連同裝束　納ニ蒔繪筥一合一有ニ縫立一

黃玉御咒珠　納ニ蒔繪筥一合一有ニ縫立一

一連水精辻同珠算　一連同珠算琥珀辻

一連同辻珠算水精腋珠八

紫玉御咒珠伍連　納ニ蒔繪筥一合一有ニ縫立一

一連水精對十同珠算　一連染水精辻同腋珠十二同珠算

一連同珠算水精辻　一連水精辻同腋珠八同珠算

一連琥珀辻同珠算

五寶御咒珠壹連同珠算水精對辻　納ニ金平塵筥一合一有ニ縫立一

馬瑙御咒珠參連　納ニ蒔繪筥一合一

一連同對辻水精咒算　一連同辻水精腕珠四同珠算
一連同珠算水精辻同腕珠四
桃花石御咒珠壹連水精辻同珠算
師子齒御咒珠壹連同裝束　以上二連納二平塵筥一合一
有二縫立一
以上十九連惣納二淺香筥一合一有二白鑞置口花足一
水精御咒珠拾捌連上品
三連同裝束　納二蒔繪筥一合一有二縫立一
三連同裝束　納二蒔繪筥一合一有二縫立一
三連同裝束　納二蒔繪筥一合一有二縫立一
四連同裝束對辻　納二蒔繪筥一合一有二縫立一
三連同裝束一連對辻　納二蒔繪筥一合一有二縫立一
二連一連同對辻雜寶咒珠卅　納二黑漆筥一合一
黑水精御咒珠貳連同裝束對辻　納二蒔繪筥一合一有二錦縫立一
以上廿連惣納二岐佐木筥一合一有二白鑞置口羅縫立一
鍮石御香爐壹口
鑪一柄　金銅火取一口有二銀師子形一

銀盞壹枚小二兩三分　鍮石輪壹基
銀香壺貳口各小八兩三分三朱　銀箸匙各壹枚幷一兩一分
火鏡壹枚加レ石　岐佐木火鏡筥壹合
以上納二岐佐木牙象筥一合一
純金御香鑪壹具
鑪一柄大一斤二兩　銀火取壹口小八兩二分三朱
同盞壹枚小六兩三分
純金輪壹基大十兩一分　銀香壺貳口一口大六兩五朱一口大六兩二分
同箸匙各壹枚幷小二分同火鏡壹枚加レ石
同火鏡筥壹合大五兩三分二朱　小刀壹柄
以上納二紫檀地螺鈿牙象一合一有二純金置口錦縫立花足等一
銀香鑪壹具
同鑪壹柄大十一兩二分　同火取壹口大二兩三分
同盞壹枚小四兩　同輪壹基大七兩三分
同香壺貳口一口小十二兩一口小十兩三分同箸匙各壹枚幷小一兩
同火鏡壹枚加二雜具一　同火鏡筥壹合大五兩一分三朱
小刀壹柄　白猪毛帚壹枚染蘇芳

以上納ニ淺香牙象莒一合一有ニ銀置口一

瑠璃御香鑪壹具

鑪壹柄以ニ銀装束一中有ニ人形四人水精兩珠等一

銀火取壹口小三兩一分

同蓋壹枚小二兩一分銘有ニ舍利一之由

同香壺貳口一口大八兩二分二朱一口大八兩

同箸匙幷臺各壹枚幷小一兩

同火鏡壹枚加ニ雜具一

同火鏡莒貳口一合大六兩三分二朱一合大六兩二分二朱

小刀壹柄

以上納ニ金銀蒔繪莒一合一有ニ白鑞置口錦縫立花足一

赤銅御香鑪壹具

鑪　壹柄

金銅火取壹口有ニ銀師子形一

銀蓋壹枚小三兩三分　赤銅輪壹基

銀香壺貳口各小十兩　同箸匙各壹枚幷小一兩

同火鏡壹枚加ニ雜具一　同火鏡莒壹合大四兩三分

以上納ニ岐佐木牙象莒一合一

紫檀香鑪壹具

鑪　壹柄

金銅火取壹口　同蓋壹枚

紫檀輪壹基以ニ銀装束一　銀香莒貳口各小四兩三分、一合入ニ香粉一、

火鏡壹枚加レ石　金銅箸匙各壹枚

同花盤壹脚

以上納ニ金銀蒔繪莒一合一有ニ白鑞置口、綺縫立一、

御如意陸枝

貳枝白角　壹枚白角有ニ泥繪一、納レ縫、

壹枝黑角　壹枝天牛角

壹枝龜甲

岐佐木乙御厨子壹基鏁子翟等同前

雜玉經莒壹合有ニ純金骨一奉レ入ニ阿彌陀經二卷一　加レ臺

木槵子御咒珠貳

一連同珠算物形辻　納ニ黑漆莒一合一

一連同珠算水精辻同腋珠　納ニ黑漆莒一合一有ニ錦縫立一

水精御咒珠捌連同裝束

四連　納二黑漆莒一合一

二連　納二黑漆莒一合一有二縫立一

二連　納二黑漆莒一合一

以上十連惣納二榎木莒一合一有二白鑞置口、羅縫立一

水精御咒珠參連同珠算物形辻　納二黑漆莒一合一

同平咒珠肆連　納二黑漆莒一合一有二縫立一

三連同裝束

一連琥珀裝束

水精御咒珠壹連同裝束

黃玉御咒珠壹連同裝束已上二連納二黑漆莒一合一有二縫立一

五香御咒珠壹連同裝束　納二蒔繪平莒一合一有二縫立一

棗核御咒珠壹連同裝束　納二黑漆莒一合一

牙御咒珠壹連同裝束　納二平文木莒一合一

雜寶小咒珠漆連二連各貫二千八百一　納二泥繪莒一合一有二縫立一

䳑見御咒珠參連　納二黑漆莒一合一

一連同裝束

二連水精裝束

杏核御咒珠壹連同珠算金剛子辻　納二黑漆莒一合一有二縫立一

以上廿三連惣納二岐佐木莒一合一有二白鑞置口、羅縫立一

沈香御咒珠參連同裝束　納二黑漆莒一合一

同平咒珠壹連　納二黑漆莒一合一

淺香平咒珠壹連同裝束　納二黑漆平莒一合一有二縫立一

五香平咒珠壹連同裝束　納二黑漆平莒一合一有二縫立一

紫檀平咒珠壹連同裝束　納二黑漆莒一合一

蘇芳平咒珠壹連同裝束　納二黑漆莒一合一有二縫立一

杏核御咒珠壹連同裝束

梅沈御咒珠壹連同裝束　以上二連納二黑漆莒一合一

黑柿平咒珠壹連同裝束　納二黑漆莒一合一

人骨平咒珠壹連同裝束　納二黑漆莒一合一有二縫立一

貝御咒珠壹連同裝束　納二蛤貝一合一

以上十三連惣納二榎莒一合一有二白鑞置口、羅縫立一

鍮石御香鑪壹具

鑪一柄　金銅火取一口

銀蓋一枚小三兩三分　純金輪一基大五兩一分三朱
銀香壺二口各小十兩二分各入二名香一
同箸匙各一枚幷小三分
火鏡一枚
銀火鏡莒一合小十兩二分
小刀一柄
以上納二金銀蒔繪牙象莒一合一有二白鑞置口、錦縫立一
銀御香鑪壹具
鑪一柄大十一兩三朱　金銅火取一口
銀蓋一枚小三兩一分　同輪一基大六兩二分
同香壺二口一口小五兩三分、一口小五兩二分、
同箸匙各一枚幷小二分火鏡一枚
銀火鏡莒一合小九兩二分
以上納二蘇芳莒一合一有二錦縫立一
赤銅御香鑪壹具
鑪一柄　金銅火取一口
銀蓋一枚小四兩二分　赤銅輪一基

沈香壺二口　銀箸匙各一枚幷小一兩一分
火鏡一枚　平文火鏡莒一合
小刀一柄
以上納二岐佐木牙象莒一合一
紫檀御香鑪壹具
鑪一柄　銀火取一口小七兩二分
同蓋一枚小二兩一分　牙輪一基
銀匙一枚小三分　金銅箸幷臺各一枚
以上納二黑漆地螺鈿莒一合一有二錦縫立、同裂一
渤海金銅香鑪壹具
鑪一柄沈香柄　白銅火取一口
銀蓋一枚小四兩　白銅輪一基
同箸匙各一枚　火鏡一枚
白銅火鏡盤一枚
以上納二革丸莒一合一有二錦縫立一
白銅香鑪壹具
鑪一柄　金銅火取

銀盞一枚小二兩二分　白銅輪一基
金銅箸匙各一枚　火鏡一枚
蘇芳火鏡莒一合有二銀置口一
以上納二黑漆革牙象足莒一合一
金銅蓮花形香鑪壹枝入二納袋一
以上納二葛莒一合一
白角香鑪壹具
鑪一柄　同火取一口
同盞一枚　同輪一基
岐佐木香鑪臺具
鑪一柄　金銅火取一口
銀盞一枚小二兩三分　岐佐木輪一基
以上二具納二蒔繪莒一合一
岐佐木丙御厨子壹基鏁子鑰同上
銀壺肆口各大七兩三分
二口各入二沈香粉一
二口各入二白檀粉一

同莒貳合一合大八兩一分 一合大七兩二分
同箸匙并臺各壹枚并小三兩三分
同火鏡臺枚有二雜具一
小刀壹柄
以上納二淺香莒一合一有二白鑞置口、花足一
銀火舍壹口加レ蓋大七兩　同壺貳口一口大七兩一分、一口大六兩三分、
同莒壹合大七兩　同箸匙各壹枚并小二分
同火鏡壹枚加二雜具一　小刀壹柄
以上納二金銀蒔繪莒一合一有二白鑞置口、綺縫立一
銀火舍壹口加レ蓋大四兩
同壺貳口各小十一兩三分
同莒壹合大四兩一分
同箸匙各壹枚并小三分
火鏡壹枚加二雜具一
小刀壹柄
以上納二金銀蒔繪牙象莒一合一有二白鑞置口、錦縫立一
銀火舍壹口加レ蓋大六兩三分

同打出足壺貳口 各大四兩二分 入二沈香粉一

同莒壹合 大六兩二分

同馬頭盤壹枚 大五兩一分

同箸匙幷臺各壹枚 幷小二兩二分

火鏡壹枚 加二雜具一

以上納二金銀蒔繪朱牙象莒一合一 有二白鑞置口一、牙象損、

銀火舍壹口 加レ蓋、大九兩、

同壺貳口 一口大三兩三分、一口大三兩一分、

同莒貳合 一合大六兩一分、一合大三兩三分、

同箸匙幷臺各壹枚 幷小三兩二分

同火鏡壹枚 加二雜具一

小刀壹柄

以上納二金銀蒔繪莒一合一 有二白鑞置口一、錦縫立一

金銅火舍壹口 有レ蓋

同花瓶貳口 各三寸

岐佐木二重小莒壹合

一重入二沈香粉一

一重入二火鏡幷雜具一

香印壹枚

以上納二岐佐木方莒一合一 有二兎褐縫立一

銀藥壺肆口 二口各小廿四兩、一口小廿二兩二分三朱、一口小廿二兩一分

二口各入二紫雪一

二口各入二紅雪一

以上納二淺香莒一合一 有二白鑞置口一、綺縫立一

槻木茶研壹具

銀銚子壹口 小廿五兩許 同茶筒壹口 有二鐶子一、幷小十八兩二朱、

同茶散壹枚 小四兩二分 同水葩輪壹枚 小五兩三分

青茶垸壹口 加二適毛子一

以上納二淺香莒一合一 有二白鑞置口一

銀銚子壹口 大九兩

同　蓋壹枚 大六兩三分

青茶垸壹口 加二黑漆毛子一

以上納二岐佐木莒一合一 有二羅縫立一

高松茶研壹具　鐵銚子壹口

蒔繪茶筩壹口　金銅茶散壹枝

鐵匙壹枚　青茶垸壹口加ニ朱漆毛子一

以上納ニ岐佐木莒一合一有ニ白鑞置口一

銀御鉢壹口大七兩二分

同輪壹口小九兩四朱

同別盤壹口小十兩二分、加ニ黑漆盤一、

同佛供施食盤貳口一口小五兩一分、一口小五兩、

同小鋺伍口一口小十兩一分、一口小十兩三分、一口小九兩三分三朱、一口小九兩三分、一口小九兩二分、

同箸匙各壹枚幷小五兩三分

以上納ニ兎褐袋壹口一

岐佐木丁御厨子壹基鏁子覆等同上

唐納袈裟貳條

一條節紬甲、紺綾裏、加ニ青白橡横被一、納ニ平文木莒一合一有ニ白鑞置口、絞結縫立一

一條深紫綾甲、赤紫裏、加ニ赤白橡横被一納ニ平文木莒一合一有ニ白鑞置口、絞結縫立一

倭納袈裟貳條

一條黑紫綾甲、紺裏、加ニ青白橡横被一、納ニ黑柿木莒一合一有ニ白鑞置口、兎褐縫立一、

一條深紫綾甲、紺裏、加ニ青白橡横被一、納ニ黑柿木莒一合一有ニ白鑞置口、兎褐縫立一、

唐綿納袈裟壹條節紬甲紺裏　納ニ銀平塵木莒一合一有ニ兎褐縫立一、

唐荷糸袈裟壹條青鈍色、加ニ横被一、

唐布袈裟壹條鈍色　唐布惣衣壹條赤色十三條

以上三條納ニ岐佐木莒一合一有ニ白鑞置口一、

黃丹綾甲袈裟壹條加ニ同横被一納ニ榎木莒一合一有ニ白鑞置口、羅縫立一、

行基菩薩布納袈裟壹條加ニ横被一　納ニ色取莒　合一有ニ縫立一、

荷糸袈裟壹條加ニ同横被一納ニ蘇芳牙象莒一合一

御座具肆條　納ニ岐佐木莒一合一有ニ白鑞置口、羅縫立一、

白木調韓櫃壹合ニ枚各入

居錫杖肆枚ニ枚各入ニ納袋一　納ニ白鑞平塵細長莒一合一有ニ縫立一

立錫杖壹枚入ニ納袋一

鐵倭鉢肆口各有レ輪

迦葉黑漆石鉢壹口有レ輪

唐白木鉢壹口有レ輪

青瓷鉢壹口有レ輪

赤銅尼瓶壹口

白銅人形水瓶壹口

（新カ）雑羅鷄頭瓶壹口
青茶垸水瓶貳口
同汲瓶壹口
青瓷戸瓶壹口
黑漆木瓶壹口
同木節槐壹口
同戸瓶壹口
白茶垸唾壺壹口
杖參枚
　一枚波羅門僧正杖納ニ鈿寶一
　一枚迦葉蘇芳杖
　一枚納ニ大刀一
卷○其（本ノマヽ）
足別机壹前
御杖拾漆枚
右御物以ニ去承平元年七月十日一、自ニ
御室一假所レ被レ上ニ納寺家寶藏一也、而彼時實錄帳紛
失無レ實、仍今相ニ加未納物造實錄帳一、同假撿納ニ本
藏一如レ件。抑此帳一通各々分書加ニ納厨子韓櫃等一、
又以ニ惣帳三通一分ニ置寺家圓堂幷觀音院西室等一、但
若可レ開ニ闔寶藏一者、加署之人必令ニ會集一、至ニ于後
代一者御後爲レ長之人、幷ニ寺家別當三綱圓堂三僧
等一、同共可レ勤ニ此事一、相ニ對件等帳一、勘ニ知御物數一、若
有ニ一人不一レ會、不レ得三輙開ニ見之一、

天曆四年十一月十日

圓堂三僧
　権少僧都　寛空
　大法師　平遍
　大法師　寛忠
御經藏勾當
　大法師　寛穗
寺司
　別當大法師　□□
　権別當大法師　寛救

上座大法師　仁寛

寺主從儀師　禪鴻

都維那法師　禪雄

實錄使

大內記兼美濃介菅原朝臣文時

文章生和氣　規行

仁和寺御室御物實錄卷子原本係于大內記菅原文時卿連署竪九寸二分半淡墨作絲欄文字間篆文朱印曰宇多院印方一寸九分許每紙十五六所背面接縫處亦有此印今從三位前田利嗣君秘襲也

明治十四年九月　小杉榲邨影寫

本朝法家文書目錄

律付律附釋、律集解、律疏、　令付令釋、令義解

格弘仁格、貞觀格、延喜格、古格、　式弘仁式、貞觀式、延喜式、儀式、古式、内裏儀式

雜官曹事類目錄、外官事類目錄、事抄、次事抄、新抄、上古問答、八十一例、六十二條、十七例、彈例、問答、

一律

律一部十卷十三篇

元正天皇養老二年、贈太政大臣正一位藤原朝臣不比等奉レ勅作二律令幷卅卷一、天平勝寶九年五月廿日勅令施行、

第一名例上　第二名例下　第三衛禁職制　第四戸婚
第五廐庫擅興　第六賊盜　第七鬪訟　第八詐僞
第九雜　第十捕亡斷獄

律附釋一部十卷

第一名例上　第二名例下　第三衛禁　第四職制
第五戸婚　第六廐庫擅興　第七賊盜　第八鬪訟
第九詐僞雜　第十捕亡斷獄

律集解一部卅卷

第一名例　第二名例　第三名例　第四名例
第五名例　第六名例　第七衛禁　第八衛禁
第九職制　第十職制　第十一職制　第十二戸婚
第十三戸婚　第十四戸婚　第十五廐庫　第十六擅興
第十七賊盜　第十八賊盜　第十九賊盜　第廿賊盜
第廿一賊盜　第廿二鬪訟　第廿三鬪訟　第廿四鬪訟
第廿五詐僞　第廿六雜　第廿七雜　第廿八捕亡
第廿九斷獄　第卅斷獄

律疏一部卅卷

第一名例　第二名例　第三名例　第四名例
第五名例　第六名例　第七衛禁　第八衛禁
第九職制　第十職制　第十一職制　第十二戸婚
第十三戸婚　第十四戸婚　第十五廐庫　第十六擅興
第十七賊盜　第十八賊盜　第十九賊盜　第廿賊盜
第廿一鬪訟　第廿二鬪訟　第廿三鬪訟　第廿四鬪訟
第廿五詐僞　第廿七雜　第廿八捕亡　第廿九斷獄
第卅斷獄

律六卷大寶元年不比等大臣與レ令遂レ作、

一令

令一部十卷卅篇

養老二年與レ律遂レ作、天平勝寶九年五月廿一日勅令施行、延曆十一年六月又令施行、天長十年二月十五日右大臣清原夏野等奉レ勅撰二義解一、同年十二月又上二表義解一、承和元年十二月八日又令施行、

第一官位一　第二職員令二、後宮職員令三、東宮職員令四、家令職員令五、第三神祇六、僧尼七、
第四戶八、田九、賦役十、學十一、　第五選叙十二、繼嗣十三、考課十四、祿十五、
第六宮衛十六、軍防十七、　第七儀制十八、衣服十九、營繕廿、　第八公式廿一、
第九倉庫廿二、廐牧廿三、醫疾廿四、假寧廿五、喪葬廿六、　第十關市廿七、捕亡廿八、獄廿九、雜三十、

令釋一部七卷卅篇

第一官位、職員、後宮職員、東宮職員、家令職員、神祇僧尼、　第二戶、田、賦役、學、
第三選叙、繼嗣、考課、祿、　第四宮衛、軍防、儀制、衣服、營繕、　第五公式、
第六倉庫、廐牧、醫疾、假寧、喪葬、關市、捕亡、　第七獄、雜、

令義解一部十卷卅篇并序

天長十年二月十五日右大臣清原夏野等奏進

第一官位、職員、後宮職員、東宮職員、家令職員、　第二神祇、僧尼、(◎戶脫カ)第三田、賦役、學、
第四選叙、繼嗣、考課、祿、　第五宮衛、軍防、第六儀制、衣服、營繕、　第七公式、
第八倉庫、廐牧、醫疾、　第九假寧、喪葬、關市、捕亡、　第十獄、雜、

令廿二卷天智天皇元年作、近江國令是也、

令十一卷大寶元年不比等大臣與レ律遂レ作、

一格

弘仁格一部十卷十五篇并序

起レ自二大寶元年一迄二于弘仁十年一、凡一百十九年、弘仁十一年四月十一日、大納言藤原冬嗣等奏進、

第一神祇、中務、　第二式部上、第三式部下、第四治部、
第五民部上、　第六民部中、第七民部下、第八兵部、
第九刑部、大藏、宮內、彈正、京職、　第十雜、

貞觀格一部十二卷十八篇并序

上起二弘仁十一年一、下迄二貞觀十年一、凡卌九年、貞觀十一年四月十三日、大納言藤原氏宗等奏進、

第一神祇、中務、　第二式部上、　第三式部中、　第四式部下、　第五治部上、
第六治部下、　第七民部上、　第八民部下、　第九兵部、刑部、大藏、宮內、彈正、京職、
第十雜、　第十一臨時下、

延喜格一部十卷十一篇并序

上起レ自二貞觀十一年一、下至二于延喜七年一、凡卌九年、延喜七年十一月十五日、左大臣藤原時平等奏進、

第一神祇、中務、　第二式部上、第三式部下、　第四治部上、　第五治部下、

第六民部上、第七民部下、第八兵部、第九刑部、大藏、宮內、
第十雜、臨時上、臨時下、已上三代格類聚已了、

古格廿三卷

一式

弘仁式一部卅卷 弘仁十一年四月廿二日與格奏進、

第一神祇一 四時祭、第二神祇二 臨時祭、第三神祇三 大神宮、第四神祇四 齋宮、
第五神祇五 踐祚大嘗會、第六神祇六 齋院、第七神祇七 神名一、第八神祇八 神名二、
第九神祇九 神名、第十神祇十 神名、第十一太政官、
第十二中務、內記、監物、主鈴、主鎰、第十三中宮、大舍人、圖書、第十四縫殿、
第十五內藏、第十六陰陽、第十七內匠、內藥、第十八式部上、
第十九式部下、第二十大學、散位、第廿一治部、雅樂、玄蕃、諸陵、第廿二民部、
第廿三主計上、第廿四主計下、第廿五主稅上、第廿六主稅下、
第廿七兵部、第廿八造兵、鼓吹、隼人、第廿九刑部、判事、囚獄、
第卅大藏、織部、掃部、第卅一宮內、第卅二大膳、
第卅三木工、大炊、主殿、第卅四典藥、第卅五正親、內膳、造酒、園池、
第卅六采女、主水、主油、內掃、第卅七彈正、左右京、東西市、第卅八六衛府、
第卅九左右近衛、左右兵衛、左右衛門、第卌左右馬寮、兵庫、雜事、左右

貞觀式一部廿卷 貞觀十三年八月廿五日奏進、

第一神祇一、第二神祇二、第三神祇三 神名上、第四神祇四 神名中、
第五神祇五 神名下、第六太政官、第七中務、內記、監物、主鈴、中宮、大舍人、圖書、縫殿、
第八內藏、陰陽、內匠、典藥、第九式部、大學、第十治部、雅樂、玄蕃、第十一民部、
第十二主計、第十三主稅、第十四兵部、造兵、鼓吹、隼人、刑部、大藏、織部、
第十五宮內、大膳、木工、大炊、主殿、第十六典藥、掃部、
第十七正親、內膳、造酒、采女、主水、第十八彈正、左右京、東西市、春宮、勘解由、
第十九左右近衛、左右兵衛、左右馬寮、兵庫、第廿雜、

延喜式一部五十卷 延喜五年十二月廿六日、左大臣藤原忠平等撰

第一神祇一 四時祭上、第二神祇二 四時祭下、第三神祇三 臨時祭、
第四神祇四 伊勢大神宮、第六神祇六 齋院、第七神祇七 踐祚大嘗會、
第八神祇八 祝詞、第九神祇九 神名上、第十神祇十 神名下、第十一太政官、
第十二中務、內記、監物、主鈴、主殿、第十三中宮、大舍人、圖書、第十四縫殿、
第十五內藏、第十六陰陽、第十七內匠、第十八式部上、
第十九式部下、內匠、第二十大學、第廿一治部、雅樂、玄蕃、諸陵、
第廿二民部上、第廿三民部下、第廿四主計上、第廿五主計下、
第廿六主稅上、第廿七主稅下、第廿八兵部、第廿九刑部、判事、囚獄、

試生等儀、四月一日奏成選短冊儀、四月十五日授成選位記儀、奏銓擬郡領儀、太政官廳補任郡領并授位記儀、

第十 八月十一日太政官廳官定考儀、十一月一日進御曆儀、同廿三日賜位記儀、同日中丑奏御宅田稻數儀、奉頒山陵幣儀、進御藥儀、追儺儀、任出雲國造儀、太政官曹司廳任紀伊國造儀、飛驛儀、固關使儀、開關使儀、賜遣唐使節刀儀、遣唐使進節刀儀、賜將軍節刀儀、將軍進節刀儀、奏年終斷罪儀、毀位記儀、擧哀儀、弔喪儀、贈品位儀、

延喜儀式一部十卷

第一 新年祭儀、春日祭儀、大原野祭儀、園并韓神祭儀、釋奠講論儀、松尾祭儀、賀茂祭警固儀、同祭儀、奏御卜儀、月次祭儀・神今食儀、大嘗祭儀、

第二 踐祚大嘗祭儀上　第三 同祭儀中、　第四 同祭儀下、

第五 即位儀、讓國儀、立皇后儀、立皇太子儀、皇太子加元服儀、任僧綱儀、叙內親王以下儀、任參議已上儀、內裏任官儀、任女官儀、奏擬郡領儀、太政官廳叙任郡領儀、太政官廳任出雲國造儀、出雲國造奏壽詞儀、

第六 元正朝賀儀、元日御豐樂院儀、禮服制、正月二日朝拜皇后儀　同日拜賀皇太子儀、上卯日進御杖儀、正月七日儀、正月八日講最勝王經儀　同日賜女王祿儀、正月十五日於宮內省進御薪儀、正月十六日踏歌儀、正月十七日觀射儀、同廿三日賜馬料儀、

第七 二月十日春夏季祿目錄儀、同日於太政官廳三省申考選目錄儀、同月十一日列見成選主典已上儀、廿三日賜春夏季祿儀、十五日授成選位記儀、廿八日牽駒儀、五月五日觀騎射儀、五月六日儀、

第八 七月廿五日相撲儀、八月十一日太政官考定、九月九日菊花宴、十一月一日伊勢大神宮幣儀、十一月一日進御曆儀、中丑日奏御宅田稻數儀、鎮魂祭儀　新嘗祭儀、大歌并五節儛儀、二季晦日御贖儀、大祓儀、進御藥儀、奉山陵幣儀、奏年終斷罪儀、十二月大儺儀　毀位記儀

第九 朝堂儀、告朔儀、五位已上表儀、飛驛儀、固關開關儀、驛傳儀　奏詔書儀・授五位已上位記儀、少納言尋常奏儀　兵庫鼓奏儀、賜進鈴儀、行幸時賜進鈴儀、百官上賀表儀、衛府兵仗奏、衛士交替儀、

第十 賜將軍節刀儀、將軍進節刀儀、賜遣唐使節刀儀、渤海國使進王啓并信物儀、賜渤海客饗儀、賜渤海客宴儀、擧哀儀　弔喪儀　贈品位儀、

內裡式三卷

上卷 元正受群臣朝賀式并會、七日會式、八日賜女王祿式、上卯日獻卯杖式、十六日踏歌式、十七日觀射式、

中卷 奏成選短冊式、賀茂祭日警固式、奏銓擬郡領式、五月五日馬射式、五月六日馬射式、七月七日相撲式、七月八日相撲式、九月九日菊花宴式、十一月一日進御曆式、十一日奏御宅田稻數式、十一日新嘗會式、十二月進御藥儀、十二月大儺式、

下卷 叙內親王以下式、任官式、任女官式、詔書式、

內裏儀式一卷

兵部覆奏式、大駕閣簿、飛驛式、册命皇后式、册命皇太子式、齋內親王參入伊勢式、出雲國造奏神壽詞式、叙位 、衛府兵仗奏式、衛士交替式、告朔式、百官上賀表儀、五位已上上表式儀、賜遣唐使節刀式、入唐使進節刀式、賜將軍節刀式、賜鈴并進式、行幸時賜鈴并進式、少納言尋常奏式、六月奏御卜式、十二月同式、六

月神今食祭式、十二月同、同六月御贖式、十二月同、九月十一日奉二幣伊勢大神宮一式、十二月別貢諸陵幣式、晦日進二御麻一式、正月朝二拜天地四方屬星及山陵一式、

交替式二卷

上卷

下卷

新定內外官交替式一卷 貞觀年中勘解由使撰定奏聞、

內外官交替式 延喜廿一年正月廿五日勘解由使奏聞、

新定讀式一卷 并序　式部大輔菅清公撰

左右撿非違使式一卷 貞觀十七年四月廿七日中納言南淵年名等撰進、

古式廿卷

北堂有司式一卷

一雜

官曹事類目錄一部卅卷 延曆廿二年二月十三日左大辨菅野眞道等奏、

第一 神事部六十八條、　第二 齋王部上九十九條　第三 齋王部下九十九條、

第四 佛寺部百十六條、　第五 齋會部八十三條、

第六 釋奠部八條、國忌部廿三條、僧綱部廿四條、高僧部九條、　第七 供御部八十五條、

第八 國郡部五十條、倉廩部廿八條、租稅部六十條、　第九 音政部十一條、賞賜部十六條、授位部廿九條、

第十 封田部六十五條、　第十一 道官部五十二條、

第十二 官位部十一條、考選部卌四條、上日部六條、位祿部五條、季祿部卌四條、

第十三 公廨事力部六十五條、馬料部十二條、　第十四 祿法部十一條、

第十五 要劇部八條、月料部十八條、朝儀部十七條、銓擬部卌七條、把笏服色國造部廿五條、出雲國十四條、諸國十一條、氏上部三條、獻納部九條、　第十六 調庸部百二十條、

第十七 粮食部百廿二條、　第十八 義倉部七條、蠲免部廿六條、沽債部十七條、

第十九 交易部卌九條、年料部卌四條、舂米部十一條、出納部十三條、

第廿 孝養部十二條、祥瑞部卅八條、

第廿一 產婦部五條、衣服部五條、紙筆部廿九條、牒式部五條、贖勞部九條、

第廿二 交替部十九條、雜補部六十一條、　第廿三 驛傳部五十八條、厩牧部卅六條、

第廿四 兵器部十五條、兵士防人衛士仕丁部卅四條、器部廿七條、雜徭部廿三條、雜戶部九條、

第廿五 使事部十條、　第廿六 蕃客部十一條、夷狄部廿四條、

第廿七 禁制部八十六條、　第廿八 彈例部四條、刑法部十六條、奪祿部、

第廿九 贈官部卅六條、贈物部十八條、諫諍部三條、　第卅 雜部八十二條、

事類者、續日本紀之雜例也、起二文武天皇元年歲在丁酉一至二聖朝延曆十年辛未一、將一百（●脫字カ）世歷二八朝一、行事既多、綜緝稍廣、若夫事合レ書レ策、理關二垂訓一、則

備加二討論一載二之於紀一、進二諸秘符一以爲二彝典一、元會之禮、大嘗之儀、隣國入朝、朝廷出使、□レ此之類、別記備存爲レ事煩多、不レ復二於此一、重レ如二米鹽碎二簡牘常語一、式文古朴而難レ解、或理在二簡而不レ明、然而既經レ行用レ事、須二同存一、故全取二本案一、別成二卷帙一、以レ類相附、令レ易二披尋一、合卅卷、名曰二官曹事類一、藏二之曹司一以備二引閲一、開卷而了二故事一矣◎以下恐有脱誤 訪張純禍類辨朝章無待故廣疑議無滯指掌有レ歸、其目如レ右、

延暦廿二年二月十三日勘解由主典賀茂縣主立長

左大史兼左衛門大尉東宮學士勘解由長官但馬守菅野朝臣眞道

左中辨兼左近衛少將阿波守秋篠朝臣安人

從五位下行大學助兼越前權介中科宿禰都雄

外官事類目錄十一卷起レ自二大寶元年一盡二于延暦廿二年一、

第一 職掌、國郡、神祇、　第二 孝僧尼、大帳、絡役、健兒、

第三 衛士、仕丁、事力、交替文、調庸、日功、養物、封戸、　第四 田園、田租、地子、地子損田、義倉、賑給、

第五 正稅、雜稻、　第六 池溝、交易、春米、例進物、承廩、朝集、　第七 四度使、

第八 飛驛、正倉、官舍、驛傳、　第九 下馬、相撲、器仗、解由、采女、考課、

第十 郡司、起請、官牧、貢蘇、　第十一 雜事、

事抄九卷 自二延暦廿三年一盡二弘仁二年一、

第一 朝儀、外蕃、禁斷、　第二 雜捕、　第三 考選、上日、

第四 出身、選叙、叙位、　第五 雜捕、位祿、馬料、同損、　第六 廢置任官官位、

第七 郡事、　第八 雜事、　第九 解由、國忌、公文武、

次事抄五卷 自二弘仁三年一盡二天長元年一、

第一 雜獲彈事、國忌、　第二 廢置郡事、　第三 雜捕、

第四 叙位、考限、考選、位祿、季祿、馬料、　第五

新抄五卷 自二天長二年一盡二承和十五年六月十二日一、

第一 雜議、擬使彈事、軍事、把笏、層限、　第二 雜捕、　第三 廢置郡事、

第四 季祿、位祿、馬料、考事、衛府、解由、　第五 雜事、

續新抄五卷 自二嘉祥元年一盡二貞觀三年一、

第一　第二　第三　第四　第五

上古問答一卷

八十一例一卷

六十二例一卷

十七條憲法一卷 推古天皇十二年上宮太子作レ之、

彈例一卷

問答五條

類聚三代格目錄

第一 神事上、序事、諸封幷租地子事、祭幷幣帛事、神叙位幷託宣事、

第二 神事下、齋王事、神主禰宜事、科祓事、神部雜務事、神社公文事、在諸國四度使事、出舉數事、

第三 佛事上、造佛名事、經論幷法會、請僧事、修法灌頂事、 第四 度者事、

第五 佛事下、國分寺事、言僧事、僧綱員位階幷僧位階事、諸國講讀事、僧尼禁忌事、家人事、

第六 國忌事、供佛事、廢置諸司事、加減諸司官員、

天長格抄卅卷 起桓武天皇延曆十一年正月丙辰盡後太上天皇十年二月乙亥

第一 神事部上、 第二 神事部下、 第三 佛寺部上、 第四 佛寺部中、

第五 佛寺部下、 第六 釋寬部、國忌部、僧綱部、蠲免部、 第七 供御部上、

第八 供御部下、國郡部、 第九 倉庫、賞賜部、授位、 第十 租稅部、出舉、

第十一 封戸部、賜田部、 第十二 置官部、 第十三 官位部、考選部、上日部、位祿部、

第十四 季祿部、馬料部、節祿部、要劇 第十五 國料部、朝儀部、把笏部、服色部、詮擬部、國司部、

第十六 調庸部、 第十七 徭役部、義倉部、 第十八 交易雜料部、舂米部、

第十九 出納部、孝義、孝子部、服衣部、筆部、禁式部、 第廿 交替部、驛傳部、

第廿一 雜部、 第廿二 健兒部、兵器部、兵士防人部、衞士仕丁部、

第廿三 雜[illegible]部、使事部、蕃客部、喪葬部、 第廿四 禁制部、

第廿五 彈[illegible]部、刑法、[illegible]部、借倉、 第廿六 逃亡部、[illegible]部上、

第廿七 田地部下、賜官部、贓物部、 第廿八 雜部[illegible]、 第廿九 雜部中、

第卅 雜部下、

天長格抄撰㆓日本後紀㆒之次所㆓抄出㆒之例也、起㆓桓武天皇延曆十一年正月丙辰㆒迄㆓于後太上天皇十年二月乙亥㆒編次行事歲□其臨時小事朝堂大儀、入朝出使之類、有司所㆑存者文詞繁多不㆓必錄㆒至㆓於事經行用必須㆒爲㆑例一依㆓本案㆒不㆑勞㆓改張㆒但以㆑類相次令㆓便披尋㆒（◎按四字當作令便披尋歟） 勒成㆓卅卷㆒名曰㆓天長格抄㆒庶令候也無㆑煩㆓遷行㆒目錄如㆑右、

寛政九年 山科貞格院七十七才改之

右法家文書目錄就小中村氏藏本臨寫

明治十年二月 小杉榲邨

久米幹文云コノ目錄一冊サキニ神宮奉職ノヲリ舊禰宜藤波家所藏古鈔本アリテ余モ寫セリ近コロカケルモノニアラサルヘシト說ヘリ

栗田寛云彰考館所藏書總ニモアリテソハ元祿年間採集ニ係ル者ナリト說ヘリカタ〱參考ニ供フヘシ

榲　邨　再　識

寺社寶物展閲目錄

目錄仕立凡例

一佛像佛舍利類者、目錄ニ相載不レ申候得共、名作又者由緒有レ之物、並祖師高僧之木像者、載置申候、

一諸寶物之名目者、外題並箱之上書、寺僧之申出候通ニ認置申候、

一慶長以後之物者、宸翰並御代々御筆之外者、格別之品ニ而も無レ之物者、相除申候、

一堂上方者、稱號家附ニ相成候分者、稱號ニ而相認候、

一此度寫取候分者、三角印付置候、

但先達而御寫有レ之候品も、格別見事ニ相見候物者、爲ニ御見合一猶又寫取儀も有レ之候、

一御取寄にも相成可レ申と奉レ存候品者、丸印付置申候、

一文書類者、不レ拘ニ新古一爲ニ御見合一御寫相成可レ申儀と奉レ存候間、御取寄之印者、惣而付不レ申候、

一手明之者、手繰次第寫取候內ニ者、罷歸得と一覽仕候得共、差而見所も無レ之品も御座候得共、寫取候物故、一所ニ差上申候、

寺社寶物展閲目錄一

山城上

東寺　十一月三日　十五日　十六日　十二月八日　九日　十日

一○△七祖畫像七幅　弘法大師木筆飛白梵漢題名并行草讃語有レ之

內金剛智不空善無畏一行惠果五幅者、唐筆之趣請來目錄ニ相見候、龍孟龍智二幅者大師歸朝之後補候由、諸家舊記ニ相見候。（朱書）唐人之畫は於ニ中土一も至而拂底ニ而、賞鑒家目錄ニ載候外は無レ之由相見候。然ルニおゐては、五幅唐筆、誠以希代之珍跡ニ御座候、并飛白之書和漢共、中古斷絕致候處、是亦弘法題字相殘候段、彼是不ニ一方一名物と相見候、

弘賢按、大師の請來錄をよみし時、此像の事をしるして、一鋪三幅と注す、この一鋪三幅といふこと、誰にきゝてもしらずといふ、眞物を見るに及びし、顯然たり、一鋪とは今いふ一軸の事、三幅とは絹三幅を續たることなり、請來錄に曰、李眞等十餘人を雇て、ゑがゝせたりと、李眞、佩文書畫譜に、京洛寺塔記を引て、松福庫院鬼子母、貞元中李眞畫往々得ニ長史規矩一、把鏡者猶工、資聖寺團塔院李眞畫四面花鳥としるせり、請來錄者、和尙告曰、眞言秘藏經流隱密不レ假ニ圖畫一不レ能ニ相傳一、則供奉丹青李眞等十餘人圖ニ繪胎藏金剛界大曼陀羅等一十鋪一、と見へたれば、李眞ハ青龍寺の繪所にや、これら書畫譜の圖を補ふべし、

一○同上寫七幅　淨法上人畫并題名（朱書）是亦至極見事ニ相寫候、

一○△弘法大師眞跡額　八幡宮三字（朱書）額之仕立宮城殿舍之額ノ古式と相見候、

一○△同十喩詩跋殘缺本一卷

一○△同尺牘三首一卷（朱書）至而見事之物ニ御座候、

一△同請來錄表一卷（朱書）比叡寺之印有レ之候間、若者傳教筆にも可レ有レ之哉と申ものも有レ之候、

一△後宇多院宸翰大師像并贊一幅

一同御起請符一軸

一後醍醐天皇宸翰御起請一軸

一○△山水屛風一帖　唐帝憲宗所賜（朱書）相見不レ申候、內記方舊記ニは珍海筆ニ而、珍海は土佐基光弟子、後三條院延久中之人之由有レ之候、又狩野永納著候、本朝畫傳ニ、醍醐寺ニ珍海筆之文珠之粉本之裏ニ、建仁二年と有レ之而、并醍醐之禪那院ニ住し、又東大寺ニ住共所見候得ば、土御門帝之比之人と相見候、何れニも土佐流之大和繪ニ相違無ニ御座一候、畫躰は其比よりは、餘程古く相見候、

一豚磨法眼筆十二天屛風一雙

一大師請來袈裟二被九條七條

一獨鈷金剛杵一口

一鐵鉢一口

一菩提子念珠一串唐帝憲宗所賜

一剃刀并箱一口

一脇息一基

一○一古文書一箱　但三重

官府國觧貞信公家牒等十二卷自天平至延

文（朱書）天平紀號有之候者、皆南部諸寺之文書ニ御座候、

一○一又一包

綸旨院宣官符下知書札類九卷自弘安至應永

一○一又一箱

綸旨院宣官符宣旨御敎書武家書簡舍利奉請引付類十三卷自天安至長享

一○一又一箱

綸旨院宣官符御敎書將軍家御判物同奉書武家書簡歎狀公家消息大內幷洛中指圖東寺領巷所證判之類廿二卷自天治至永正

一○一又一箱

院宣舍利奉請之類七卷自弘安至永和

一○一又一箱

綸旨院宣院廳下文後宇多院御起請符寫御敎書制札寺領洛中散在鋪地雜十五卷自嘉祿至文明

一○一又懸物七十五幅

綸旨類幷武家古文書自弘安至天正

一又百合

公武古文書寺家記牒等

一△一風字硯幷李家烱墨或傳云大師所持

一△一瓦硯有文安中刻字

一天部幷菩薩等面應德建武塔供養所用、

壬生寺　十一月四日　內記不參

一△一參議爲長卿眞跡額寶幢三昧寺五字、

一△一鰐口一口自正嘉元年銘、重拾六貫目、徑貳尺三分、厚六寸九分、

一△一古硯一面（朱書）忠峯形之中傳候、但近代地中より堀出、銘は跡より彫付候由ニも相聞候、

一弘法大師眞跡草書心經一軸（朱書）眞跡心經之中、至而細字之草書ニ而、世上ニ數多有之、眞贋ニ遍之物ニ御座候、

一解脫上人眞跡地藏講式一軸

一尊道法親王眞跡地藏講式一軸

一尊朝法親王眞跡本堂再興勸進狀二軸

一○遍智院僧正成賢眞跡悉曇字母一軸

一後陽成院宸翰六字名號大草書一幅

一同假名御消息一幅

一近衛基熙公眞跡南無大日如來大草書一幅

一琢磨法眼筆ノ十體地藏一幅（朱書）僞物ニ御座候、

一緣起繪詞詞蜷川新右衛筆、繪筆者不レ知、六卷（朱書）畫は素人畫ニ而御座候、

菅大臣社　十一月四日　內記不參

一曼珠院良恕法親王眞跡額　天滿宮三字（朱書）裏ニ享保十二年五月廿五日ト有レ之、良恕親王ト年代合不レ申候、若者額仕立候節之年月ニ而も有レ之候哉、又は良尙親王之申違ニ而も可レ有レ之哉無ニ覺束ニ候、

空也堂　十一月四日　內記不參

一加茂明神賜ニ空也上人ニ平鐘一口

一松尾明神賜ニ空也上人ニ鰐口一口

一空也上人眞跡金字阿彌陀像一幅（朱書）右何も僞妄可レ笑品ニ而御座候、

知恩院　十一月五日七日

一宋畫淨土五祖像一幅（朱書）殊勝成品、如何ニも宋人筆と相見候、

一法然上人行狀繪圖四十八卷詞寄合書、繪土佐吉光筆、

詞書

伏見院、後伏見院、後二條院宸翰、轉法輪三條實量公、青蓮院尊圓法親王、世尊寺行尹卿、同定成朝臣、姉小路庶流濟氏卿筆、

外題

尊圓法親王眞跡

目錄

安井門主前大僧正道恕筆（朱書）右畫詞兩三卷之所者、至極見事ニ相見候得ば、弟子寄合書ニも候哉、少々劣候樣ニ相見候所も有レ之候、何ニも殊勝之名物ニ御座候、幷書中彼是故實等相見候、

一宋徽宗御筆白鷹一幅有ニ蔡攸贊ニ

一呂紀筆竹靑鸞幷鷄二幅對

一雄子堯筆咸陽宮圖二幅對

一楊補之筆墨梅一幅

一雪舟筆壽老人一幅
一用田筆栗鼠一幅
一呂紀筆竹黄鳥蓮水鳥二幅（朱書）右何も難ニ心得一品ニ御座候、其中徽宗補之雪舟三幅者尤拙然、用田栗鼠者粗見所も有レ之候、
一○仇英筆宮殿人物二幅（朱書）一幅者桃李園之圖と相見申候、仇英筆ニも有レ之間敷候得共、圖立面白物ニ御座候、
一徐澤筆雪梅竹鷺一幅
一雪軒筆墨梅一幅
一一休畫讃布袋一幅
一舟耕筆墨馬一幅
一趙子昂筆大書二行一幅
一△石溪筆大草書一幅
一△後奈良院宸翰額并本紙大谷寺三字、
一後柏原院宸翰額并本紙知恩教院四字、

下御靈社　十一月六日

一宸翰御靈社三大字一幅（朱書）後陽成院宸翰ト相見申候、

一御製懷紙　一首一幅（朱書）後西院宸翰ト相見申候、
一△同上二首一幅
一△神代鈴
一△古面一　清和天皇奉納貞觀五年ト記有レ之、
一棟札一枚應永卅四年

東福寺　十一月九日

一聖一國師將來孔雀爐五座
一△光明峯寺關白道家公木像
一△光明峯寺關白道家公眞跡額并本紙常樂庵三字、
一○伏見院宸翰額并本紙約諡聖一國師六字三行、
一無準眞跡扁額類十四幅
　勅賜承天禪寺上堂小參秉拂淋汗說戒普說念誦巡堂以上竪物普門院選佛場圓尒圜爾圜尒以上横物、
一○張即之眞跡扁額類十一幅
　鮮空室旃檀林東西藏方丈知客首座書記前後三應浴司維那以上横物、

〇一無準遺偈印本一幅

同印可狀一幅〔朱書〕但印可狀ニ而者無之、垂戒ニ而御座候、

一無準眞跡宗派圖一幅有ニ拈華微笑像ハ

〇一聖一國師眞跡宗派圖一幅

〇一聖與ニ無準ノ書簡一幅

一聖一俗牘一幅

一同假名文一幅有ニ草名ハ

一同壁書一幅

一同請文一幅執筆本智房聖一點竄、

一同付囑狀一幅

一同遺偈一幅

一東福寺條々文書一幅有ニ聖一草名ハ

一山界四至文書一幅

一東寺天臺大血脈圖一幅有ニ榮朝草名ハ

〇一侍者德如筆無準行狀五幅〔朱書〕見事之物ニ御座候、

一光明峯寺道家公眞跡聖一和尚四大字行書有ニ一條實經公跋ハ

一東洲和尚筆常樂我淨四大字眞書二幅

〇一兀庵和尚筆壽福康寧左文四大字眞書二幅〔朱書〕異體之珍物ニ御座候、

〇一天童山景德禪寺碑石本一幅

△〇一御書太白名山四大字碑本一幅

〇一宸奎閣碑石本一幅

〇一宋孝宗御製詩碑石本一幅

△〇一藤原公拾經記石本一幅一條左大臣實經公、給文ヲ宋ノ太白石山ヘ寄附ノ碑ニテ、文ハ天喜景德寺了惠、

〇一陳季昭筆三樓圖三幅左岳陽樓、中竹樓、右醉翁亭、

〇一兆傳主筆達摩三幅左右寒山拾得、

△イ〇一同聖一國師項相三幅左右鐵枴玉蟾、

一大明國師畫像一幅

一吳道士筆釋迦三幅左右普賢文珠、

一同觀音一幅

一牧溪筆觀音一幅

一顏輝筆觀音一幅〔朱書〕右四幅何も疑敷相見候、

〇一宋諸山圖一卷　聖一將來〔朱書〕諸山堂塔圖委相見、

一雪舟筆當寺伽藍圖一幅（有ニ前南禪了庵贊一）

一同跋陀婆羅像一幅

一無名氏無準畫像三幅（有ニ無準眞跡贊一、左右ハ二鳥松柳牧溪筆、）

一兆傳主筆觀音三十三幅

一同四十祖像四十幅

一同五百羅漢五十幅

一同草木五十幅

一楊補之筆墨梅一幅（〔朱書〕至極見事相見候、丸山主水相國寺惟明抔、何も感心仕候由御座候、）

一○△イ官符一卷　嘉慶二年

一聖一國師度牒二幅（一幅有ニ官印一一幅有ニ連署一）

六條道場　十一月十日

一○一遍聖繪十二卷（稱ニ六條緣起一）

跋云、正安元年己亥八月廿三日西方行人聖戒記レ之畢、畫圖法眼圓伊、外題三品經尹卿筆、又云康安二年乙酉卯月三日破損之間修ニ補之一畢、于レ時僧阿、又云延德四年壬子六月廿三日及ニ大破一間修ニ理之一、于レ時滿願寺住持覺阿、

箱蓋裏ニ記云、一遍上人一期修行畫圖十二卷、件畫圖者、奉レ顯ニ一遍上人之行德一、殊感ニ六字稱名之勝利一、爲レ樂ニ中丹之懇念一、散圖ニ後素之新樣一、爰自ニ北山入道太政大臣家一、被レ召之間、令ニ進上一之處、所レ納之櫃破損之間、被レ納ニ于新調櫃一、所レ被レ返ニ渡于六條道場一也、彼古文之殘ニ壁底一也、遙博ニ絲竹之聲一、此畫圖之納ニ櫃中一也、永得ニ盤石之堅一、于レ時應長元年辛亥仲冬上旬記、（〔朱書〕誠ニ絶品と相見申候、狩野永納ら此緣起之儀ハ、筆法顯ニ宅間住吉一、其山川樹石彩墨圓熟意ニ有レ餘者也褒申候、詞書筆者者、寺家ニ申傳無レ之候得共、世尊寺行房と相見候、）

一△一遍上人眞跡三尊名號一幅（標背造土印金世搢ニ六條切一）

一△尊朝法親王眞跡連歌廿五德一幅

一△青蓮院尊祐法親王眞跡額天滿宮三字、

一○△寶鏡寺宮理秀尼公眞跡額天滿宮三字、

一藤衣一領（〔朱書〕藤ヲ製テ莚ノ如ク編候而、衣トイタシ、一遍ノ時ヨリ當宗ニテ着用仕來候由ニ御座候、）

四條道場　十一月十日

一一遍上人繪緣記廿卷（繪越前守光行詞寄合）

詞書

後伏見院後二條院花園院轉法輪公忠公同實量卿

冷泉爲秀卿

跋云德治第二之天初夏上旬之候馳筆終功畢

〔朱書〕越前守光行土佐系圖ニ無レ之候、若者行光之傳誤ニも候哉、行光ハ延文年中繪所預ニ補候得ば、德治よりは、五十年餘も時代後レ候、尤畫樣ゟ劣り候得ば、行光とは相見不レ申候、然共全見所なき物にも無レ之候、

一後醍醐天皇綸旨一幅

一後伏見院院宣一幅

一後光嚴院綸旨一幅

一後奈良院綸旨一幅

一後小松院宸翰連歌一幅

一天滿宮自畫像一幅〔朱書〕妄作可レ笑物ニ御座候、

一足利家御教書六幅

一牧溪筆觀音三幅　左右猿猴〔朱書〕寫物と相見申候、

一無名氏唐畫花鳥二幅

一開山淨阿上人傳一卷（跋尾有ニ勅判一）〔朱書〕右勅判何帝と申事不分明候得共、知仁とよめ候得者、後奈良院御花押ニも哉候はん、

一同繪詞三卷（繪筆者不レ知、詞尊道后眞跡）〔朱書〕畫者全く俗筆ニ御座候、

一△甘露寺親長卿筆綸旨院宣目錄一卷

一△後花園院宸翰大字一行（錦綾出太平興國金蓮寺十字、）

一御同筆六字名號一幅

一慈照院殿寄附鷄文臺幷硯箱

誓願寺　十一月十一日

一○△緣起繪二幅（筆者不レ知、内一幅者後人書足、一幅は、海北友松筆と相見候由、内記申候、）〔朱書〕畫殊ニ見事ニ相見、其上後界故眞之儀多く有レ之候、書足

一同詞書六卷寄合

鷹司房輔公、近衛家熙公、蓮花光院大僧正道恕、梅小路定矩卿、葉室賴孝卿、妙法院宮堯恕法親王、三室戸誠光卿、東園基賢卿、園基量卿、愛宕通福卿、靑蓮院尊澄法親王、園基勝卿、今城定經卿、水無瀨兼豐卿、有栖川宮幸仁親王、萬里小路

淳房卿、梅園季保卿、油小路隆貞卿、今出川伊季公、輪王寺宮公辨法親王、中院通茂卿、清水谷實業卿、庭田重條卿、梅小路共方卿、淸閑寺凞房卿、藤谷爲茂卿、淸閑寺凞定卿、風早實種卿、大炊御門經光卿、一條院宮眞敬法親王、大覺寺宮性眞法親王、竹內維庸卿、裏松意光卿飛鳥井雅豐卿、近衛基熙公、

一同繪詞三卷書畫共筆者不レ知、〔朱書〕是亦海北友松筆ゝ相見候由內記申候、

一尊圓法親王眞跡大字一幅

一弘法大師眞跡カタカナ名號一幅〔朱書〕弘法大師ニ而者有レ之間敷候、乍レ去入木道家ノ傳ヲ得候者之書ゝ相見申候、

一文徵明筆高閣二大字額〔朱書〕僞物ゝ相見申候、

一春日曼荼羅一幅巨勢金岡筆近衛植家公讃〔朱書〕畫評ニ懸り候物ニは無レ之、

一宅磨法眼澄賀筆春日影嚮圖一幅

一同筆鹿曼荼羅一幅〔朱書〕住吉法眼ニ而もか有レ之哉ゝ內記申候、

一三藐院關白信基公書畫渡唐天神一幅有ニ草名及印章一ハ〔朱書〕右百幅書之內ゝ相見申候、

一宅磨法眼筆阿彌陀一幅稱ニ一尊佛一ハ

一雪舟筆出山釋迦三幅左右八ニ鳥秋月筆、

一周文筆山水二幅

一同筆山水一幅大幅、

一雪村筆釋迦三幅左右普賢文珠、

一思恭筆藥師幷十二神一幅

一同十六羅漢十六幅題名行成卿筆、〔朱書〕右二種思恭ゝ者相見不レ申候、行成卿も雖ニ心得一候、思恭何方ニ而も多く候、張思恭ゝ申傳候、東大寺ニ而者白思恭ゝ書付有レ之候、張思恭ゝ申者君臺觀目錄ニ所見候得共、書畫譜ニ者相見不レ申候、但白思恭者、書畫譜圖繪寶鑑補遺ニ小傳有レ之候、張白思恭別人ニ有レ之候哉、又者君臺觀誤候哉、不分明候、

一牧溪筆出山釋迦一幅

一同普賢一幅

一呂紀筆花鳥一幅

一如琳筆寒山拾得一幅

一林良筆松仙鳥一幅

一〇一陸信忠筆地藏十王十一幅〔朱書〕雖ニ心得一品に御座候、

一一休眞跡一枚起請一幅

一一遍上人筆六字額
一大覺寺空性法親王眞跡額 當寺再興大施主大相國北方佐々木京極女爲二世安樂也廿四字、
一天智天皇御像一軀（朱書）後世之作ニ相見申候、
一後陽成院宸翰六字名號一幅
一御同筆南無天滿大自在天神一幅
一御同筆一枚起請一幅
一花園院宸翰二幅一拜稱念罪皆除利劔即是彌陀號十四大字、
一靈元院宸翰釋迦牟尼佛一幅有ニ小宰相局添状一
一月輪兼實公眞跡古今集切一幅
一古右京筆八島屛風一双（朱書）難ニ心得一物ニ御座候、
福正院 同所塔頭同日於ニ本坊一一覽、
一△後水尾院宸翰額本紙一枚福正院三字、
一東福門院御寄附三十六人歌仙屛風一双山樂筆
（朱書）歌筆者卷頭尊純法親王 相見申候、
一同周公吐握張良石公屛風一枚古永徳筆、

大雲院 十一月十一日
一軍配團扇普通之團扇也、
一○一△弘法大師作大黑天板木
一○一休筆一枚起請一幅
一玉澗潑墨山水一幅有ニ自贊一祓具天地大内桐義隆切、中金襴純子安樂庵（朱書）玉澗ニ申者、唐筆之内三人有レ之、宋ノ僧若芬是一、金孟季生是二、外宋ノ僧瑩玉礀ニ申者一人有レ之、此筆者何之玉澗ニ候哉、不分明候、
一△後醍醐天皇御作金林寺茶入一口 蓋ノ裏ニ勅ノ字、并底ニ廿一内ト朱漆ニテ書付有レ之、
一若狹盆一枚
一△盆石一座銘殘雪、
右七種爲ニ宗論褒美一信長公所レ賜
一聖譽上人畫像一幅
一陳伯冲筆松鶴一幅有ニ日下高聲之題一、
一錢穀筆愛蓮圖一幅
一△仇英筆西王母一幅（朱書）僞物ニ相見候、
一△寧一山眞跡詩一幅二行、
一後陽成院宸翰額本紙大雲院三字、御裏書有レ之、

一勅願所綸旨一幅天正十八年、
一信長公朱印一幅宗論之節、開山安貞江之御感狀、
一制札一幅五ヶ條、天正廿年二月日前田德善院、
一○一境内狀一幅天正十九年德善院、
一○一信長公自筆狀一幅城介殿宛、

檀王林寺　十一月十二日　内記不參

一○一美福門院眞跡紺紙金銀泥諸經集懺儀二卷帙簀有レ之、
一東照宮拜領御團扇一柄
一○一開山袋中自筆琉球神道記二冊五卷
一袋中作初學抄一冊
一同題額集六冊
一同別紙一冊
一○一同聖圖讃十六冊
一枕草子五冊袋中弟子東暉筆記也、
一袋中筆梵字三部經七帖
一同分別一帖

一當麻御供養圖記二帖
一阿彌陀經一卷頭書ニ經相アリ、下ニ和解有レ之、
一圓光大師眞跡六時禮讃一冊
一光明皇后眞跡頻毘婆羅王諸佛供養經一卷
一興正菩薩眞跡父母恩難報經一卷
一表無表色章一卷永正元年寫畢
奥ニ法隆寺律學院御經藏九字三行ノ墨印有レ之、
一尊問愚答記一冊作者自筆、
跋云、建治元乙亥年三月十五日、於二東華藏寺一鈔二記之一、留二贈後見一共期二生緣一矣、厭欣沙門了惠忠イ謹錄、
尊問傍注云、龜山帝以二花山院通雅公一問、
一僧正觀賢眞跡普賢儀軌一帖
一傳教大師眞跡經文一帖燒切
一撰擇傳弘受欵抄五冊天文六年寫本、
一○一紺紙金泥無量壽經十一卷首缺、
一有栖川職仁親王眞跡額婆珊婆演底神初示現之處十二字二行、有二裏書一、

一○唐畫無名氏西湖圖一幅〔朱書〕畫法ニ見所無レ之候得共、普通之西湖圖ト圖立替リ、考ニも相成可レ申哉奉レ存候、

一△船印旗一本見崎重右衛門ト銘有レ之、備中琉球ヨリ歸朝之節、船印之由申傳、

南禪寺　十一月十四日

一△開山大明國師畫像一幅筆者不レ知、讃龜山院御製後柏原院宸翰、

一○牧溪筆觀音三幅左右子杲山水、〔朱書〕觀音ハ見事物ニ御座候、

一○唐畫無名氏楊柳觀音一幅〔朱書〕殊外見事品ニ御座候、

一仇英筆觀音三幅左右山水、

一○無名氏十六羅漢十六幅〔朱書〕兆典主ニモ候哉ト內記申候、

一○△李龍眠筆聖相文珠一幅有ニ南禪正澄贊一、

一雪溪筆文珠三幅左右可翁筆蓮鷺、

一戴文進三友堂圖一幅

一無名氏山水一幅

一林良雁二幅

一同金雞鵰鷺二幅

一馬公顯筆唐藥山李朝禪會圖一幅

一趙子固筆竹二幅有ニ題辭一、

一孫道筆琴碁書畫四幅

一寧一山開山十三年諱香語一幅〔朱書〕摸書ト相見候、

一竺僊和尙和ニ武藏入道圓成居士韵一詩一幅

一夢窓國師自筆臨幸私記一卷觀應元年仲冬木訥老僧ト有レ之、

一天下南禪寺記一卷應永二十年青龍癸巳春王正月廿五日、信上釋有諱謹記ニ于本山表率寮一ト有レ之、

一龜山院宸翰御起願文一卷

一官符一卷建武二年、

一院宣一卷乾元元年、

一同一卷正安六年、

一院宣御敎書類一卷建武ノ頃、

一後二條院院宣一幅

一無名院宣一通

一公家文書一卷正安德治、

一御敎書案一卷自ニ德安ニ至ニ天文ニ與ニ當寺ノ敷圖有レ之、今ノ境界ト不同、

一等持院殿御敎書一通

一慈昭院殿御敎書一通

一勝定院殿御敎書二通
一武家文書一卷自二曆應一至二長祿一
一交割物目錄一卷
一南禪寺領收納目錄一卷嘉慶文龜、
一△龜山院腰輿一
一△同屏織一柄
一△方丈圖一枚後陽成院淸涼殿ヲ給リ候由、
一△後陽成院宸翰本紙一幅龍淵室三字、
一△法堂額曇華堂三字、筆者不レ知、

若王寺　十一月十四日

一丸香不動畫像一幅文永五年權律師任朝理書有レ之、
一○等持院殿自畫讃地藏畫像一幅
寶篋院殿自畫讃地藏畫像一幅
一菅丞相眞跡法華經一卷藥艸喩品化城喩品、
一弘法大師眞跡楷書心經一卷
一紛失狀一卷天授六年有二金剛峯寺先達法印權大僧都行盛草名及連署一

一○大峯之秘書一卷大峯山紀行ニ候、
一瀬登リ劍一振天國作ト云傳、
一院宣一卷文永三
一足利家御敎書一卷自二應永一至二天正一
一同一卷自二元應一至二觀應一
一同一卷自二明德一至二永祿一
一△道晃法親王眞跡額熊野大權現五字、

銀閣寺　十一月十四日

一慈照院殿眞跡月歌十首一幅
一△同額東求堂三字、
一△同　同仁齋三字、
一○横川和尙書二幅
一黃堂七言絕句詩二幅
一林弘衍書一卷遊二廬山一詩二首、
一○相阿彌口訣座敷錺花之子細一卷
一相阿彌筆屏風一雙

一七賢杯七ツ入子ニテ候、銘相阿彌筆、一王戎、二阮咸、三劉伶、四向秀、五山濤、六阮籍、七稽康

平等院　十一月十七日十八日

一聖德太子眞跡心經一卷〔朱書〕寶物ニ御座候、

一弘法大師眞跡六字名號一幅

一勸進帳一卷明應九年、

一良純親王眞跡舊記一卷

一報恩寺中一笑軒秀徹筆舊記一卷

一△菅丞相自作像一軀〔朱書〕眞僞之處は如何有ㇾ之哉、何ニもしほらしく相見候、

一△宇治關白木像一軀

一△賴政旗〔朱書〕旗は古物と相見候得共、名書は全書入物と相見申候、

一同甲冑

一同弓矢〔朱書〕右二種全近代僞物ニ御座候、

一△佐々木三郎旗〔朱書〕僞物と相見申候、

一△鳳凰堂圖

一爲成筆鳳凰堂壁幷扉繪有ㇾ之堀河左大臣俊房公紙形題字ニ　〔朱書〕鳳凰堂、殊外破壞ニ及、書畫共風雨ニ相傷畫者一向相見不ㇾ申所多く、書も多分各跡より繕候物ニ而、筆跡字形共見苦相成有ㇾ之候、依ㇾ之此度書畫共粗消殘候分寫取申候、誠ニ面影而已之儀ニ御座候、

一△古磬一面

橋寺　寺號常光寺　十一月十七日

一宇治橋銘斷碑〔朱書〕眞僞未決ニ御座候、

一浮島石浮屠中古物十三重石塔、寶曆六年洪水ニ倒レ、第二重ヨリ出候由、

舍利塔一基納ニ佛舍利一顆一

蓮臺一基納ニ佛舍利二顆一

水晶寶塔十三基納ニ佛舍利一

鎮瓶一口納ニ佛舍利百十餘顆一

銅筒一口納ニ佛舍利二千七百餘卷物一卷五六[illegible]子一

鈴一口

錠一口

鍵一口

右納ニ金銅方篋一合一、又納ニ檜厚板箱一、金銅方篋裏銘云、延文元年丙申十一月廿一日恭奉ニ與菩薩御願一、謹奉ニ施金銅方篋一結ニ縁於經塔之中宅一、生ニ於龍花之曉一、法華滅罪、寺比丘尼道秀、〔朱書〕與菩薩者、興菩薩之誤字ニ而、興正之事ニ御座候由、寺僧申候、

一橋寺緣起一卷嘉元三年沙門眞空ト有レ之、

惠心院　十一月十七日

一伏見院宸翰惠心僧都法語一幅廿行、
一惠心僧都筆早來迎一幅〔朱書〕疑敷候。
一光廣卿詠草一幅
一明馬電花鳥畫一幅
一持明院基時卿額幷本紙惠心院三字、

興聖寺　十一月十八日

一四條院宸翰額興聖寶林禪寺〔朱書〕山城名蹟志靑蓮院尊純親王眞蹟之由相見候、
一御水尾院御書拾一幅寂蓮歌
一同御所持羽團扇一柄
一東福門院御作賛之像押繪一幅〔朱書〕面描は如慶筆意と相見候旨、內記申候、
一同渡唐天神像一幅
一同橙皮香合幷茶入
一東福門院所賜高麗茶碗
一常憲院殿御召繻子地金入御羽織縫御紋御襟袖、永井尙長拜領寄附、
一聖護院道晃親王眞跡觀音令旨一軸
一中院通村公當寺再興記一軸有ニ烏丸資慶卿奥書一
一道元禪師眞跡法語一軸仁治二年辛丑十二月十二日予時書學人邑法受持、
一徽宗帝鷹一幅宣和五年望日寫〔朱書〕僞物何執中書有レ之、相見候、
△一高麗國製紙織福祿壽一幅
△一波平家次太刀一腰木曾義仲太刀ト申傳候、
一吉次長刀一振巴長刀ト申傳候、

通圓茶屋　十一月十八日

一通圓木像一軀〔朱書〕通圓と申者ハ、治承之比之者ニ而、宇治川合戰之節、源平之兵、彼許ニ而茶ヲ給候事も有レ之、木像者一休和尙之由、亭主系圖物語仕候、誠ニ野人之口傳にて、難ニ心得一候へ共、木像ハ如何ニもしほらしく相見候、又彼か一族此處ニ年久敷住居候ニや、人らよく存、日橋御普請之時者、右餘木を以、茶屋をも作改給候由相聞候、

寺社寶物展閲目錄二

山城下

廣隆寺　十二月十日　　内記一人罷越

一聖德太子宸翰佛經
一菅丞相眞跡藥師經
一足利將軍義輝公筆十七憲法一卷
○一土佐光信筆繪傳四幅〔朱書〕光信筆意ニ而は無レ之候得共、大躰宜物ニ御座候、
○一住吉内記廣通筆八耳皇子繪傳五卷〔朱書〕故實之儀は無レ之候得共、筆法至極出來物ニ相見申候、
一廣隆寺緣起繪住吉具慶、詞親王眞蹟〔朱書〕具慶ニ而は無レ之、一躰不出來之物ニ御座候、
一巨勢金岡畫十二天〔朱書〕金岡筆ニは有レ之間敷候、琢磨法眼ニ而も可レ有レ之哉、
一鳥羽僧正筆八祖像
一陸信忠筆十王圖〔朱書〕右二種難ニ心得一候、
一釋尊十六羅漢三幅左右顏輝、中李龍瑤〔朱書〕右至而殊勝ニ御座候、
△一聖德太子厨子扉畫寛文年中自性院先〔朱書〕近來寫物作意も相作如全再加ニ修補一加候哉、證據ニ難ニ相成一候、
○一聖德太子軍排團扇
一後西院御寄附御袍一具
一櫻町院御寄附御袍一具
一桃園院御寄附御袍一具
一龜山院綸旨三通
一後土御門院綸旨一通
一後伏見院院宣一通
一後二條院院宣二通
一花園院院宣一通
一光明院院宣一通
一尊氏公御敎書六通
一義詮公御敎書六通
一義滿公御敎書一通
一義持公御敎書二通
一義敎公御敎書二通
一足利直義下知狀七通
一木下藤吉郎消息三通

一△資財帳二通秦公寺之印有レ之、末ニ長祿四庚辰暦四月之頃、自二公方様一依二御尋一取二出之一書レ之ト有レ之、

一石燈籠一基〔朱書〕圭而古物異躰之物ニ御座候、

神護寺　十二月十一日

一孝謙天皇宸翰增壹阿含高幢品之三卷十六一卷

神護景雲二年五月十三日御跋有レ之、

予謹奉爲
先聖敬寫一切經一部工夫之莊嚴畢矣法師之轉
讀盡寫伏願鷲山之鳳輅向蓮場而鳴鑾汾水之龍
驂泛香
海而皆影遂披不測之了義永證彌高之法身遠暨
存以傍周動植同茲景福共沐禪流或變桑田敢作
頌曰
非有能仁誰明正法惟朕仰止給脩慧業權門利廣
兮
扳若知刀用妙兮登岸敢對不居之歳月式垂因極
之頌翰

一後白河院御寄附紺紙金泥一切經帙簀及牙籤有レ之、〔朱書〕内牙籤計寫取候、

一○一弘法大師眞跡無着卉三字松甘皮ニ書、

一同木筆飛白十如是一卷〔朱書〕東寺七祖題字同樣、手之枯候者ニ相見候、

一○一同眞跡日光山碑文一卷

一○一同灌頂記一卷弘仁三年十二月十五日、〔朱書〕末ニは他筆も相交有レ之候、

一○一隆信筆後白河法皇御畫像一幅

一○△同賴朝公畫像一幅

一○一重盛公畫像一幅

一○一鹿苑院殿畫像應永二十一年甲午九月六日佛日山怡雲㵎岩董讀ト有之、

一○一琢磨法眼筆十二天屛風一双〔朱書〕見事ナリ、

一○一山水屛風一帖色紙形有レ之、〔朱書〕畫法至極殊勝之物ニ御座候、乍レ去東寺に有レ之候山水屛風よりは、時代新敷相見申候、全く大和繪にて御座候、イ本ニ弘法大師ト云フアリ、

一○一明惠上人消息一卷　八通

一○一文覺上人消息一卷　四通内一通左衛門尉定泰狀也、

一後白河院綸旨一卷延元頃綸旨ゟ末ニ附有レ之、

一太政官符一卷自二建久一至二元應一

一官牒一通建久四

○一賴朝公消息六通 内尼將軍消息一通有レ之、

一足利家御教書

梅尾高山寺　十二月十一日

一後鳥羽院宸翰般若心經一卷

一同院宣

一後宇多院院宣

一花園院院宣

一正親町院綸旨

一明惠上人筆文殊種子曼荼羅一幅

一同春日曼荼羅一幅

△一同自作三寶禮一幅

○一同筆從二大唐一到二王舍城一町積一幅

一同熊野曼荼羅一幅

一同五秘密一幅

一同彌勒菩薩一幅

一同夢記一冊

一同唯心觀行式

一同般若理趣經

○一同法矩陀羅尼經一冊

○一同唐本一切經目錄

一同梅尾制誡

一明惠母公櫛 明惠眞蹟三尊名號有レ之、

一同額結

一同所持小硯

一明惠手鑑一冊

一同金鎚小刀

一同茶釜

一上人渡天支度笈

一佛舍利一塔 從二解脫上人一相二傳明惠上人一

一三宅高信筆上人繪行狀三軸

一宅間法眼寶子惠日房筆明惠上人畫像墨繪一幅

一同筆兩界曼荼羅二幅

一同筆佛眼尊一幅 上人詠歌讃有レ之、

一○同明惠上人持經畫像一幅
一同上人座禪畫像一幅
一同將軍地藏一幅
一同赤童子一幅
一同上人畫像一幅
一同八祖像八幅
一安住寺筆解脱上人畫像一幅
一金絲金泥唐織華嚴經首題
一唐書義湘大師一幅
同元曉大師一幅
一同華嚴界會諸聖衆一幅
一張思恭筆不空三藏一幅
一宅間法眼筆華嚴釋迦一幅
一○惠心僧都筆阿彌陀如來一幅
一○土佐光信筆華嚴繪縁起六軸〔朱書〕光信よりは時代古相見候、至極見事成物ニ御座候、
一鳥羽僧正筆繪卷物四軸跋云秘藏之繪本也拾四枚之也延長五年五月日竹丸判ト有之、〔朱書〕至極見事ニ相見候、

一○天竺石摺羅漢七幅〔朱書〕天竺物ニ而は無レ之候、
一尊氏將軍御教書一幅
一齋藤次郎基則假名文一幅
一北條家下知狀一幅
一賴朝公假名文一幅
一弘法大師所持劍
一三條小鍛冶宗近作鎧通
一松平隱岐守奉納太刀一振
一行基燒茶入
一○漢小柿茶入是者建仁寺榮西國師入唐歸朝之時、茶實ト小柿茶入送ニ上人ヘ於ニ本朝一爲ニ嗜茶之濫觴一、
一○蘇婆石

右目錄者寺僧書出候帳面之趣ニ御座候、見分及レ暮候而不レ殘一覽相調不レ申、點之分計一覽仕候、

同所外典目錄

一文選一部　六十卷、
一老子經二卷
一○頭陀寺碑文一卷

一史記十二卷
一史記十卷不具、
○一論語一結第二三六七八九、
一注千字文一卷
一大字論語一卷
一大字孝經一卷
一注蒙求三卷
一支那國王代記一卷
一同年代記一卷
一辨命論一首文選、
一三業調和集一卷
○一九成宮醴泉銘一卷
一貂屏讃一紙白居易、
一陸宣公翰苑集卷上
○一齊民要術十卷
○一孝子傳一卷
○一和名類聚抄十卷

一郭象注莊子一部
○一扶桑記三十卷
○一篆隸萬象名義六卷
○一名賢集二帖
○一唐韻一部五卷
一千載佳句一卷
○一玉篇一部
一翅村文苑二卷
一眞草篆百家姓一卷
一白氏次韻二卷
一和佛兒等一結廿六卷
○一日本王代記四帖
○一齊人千金月令三卷
一言詩肝心抄一卷
一詩抄一卷
○一雜筆集一卷
○一千錄字書一卷

一○四聲小切韻一卷
一○雜筆大躰一卷
一詩髓腦　卷
一花林抄二卷
一○和漢朗詠一卷
一○新撰朗詠一卷
一○江談抄二卷
一○座右抄二卷
一○沼金抄三卷
一○本朝文粹二卷
一雜占第四
一朝筆要集一卷
一○童子戲集一卷
一禁法略抄一卷
一○玉造小町子盛衰書一卷
一○養生要集一帖
一莫羅雪司一卷

一圍基（碁カ）圖一卷
一大唐王代記十卷
一坂東石符手跡一卷
一首楞嚴院安樂谷起請
一○廣韻一部二帖
一○玉篇一部二帖
一○禮部韻略一帖已上三部納ニ小箱一合一
一○三寶類字集一部六帖
一○義相元曉繪并能惠得業繪等納ニ一合一
一○兼康筆繪本一卷此禪常院在レ之、
（朱書）右は寺僧書出候目錄ニ而御座候、及レ暮一覽不レ仕候、不レ殘御取寄ニ相成可レ然奉レ存候、其中格別珍敷物ニも可レ有レ之哉と存候品ニ、朱丸付置候、
一△御追號不相知宸翰額本紙高山寺三字、

天龍寺　十二月十二日　內記不參

一吳道士筆立像觀音一幅
一邊文進筆花鳥二幅但牡丹錦鷄黃鳥葵鴻鵝、
右二種疑敷相見候、

○一夢窓國師書一幅 行草八行圓覺經文、
○一同詩題臨川樓上觀音像一幅
○一同和庵主詩一幅

妙智院 同所塔頭 同日一覽

△一策彦入唐記二卷 天文八年當嘉靖十八年、天文十ノ年、嘉靖廿八年、
一策彦禪師像一幅 柯雨窓贊有之、
一同一幅 天文十三年德雲山人妙心大休國師贊有之、
○一策彦所持扇子一柄 嘉靖一十八年卯月十八日入二北京一、同二十四日寅刻參內ト書付有之、
一策彦筆夢想聯句一軸
一同蓬萊樹詩一幅
○△一同晚過二西湖一詩一幅
一同大內府君壽客贊一幅 天文二十二年、
○一寧波府諭一通 嘉靖廿六年、
○一同一通 嘉靖廿九年、
○一定海縣諭一通 嘉靖廿七年、
○一信牌一通 嘉靖廿七年、

○一諭一通 嘉靖廿七年、
○一寧波府帖一通 嘉靖廿九年、
一明人豐存叔謙齋記一卷
一明人贈別詩一卷 序二篇、嘉靖丑、黃允中、柯雨窓、詩十首、魏一鄉、趙馨、何□中、汪汝器、王鳳鳴、高漢臣、朱廿美、金大卿、楊泙民、柯雨窓、
一柯雨窓畫題送別圖一幅
一送別圖幷序一卷 書梁寅齋、畫封泉、
一贈別畫題一卷 畫士謌、跋二諡別二字ハ小篆毘亭包填、

三秀院 同所塔頭 同日一覽

○一後水尾院御物土佐光起畫六祖傳衣鉢圖三幅
天地淺黃紙、風帶白紙、中黃地、緣青純子紙、
一文字茶地金入、軸黑塗撥軸 〔朱書〕後水尾院より皇女林丘寺宮昭山尼公へ賜り、尼公の剃髮師ニ天外定老和尚ニ候チ以、尼公五十年忌之時、林丘寺ハ住持山尼公より、三秀院ニ寄附之由、褾具ヲ而質素ニ而具比儉朴之御風義感歎仕候儀御座候、
○一馬遠筆蹴鞠圖一幅 ニ井宗慶寄附 宋太祖大臣趙普臣下、蹴鞠圖ニ而來歷も有之、名高畫ニ而見事成物ニ御座候、

本能寺　十二月十四日　　　　　　　　　內記不參

一日蓮上人曼荼羅三幅弘安元、同三、建治二、

一寶篋寺宮日蓮大菩薩五大字一幅

一兆殿主筆十六羅漢十六幅

一同文珠一幅

一雪舟筆觀音一幅

一同毘沙門天一幅

一可翁筆觀音一幅

一無名氏三幅對左寒山拾得、右竹、中出山釋迦、天童山月礀賛有レ之、

一土佐氏筆菅丞相像一幅

一顏輝能道釋圖一幅

一唐畫無名氏枯木山雀一幅

一同山水一幅

一〇劉俊筆松鶴一幅

丸山主水殊外見事之由賞翫仕候、

一舜擧筆菊一幅

一唐畫鶴一幅

一呂紀筆花鳥二幅對

一無名氏福祿壽一幅

一古法眼松鶴二幅〔朱書〕ニ而六幅見事ニ相見申候、但張付繪のめくりと相見候、

一同松小鳥一幅

一同菅丞相畫像一幅

一同花鳥三幅對

一同山水人物三幅對

一海北友松筆人物二幅對

一獅子吼院宮牡丹畫賛一幅賛後水尾院御製、

一尊證親王松月畫讃一幅

一常憲院殿御筆誠一字一幅

一同孝敬二大字一幅

一同德不孤三大字一幅

一同馬繪一幅

一同鷄繪一幅

一黃山谷書牘一通一幅

一米芾書一幅
一○張即之筆十二字一幅
一○同六字一幅
一張瑞圖草書一幅四行
一後柏原院御書拾一幅
一後陽成院御書拾一幅
一後水尾院御詠草懷紙一幅
一後土御門院宸翰歌書切一幅
一○道風筆一國與仁讓一幅一行〔朱書〕臨物ニ而御座候、
一○行成卿眞跡一軸〔朱書〕至而見事ニ御座候、
一○尊圓法親王眞蹟古今集假名序一卷
一同眞名序一卷尊鎭法親王證文有レ之、〔朱書〕二軸共見事ニ御座候、
一定家卿筆千五百番歌合切一幅
一同歌書切一幅
一爲家卿歌書切一幅
一爲相卿歌書切一幅
一法橋昌琢筆連歌一幅

一承成筆一條太閤發句連歌懷紙一冊
一一休書一幅
一文德院宸翰寶物集一冊〔朱書〕文德院未詳候、若又後文德院の謚にもや侍はん、後花園院、初の御謚號後文德院と申奉るよし、續神皇正統記ニ所見候、
一尊證法親王眞跡堀川百首
一冷泉爲尹卿筆三代集三冊
一基綱卿筆新勅撰集二冊
一古今和歌集注一冊佐々木左京大夫ヨリ、本能寺日圓ニ所レ贈、
一續千載集三冊
一心敬筆芝草句三冊
一同所々返答一冊
一哲齋宗鐵筆新筑波集二冊
一池坊花傳書一卷弘治中池坊專榮ヨリ、津田與四郎ニ相傳、
一△三條小鍛冶刀一腰
一來國光相口一腰
一吉光相口一腰
一國念相口一腰

△一助光作一腰

△一馬加劍一腰

一菊一文字守刀一腰

一國纖刀一腰

一無銘守脇指一腰

一大小刀一本

一長刀作棒鞘脇指一腰

△○一大太刀一腰信長公所持陣太刀之由、身三尺五寸、込一尺三寸、柄二尺一寸鞘四尺一寸五分、丸鍔徑二寸八分、

一鶯丸笙黒頭、桐巴蒔繪、銀帶、眞鍮歌口、

一笙信貴山有銘、銅帶黒頭、至極古管也、

一篳篥　銘鈴虫、

△一時雨箏一面

一太鼓

△一朝倉義景硯一面和歌短冊添、

一三足蝦蟇香爐

一盆石一座　銘八橋、

一茶器類數多

一後醍醐天皇宸翰勅書一幅

一日與任ニ權大僧都ノ口宣案一幅應仁二年、

一妙峯寺道的上人ニ賜ル敷地宣旨一幅康曆元年、

一永正十四年敷地文書一幅

一當寺敷地永代買得相傳次第事一卷文明ノ比、

一伏見入道貞淸親王消息二幅

一妙莊嚴院日承上人消息一幅

一兼良公文書一幅長祿

一冬良公文書一幅明應

一信長公御内書一通一幅

一豐臣大閤御内書二通内二通有ニ朱印ニ三幅

一義景消息一幅

等持院　十二月十五日　内記不參

△一足利十二代木像

一夢窓國師眞跡詩一幅

一同書翰一幅

一尊氏公畫讃達磨一幅

一義持公畫讃東坡一幅

龍安寺　十二月十五日　内記不參

一△細川勝元木像

一○古法眼筆淨瓶踢倒圖一幅

一相阿彌筆敷地圖一幅

寺社寶物展閲目錄(三)

大和上

法隆寺　十一月廿日　廿一日　廿二日

一釋迦如來糞掃衣

一聖徳太子眞跡紺紙金泥梵網經二卷

一神代眞鈴一口鍍金有ニ五大力明王像ヽ

天竺物ト相見申候

一賢聖瓢又者ニ刻笑瓢ト有ニ孔子ヽ榮啓朗ヽ四皓ヽ鬼谷子ヽ蘇秦ヽ張儀像及銘ト

一○太子御足印御茵

一○同御弓丸木

一同御矢幷箙

以上七種靈寶

一△石胴羯鼓　一座

一△羯鼓床　一座

古樂器ニ而式法共相成可レ申珍物ニ而御座候ヽ

一金山寺香爐金大定十八年銘有レ之、

銘云、大定十八年戊戌五月日造金山寺大殿彌勒前靑銅香垸一座臺具都重三十斤入銀八兩棟梁祇吡寺住持三重大師惠琚金山寺大師仁美京主人郎將金令候妻崔氏伊次加女納絲殿尙素府同承旨同正康信鑄成高正

一△推古天皇所賜永宣旨印一顆文云法隆寺印

一△光仁天皇所賜永宣旨印一顆文云鵤寺倉印【朱書】永宣旨ノ印對ニ心得ニ候、普通之寺印ニ而御座候、其中鵤寺倉印者、彼寺私之補任ニ相用候由、

一△印櫃一合

一△弘法大師所持水瓶一口

一△惠慈法師所持水瓶一口

一太子諸王子所持水瓶一口

一○△秦致眞筆繪殿壁太子傳圖旧ニ屛風二双半ハ世尊寺伊經朝臣題字有レ之、

右繪殿繪者、後三條院延久元年初而秦致眞畫レ之、其後光明院建武五年、繪師播磨法橋實圓修ニ補之ハ是初度之修復也、後圓融院康曆ニ年第二度之修復有レ之修復ト賢覺坊ト有レ之候、繪師ニ候哉、檜皮師ニ候哉未詳候、靈元院延寶三年、第三度之修復繪師佐野長兵衛同市左衛門ト有レ之中御門院寶永七年繪殿夢殿觀音大檀無レ之不ニ殊勝ニ候由ニ而正面北江一間押入佛檀相搆候由、其以前は觀音之後ニ一間ニ張有レ之候を、右之節二間ニ切分、佛檀左右江張分候事ニ相見候、其後天明六年張付ニいたし置候而者、兎角損じ安く候事を相歎、寺僧評定之上、舊圖者二枚折屛風五帖ニ張移、綱封倉江相納、繪殿之張付者、大坂繪師法眼周圭ニ、別ニ新寫を命じ出來候由ニ御座候、【朱書】右畫者度々之修復ニ而元圖之筆法者皆失來候儀と相見候、昔而成ニ昔之通寫事有ニ之候はゞさぞ存候へ共、是迄も無ニ心元ニ存候、扨又題字ノ儀、世尊寺伊經之書記有レ之ニ得共、時代相違いたし候、(伊經者嘉祿之比之人、而後三條院よりは百五六十年時代後レ候)若は伊房卿ニ而も可レ有レ之哉、是又後人之誥物ニ而筆意取失ひ驗さ日利難レ仕候、

一○△無名氏太子繪傳四幅【朱書】住吉法眼筆、太子行狀六幅、法隆寺ニ有之候旨狩野永納記置候得共、此繪傳者四幅ならで無レ之候へ者、永納記置候六幅之行狀ニは無レ之哉、畫法も巨勢有家抔ニ而も可レ有レ之哉、住吉法眼之者出見不レ申候旨、內記申候(故實等ノ儀は彼是共ニ心得ニ品も相見候)

一舍利殿壁繪作ニ懸物十二幅ハ畫云漢高祖周文王、
　俺俗之品ニ御座候、
一○△琴一張銘云、開元十二年歲在甲子五月五日於九隴縣造、
一○△高燈臺一基
一○△信氏面一枚源信氏永仁四年七月七日、彫付有レ之、
　還城樂之面ニ而御座候、作者之名を以寺僧共は
　信氏面ト稱シ來候、
一聖武天皇御寄附牒一卷天平勝寶八歲、
一地敷一枚
一○△太子御褥表黄地綾緣萌黄綾地錦裏黄絹、
　太子御褥と申傳候得共縫目はつれ有レ之中より
　細貫莚調布出候而、調布ニ天平勝寶之年號相見
　候へば、決而太子御物には有レ之間敷候、聖武天
　皇之御地敷御褥之類に而も可レ有レ之哉、
一銅像三軀孔子老子釋迦之由申候、
　右於ニ三經院ニ一覽
一太子御褥四蜀紅錦或似ニ廣東島ニ者、

　沈水香
一手箱太子納ニ沈香斷塊ニ
　寄木之箱ニ而候太子御所持之由、申傳候へ共、
　疑敷相見候、
一△善光寺如來上ニ太子ニ書勅封
一○△役行者錫杖一根
一釣籥太子ノ御時ノ物ト云、射場殿之風爐ニも可レ有レ之哉と、申者も有レ之候、
一太子黄丹御衣
一同糞掃衣
一達磨袈裟似ニ廓巾ハ
一膳妃御下帶蜀紅錦、
一同鏡二面
　後世物ト相見申候、
一能曾媛手織生絹
一太子夏御褥浮織物大和錦緣、
一同御褥蜀紅錦、
一同御褥切蜀紅錦幷似ニ廣東島ニ者、

一同御幡白綾蜀紅錦緣、
一同大幡似二廣東島一
一同法幡同上
一同小幡蜀紅錦、
一繡佛佛名相知不レ申、
一太子御蓋蘇芳絹、
△一止利佛師作金銅佛四十八體
△一念禪法師水瓶
一古瓦硯
一聖武天皇御寄附小刀三口
一同御帶綱貫眞珠、
右二種御寄附牒之中被レ載候品と相見不レ申候、
一同青木香
一同漆革箱
一聖武天皇宸翰佛經切、
△一山背大兄皇子柄香爐
一惠慈法師柄香爐

一御經机褥
一惠慈法師鐵鉢
△一達磨鐵鉢底朽、
△一油次太子御時所レ用云、
一味摩之將來伎樂面三十一枚
一推古天皇几帳切
一太子御褥似二廣東島一
△一御打敷唐花蝶鳥藺黄地紋黄紫ノ伏組有レ之、
△一聖皇曼茶羅
一百濟阿佐太子筆太子畫像
畫法も古拙ニ而、鴨毛屏風と筆法も相似、幷衣冠之躰も、其時代者、箇樣にも可レ有哉と存候、世上に有レ之候烏沙帽帶釼之座像よりは、此圖之方、當時之實錄歟と相見候、
一鳥佛師筆孔雀明王
一無名氏太子勝鬘經講讃像畫殊子馬子百濟人剝落不分明、
一紋錦御旗長七尺八寸、巾四尺四寸五分、

一金岡筆蓮花水鳥

一向僞物と相見申候、

△

一釣升以レ銅造口徑二尺二寸五分、腰廻七尺八寸三分、深一尺四分 銘在、重廿六斤受二石四斗八

通用之量衡を以相改候所、入實六斗四升、掛目

三貫三百目、

△

一木升方九寸七分、深三寸四分、通用之量を以相改候所、入實五升二合五勺、

一東山殿文臺

右於二綱封倉一一覽

舍利殿寶物

一南無佛舍利

一金珀念珠一串

一金剛子念珠一串

一五綴鉢

五ヶ度鑄掛繕候躰ニ御座候、僧家の法にて、

五ヶ度迄は繕用ひ、其後は改作候由に御座候、

一太子前生錫杖

△

一御麈尾一柄

△

一牙御笏

一太子水瓶

一御瓶玉

火珠水珠なごいふ、丸角等の赤白水晶の小玉綱

ニ入有レ之、

一御石ナトリ玉十八

○△

一太子御笄

五六分計の角水晶ニ而御座候、

鈿花ニ而も可レ有レ之哉、

○△

一太子御經机商

○

一御壺鐙一具

○

一多羅葉梵文

一用明天皇宸翰法花經八卷

一妹子將來法花經筒箱臺共細字八軸一卷、

殊勝の物には候得共 經文新譯のよし申者有レ之

候、於レ然は時代相違に候 宋元之筆意と相見候

由、申者も有レ之候、
一○太子製作眞跡法花義疏四卷
一妹子將來針筒
一△周尺
象牙に而作、唐花等を畫き、長者今之曲尺九寸八分有レ之候、但一頭寸をもり候方は五寸有レ之、一頭繪樣計の方は四寸八分ならでは無レ之候、誠に机案の翫物にて、周尺之沙汰に及び候には無レ之候、
一△洞簫尺八之類ニ而御座候、編簫ニ而は無レ之候、
一鈴鐸
一キンヘイ獨鈷三鈷杯ノ類ニテ、何ノ具ニ候哉、キンヘイと申傳、寺僧モ覺悟不レ仕文字も相知不レ申候、
一弘法大師所持三鈷杵
一中將姫筆稱讚淨土經
一尊證法親王眞跡紺紙金泥假字書南無佛舍利緣起一卷
一尊純法親王眞跡勸進牒一卷
一無名氏花嚴經一卷
一良遍上人筆療痔瘻病經一卷延長二年、
一世尊寺行季卿眞跡勸進牒
一供料寄附牒嘉禎年中
一△朗詠要集上正應五年壬辰三月日墨書跋有レ之、
鄂曲博士當時斷絕之分、此書ニ博士付有レ之、珍書にて御座候、
一新田足利御教書類三卷

中院寶物 同所塔頭同日於二舍ノ殿一一覽

一後宇多院宸翰最勝王經三卷
一上宮太子眞跡ノ經一卷卷尾有二花押一、
平等院有レ之候と同一筆ニ而贋物ニ而候、
一光明皇后眞跡大乘功德經一卷五月一日跋有レ之、
一行基菩薩筆大般若經一卷
一弘法大師眞筆楷書心經一卷
一理元大師眞跡尊勝陀羅尼一卷

一同佛說國王經一卷

一明惠上人眞跡舍利講式草本一卷

跋云、建保三年正月廿七日夜丑剋草畢、

一無名氏紺紙金泥彌勒上生經一卷

明人之書と相見申候、

一△安井門主道恕僧正眞跡額并本紙、法起寺三字

岡本寺同所末寺寺號法起寺

一△高野山僧春深筆額東林寺三字、

東林寺同所境内ノ寺

一○△繪詞緣起四卷

信貴山孫子寺　十一月廿三日

太子軍卷土佐刑部大輔筆

右一卷ハ向俗筆見苦敷物ニ御座候、

山崎長者卷畫鳥羽僧正覺融、詞大納言行成、

尼公卷同上、

延喜加持卷同上、

右三卷、書畫共誠ニ妙跡と相見申候、但書は行成卿ニ而無レ之候、殊ニ時代違候上者、若彼子孫ニ而も可レ有レ之哉、

一橫笛一管銘山伏、聖德太子作、

一○高麗笛弘法大師作、

一○笙銘大信貴行國作、長一尺四寸八分、金臺ノ圍七寸六分餘、帶及金具皆銀、鳳凰ノ丸ノ蒔繪アリ、

一笙銘小信貴賴尊作、長一尺三寸四分、臺ノ圍ミ六寸八分、銅帶、其外金具無レ之、管ニ損傷有レ之、所々漆ニテ繕アリ、二管共ニ信貴畑村笙カ谷ヨリ出タル、一根十七本ノ竹ニテ作候由、

右笙二管何も名管ト相見候、

一○△楠正成兜

一○△同大袖一枚

一○△同太刀銘依宗、

一○△同旗菊水紋下ニ年號姓名有レ之、

一○△同鐵鞍骨前輪後輪龍丸打出象眼有レ之、

右何も眞物ニ紛無レ之相見候、

一△振鼓
一△二鼓胴
一△三鼓胴
一△服鼓胴
一△鼓胴名相知不レ申候、
一△胡蝶加陵頻羽
一△樂面二
一△命蓮上人所持飛行鉢
一弘法大師筆大威德像
一金剛筆毘沙門天
一楠天卷一卷
　右三種何も疑敷物御座候、
一戰場古實殘闕一卷古寫本兵書、
一三略私考
一楠最後狀庄五郎殿當、
　僞物御座候、
一△聖德太子眞跡額朝護孫子寺五字、

　此額近代筆と相見候、
一△安井道恕僧正眞跡額并本紙猪上大明神五字、

龍田本宮　十一月廿三日

一△道風朝臣眞跡額正一位龍田大明神八字、
　道風朝臣筆とは相見不レ申候、
一神劍二口
一神代劒一口
　難二心得一物ニ御座候、
一胄鉢一頭
　近代物ニ而御座候、
一△服鼓胴

當麻寺　十一月廿四日

一△後奈良院宸翰額當麻寺三字、
一△藕絲大曼荼羅一幅
一△曼荼羅厨子扉題名

一△中將姫筆稱讃淨土經一卷 傳云、千卷書寫中 〔朱書〕千卷書寫之中之由ニ御座候、
法隆寺ニも一部有レ之、當所寺中ニも三四ヶ所有レ之候、色々手風違候得ば、何も疑敷物ニ御座候、

一勅宣三通天文、

一中將姫所製藕絲袈裟一被七條、

一微笑尼新製藕絲袈裟一被九條、寛延四年、

微笑尼者、尾州遠山氏藤原景供妻高木氏之由、記有レ之候、

一繪詞傳三卷繪土佐光茂、詞逍遙院內府實隆公作、

詞書

後奈良院宸翰、青蓮院尊鎮法親王、梶井彥胤法親王、近衛太閤尙通公、近衛關白植家公、聖護院道增、逍遙院內府實隆公、西室公順卿、大納言公條卿筆、

奥院 同ヿ一覽

一○法然上人行狀繪圖四十八卷畫土佐家、詞寄合書、 〔朱書〕見事、

詞書

伏見院、後伏見院宸翰、後二條院、御代筆ハ尊寺定加朝臣、

外題

尊圓法親王

伏見院叡山舜昌法印ニ命じて、大師の繪傳を作らしめらる、今の知恩院の什物是也、其後帝別に寫を命せられて、禁裏にさしをかれ候所、舜昌知恩院を住持之節、又是を賜る舜昌ハ第九代也第十一代誓阿上人、圓光大師像を此地に移せしとき、此本をも當院江持來、十種の寶物の一ツなり、

十種の寶物とは、阿彌陀像、大師の袈裟眞筆の選擇集、持蓮花、大師の遺骨、同肉附の舍利佛舍利、松影の硯、月輪殿の天目、及び繪傳也、

畫筆者、土佐吉光ト相見候旨內記申候、但知恩院之繪詞傳とは、畫体少々違有レ之候、印行之繪詞傳は、此本を寫候由ニ御座候、

一△圓光大師木像號ニ鏡御影

一大師袈裟一被布衣七條、

一同眞跡選擇集一册
一同涅槃和讃一册
一△持蓮花二本
一△松影ノ硯平重衡受戒ノ時所贈、
一天目一口月輪關白兼實公所贈、
一△善導大師自筆影幷利劍名號
唐筆ニ者可レ有レ之候得共、善導眞跡之儀は、難ニ
心得ニ御座候、
一三尊繡佛
中將姫以ニ藕絲ニ所レ繡、上有ニ十六字題字ニ亦姫
以ニ髮毛ニ所レ繡と云、
一繡名號中將姫以ニ髮毛ニ所レ繡、
一圓光大師眞跡紺紙金泥名號
一傳敎大師眞跡書此外遠名號
一中將姫筆稱讃淨土經
一同自筆廿九歳像
一惠心僧都眞跡十界屏風色紙形伏見院宸翰、
畫傳にも惠心僧都筆之由所見有レ之、寺僧も同
樣申傳候得共、惠心の筆とは相見不レ申、大抵東
山殿時代之畫と相見候由、內記申候、尤色紙も
伏見院宸翰ニは無レ之、
一大曼荼羅一幅藕絲曼荼羅寫、
一開山誓阿上人感得曼荼羅
西南院寶物同所塔頭同日於ニ奥院ニ一覽、
一弘法大師草書心經
一春日曼荼羅
護念院同所塔頭同日一覽
一中將姫筆經體觀音
一同稱讃淨土經寄附狀添
一天正年中綸旨
中坊號ニ西御堂ニ同所塔頭同日一覽

一△中將姫畫像

一中將姫筆稱讃淨土經一卷

一寶雅法印筆度貧母經一卷

一中將姫受戒衣

一同所持柄香炉

一同剃髮所用剃刀

一弘法大師眞跡彌勒像

一同自筆像

一同紺紙金泥兩界種子曼荼羅

一眞如親王眞跡弘法大師畫像

一△惠心僧都筆四分一曼荼羅

一△後西院宸翰屋額觀松二字、

一靈鑑寺宮宗榮尼公眞跡中將姫山居語

書は相違無レ之候得共、語は僞作ニ可レ有レ之、

北室院寶物 同所塔頭同日於ニ中坊一一覽、

一永正中所作箏甲

一古琵琶甲

一笙

一篳篥二管

一中將姫所レ繡千手觀音像

一安養尼筆中將姫染絲圖

一一休和尚眞跡大字一幅

買物御座候、

橘寺 菩提寺十一月廿五日

一聖德太子三十五歳木像束帶、

一同十六歳木像童形髮面、

一△同二歳木像

一△日羅木像剃髮僧衣、

一田道間守木像兵帶 疑舗相見候、

一無名氏涅槃畫像

一同十六羅漢圖一幅 下畫ニ聖武帝聖德太子弘法大師及紫衣僧一、

一土佐將監筆太子繪傳八幅
俗筆ニ而古圖を寫候物にもや、光信之沙汰ニ及び候物ニは無レ之候、
一△諸堂圖一幅
一△大太鼓火焰一
一△柄香炉
一假面一
一古鈴鐸一
一八花形鏡一
一圓鏡二
一眞鍮如意一柄

岡寺龍蓋寺　十一月廿五日

一△弘法大師眞跡額龍蓋寺三字、
一△僧正義淵像一軀
一△孝謙帝勅作印
一同尼牒

一金岡筆八大龍王額八枚越智民部少輔家榮寄附
右三種妄議可レ笑物ニ御座候、

多武峰　護國院十一月廿六日

一古緣起四卷原本二卷、今分ニ四卷ト、繪土佐光信、詞一條禪閤兼良公、外題近衛基熙公、
一新緣起二卷繪ハ後水尾院御ハ住吉如慶具慶寫、詞寄合書、
二條光平公　花山院定好公、鷹司房輔公、二條康通公、東園基賢卿、德大寺公信公、大炊御門經孝公、二條公富公、葉室賴業卿、九條兼晴卿、烏丸資慶卿　西園寺實晴公、油小路隆貞卿、坊城俊廣卿、近衛基熙卿、梅園實淸公、四辻季賢卿、飛鳥井雅章卿、三條西實教卿、日野弘資卿、正親町實豐卿、柳原資行卿、松木宗條卿、今出川公規卿、持明院基定卿、藪嗣孝卿、園基福卿、山科言行卿、藤谷爲條卿、小倉實起卿、阿野季信卿、中園季定卿、堀川則康卿、勘解由小路資定卿　今城爲継卿、淸水谷公榮卿、冷泉爲淸卿、

四條隆音卿、清閑寺熙房卿、野宮定輔卿、桂昭房卿、廣橋貞光卿、

一大織冠像

右本殿木像者、雖二寺僧一親拜致候事無レ之、小野篁筆畫像一幅 脇侍淡海公定惠 本殿ニ納有レ之、長者宣無レ之候而者、啓龕相調不レ申候旨、一覽不レ仕候、右篁筆寫本一幅所持寺院有レ之候處、院主遠方江罷越候由ニ而、是又一覽不レ仕候、其餘寺院面々所持像數幅差出候得共、何も佛繪師俗筆ニ而不レ足レ取物ニ御座候、其中一山衆徒護持之本、少者見所も可レ有レ之哉存候間、寫取申候、

一△大織冠像　一山護持ノ本
一△聖德太子御自筆像
一廣忠公御弓矢
一△天國神劍
一信長公寄附神劍
一秀吉公寄附神劍

一櫻町院御製十五首御懷紙 尊胤法親王御封柳筥共、
一光明皇后眞跡觀普賢經
一無名氏小楷法華經一部一卷
　唐筆に而も可レ有レ之哉
一△九條師輔公眞跡樓閣善住多羅尼中卷一軸、有レ歟、
一定惠和尚將來九鈷杵
一聖寶僧正筆唱禮一冊
一△二帶笙 信貴山行圓作
　名管と相見候弁二帶之儀、於二樂道一甚由緒面白事之由御座候、
一△增賀像一軀
一△粟原寺塔露盤 和銅八年銘有レ之、

諸院寶物 同斷塔頭同日於二各院一一覽

一大織冠像 小野篁筆ト書付有レ之、　般若院
一無名氏全身龍　同
一同墨蹟　同

一同兎　同
一舜擧蓮　同
一黃太癡天池赤壁圖　正行院
一無名氏虎　圓城院
一居誰子山水　同
一無名氏山水　勸行院
一爲相卿筆京太郎物語一卷　同
　爲相卿筆ニ而は有レ之間敷候、
一陳化龍三峽雲濤圖　寶聖院
一張淸鷺　同
○一子昂馬（徐右貞楷書天馬賦并解信王世貞跋有レ之、）　慈尊院

　長谷寺　十一月廿七日

一東照宮御筆扇面一幅
一同御開扇小池坊第四世秀算僧正に被レ下候由、
一東照宮御寄附與敎大師一字三禮書寫大日經
一聖武天皇御寄附紺紙金泥法華經廿八卷
　卷毎、筆者替申候、書法裱裝共、聖武天皇御時代
　之物と者相見不レ申候、
○△一菅丞相眞跡緣起
　眞物ニ相違無レ之候、
△一覺鑁上人自筆像
一楠正成奉納獅子香爐
○△一鼠燈臺（唐僖宗后馬頭夫人寄附、）
一屛風一双　同斷
　馬頭夫人は、僖宗皇帝第四の后、文宗皇帝の孫、
　玄宗太子の娘之由、長谷寺靈驗記ニ所見候得共、
　正史ニ相見不レ申、其上靈驗記寄附十種の目錄
　ニ、此二種無レ之候得ば、傍以難ニ心得一候、
一兆殿主筆役行者（左山上藏現、右藏王權現、）
一古法眼筆雲龍
　贋物と相見申候、
一雪舟筆山水
一繪詞緣起三卷（繪筆者不レ知、詞後圓融院、）　畫俗筆ニ而御座候、

一新田義貞判物

一△楠正成判物

一△疊鐵上人眞跡大楷一卷汲江煎茶詩、

一〇眞俗雜記廿九冊十七八九廿六合四冊闕、

廿八冊跋云、弘安元年八月十九日、於二高野山一以二覺明房法印柳房御參籠之次一、石山道場觀并妙抄奉二傳受一事、金剛資賴瑜、廿九冊卓玄跋云、元祿第二歲以二日州霧島山藏本一（轉イ）命レ書レ之時寫レ之云云、此冊數不二全備一、庶幾後見補闕、

一賴瑜眞跡兩字義一冊

一活字板神代卷二冊

一浮雲老翁筆連歌式目

一△高野僧澄禪木筆飛白十如是一卷

一△無名氏額長谷寺三字、

一△安井門主道恕眞蹟烏居額并本紙功德成就□諸佛經行砌諸天神祇在此山振威驗、

二十字四行、有二裏書一、

一△又一枚本紙天照大神八幡大菩薩（◎二カ）地諸神□道守護砌、十四字三行、有二裏書一、

三輪神社　十一月廿八日

一大搭宮矢母衣熊澤了介寄附、

右之外寶物無レ之候、

三輪平等寺　同日一覽

一八祖像八幅内七幅ハ東寺什物ノ寫、弘法ハ眞如親王ノ筆ト云、

一慶圓上人眞跡紺紙金泥大般若經殘缺五卷

大御輪寺　同日一覽

一與正菩薩所持人形鈷杵

一同袈裟一被十三條、

一勸進帳文明十九癸卯月日勸進沙門阿彌と有レ之、

一託宣記一軸

一大御輪寺記元祿元年月潭書、

一假字緣起延寶七年正之書、

一曲玉石劒頭ヨ三三輪山一堀出候物之由、

一弘法大師一萬體藥師畫像殘影數百軀

釜口長岳寺　十一月廿八日

△一眞面堂
△一能登守範經箭一手法隆寺侍稲島新左衛門高忠奉納、
一勸進帳一卷天文十九年勸進沙門稲泉さ有レ之、
一又尊朝法親王眞跡一卷

普賢院　同所塔頭　同日一覽

一弘法大師草書神異秘稱十七行文祿二年東寺法泉院添狀有レ之、
△一同智等庵額字
△一道風朝臣眞跡額治國亭三字
　道風朝臣筆とも相見不レ申候
一十市遠忠筆百人一首一册
一同伊勢物語一册
一古今集二册上正欽法師、下淨辨律師、
△一夢窓國師眞蹟大草書三行一幅

一張瑞圖筆兵馬行一軸
一唐畫虎一幅
一仇英筆山水一幅
　仇英筆法ニ而は無レ之候、
一栢榴玉珠數
一花金剛樹珠數
一珊瑚珠珠數
一金珀珠數
一五色瑪瑙茶碗
一眞珠三顆
一化石類數多
一古陶器數多
△一堀居
　右何も當住僧、物好ニ而集候物ニ而、寺附之寶
　物ニは無レ之、

布留社　十一月廿九日

一△白河院御正印
　社家孫之花押ヲ木板ニ仕候物と相見候、
一△岩上大明神古額裏書慶元元年丙辰十二月二日ト有レ之、
一牛玉一
一小狐丸太刀一振
一△鑓身四筋
一胴丸二領
一鎧大袖二
一冑三
一祭禮鉾二柄
一鼓筒五
一神寶唐櫃一合
　神庫中ニ有レ之候、從ニ古來一鍵無レ之、錠ヲ開候事無レ之由、一覧不レ仕候、

在原寺　十一月廿九日

畫像木像寶物彼是有レ之、并境内色々舊跡有候

へ共、何も證も無レ之猜事ニ而、妄誕不レ拠ニ一
笑一儀ニ御座候、

龍象寺　帶解地藏奥院　十一月廿九日

一△一乘院尊昭法親王眞蹟額龍象資聖禪寺六字二行、

寺社寶物展閲目錄四

大和下

東大寺　十二月朔日 二日 三日

一△聖武天皇宸翰額金光明四天王護國之寺十字、額四邊造ニ梵天帝釋四天王力士之像ハ弘法大師作、右之額懸ニ于國分門ハ天正十一年三月廿九日、爲ニ大風一顚倒、今納ニ于龍松院寶藏一有レ之候、

一○△鴨毛屛風
三倉中數十雙有レ之候由。元祿六年三倉開封之時、爲ニ修補一取出候分、書畫兩樣數十枚有レ之候、

一△二月堂牛王板木幷朱印

一△同尊勝陀羅尼板木弘法大師作、

一聖武天皇宸翰須眞天子經三卷

一光明皇后眞筆大愛道比丘尼經二卷

右三種義持公御寄附

一△一鑑眞和尙持來藕絲袈裟一被

一源賴朝公御書

一△一俊乘房所持勸進柄杓

一同天然木脇息一基銘有レ之、

一△一同鉦鼓建久九年銘有レ之、

一大佛殿古瓦一枚天正年中防州鑄川ヨリ上ル、

一○△聖寶僧正所持五獅子如意一柄

一○△神馬金銅唐鞍洲濱鐙一具添、

一○△竹篦一口

一○△綾藺笠一蓋

一○△深沓一隻

一△高野天皇勅書天平寶字五年恵美押勝眞跡、

一△聖武天皇宸翰勅書

一△東大寺四至文書貞辨判有レ之、

一東大寺別當官符二卷自ニ貞觀一至ニ文治ハ

一同三綱官符一卷自ニ貞觀一至ニ天祿ハ

一諸國封戸牒狀一卷天平勝寶四年
一越前國桑原庄券自天平勝寶七年至九年
一同國坂井郡堀江鄉地券
一東大寺庄園井寺用等天曆四年、
一同越前國坂井郡券
一同國庄々立券本主沽文天平神護二年、
一同國坂井郡券天平寶字二年、
一同國庄々券天平神護二年三年、
一戒本師田券天平十二年以後、
一十市庄券天平神護元年、
一越前國桑原庄券天平寶字元年二年、
一同國同庄天平寶字元年、
一阿波國中田郡新島庄券天平勝寶八年、
一庄々官符等天平神護三年、
一伊賀國玉瀧杣券同二年及天平廿年以後、
一越中國諸郡庄園惣券天平寶字二年、
一同國田券天平神護三年、

一同國高串庄券天平寶字八年、
一辨官牒康和二年、
一大政官符法華之義、
一修造文書二卷從承和至文治
一綸旨三卷
一俗別當官符一卷自貞觀至天仁
一造司官符一卷自寬平至天元
一雜々文書一卷僧綱牒、
一消息一卷
一僧綱牒一枚
一中道上人眞言院再興之時法務僧正文一卷
一三綱解草稾一卷
一辨官牒二枚
一消息二枚
一長者宣請文
一阿彌陀院寶物目錄神護景雲元年、
一大政官符雜十枚

一注進印書目錄久安二年、三イ
一公家雜々文書三卷
一寺家臨時政務文書一卷
一補任口宣類也、自二承曆一至二延曆一、
一文書一卷三枚、
一又一卷三枚、
一又一卷七枚、
一東大寺中阿彌陀院別院一卷願文也、
一造司綱牒官符一卷第一之卷也自二承和一至二仁和一、
一諸國御封文書二卷下之卷也、
一軸付外題ナシ卷物一卷
一温室田文書一卷永萬元年、
一二條五坊地劵一卷
一春日庄文書一卷正曆二年、
一伊賀國玉瀧杣劵二卷三四五六七、
一阿波國新島庄劵三卷二五七、
一美濃國茜部庄劵一卷永久五年、

一越前國庄々劵一卷天曆五年、
一越中國諸郡庄園惣劵一卷景雲元年、
一同國足羽郡鷹山施入帳一卷神護二年、
一伊賀國湯船庄劵案一卷天祿二年、
一同國黑田庄廳宣一卷天喜年中、
一宣旨案一卷應保二年、
一左辨官下文幷解牒一卷
一具書案一卷
一油白米稻等寺返抄一卷長保三年、
一自二藏人大進許一請納文書目錄一卷建久九年、
一二月堂松明木一卷伊賀國寶治三年、
一黑田庄出作手繼相傳一卷十二枚、
一同上廳宣一卷天喜四年、
△一因幡國高庭庄劵二卷二三、
△一因幡國牒一卷元慶、
一美作守忠盛度々下文書狀等一卷十一枚、
一無外題三卷

一義持公寄附狀幷別當光經副狀一卷

一尊氏公御書一卷但足利家尊氏以下歷代之書也、

△一尊氏公義持公義政公御書幷畠山書一卷

△一文章一卷大江廣元ノ下知狀也

一右大將家御書案文一卷

一正倉院記錄一箱寬文三年ロ上書、同五年差上候記錄寫、御道具目錄　御開封下行入用日記　行列次第、御開封諸作法記錄、三倉繪圖、慶長七年、寬文六年、元祿六年、御開封之節目錄、

一執金剛神緣起三卷畫土佐、詞一條大閤、

一八幡宮繪緣起二卷畫宗軒、詞一條大閤寺務公順、

祐全法師寄附之由、天文四年宣遙叟奥書有レ之、

一二月堂繪緣起二卷畫詞共筆者不知、〔宋書〕內記不參、右三種畫何も俗惡不レ足レ見候、

一東大寺大佛殿緣起三卷畫芝法眼琳賢、

詞書後奈良院、青蓮院尊鎮親王、西室公順僧正、

△一同上副本三卷

一孝謙天皇宸翰阿難四事經

一聖武天皇宸翰賢愚

一光明皇后眞蹟大毗婆沙論

△一聖珍法親王眞蹟理趣經

△一後宇多院宸翰勸進狀

一聖武天皇宸翰涅槃經四十卷

一同紺紙金泥華嚴經八十卷

右兩品後世物と相見候、

○一月壺筆觀音左龍僧景務畫賛　右虎石橋畫賛　三幅

○一東大寺要錄十卷嘉承長承之比寺僧觀嚴著、

○一同續要錄九卷作者未詳

○△一良辨僧正硯一面

一同柄香爐一柄

△一同鏡一面

△一同眞跡佛土功德經一卷

△一牧溪筆十六羅漢各幅

○一顏輝筆十六羅漢各幅

右兩種普光院義教公寄附、後水尾院東福門院御覽、裱具等御修復有レ之、

○一張思恭筆釋迦三尊

一〇牧溪筆釋迦三尊

一〇△樂面

陵王一ツ、採桑老二ツ、菩薩四、抜頭三、新鳥蘇一

進走德六、退走德六、地久六、胡德樂六、八仙六、

青色皇仁庭六、但此內四ツ修理シテ肉色トス 納曾利一、

名不詳面二、

伎樂面三十八、轉害會王舞面二、

一△大佛蓮座

佛像須彌山等彫付候分者、聖武天皇御時之物ト

相見候、其餘鑄續之分者、皆無地ニ而文字彫付

有レ之、

一△南大門石獅子

一轉害會宣命一通天文八年九月十二日、

神司案藝守東大寺鎭守八幡神主 十二月二日夜　內記不參

一△同神輿圖一枚

一△同所用烏兜二

一△同木鞘一

一△同鞭折一本

一△同革帶一條

一〇大納言入道寶胤卿筆紀氏系圖一卷末ニ他筆書續有レ之、觀應二年之假名曆、文和頃文書之裏ニ書寫有レ之、

一諸家鐵物注文〔朱書〕春日若宮祭禮之節諸家より八幡宮社人え酒肴を鎖に注文ニ御座候、天文より慶長迄數十通有レ之候、

一△應安四年過所一幅

般若寺　十二月四日　內記不參

一△弘法大師眞蹟額般若寺三字、〔朱書〕近代筆意、其上印押候跡も相見、決而大師筆ニは無レ之候

一大般若經六百卷〔朱書〕世ニは大塔宮急難を遁給時之物之由申候得共、實は其時之古物ニは無レ之候由、寺僧申候、

一△與正菩薩筆再興願文

一△優闐王木太刀長五尺

一李龍眠筆十六羅漢

一住吉法眼筆眞言八祖畫像色紙形題字有レ之、

一△一弘法大師草書心經

一延元制札

一大安寺寶物寺廢絶ニ付般若寺ニ預有レ之。

一〇一〇神功皇后三韓退治御弓

一〇一〇同御矢弁箙（朱書）此御矢并箙常憲院樣御代寫被ニ仰付ニ春日社ニ御奉納有レ之、

一〇一釋迦如來在世石鉢

一〇△一菅丞相眞蹟緣起（朱書）眞物妙跡にて御座候、

興福寺　十二月五日

一△一華原磬又円金鼓、又曰四方龍五韻磬、

一△一泗濱石（朱書）此二品之儀ニ付。種々附會之俗說有レ之候得共、妄說不レ足レ取儀ニ候、乍レ去、此二品何も唐物ニ相違有間敷候、華原磬は尋常之金鼓ニ而、何方ニても法會ニ用候品ニ御座候、泗濱石是又石ニ而作候雲磬ニて御座候、

一源義家朝臣胄鉢二

一源義經胄鉢一

一楠正成胄鉢一

一小手一

一△一𣜿木薬器ト申物之由、

此二品者勸修房之所藏（朱書）本談議屋失火之節、諸寶物皆燒失、當時右之外何も無レ之候、

一木像大黑二軀（朱書）右二體共普通大黑像とは違ひ、面白姿ニ御座候　女大黑男大黑と申傳候、

一板佛十二神（朱書）板ニ彫上ニ割ミ有レ之、至極見事之物ニ而、他所ニ類無レ之珍敷物ニ御座候、右兩種共、西金堂本尊後ニ有レ之候、

一乘院宮　十二月五日　內記不參

一橘逸勢眞跡伊都內親王願文一軸

眞物妙跡ニ而御座候

藥師寺　十二月六日　內記不參

一後嵯峨後深草龜山大宮院宸翰紺紙金泥維識論十卷

目録一卷

鷹司關白基忠公

一魚養眞跡大般若經六百卷第百五卷第百十卷闕、

一△一光明皇后眞跡紺紙金泥法華經并開結十卷

一△一大悲菩薩招提寺舍利勸進杓

△一慈恩大師畫像一幅 新羅惠基法師所レ授二戒明和尚一、道風朝臣題字有レ之

一繪縁起四卷 當寺塔頭地藏院住寺古澗寫 〔朱書〕內記不參、至極見事ニ御座候、

一金伏升、方四寸四分、深二寸五厘、

當今升六合六勺、藥師寺法用供米出納于レ今此升ヲ相用 〔朱書〕通用之量を以相改候處入實六合二勺、寺僧申候よりは四勺不足、

一段錢升 方四寸六分、深二寸五分、

當今升八合是ヲ十合ト云、又長命ト云升アリ今ノ一升ノコトカ、古記錄ニ長合十合、金伏ナド云、注記有レ之旨、寺僧申候、〔朱書〕通用之量を以相改候處入實八合、寺僧申候通、

△一制札十通 自二永祿一至二天正一、

△一古面一

△一黑胴一

△一佛足石幷碑

△一安井門主道恕僧正眞跡額 摩利支天四字、

唐招提寺　十二月六日　內記不參

一釋迦如來袈裟一被 十三條木蘭色、

一鑑眞過海大師袈裟一被 二十五條木蘭色、

一鑑眞眞跡紺紙銀泥金剛經一卷

一法花經開結共十卷

一梵網經二卷

一寬治元年書寫大乘百法論般若心經三十頌合一卷

一寬文元年書寫四分戒本一卷

一陀羅尼一卷

右通計十五卷一箱納レ之

一聖武天皇宸翰大般若經一卷 第十之卷、

一光明皇后眞跡六英經一卷 五月一日跋有レ之、

一同上有部戒經一卷 五月一日跋有レ之、

一吉備公眞蹟大般若經一卷 〔朱書〕寶龜十年閏五月跋文有レ之候得共、破候而、文章切々ニ相成、續讀がたく候、

跋云、夫以般若大乘者斯乃三世諸佛之肝心十地菩薩之寶藏然則皈依者離不消灾納福隨順者豈无斷惑護眞伏惟爲孝子坂上忌寸氏成秋穗等慈先考

一△尊圓法親王眞跡願文一軸
一△興正菩薩拂子一柄
一△同櫻櫚拂子一柄
一後二條院太政官符一卷
一後深草院宣旨一幅
一弘法大師眞跡曼荼羅一軸
一△同十六善神
一高麗國劒一口

秋篠寺　十二月七日　内記不參

一仁明天皇宸翰額眞言院三字、
此外寶物無レ之候、

高林寺當時無住ニ而、由緒有レ之町家ニ預罷在候由、松井和泉取次ニ而、旅宿え差越一覽仕候、

一△鎌足公眞跡額一枚高林寺三字、
近來僞作不レ足レ見候、

寺社寶物展覧目録五

山城

黄檗山萬福寺　十一月十八日　彦助一人罷越

一釋迦如來文珠普賢共三幅探幽法眼筆、
一東土諸祖像共三拾幅初祖ヨリ三千岩長ニ係ニ探幽常信益信三士所ニ畫、
一十六大阿羅漢一堂安信筆、
一天童徑山黄檗三老和尚眞共三幅
一老和尚法衣一領係ニ圓光院萃英夫人奉供ニ
一銅如意一把座具一坐錦袱共一箱
一紫色雲緞褊衫一領大明黄檗寄ニ祝七十大壽一的、
一欽賜御香一塊掛目六拾四錢目、
一經山和尚字二幅直條三行、
一老和尚手書方丈額扁字一幅、
一選佛場三大字一幅
一老和尚進山法語手卷一幅

一開堂法語手卷一軸
一開光上梁懸鐘板諸法語手卷一軸
一大方丈上梁偈一幅
一大方丈門聯字共二幅
一齋堂聯字一對
一大方丈聯字一對
一大明黃檗壽軸
一檀越壽軸
一聖壽壽軸
一福濟壽軸
一本山兩席壽軸
一未發西堂壽軸
一張二水字共四幅
一四時花鳥圖共四幅
一葉相國字共二幅
一董其昌字一幅
一林小淵字一幅

一林崇夫字一幅
一唐澗惓字一張
一建國公字一張
一扇子共二幅
一老和尚贊觀音大士一幅逸然公畫、
一張潛夫字一幅
一大古銅香爐一座
一青色大磁花瓶一隻
一三扇金屏風一隻
一錦法被一張
一荷葉大硯一面有二蓋刻銘一開山筆、
一黃檗山竪額一幅
一萬福禪寺橫額一幅
一山門對牓一對
一本山鐘銘一幅
一妙高峯詩直　五雲峯詩　大吉峯詩
白牛巖詩　青龍潤詩　三級池詩

龍目井詩　萬松岡詩　雙鶴亭詩
竹林精舍詩共拾幅　妙高峯三大字横　五雲峯
大吉峯　白牛巖　青龍洞
放生池　雙鶴亭　萬松岡
應供堂　浴室　法堂
寶藏共十二幅
一奉請八幡大菩薩偈一幅
一大殿落成拈香偈一幅
一天王殿上梁偈一幅
一春王五日大殿拈香偈一幅
一祖師伽藍開光法語一幅
一開山和尚直條大字共三幅
一家綱大將軍所賜當山寺地幷僧糧朱印御票
一大涅槃像一大軸
一大佛文殊普賢三大幅
一觀音達磨關帝三大軸
一觀音文殊普賢三幅一對狩野永眞筆、

一五百羅漢手卷一軸王振鵬筆、
一釋迦文珠普賢三幅一對狩野主馬尙信筆。
一達磨一幅唐筆、
一開山和尚拈香一幅長條八言、
一木庵和尚大字三幅一對草條、
一木和尚自畫自題松竹二幅一對
一木和尚先君薦偈一幅
一卽非和尚大殿上梁偈一幅
一卽非和尚壽章一幅
一大明開元寺壽章一幅
一慧林和尚壽章一幅
一獨湛和尚壽章松畫一幅
一大眉和尚壽章一幅
一南源和尚壽章一幅
一獨吼和尚壽章一幅
一高泉和尚壽章一幅
一月潭禪師壽章一幅

一戒琬禪師壽章一幅
一鐵牛禪師壽章一幅
一悦山禪師壽章一幅
一鐵文禪師壽章一幅
一無心師壽章一幅
一惟一師壽章一幅
一本山兩序壽章一幅
一闕梅嚴居士畫鹿射香陪花鳥一幅、
一獨立師遺偈一幅
一木菴和尙自畫自題三幅對菊花、彌勒、水仙、
一繡獅子法被一張
一妙高亭五老詩一幅
一山門牓一對
一第二代賜紫綸旨一幅
一開山和尙支那全錄一帙
一開山和尙扶桑錄一帙
一開山和尙喜卆偈一幅

一慧林和尙法像一幅
一費隱和尙語錄一帙
一五燈嚴統兩帙
一僧傳排韻全部
一慧林和尙語錄一帙
一百壽圖一對
一嚴有院殿拈香偈一幅
一法堂聯字一對
一開山堂聯字一對
一新大將軍蒞政賀偈一幅
一綱吉大將軍再賜本山地基幷僧糧朱印證票
一大將軍謝賜香積田拈香偈一幅
一同四十二歲祈安法語一軸
一第二代木和尙壽影一幅
一盧舍那尊畫像血書一幅 彩色二幅
一戒壇額一面
一上堂香爐幷香盆盆袱

一戒檀鏡開山國師所ニ受用ー松堂送來、
一巖有院殿家綱公雪花兩字一幅
一巖有院殿家綱公赤人御畫一幅
右兩軸岡部志摩守居士送來
一開山國師戒壇執事名單一軸
一第五代高泉和尚法像一軸
一宗門規定一軸
一柳澤保明居士筆談一軸
一木和尚法影一軸
一大將軍賜修復金諸閣老書一軸
一正統禪師法影一軸
一戒經一函
一戒壇執事記一函
一戒壇手鏡一册
一高泉和尚錄一部
一唐錫杖一條
一千果和尚錄一部

一檗宗譜略一部
一左大臣家煕公手書心經一軸
一六代千獃和尚法像一軸
一木和尚手書佛殿上梁法語一卷
一甲斐少將公常應錄一部
一甲斐少將公筆譚問話一卷
一木和尚紫衣公許閣老書一卷
一七代悅山和尚紫衣公許閣老書一卷
一悅和尚法像一軸
一大將軍祈安疏一枚
一四代獨湛和尚法像一軸
一甲斐少將居士筆譚一軸
一甲斐少將居士和詩一幅
一墨刻觀音像一幅
一八代脫峰和尚法像一幅
一雲龍畫一幅
一山水圖福州王瀾筆一幅

一九代霊源和尙法像一幅
一吉宗大將軍三賜本山地基幷僧糧朱印證票
一十代旭如和尙法像
一老和尙仲秋詩一幅
一普明院宮正明寺嘱語一箱
一林丘寺宮菊紋幷燈籠票一張
一進上太上法皇開山國師全錄表文一通
一上普明院宮啓一通和書二通
一十一代獨文和尙法像一幅
一即和尙法像一幅
一波羅提木叉開山國師手書的一幅、
一規約三大僧官跋語的一軸
一僧官文書數條系請唐僧的公賜白金一萬而文書收在二朱塗箱一、
一仲祺和尙語錄二册
一燗徽和尙語錄抄本、
一葦和尙錄一册抄本、
一壽山圖書石三塊仲祺和尙送來的、

一公賜白金玖仟兩小堀氏借票一紙
一菊紋幕一對
一十二代杲堂和尙法像一幅〔朱書〕黃檗山之儀者、近代開基之地ニ御座候得は、格別古物も有レ之間敷と存、彦助一人罷越、荒々一覽仕候、依レ之寺僧差出候目錄之無相記置候　右之内四時花鳥圖幷張瑞圖ノ書四幅對等者、至極見事ニ相見候、幷隱元七十八十之壽軸等者、至而美麗之物ニ而御座候、尤本朝之故實之證據ニ可ニ相成一品は無レ之候、

住吉社務
津守家　十二月六日　內記一人罷越　攝津

一△六位車綱代
〔朱書〕右は後醍醐天皇より賜候由、古製考ニ相成候物ニ御座候、惣而車の只今の樣ニ高大ニ相成候は、豐臣大閤の比よりの事にも候哉、古製彼是相考候處、小形なる物と相見へ候、此車抔は證據の一つニ御座候由、有職達人共申候、

熱田宮　十二月十九日夜內記不參　尾張

一〇日本書紀十五卷內第十二卷缺、
跋云、金蓮寺四代寄進永和二年六月一日
寄附狀云、奉納熱田太神宮內院日本紀□卷十五卷第一卷上下共十六卷　依ニ權宮司経主尾張仲宗所望一、四條金蓮寺四代上人御奉加之、圓福寺三代嚴阿所レ申ニ沙

汰ニ也、永和三年丁巳霜月四日、

古寫本殊勝ニ相見候、

一應永三十十一十二連歌懷紙一冊

一延德二年卯月十九日連歌懷紙一冊、發句御製、

右之外連歌懷紙數多有レ之、

一寫本法華經一部ニ色修理大夫奉納、

一同一部 迎祐元年六月日道々即依書、願主比丘尼信因誌寄附、跋云、喜慶二年六月廿四日柏井住小比丘寶庵天眞祇題焉 迎祐之年號和漢共ニ無之候、若者元之延祐ニ而も可レ有レ之哉、

一白紙金泥法華經八帖丙申六月木庵慧鏡題辭及變相有之、

一同八帖喜慶二年沙門天眞跋及變相有レ之、〔朱書〕右何も唐筆ニ相見候、

一東野州筆古今和歌集上卷一冊

一古寫本源氏物語全部

一無名氏天滿宮神號一幅

一同鷹圖一幅

一量風筆鷲圖一幅

一無名氏日本武尊像一幅

天王寺聖德太子之像ノ縮圖ニ而御座候、

一△道風朝臣筆春敲門額一枚

一舞樂面

二舞二治承二年修復、陵王一、崑崙八仙四、納曾利二、

採桑老一、還城樂一治承二年修復、拔頭一、

一○神馬唐鞍

一朱漆弓二張丸木蕪箭添、

一熨斗附桙二本

一鷹丸

一蜘切丸

一熱田國信

右三腰神劒第一之寶物之由、其外刀劒數多有レ之、彼是名刀も有レ之、

清見寺 十二月二十四日 內記不參 駿河

一△東照宮御召御轅輿

一足利尊氏公木像

一清見關柱

挽割候而座鋪之欄間ニいたし有レ之候、

一同關兵器

長刀、ツク棒、サスマタ、モヂリ。

右二種難レ心得一品ニ御座候、

寺社之外ニ而一覽之品 寫取候品幷借用持歸候品も有レ之、

一△信實朝臣筆定家卿像 冷泉家、

一△唐畫打球圖 五條家、

一△行光筆北野緣起切 土佐土佐守、

一△信實朝臣筆寫人丸像 同上、

一△光信筆義政公像 同上、

一△無名氏繪卷物切 圓滿院宮繪師圓山主水。

一△弘法大師將來李家烟墨銅範 南部墨師松井和泉、

一△古升一 方五寸二分、深三寸、一面刻下南圓堂、自ニ五ケ庄一納之油升也、十二字ハ一面刻下本升依レ爲ニ破損一今度○○二之升懸ニ院主判日二置者也二十一字ハ一面刻下堂童子國弘安清七字ハ一面刻下院主二字及花押ハ同上、

〔朱書〕通用之量を以相改候處、入實一升二合五勺、

一△又古升寫一枚 三面刻下南圓堂寄油升、應永廿三年丙申、堂童子清行十八字ハ背刻下院主二字及花押ハ同上、

一△興福寺鐘銘草本寫一枚 同上、

一弘法大師眞跡額 如法紀藏四字、南部町人、

一佐理眞跡消息一軸 〔朱書〕古物と相見候、

一古葉略類聚 殘缺 同上、

一平城趾跡考草稿一冊 同上、

寬政四年十二月

柴野彥助

住吉內記

寺社寶物展閲目錄追加

先達而差上候目錄之內、相洩候品、又追而京都より差下し候品、幷寸法間違有レ之候處を相糺候品、追加目錄に仕差上申候、

東寺

一備中國政所屋圖

法隆寺

一御褥裏調布題字〔朱書〕令云、凡調皆隨近合成、絹絁布兩頭及絲綿、囊具注國郡里戸主姓名年月日名以國印印之と有之候、然れば天平勝寶八年常陸國調布と相見申候、但寶勝と有レ之候は誤字にもや可レ有レ之候、是を以相考候へば、此御褥は孝謙天皇の御物と相見候、寺僧共聖徳太子の御褥と申候は誤ニ候、

一木升方九寸七分深三寸七分〔朱書〕通用之量を以再應相改候處、入實五升五合、

同舍利殿

一太子柄香爐

一三鼓胴

東大寺

一法華堂手水屋扉刻字

一法華堂柱刻字

一卷軸　永仁二年刻字有レ之、

一古器〔朱書〕此器識にて造候物にて、唐鞍の道具と一所に有レ之候、何に相用申候物哉、相知不レ申候、

一又二種〔朱書〕此二種何に相用候物哉、相知不レ申候、

東大寺八幡宮新藏

一新鞢鞨下鞘

一同石帶

一同古器二種〔朱書〕此二種何に相用候物や、名も相分り不レ申候、

本能寺

一時雨等證旨

京都町人三井八郎右衛門所持

一雲井文冷泉家奥書添、

南都街道玉水南平尾村庄屋所持

一瓦器

一長合升刻字

南都町人所持

一別所小三郎像

中井藤三郎所持

一南光坊書簡

攝州葺屋村

一猿丸太夫碑

但馬國太田文 太田太郎左衛門尉政頼弘安八年之注進

朝來郡

當國二宮
粟鹿大社　領家染殿法印跡
　百町七反二百二拾六步 地頭島津常陸入道

粟鹿大社　定田五拾二町小四拾五步
常荒流失　二町二反六拾步
佛神田　三拾二町六拾二步
人給　拾四町四反大

但（◎史本作右）雖相觸不出注文之間、任建久九年百姓注進之、（◎史本之字無）

押坂社　領家淨土寺大政法印
　八町一反 地頭小比叓大夫局

流失　八反
神田　三町二反
地頭給　五反
定田　三町六反 私田段別五升者、地頭給之町步也、（◎是注史本無）

八幡領下司室尾彌四（史、主）郎入道斷蓮御家人
室尾別宮　二拾二町一反

流失　四反
佛神田　十五町
人給　一町七反
定田　五町

熊野山領
澤寺田　田五町 國別當三江地不見前司重氏

已上神社領

證菩提院領
久世田庄　十九町八反半

神田　四反
寺田　二反
預所佃　四反
下司給　一町（◎史本作反）
公文給　五反
井料　四反
徵使給　一反
公田　十六町二反半

東北院領殿下渡土領家土御門右中辨地頭隱岐左衛門入道成佛跡子息新左衛門尉夜憶（◎史本作懷黑本德）
與布土庄　五十五町

佛神田　二町二反半
人給　二町二反
雜免　五町五反
糸代幷領家預所佃　二町六反
地頭分　四町六反
公田　四拾二町（○史本作十二町）五反
歡喜光院領
賀都庄　百四拾一町六反二百六拾五步內（但中分地）
領家四分
上庄　六拾八町五反三百步
常荒流失　一町二（○史作一）反九拾步
佛神田　拾一町八反百二拾步
定田　五拾五町五反百步
地頭安坂薩摩左衛門尉祐廣
下庄　七拾三町三百二拾步
流失　拾五町六反三百步
佛神田　拾七町三反二百步
定田　拾町拾八步
長講堂領家六條中將地頭鎌田新左衛門尉女子
宣陽門院御紙田　拾六町四反百四拾步
佛神田　一町百四拾步

地頭給　一町五反內河成二反
下司給　六反
公文給　二反
職掌（○史本作事）給　一反
定田　拾三町
安樂壽院、院御領、給主修理大夫郡經鄉下司三方三郎行高跡
上田庄　拾三町
不レ出二注文一之間、任二古帳一注二進之一、但下司御家人三方三郎行高、近年本所被二押領一之間課役懈怠、下司給一町云云、
領家花山院前左大臣家御跡、地頭佐々木信行（方イ）四郎左衛門尉泰義
西明寺　八町五反
卽寺用三昧　一町七反
地頭給　一町
定田　五町八反
殿下渡庄
法成寺　二拾町地頭但馬平三郎入道
流失　拾町
領家分　一町五反
地頭分　八町五反

穀倉院領、領家吏長者被レ召二置國所一之後地頭未補公文比治太郎御家人入道生心
比治莊　拾九町五反二百五拾二步
佛神田　九反
地頭給　一町
定田　拾七町一反二百五拾步
南京西金堂領、下司小谷太郎家茂御家人
西院　拾四町七反
已上佛寺領
國衙領
久世田勸納　拾町三反地頭江民部大夫基後家
神田　三反
井料　三町
定田　七町
遙光寺　四反下司井上新太郎入道上州（◎史本黑本作品）御家人
神田　一反
定田　三反内一反半下司分
牧田鄕　四拾三町八反拾步地頭牧田又太郎光盛除方々權門領定（◎史本無定字）
常荒流失　三町四反三百四拾步

人給　七町七反九拾步
定田　三拾二町三反三百步八幡宮神人免三（◎史、二）拾一町六反二百六十步
赤淵社　拾一町百六拾八步地頭中務太郎以清同舍弟土用鶴丸
流失　九反半
神田　二町一反
定田　八町百六拾八步
法興寺　六町四反地頭佐々木信濃四郎左衞門尉泰茂不レ出二註文一之間任二古帳一注二進之一
新井黑川保　拾七町地頭栢原左衞門二郎
常荒流失　一町四反百步
佛神田　二町七反
人給　三町八反百拾步
定田　九町八拾步
東河鄕　四拾町四反四拾步地頭東河又太郎入道行阿御家人（◎史本無御家人之字）除二方々權門領定一八幡宮神人免廿八丁二百十步
但建長以後庄號中分地也、自二弘安七年一領家與二地頭一有二中分實否之相論一云々、
衣摺社　拾町五反二拾步地頭小比叓大夫局
神田　四町四反

地頭給　一町
公文給　五反
定田　四町六反二拾歩
已上國衙分

庄園領
田道庄畠（畠本家一條殿）　拾五町　領家民部大夫、地頭佐貫三郎太郎御家人（◎史本無三字）公文八代孫五郎入道道佛
領家分　拾二町
地頭給　二町五反
公文給　五反
立脇御紙田　五町　地頭公文同　又號二皇嘉門院御紙田一
流失　三町五反
本家分　一町八反
地頭給　一町三反内流失三反
定田　一町
物部上庄（領家八條左少將）　拾六町五反六拾歩　地頭左近藏人云々（◎史本無云々字）
流失　五町六反四拾歩
神田　四反

領家佃　五反
地頭給　六反
公文給　六反
定田　八町
同下庄（本院御領領家吉田大納言家）　八町　地頭小河左近將監眞盛公文物部新太（◎史、八）郎吉清跡
河成　二反
神田　一町三反百八拾歩
地頭　一町四反小
公文給　一町二反
徵使　二反
已上地頭代如蓮注文定
但如二建久承久建治帳等一者拾六町五反六拾歩云云、自レ元上下庄田數等（◎史本無等字）同之（◎史本作是）地也、半減之上不レ注二公田一之條不審也、
八條院御紙田（本院御領）　五町七反百四拾歩　地頭柏原左（◎史本作佐右）衞門三郎恒後
上西門院御紙田（鷹司院御領）　五町　地頭同人
伊由庄（近衞南殿御領）　二拾八町　地頭太田太郎左衞門政頼

流失　二町一反
寺用　三反
領家分　三町八反但紙田小使等也
本司　八町八反三百歩內
二町五反小　新給分
六町三反半　地頭名勤仕所當公事
公文雜免　一町二反
定田　拾三町六十歩
同庄惣追捕使田　一町四反惣追捕使中務太郎關東給
流失　一反小
神田　半
定田　一町二反六拾歩
朝來庄　六拾四町五反地頭安坂薩摩八郎左衛門尉師氏公文勢至丸御家人
佛神田　七町五反
地頭給　五町一反二拾五歩
定田　五拾一町八反三百二拾五歩
同余田　拾町六反地頭薩摩六郎入道專生

領家分　九町六反
地頭給　一町地頭大膳亮秀政同舍弟五郎光秀以下後家女子六人分領
御室御領和賀庄　四拾一町九反三百四拾歩
流失　三町八反二百五拾歩
地頭公文兩職分　五町
領家分　三拾二町三反三百歩
別給　三町　左衛門入道給
二條院御領牧田位田　二拾町地頭東河藤四郎長茂御家人(◎史本無三字)
流失　二町八反二百廿歩(◎史本作三拾歩)
神田　三反小
地頭給　一町五反內讃岐房善圓分二反長茂舍弟(◎拔有茂下之注歟)
定田　拾五町三反二拾步內
地頭雜免　二町一反小內藤九郎有茂分五反
日海院宮御領(◎史本六字無)二條院勅旨田　拾町地頭鎌倉新左衛門尉女子
流失　半
神田　二反
人田　一町七反半

定田　八町
伊由位田（關東御領預所地頭豐前太郎左衛門尉尚氏後家）　拾八町二反大二拾歩　又號竹田庄
流失　三町二反半
佛神田　一町三反三拾歩
人給　一町三反拾歩
定田　拾二町三反
多々良岐庄（領家關東分本家安嘉門院御領）　拾三町　地頭加治八郎輔朝
神田　二反
地頭給　二町八反内雜免一町八反
徵使給　一町
檜物給　二町
定田　拾町
礒部庄（本所伊勢太神宮　領家地頭關東御領）　五拾二町一反二百五拾歩　給主若宮別當跡
不レ出二注文一之間、任二古帳一注レ之、
廣谷庄　七拾町二反　領家地頭關東御領給主伊賀入道女子跡
本家御分　二拾七町四反半
領家御分　四拾二町七反半

佐中庄　三町六反　地頭中務太郎以淸同舍弟土用鶴丸又號佐中余田公文比治刑部左衛門入道生阿御家人
流失　五反大
寺田　四反
地頭給　四反小内女子分一反大
定田　二町三反
同御領畠　拾一町
養父郡
水谷大社（當國三宮　領家關東御分）　六拾九町三反内　預所地頭神主水谷庄左衛門大夫淸有
水谷大社　拾町二反
流失　三拾町七反二百拾歩
作田　三拾八町五反百五拾歩
神田　五拾八町四反内
社田　四拾八町内　流失二拾五町四反百十歩　見作二拾二町五反二百五十歩
十二ケ度御祭御衣以下講經三昧大税（祝イ）用等也
散在分
安美郷　六町二反内　二町大般若田供僧二口分四町二反　六月臨時御祭田
石禾庄　一町六反　歳末御祭田　近年爲二地頭唯佛光寺一被二押領一之間經二上訴一云々

善住寺庄　一町　大般若田供僧一口分
朝倉庄　八反　二月火替御祭田
高田郷　八反　元三御祭田 爲ニ地頭忠員ニ（◎被脫カ）押領之間經ニ上訴ニ云々
已上五拾八町四反
小佐郷　五反爲ニ地頭代ニ被ニ押領ニ之間經ニ上訴ニ云々（イナシ）
土田郷　二反　當知行（イナシ）
公田　拾町二反　流失二町四反二百步 預所得分一町
定田御歳貢（◎史本作定御年貢）　田九町二反內 見作六拾七反六拾步、安樂壽院幷領家御方脩進ニ厚紙幷卷絹ニ云々、
八幡領
龜別宮　拾二町六反　地頭原七郎入道 不レ出ニ注文ニ之間任ニ古帳ニ注ニ進之ニ
法勝寺領領家押小路中納言家公文小谷太郎家茂御家人
糸井庄　七拾四町二反三百步　惣追捕使善法橋榮能
佛神田　八町八反三百步
人給　五町四反
定田　六拾町
穀倉院領（◎鄉イ）領家吏長者
高田庄　三町三反百四拾步　地頭荻野三郎賴定
佛神田　六反半四拾步

領家預所佃　三反
地頭給　六反
公文給　三反
定田　一町四反二百八拾步
悲田院領領家方丈沙汰
輕部庄　五拾六町九反百七拾步　地頭石岡兵衛治郎入道
佛神田　三町九反三百步
地頭給　五町一反大三拾六步
定田　四拾八町一反二百拾四步
尊勝寺領領家右大將家預所越中部作部下司三方權守淸行
大屋庄　四十四町五反五百步
同領領家圓滿院宮下司建屋五郎大夫女子御家人
建屋庄　四十四町八反二百七拾步
神講田　二町百步
人給　三町九反三百步
定田　三拾八町二反百五拾步
同寺領領家備中法眼俊映（◎俊一本作後、映作腹又快）女子君
同新庄　七町一反三百拾步　地頭石和田又太郎光時御家人
佛神田　五反
領家佃　一反

地頭給屋敷　九反
井料　三反
定田　五町四反三百歩
成勝寺領領家内大臣法印源助
朝倉庄　三拾六町五反地頭長井因幡入道寶圓
佛神田　四町二反
領家佃　二町
預所小佃　二町
地頭給　二町五反
惣追捕使　一町
定田使給　五反
徴使大長　二反
定田　二拾三町一反内地頭雜免一町五反
悲田院領家方丈沙汰
八木庄　六拾一町二拾歩地頭又三（〇史本作治）郎入道寂圓御家人
天台末寺領家山門
不動寺　三町九反六拾歩
不賢院　二町五反半
彌勒寺　二町一反半
嵯峨二尊院領
宿南庄　拾三町百四拾歩地頭八木左衛門太郎重直（〇史本作石和田又太郎光時）御家人

建屋紙工　三町六反大地頭石和田又太郎光時御家人（〇史本作八木左衛門太郎重直）
神田　一反
地頭給　五反大
定田　三町
三方紙工　廿三町八反三百六拾歩地頭源左衛門太郎入道
神田　五反
地頭給　六町一反三百二拾四歩
公田　拾三町一反三百二歩
號土田鄉（四字小杉本無）
右禾上（〇史本作石木上）郷七拾町三反百七拾歩地頭土田六郎兵衛尉則直跡八幡神人免二拾四町六反
方々佛神田　九町七反二百二拾歩
人給　拾九町三反九拾五歩（〇據史本補）
定田　四拾一町二反二百二拾歩（〇據史本補）
地頭長左衛門四郎長連
一分方拾四町二百二拾六歩　加佛神等定
地頭土田又太郎高茂御家人
四分方五拾六町二百三拾四歩
碁垣村地頭職　土田六郎時春御家人
藤和谷地頭職　石禾田（〇禾田史本作一字）尼蓮阿御家人

小佐鄕 百拾七町七反二百五拾二歩地頭四人加垣分田并新赤崎押領(◎彼史本)定云々
流失河成不作畠成拾町八反百九拾二歩
神田 三町八反三拾歩
人給 九町
垣分田 三拾二町百拾九步
定田 五拾六町九反百九步內
一分方 拾八町九反大三拾二步地頭尾張入道
二分方 三拾七町九反半拾七步內
一分 拾七町九反半三拾步地頭伊達五郎三郎
一分 拾七町九反半三拾步地頭河波綠五郎
恒分田方地頭安原兵衛入道(◎八字史本無) 三拾二町四反百拾九步加朝倉押領二反定
流失 七反二百四拾步
不作 一町
畠成 一町二反百九拾二步
人給 四町四反三百步
定田 廿三町九反三百廿七步

大惠保 拾四町二反百五拾步地頭肥塚三郎跡七人分領
岩崎村 四町二百七拾七步地頭肥塚三郎入道運心(◎史本無運心二字)
神田 小
地頭分 一町七反
徵使給 一反
公田 三町二反五拾七步
大惠本鄕地頭七郎入道行西 五町六反百三拾步
佛神田 三反
地頭分 六反
公文給 五反
公田 四町二反百三拾三步
與垣村 四町一反百八步
神田 一反三百四拾八步
地頭分 二町四反
公田 一町五反百二拾步
小田村地頭女子等 四反女子分

二反桑良彌二郎妻女

一反伊佐十郎妻

一反箕田女子分

地頭肥塚三郎後家
長田野領　呂拾町

院御領　領家左馬權頭重清
石禾下庄　三拾二町一反百步內中分　地頭眉折八郎入道妙蓮跡（◎八郎史本作新八郎）

石禾村　地頭眉折又太郎入道明佛子息四郎國綱

那木谷村　同五郎入道行佛

高瀬村　同太郎眞綱女子

八郎兵衛入道光佛領中分

女子治田尼領中分御家人

公文瀧尻小太郎左衛門重綱但中分後半分歟行佛被二押領一

領家二條殿（◎黑本小杉本無）
赤崎庄十七町四反二拾步下司御家人跡（◎下司以下史本無）

於二下司職一者筑後三郎兵衛入道女子與二本司今井四郎入道道蓮一相論云々

成勝寺殿　領家實榮律師　地頭關東御分給仁夫彥二郎時隆
淺間寺拾八町六拾步

寺用　四町五反大

人給　三町二反大

定田　一町二反六拾步

氣多郡

八幡領
伊福別宮五町六反二百六拾步地頭青鳥兵衛入道親佛

同宮領
春日社　四町九反六拾步　地頭同人

兩所共不レ出二注文一之間任二古帳一注二進一之（◎小杉本黑川本無）

伊勢太神宮領家領若倉皇后宮權大進
太多庄八拾一町八反百拾八步地頭樂前藤內兵衛入道了一

流失　一町半

佛神田　四町八反五拾步

人給　二拾六町七反百七拾一步

定田　五拾町二百五拾七步

熊野山領
觀音寺　九町四反二百四拾步地頭太田三郎次郎入道行願

即寺田　三町

不動堂　二町

定田　四町四反大
新熊野領 圓提寺　五町九反大（四 史本）地頭同人
八幡頭 桝別當　八町三反 下司石禾九郎能實御家人
（本ノマヽ）佛神田　二町九反半
人給　一町二反
定田　四町一反三百步
熊野領 新宮田三町　國神主一廳宮
八幡宮領 圓山別當八反　地頭沼田（治イ）小太郎入道願西
法勝寺末寺 國分寺　領家白川中守　三拾四町二拾步
寺用田　拾町八反三百步
定田　廿三町一反七拾二步
樂前庄　四拾八町三反六拾二步內 但中分地
南庄　二拾四町半三拾步
流失　二町三反
佛神田　二町三反　加温室修理田定

人給　四町五反　加井料三反定
定田　拾五町半三拾步
領家領 北庄　二拾四町半三拾步
不レ出二注文一之間任二建治三（二 史本）年帳一注二進之一
横川中道領 三方庄　領家越中律師定範　五拾九町七反百三拾步
不レ出二注文一之間任二古帳一注二進之一 ○史一本無
天台末寺 比曾寺　拾一町八反 地頭樂前藤內兵衛入道了一
佛神田　四町九反三百步
定田　六町八反三拾步
領家染殿 善雲寺 國別當 六町四反二百五拾步 樂前藤內兵衛入道了一
供僧田　一町八反
別當分　九反內 七反ハ佛神役有レ之 二反ハ承仕給云々
定田　三町五反二百五拾步
椙本中堂領 進美寺　領家聖憲法印跡　三拾二町五反 地頭河南木小三郎入道蓮忍
寺用　二拾五町
領家分　六町五反

地頭給　一町

歡喜光院領院御領給主但馬前司入道

八代庄　五拾三町八反　地頭小河左衛門六郎宗祐又號河會寺公文八代右近入道善阿御家人

不作河成　二町五反九拾歩

權門領　四町九反半

河會寺田　拾町

安養院　三町

中禪寺　二反

人給　五町八反

定田　二拾七町二反九拾歩

畠庄宇治安樂院領

大將野庄　領家圓滿院宮　五拾七町七反百六拾歩　地頭前左大將家御後室

領家地頭同

上野村給　拾八町一反小內

領家分　十町九反小　加野畠并倉垣定

地頭分　七町二反　下司并公文惣追捕使跡

下野村　三拾九町六反四拾八歩內

領家分　拾四町五反　加佛神人給定

地頭方河成畠二拾五町一反四拾歩

國中諸寺沙汰

惣社大般若田四町

進美寺沙汰

同社三十講田一町五反

國司沙汰

最勝講田拾一町三反

同沙汰

綾田七町五反三百四拾歩

國別當助直跡

五大堂田四町

國別當一廳官

長喜寺田二町

同人

藥音寺田三反六拾歩

同人

來迎田二町

同別當

蓮臺寺田三拾町八反大

同人

吉祥寺田二町一反半◎半史本作大

治部小太郎入道願西國恩

歩射田　一町

國神主成連(◎史本作國主成連)

竹隆院　四反

善代寺 國別當院徑所師親 一町七反
樂音寺 同人 一町六拾歩
興法寺 同別當教連 三町
高生郷 百七町八反大 公文矢部尼關東給 八幡宮神人免六拾町
佛神用田 四町七反
押領使田 六町
井料官使田 二町八反
留守所用作 拾五町八反大
一廳官分 二拾二町
公文分 三町七反
不レ出二注文一之間任二建治二年狀一注二進之一
新當田 三町八反 同公文沙汰 ⊙是一條史本無之
日置郷 百四拾六町七反百九拾四歩 地頭越前兵衛太郎長經 八幡宮神人免二拾一町九反二百七十歩
佛神田 伊福別宮已下領 八拾五町一反三百四拾歩
權門 拾町八反半

地頭新給田 四町六反百六拾四歩
公文給 一町
定田 十六町四反二百拾五歩
釋迦寺 二町一反 地頭同人
師成名 七町八反 地頭鎌田新左衛門尉女子
高田郷 六拾七町四反百六拾三歩 地頭高田次郎忠貞 八幡宮神人免二町五反
常荒河成 五町七反百拾五歩
畠成 一反三百四拾歩
佛神田 十七町九反三百拾歩
公田 四拾三町五反二百拾九歩
氣多郷 百拾一町三反二百二拾四歩 地頭治田小太郎入道願西 八幡宮神人免七町八反
上郷 二拾八町五反二百八拾歩
常荒流失 五町百六拾歩
佛神田 一町一反半
地頭給 二町一反五拾歩
定田 二拾二町二反二百五拾八歩 イナシ
下郷 七拾三町七反二百九拾六歩 地頭同人 神人免拾六町四反

常荒流失　八町二反二百五拾四步
樓門佛神田　拾四町（四十イ）三反百四拾步
舞人并新井莊國役人等七町（二イ）三反小四拾步
地頭給　三町五反半拾步
定田　三拾四町五反二百七拾二步
惣社毗沙門堂五町七反　地頭同人
寺用　一町五反
人給　一町
定田　三町二反
同社毗沙門講田　一町（二史本）　地頭同人
同社三昧田　一町七反六拾步　地頭同人
三會寺　五町三反二百步　地頭同人
狹治鄉　三拾四町二反大　公文八木九郎左衛門尉高貫御家人八幡宮神人免十二町四反小
常荒流失　六反百三拾六步
神田　四反
人給　三町二反
散在入免　八反百拾步

定田　廿九町一反三百五拾四步
八代鄉　拾九町二反二百三步　公文八木三郎左衛門入道眞阿御家人　八幡宮神人免三町
常荒流失　一町一反六拾九步
佛神用已下　三町二反八拾一步
人給　二町二反
定田　拾二町七反三百拾二步
下賀陽鄉　五拾九町四拾一步內　地頭同人
地頭給　五町二反（二）以下至小山田寺十四行史料本出於出石郡菅庄北方定田條之次
鄉司佃　七反
官使田　二町
井料　一町
徵使田　一反
定田　五拾町四拾步內
上村　廿七町三反　地頭河越修理亮跡
地頭給（田）史アリ　二町六反
公田　二拾三町二反七步（三）二反七步史本作七反
下村　二拾七町三反　地頭野元孫三郎

地頭給(田)史アリ　二町六反

公田　二拾三町七反

小山田寺　三町　國別當水落太郎重方跡御家人

薪井庄　拾三町六拾歩　地頭宇多田孫(◎彌史本)三郎入道阿妙跡

地頭分　四町四反

定田　八町六反六拾歩

公文職御家人役勤仕之地感蓮與二定宗一相論云々

上賀陽庄　拾七町六反三百二拾八歩　地頭二人

南方地頭　小林三郎入道

北方地頭　同三郎興重(◎黑本作直重史本作三郎治郎直重)

出石郡

當國一宮本家高辻姫宮　安主肥前前司跡子息三人分領

出石大社　百四拾一町六拾歩　一人左衞門入道蓮阿　一人四郎左衞門入道妙心　一人五郎左衞門入道定智

常荒流失　三町一反又出石鄕押領四町四反小云々

長日御祭田　七拾一町二百五拾六歩

講經修理田等　二拾七町九反大

引聲幷御神樂田以下料　拾一町一反大

領家佃案主給　六町半

定田　八町八反百四拾歩

上野庄土イ　六拾町　公文土野源太家俊跡御家人役勤仕職近年爲二本所一被二打留一之(◎史本作仰付之)

不レ出二注文一之間任二古記一注二進之一

賀茂社領　領家智德門院(◎史本知德院)

矢根庄　拾五町九拾歩　公文矢根夜叉王太郎跡

同社領　領家同上

同余田　三町八反三百三拾歩

兩所共不レ出二注文一之間任二古帳一注二進之一

八幡宮

營庄　四拾一町七反三百歩内地頭二人

北方　拾六町七反小　地頭藤肥前左衞門太郎經久

神田　一町五反　加當一宮田五反定

寺田　一反

加徵代田　一町

定田　九町小

南方　二拾五町半二イ　地頭多々良岐勝絲イ太郎長基基長イ

神田　五町一反加修理定

御油田　一反

一宮田　三町六反

人給　四町一反

定田　拾二（三イ）町半

伊勢太神宮領領家綾小路侍従下司小野五郎太郎孝村御家人

大垣御厨　二拾五町

常荒流失　一町四反

神田　一町二反

下司公文給　各一町

定田　二拾町四反

同宮領　領家同上

同開發村　三拾九町　下司小野太郎高依御家人

流失　一反小

神田　一反

寺田　一反小

人給　六反

定田　二町九反小

八幡宮領下司安良太郎景□同次郎政景御家人

安良別宮　二拾八町八反三百ニ拾步

度々雖レ觸不レ出ニ注文一之間任ニ古帳一注ニ進之一

熊野本宮領國別當南左太郎高春御家人

鉢山寺　六町八反二百四拾步

佛神田　二町四反

定田　四町四反百四拾步

崇德院御影堂領　領家二位律師

行野庄　三拾九町二反三百步

不レ出ニ注文一之間任ニ古帳一注ニ進之一

法勝寺領　領家尾張三位家跡

雀岐庄　七拾二町九反四拾六步內　但中分地

東方　三拾七町五反三拾步　領家尾張三位入道子息三人

河成　四反小三拾步

寺田　二町二反

神田　三町六反三百三拾步

定田　三拾一町一反大四拾步

西方　三拾六町四反六拾步內　地頭太田左衛門三郎入道如道

佛神田　二町三反百四拾一步

定田　三拾三町九反二百三拾六步

但於ニ關東御公事在京役以下事一者如（以下缺）

高野平等衣院領　領家中納言法印能譽中分以前令ニ勤仕一云々

弘原庄　五拾町　地頭太田太郎左衛門致親

法金剛院領　領家眞言院僧正預所佐渡入道覺海

大内庄　六拾町二反百八拾步下司香津孫太郎（◎史本獮三郎）入道淨阿御家人公文金覺注文定

流失　二町百五拾步

佛神田　一町五反

人給　三町二反

定田　五拾三町五反三拾步已上金覺註文定

但如ニ下司香住孫太郎入道淨阿注文一者定田九拾町其外新田二拾町又下司開發之眞野（奥イ）村新田三拾町爲ニ預所押領一云々惣田數百四拾町歟

悲田院領　領家方丈御房

善住寺庄　三拾町地頭八木三郎左衛門入道眞阿御家人

不レ出ニ注文一之間任ニ古帳一注ニ進之一

地頭出石三郎信政跡依下白川三位家越ニ狼藉一召上上子息孫三郎政光諸死云々

出石鄕　三拾三町九反四拾四步

地頭太田治郞左衛門尉政直跡白川三位家跡被ニ召上一所レ相ニ觸爵訴一也

神戸鄕　三拾四町七反百拾六步

法皇寺　四町小國別當國司之沙汰

出石毘沙門堂領　八町四反國別當長尾孫三郎政經御家人

常荒　二反

寺田　四町七反

人給　一町

定田　二町五反

小坂鄕　八拾五町百六拾步地頭周防三郎八幡宮神人五拾一町七反九拾六步

八幡宮以下佛神田（◎史作用）三拾八町六反六拾步

地頭給　五町

公田　四拾一町四反百步

下里鄕　六拾一町九反二百四拾（◎史無七之字）七步內地頭太田三郎二郎入道行願八幡宮神人兒

流失　二町三百步

佛神講田　七町五反大

地頭給　五町一反百三拾步（◎史本作三拾五步）

定田　四拾七町一反三百一步內（◎史本作三百步）

菊万宗平兩名　五町八反三拾步惣領行願地頭注文定

但如ニ當名頭明光注文一者菊万三町宗平一町三反百六拾步以上四町三反百六拾步云々就ニ兩方注文一有ニ一町四反二百分增減一矣

行願妹信政女子二人名一町領ニ知之一
殘定田　三拾二町二反拾七步
安美鄉　七拾六町七反六拾步內地頭大門（◎史本作大江黑本大內）氏出石三郎信政嫡女長右衞門四郎長進妻
佛神田　二拾町九反二百八拾步
地頭給　五町九反三百二步
別名田　五町六反百八拾步
次女分　三町安藝之助光直後家
三女分　三町治田小太郎入道願西妻女
四女分　二町大同庄預所佐渡入道禪海妻女（◎史本無大同庄預所之文字）
成支名　八町五反信政次男孫三郎左衞門尉政光分（◎史彌）
安富名　七町百三拾步三男孫三郎信繼（◎史綱）分
成支名　四町七反二百步四男五郎信長分
福成名　三町八反小被レ付ニ下地出水谷社ニ云々
定田　八町七反二百七拾步
聖護院御領
藥王寺　拾三町五反二百七拾步地頭葺山七郎家貫
常荒　一反小

佛神用（◎史、同黑、田）　四町三反
人給　三町一反
定田　六町二反小三拾步
法金剛院領
太田庄　伯宮御領
八拾町地頭越前々司後室
不レ出ニ注文ニ之間任ニ古帳ニ注ニ進之一
聖護院御領（◎據史本他書無）
高瀧寺　五町地頭太田三郎次郎入道行願
城崎郡
八幡宮領
壽永寺別宮　二町四反下司安良太郎安景御家人
不レ出ニ注文ニ之間任ニ古帳ニ注ニ進之一
八幡宮領（◎據史本他書無）
大石別宮　三町三反
神田　二町七反小
人給　五反大
熊野山領（◎據史本、他諸本無）
福田庄　二拾二町七反三百步下司兼公文宮井太郎兵衞尉盛長（◎史光）御家人
神田　六反小
下司公文給　各一町
定田　二拾町一反百八拾步

山門無動寺領　領家日向律師昌範
小田井社（史本社上有大字）三拾一町三（◎史二）反八拾歩　地頭新藤五郎三郎盛綱
佛神田　　二拾五町一反三百歩（◎史本三百二拾歩）
領家所當　五町五反大内分田二反
徴使給　　一反
地頭給　　二反大
長講堂領往古帆前家（又舊帳有保前）舊地跡別田但山庄共五町六反餘不ㇾ預ニ御下知ー（◎往古以下史本小杉本無）
城崎庄　七拾四町六反　地頭南部太郎二郎入道行蓮（◎史本連案本願）
所々入免　二拾三町五反
佛神田　　六町一反
人給　　　拾八町二反半
定田　　　二拾六町七反半
不ㇾ出ニ注文ー之間任ニ建治二年注文ー注ニ進之ー
同堂領　領家三條太政入道殿御子女
新田庄　百六拾四町百六拾歩内　地頭肥後三郎兵衛尉爲重跡　但中分地（◎史六拾六歩）
領家方　　百四町七反百二拾歩
常荒　　　一町
寺田　　　拾二町八反百六拾歩
神田　　　六町六反二百四拾歩

人給　　　四町八反
井料　　　一町五反
定田　　　七拾七町九反八拾歩
　　已上領家方
地頭方　　五拾九町三反五拾六歩内
一分方　　二拾四町八反小　地頭肥後三郎左衛門爲重女子周防守妻
佛神田以下除　六町五反小
定田　　　拾八町三反
二分方　　拾七町四反小二拾八歩　地頭甲斐入道爲連後家尼四憶
佛神田以下除　四町一反小二拾八歩
定田　　　拾三町三反
三分方　　拾七町小二拾八歩　地頭爲重女子伊賀局
佛神田以下除　三町七反小二拾八歩
定田　　　拾三町三反
伊藤三郎左衛門入道關東給
公文分　　二拾四町二反百四拾歩東西在ㇾ之
度々雖ニ相觸ー惣不ニ叙用ー之間不ㇾ及ニ注進ー可ㇾ有ㇾ御ニ尋所存旨ー也

平等院領　殿下渡庄

樋爪庄　六拾九町五反百七拾步　下司家（奈イ）佐太郎高春御家人公文宮井太郎左衛門尉盛長

但雖有兼作公田注文國領之間除之

妙音院領領家淨土寺僧正房

大濱庄　三拾六町一反半　地頭河越太郎藏人重氏

佛神田　七反

地頭給　三町

定田　三拾二町四反半

不レ出二注文一之間任二古帳一注二進之一

法勝寺領領家眞乘院僧正預所教王院三位法印公文太田左太郎政賴田所下鶴井三郎秋正御家人（◎政賴以下史本無）

下鶴井庄　二拾六町一反百拾步

河成　八町一（◎史本八）反二百三拾五步

佛神田　九反

四庄官雜免　三町八反百六拾二步

定田　拾二町五反拾三步

白川平體阿彌陀堂領　領家左兵衛督局房、（◎督局史本作佐一字）

氣比庄　五拾町一反二百九拾步内　地頭太田太郎左衛門政綱跡

氣比村　三拾四町三反二百五拾步　地頭太田太郎左衛門政賴

上山村　四町三反三百五拾步　地頭藤藏人重直

立野村　拾一町二反五拾步　地頭太田左衛門治部政眞（◎史本政光黑本政員）

本庄村　卅六町　地頭太田左衛門三郎政兼

相博保　三拾九町四反二百四步　地頭蛭河左衛門尉

人給　七反

地頭給　三拾町五反三百拾九步

定田　三拾五町百四十五步（◎史本作三拾町一反二百拾五步）

得次保　拾四町五反六拾步　地頭西條十郎太郎

神田　二町五反六拾步

地頭給　三町

定田　九町

樋爪國領　八拾町四反百三拾步内　下司家（◎家字史本無黑本作奈字）佐太郎高春御家人公文宮井太郎兵衛尉盛長

春光加催　四拾七町二反五拾步

城崎夫免　拾六町

藤延寺　六拾九町三百五拾步（◎史本作六町九反三百五拾步似可）

河會　拾町五反（◎史本作一町五反蓋誤）

杭野保　一町六反三百步

田結郷　三町四反百六拾歩内地頭平井小太(史治)郎入道

温泉寺　九反小國別當教蓮

小社　七反小國神主祝下次官資經

公文給　三反地頭下野三郎頼泰同舍弟紀(史江)五郎太郎(◎史作太夫)政經

定田　一町四反二百八拾歩◎史本脱

領家東方二位律師家秀西方日幡法眼

上三江庄　百四拾三町二反百七拾歩安主八木五郎兵衛尉高秀(◎史家)御家人公文職相論御家人

荒田　六町四反大八歩

佛神田　拾三町百八歩

人給免田　拾五町一反

定田　百八町二反二百歩内

地繪　九町八反二百三拾歩

御服田　九拾八町三反三百三拾歩

領家嵯峨大臣家

田結庄　八拾町六反地頭安藝左近職人重近女子

佛神田　拾町六反

定田　七拾町

松尾神領

下三江庄　五拾四町三反三百歩號二鎌田庄一

不レ出二注文一之間任二古帳一注二進之一

美含郡

八幡宮領(◎四字史本)

帝釋寺　拾町九反三百三拾歩

不レ出二注文一之間任二古帳一注二進之一

領家淨土寺殿(◎六字史本)

竹野郷　九拾一町六反地頭安居院左衛門督(◎督一字史本作繼廿二字)法印公文左(◎史右)衛門入道信道御家人

不レ出二注文一之間任二古帳一注二進之一

領家淨土寺殿

美含庄　八拾四町三百三拾歩地頭加賀民部入道行景(◎史本行杲)

常荒河成　八町九反

井料　三町五反

人給　拾八町六反半五拾七(◎七史本無)歩加領家佃地頭正作定

定田　四拾町三反大三拾三歩(◎史料本作四拾三町大三拾三歩)

院御領

佐須庄　七拾八町七反拾歩地頭太田千(◎史牛)熊丸

佛神田　六町五反小(◎史本作六反五拾歩)

井免田　一町

地頭給　五町内一町長井村方

下司給　一町

徵使給　五町
垣吉名　四町九反七拾步
無足田　拾八町（○史本作拾町）五反百七拾步
定田　三拾一町（○史本三拾町）七反三百四步
用成名　三拾町四反二百八拾步
爲成名　一町四反百拾步
同御領
同庄內長井村拾六町一反六拾步　地頭久下孫（○史彌）二郎左衞門尉（○史泰）
流失　一町二反
佛神田　一町三反小
井料　一町二反
頭家佃　一町五反（◎史作一町二反）
小佃　四反二百八拾步
地頭正作　二町
公田　八町三拾二步
同御領
同庄內舟生邑六町一反八拾四步　地頭久下左衞門九郎
流失　二反二百二步
神田　一反

領家　二反七拾二步
地頭正作　三町三反二百七拾步
公田　二町二反
七美郡（○史味）
八幡宮領
熊次別宮　拾六町七反半四拾步　地頭瀨原田入道西念跡三人領一人左衞門五郎入道道性二郎入道了忍一人佐藤
神田　二町
經田　二反
佛供田　二反
地頭給　一町
定田　三町三反
長講堂領
小代庄　領家近衞殿　三拾八町大　下司八木七郎入道見阿御家人
佛神田　二町小
人給　六町
定田　三拾町小
同堂領
菟束庄（○史本作菟東庄可從）　領家宰相法印　五拾二町一反半三拾八步　下司菟東左衞門入道々惠御家人
流失　八町三反半二拾二步

佛神田　四町八反大拾步
人給　四町四反小五拾步
定田　三拾四町三反半二拾步
同堂領　領家高辻播磨守
七美庄　三拾三町地頭和泉入道淨有領家方注文定
佛神田　二町七反（◎黑本作五町）
定田　一拾九町三反內三分一合和與地頭（◎史本作和泉二地頭）云々
殘領家分　拾九町五反內
田所給　一町
已上領家方注文定
但如ニ地頭代道一狀一者地頭給田三町、在家五百町（◎史本作五字）萩山々畠十五六（◎六史無）町、外公田者、地頭捴不ニ相定一之上者、不レ出ニ員數一云々、
歡喜壽院領　領家按察二位家御跡
射添庄　二拾六町六反三百四拾步地頭射添彌三郎入道公文計參太郎入道御家人
佛神田　九反半
地頭給　五町五反
公文給　四町五反
惣追補使給　五反

定田　拾五町二反小四拾步
二方郡
伊勢太神宮領　領家修理太夫家
田公御厨　四拾八町三反地頭長井出羽入道祐（破失）公文左近太郎貞直御家人地頭代信念注文定
神田　六町二反八拾步
大般若田　三反
寺田　一町一反半（◎史本無半字）
領家佃　拾町
同浮免　二町二反
地頭給　二町（◎史本作一町）
公文給　一町
徵使給　一反
井料　六反
檜物給　一反
築垣祈（◎史本曰築墻料歟）田二反
定田　二拾四町一反二百六拾步
已上信念注文定
但如ニ公文貞直注文一者六拾町　六反半　五拾分內

除二佛神人給等一定公田（◎史本作文） 四拾八町二反百五拾步云々

新熊野幷歡喜壽院領
八太二方庄　五拾一町九反內久米多寺行圓房沙汰

八太庄　二拾五町九反半下司邊栖二郎宗吉御家人

二方庄　二拾五町九反半（◎史本作二拾二町五反半）下司葛野源太吉高御家人

八幡宮領
勝樂寺別宮　五町一反小

不レ出二注文一之間任二古帳一注二進之一

蓮花王院領　領家民部小輔入道
溫泉庄　七拾四町六反半五步地頭奈良九郎宗光　同舍弟二郎左衛門尉正員

常荒流失　八町一反大四拾步

不作　二町一反大二拾步

地損　六反大（◎大字史本無）

見作　六拾三町小五步內

神田　三町六反三百二（◎史作三）拾步

寺田　二町八反

下司幷惣追捕使給五町內下司給四町惣追捕使給（破失）浮免地頭得之云々

公文給　二町九反內一町寺本公文八木七郎入道　一町九反竹田公文村添彌三郎入道

定田　四拾八町一反二百拾五步

長講堂領　領家中納言下司法眼珍曉御家人實綱跡（◎史本無實綱字）
久計庄　四拾九町三百步公文蓮信預所代光利注文定

佛神田　三町大六拾步

人給田　四町

定田　四拾二町已上蓮信光利注文定

但如二前公文鶴一兵衛尉實秀注文一者惣田數七拾六町三百五步除二佛神已上（◎已上字史本無）　募二定公田三拾三町一反半二拾七步云々

同堂領　領家同人案主幷伊舍下司宮井太郎兵衛尉盛長御家人
大庭庄　七拾四町五反百拾四步惣追捕使宗貞女子加伊舍浦定案主代聖願注進定

不作河成　一町五反百六拾步

田公庄講代　三町五反二百三拾五步

佛神田　四町二百四拾步　加二伊舍定一

定田　六拾五町三反二百步內

預所分　八町一反二百七拾步

下司名　六町四反內給一町

伊舍浦下司給　一町

摠追捕使名　五町五反內給一町

百姓名田　三拾八町九反百拾歩

以上聖願注文定

但如ニ預所代(◎中脱カ)務丞盛兼、公文阿波權守代延光注文ニ者、惣田數三十九町二反百四拾歩、除ニ佛神給定ニ公田三拾二町二百四拾歩云々、

右注進如レ件、抑隨ニ催促ニ出ニ注文ニ之所者、就ニ其狀ニ注ニ進之ニ、度々雖ニ相觸ニ不ニ叙用ニ聾事者、雖レ須ニ(◎之以十四字史本脫)注進言上ニ日數延引之條、依レ有レ恐(◎史本作其恐)且任ニ建久建治之帳ニ注ニ進之ニ、於田(破失)地者雖レ不レ被ニ仰下ニ至前田代(破失)所入之及(◎及字史本無)邑地已(◎史本作也)又雖帶地頭職(破失)本自入之勤仕御家人役來聾(破失)注分之謹令ニ注進言上ニ之狀如レ件

弘安八年十二月日守護人大江(破失)

此本神社佛寺國衙庄薗等雖(破失)披見有ニ其煩ニ之間、爲ニ細々所用郡之名利ニ令ニ類聚ニ畢、於ニ田數ニ者不レ可レ違ニ正本ニ者也、

應永三年捌月　日

于時寶德四年仲春中旬候卒爾仁馳レ筆畢後哲須ニ再治ニ而已

沙彌尊阿

但馬國美含郡帝釋寺政所公物也

朔來郡牧田神淵寺求焉

史料寫本但馬國云々之次書曰

粟鹿村鹿苑寺に寫有之竹田町同姓矢名瀨新右衞門盤雅明和年中寫之右分家故是ヲ借テ又寫者ハ

于時嘉永五年壬子正月燈下寫畢太田吉右衞門義明

下京中出入之帳 元龜四年六月十八日

五くみのより銀日記

中のくみ

壹町に拾三まいつゝ

十七町分此銀九貫五百三匁　矢田町

此内卄壹匁五分わび事すし

殘九貫四百八拾壹匁五分

十一町銀六貫百四拾九匁　西のくみ

此内四百十二匁九分侘事

殘五貫七百卅六匁壹分

八町銀四貫四百七拾貳匁　たつみのくみ

此内三百卅七匁五分

殘四貫卅四匁五分

此銀壹貫六百七拾七匁　三町のくみ

此内八拾六匁長刀ほこの町 やぐらのかうりよく

殘壹貫五百九拾壹匁

十五町銀八貫三百八拾五匁　うしとらのくみ

此内百卄壹匁七分

殘八貫貳百六拾三匁三分

下京五拾四町に

銀惣合參拾貫百八拾六匁

但銀七百貳まい也

此内九百七拾九匁六分五くみのわび事に引

殘而銀貳拾九貫貳百六匁四分

下京かまへの内寺銀之分

銀貳百拾五匁　妙覺寺

同貳百拾五匁　ほんのうし

同百七拾貳匁　りうほん寺

同八拾六匁　ようほう寺

同四拾三匁　妙傳寺

同卄壹匁五分　四條はうもん めうせん寺

同九匁五分　秋の野の道場

同拾四匁　ちやうはくし

同廿壹匁五分　一連社
同廿五匁　いなはたう
代貳貫文　同所
代五貫文　きよし
代貳貫文　みやうけうし
銀廿壹匁　あんやうし
同八匁六分　みようゑん寺
同四拾三匁　みゑいたう
同四拾三匁　ほんかくし
銀廿壹匁五分　かまのさくらの寺
同八拾六匁　にしきの小路あをや
　以上壹貫四拾五匁六分
惣以上合參拾貫貳百五拾二匁
　使申銀の日記
銀拾貫七百五拾匁　殿様
同壹貫貳百九拾匁但金三まいふん　政様
同四貫參百目　柴田殿

同四百卅匁但金一まいふん　同人
同四百卅匁　とこ山殿
銀貳百拾五匁　柴田源左衛門殿
同貳百拾五匁　柴田理介殿
同貳百拾五匁　あを山殿
同五百拾五匁　柴田おいかさま
同六百四拾五匁　柴田殿内衆とこ山殿内衆
同四百卅匁　おすき殿
同貳百五拾八匁　始日各へ禮
同貳貫百五拾匁　宗仁
同八百六拾匁　丹羽五郎左衛門殿
同八百六拾匁　蜂屋殿
同貳百拾五匁　細川兵部大輔殿
同貳百拾五匁　あらき殿
同六拾四匁五分　宗仁へまつの取かへに返申候
同貳百拾五匁　佐久間殿
同貳百拾五匁　夕庵

同貳百拾五匁　ゆうかん
同貳百拾五匁　しま田殿
同貳百拾五匁　塙九郎左衛門殿
同貳百拾五匁　明智殿
同貳百拾五匁　村井殿
・同百廿九匁　金森殿
同八百六拾匁　上口様
同拾匁　とこ山殿振舞
同三百拾四匁五分　今度の入め但西院山の衆方へ樽小日記あり
同廿壹匁五分　殿様の　いく田殿
同百廿九匁　御小人衆三人　たくりのふん
同四拾三匁　久大夫殿
同四拾貳匁　ふきへり
同四拾九匁　西のほりのほりちん
同七拾五匁　西四條口かまへの入目
同八拾六匁　芥川殿
同八拾六匁　道いよ介兩人

同六拾四匁五分　かいかう内衆まん
同百六拾五匁　西同院會所銀あつめ申入め
同百卅匁　方々へ飛脚
同四拾六匁　今度柴田殿湯入の御状にて馳走の入め
同百廿九匁　上使衆さいしやう入め
同四百卅め　永加
同百廿九匁　やすい殿
同貳百目しヽら拾端　政様
同百め　同　御きみやう様
同百目　同五たん　柴田殿
同五百目同廿五たん　各々日記あり
同百六拾壹匁　ゑほこ拾たん各へ
同卅八匁　扇百五十本
同四拾五匁　柴田殿たか入め
同卅五匁　帶五たけ日記あり
同拾七匁　杉原二束
同四拾三匁　とこ山殿今度ちやうかうし各御下之時

同廿壹匁五分　米田殿
同廿壹匁五分　助三郎
同八拾六匁　湯入の御衆へ取かへ
同三百目　今度下の使
惣以上合卅貫百七拾貳文匁
紙數八丁墨付也

遣日記

銀子貳百五拾枚　殿様
金子參枚銀替卅枚　同
同壹枚　同十枚　柴田殿
銀子百枚又一枚　同
同五十枚又一枚　宗仁
同五十枚　柴田殿内衆
米五石但銀子二枚五兩　宗仁
銀子廿一枚　丹羽五郎左衛門殿
同廿一枚　蜂屋殿
同五枚　荒木殿
同五枚　太輔殿
同五枚　佐久間殿
同五枚　夕庵
同五枚　ゆうかん
同五枚　嶋田殿

同六枚　　塙九郎左衛門殿
同五枚　　明智殿
同五枚　　村井殿
同三枚　　金森殿
同八拾枚　　御馬廻御小者迄
以上六百六拾五枚五兩
銀子　小遣日記
五斗徳山殿めしの入目　銀十〆め
拾四石六斗參升但銀子七枚參兩六匁
以上七枚五兩二〆目
都合六百七拾參枚二〆目
貳拾枚　　公方衆
惣以上六百九十三枚　一町十三枚宛
紙數二丁墨付也

絲割符由緒書

一糸割符　御定被レ　成下一候儀者、慶長年中御定より以前者、外國商人共日本より船仕立、金銀積入、銘銘存寄の國々へ渡海仕、代ロ物買取歸帆仕候、然るを渡海人年々多、御停止の鐵砲、兵具等漏越、第一御制禁之耶蘇宗門追々傳來仕候事共に付、乍レ恐　大御所樣より奉二申上一候御頃より、嚴舖被レ為二　仰付一、猥に出船難レ仕御座候を、　御由緒有レ之ものども、御朱印頂戴之上、渡二海外國一商賣仕候、此　御朱印今以京糸割符に奉二所持一候、慶長九辰年京、堺、長崎三ヶ所へ糸割符　御定被二成下一候節も、　右　御由緒筋目のもの被二召出一、糸割符年寄役并中老役等奉レ蒙レ仰迄、日本より渡海之儀者、長崎新湊御取立以後、　御停止被二仰止一候、

一長崎新湊開發御取立、異國來船、入津仕に相成候而も、商人の作法不二相定一候由、異國船商賣隙取、滯船永く迷惑仕候由、願上候に付、積戾り候而者、重而積來申間敷間買取候樣、　大權現樣被二　思召一候に付、長崎御奉行小笠原一庵樣を以被二　仰出一、京堺に而由緒之者共被二　召出一、荷物不レ殘買取、異國船共歸帆仕候、其翌年又糸大分持來下直に賣候而者、前年　上意に買取候者共、大分之損銀仕候間、此者共限に御買せ被レ下候樣に奉二願上一候處、被レ為二　聞召屆一、利分有レ之樣に直段を立、去年之買高に割符買取候樣被レ為二　仰付一、此度之　上意自ら糸割符　御定之基に罷成、其格を以年々此者共買請申候、元來御由緒有レ之者共被レ為二　召出一、慶長九辰年五月三日伏見於二　御城一、始而糸割符京、堺、長崎三ヶ所御奉書奉二頂戴一候、寫左に書付候、

黑船着岸之時、定置年寄共、糸のねいたさざる以前、諸商人長崎へ不レ可レ入候、糸の直相定候上は、萬望次第致二商賣一べき者也、

慶長九辰年五月三日　本多上野介　在判
板倉伊賀守　在判

右御奉書者長崎高木作右衛門方に預置、今以奉ニ所持ー候、作右衛門義共頭糸割符年寄相勤申候、

右の節、御定の題糸高、

京　百丸
堺　百貳拾丸
長崎　百丸
三ヶ所合三百貳拾丸　但壹丸五十斤入 壹斤掛目百六拾目

右之題を以、糸高如何程持來り候而も、京、堺、長崎三ヶ所へ右三百貳拾丸に割符買取候樣被ニ仰付ー、年々出銀三ヶ所割符人頂戴仕候事、

右之通、長崎新湊御取立、入船勝手宜、如何程積來候而も無レ滯買取、割符人御定も相立候に付、異國船どもも段々代ロ物多持來、慶長十乙巳年糸夥取持來候故、割符方商人どもに金銀手支、商賣可レ及ニ延引ーに付、白糸千丸御買上に相成、小笠原一庵樣、長谷川波右衛門樣御持登り、右糸千丸共伏見御城へ納り申候、

一長崎御開發以後、年々御作法相立候得共、商人共諸國より入込候故、一致不レ仕、間々我意之儀多御座候處に、右御奉書を以糸割符年寄共御定被ニ成下ー、毎年罷下、異國船着岸之節は壹人宛船々へ乘入候爲、御停止之荷物相改、積荷見屆、商賣被ニ仰付ー候得者、糸割符年寄共　御撿使へ御立會申上、諸商人ども支配仕、異國交易之仕法相立申候、右古格を以、只今も每年ヶ所々々より年寄共壹人宛交代、長崎へ相詰、諸拂役、糸、端物、藥種、荒物目利役のものども召連在勤仕候、且又阿蘭陀船平戸より長崎へ入津以來、出島御番所一方は割符方より御審相勤申候、但此義、當時相止罷在候、

一往古異國渡海　御朱印頂戴の前後、御由緒幷御奉公之筋銘々へ申傳候儀、種々御座候得ども、恐多難レ奉ニ書記ー候、其内ヶ所一統に申傳候は、大坂　御陣之節、八幡下星田に而長谷川左兵衛樣御取合を以、大權現樣御目通りへ度々罷出、難レ有奉レ蒙ニ　上意ー

御陣場へ相詰、諸物運送之御用、或者國々ゟ徘徊仕、
實否之說に奉ニ注進一候、又者銘々働を以、金銀俵數并
御入用之品々奉ニ差上一候段、古來より申傳候、
一元和年中、台德院樣御代、糸割符之儀松平右衞門
太夫樣を以、長谷川左兵衞樣ゟ御尋被レ爲レ成候處、
伏見於ニ御城一大御所樣御前にて被ニ下置一候樣、割
符之品々委細相定書之御懷奉書紙、横折くわんぜよ
りにて閉候を差上候處、御吟味被レ爲レ成候處、閉目
之印本多佐渡守樣、筆者杉浦內藏樣に紛れなく候、慥
成御定書差上被ニ聞召屆一候段、重而右衞門太夫樣
を以被レ爲ニ仰出一、糸割符之義彌被ニ下置一候事、
一日光當御社御造營之節、御神躰之御石、堺浦よ
り御下向之砌、京、堺糸割符之者共、爲ニ冥加一日光迄
供奉仕度奉ニ願出一候に付、松平右衞門太夫樣被ニ召
連一、道中野袴御免供奉仕、御遷座迄も相詰、奉レ拜ニ
參於御社內一、御紋之御土器を以御神酒頂戴仕、今以
此御例を以每年江戶御表御年頭相勤候、後日光、東
叡山共に御社御免之上拜參相勤、京都にては南禪寺
金地院御社、知恩院養源院、堺にては南宗寺、大
坂にては九昌院、天王寺、東念寺等一月並奉レ爲レ參
候、
一寬永十五年島原御成敗之節、長崎御奉行所よ
り被ニ仰付一、割符之者共より、石火矢、鐵炮之玉藥、栖
たば、其外品々奉ニ調進一御用相勤、島原落城之後
御上使松平伊豆守樣、戶田右衞門樣、長崎へ御越之節
糸割符之者被レ爲ニ召出一、此度出精仕候段、於ニ江戶
御表一御沙汰可レ被ニ成下一旨被ニ仰聞一候、
一同十七年、五ヶ所糸年寄代として、壹人江戶表ゟ參
上、是迄肥前國平戶へ着岸仕候阿蘭陀船に、積來り候
白糸、向後割符へ被ニ下置一度段御願申上候處、翌十八
年御上使井上筑後守樣平戶へ御下向被レ成、阿蘭陀
船此以後長崎へ可レ致ニ着岸一旨被ニ仰渡一、同年七月五
日於ニ長崎一五ヶ所糸年寄被ニ召出一、筑後守樣義并御
奉行馬場三郎左衞門樣、拓榴平左衞門樣御立會に而、

阿蘭陀白糸題之通、割符へ被二下置一候段被 仰渡一候、
一正保四亥年、南蠻國來船之砌、長崎入海之口、神崎口へ船橋被レ有レ之度御沙汰に付、近國浦々より俄に船數多取寄候而、糸割符のもの共相働、幅三拾間、渡り壹里の間、陸地同前船橋修造仕候、
一慶安元子年、糸割符之者共より、 日光 御尊前御橋通唐金御燈籠一基奉レ捧レ之候、其節 日光御社參御座候後、御奉行松平右衛門太夫樣より御書之所、左之通に御座候、

書狀令二披見一候、如二紙面一今度五ヶ所糸割符中より、日光へ寄進之金燈籠見事に出來、殊に能時分相屆、御參詣之砌被レ遊二 御上覽一珍重存候、猶期二後音之時一候、恐々謹言、

六月十二日　松平右衛門太夫

御書判

京

堺

大坂

糸割符中

右之御書面京割符所持仕候、其後以レ今御修覆度毎、修覆被二仰付一候事、
一惣而五ヶ所糸割符與申內、最初者京、堺、長崎三ヶ所に而、則 御奉書も此者共被レ爲二 召出一奉二頂戴一、糸之題も三ヶ所に而は三百貳拾丸 御定被二 成下一、江戶大坂兩ヶ所之儀は大場に而、其頃より別而土地繁昌仕、遠海新規長崎にて唐物交易の儀不二相好一、御由緒有レ之ものども、銘々願の筋御座候而、長崎交易之發旦にも罷出不レ申候故、おのづから御呼出しも無二御座一、事濟候後追レ年而長崎繁昌に罷成、割符も格式宜相立候故、御由緒之ものども御願申上、江戶ヶ所之儀は、寛永八未年於二長崎一 御奉行所へ京、堺、長崎三ヶ所割符年寄被レ爲二 召出一、江戶ヶ所ゟも五拾丸割符可レ被二下置一之間、三百貳拾丸之內より題糸割出し可二差遣一之旨被二仰付一、始而三百七拾丸題糸相改申

候、大坂之儀者同年始而貳拾丸割符被ニ仰付一候得共、是者江戸ヶ所とは違ひ、右四ヶ所三百七拾丸高之內より貳拾丸者、四ヶ所丁箇を以配分仕候樣に被ニ仰付一候、然るを寛永九申年大坂も 題糸三拾丸始而被ニ仰付一候、同十酉年江戸ヶ所五拾丸相增、高百丸に相成、大坂も亦貳拾丸相增、高五拾丸に相成、此節より五ヶ所に相立申候、

一江戸、大坂、堺、長崎、奈良、伏見等者、町年寄御座候而、町內之儀御番所へ御取次申上候得共、京都者從ニ上代一之風儀を以、町之宿老共之內より、誰にても其番に相當次第、每年御年頭相勤候迄に而、町年寄無ニ御座一候に付、其代り糸割符古來 御由緒有レ之者ども、御所司樣より 御裁判之頃より、糸割符年寄共之內壹人宛、相詰候樣被ニ仰付、今以月並每 御用日番相勤申候、

一元祿十壹年、五ヶ所糸題御改被レ成候、

京 百丸

堺 百丸

江戸 百丸

大坂 五拾丸

長崎 百五拾丸

合 五百丸

內 當方白糸貳百三拾三丸
阿蘭陀方黄糸貳百六拾七丸

右之通御定被レ成、此年より現糸被ニ仰付一五百丸に限り被ニ下置一候、

一右之通糸持渡被レ減候年も有レ之、白糸不足仕候得者、黄糸にて御足被レ下、黄糸不足仕候得者、白糸にて御足被レ下レ之、白糸黄糸とも不足仕候節は、御銀にて被ニ下置一候、

一元祿十三辰年糸割符 御救として、鑄錢被ニ仰付一難レ有 小錢吹立罷在候處、寶永五子年悉御用之由にて、大錢拾萬 貫文吹立差上候樣被ニ仰付、小錢相止メ追々吹立、大錢四萬七千七百五拾貫文迄淺草 御藏へ上納仕、追々吹立罷在候由、翌年丑年錢に大錢御

停止と申に恐入、右大錢代金之儀相願後れ候、此金高凡五萬千五百兩にて御座候、其後享保十巳年立川銅山上納之儀に付、おのづから申上候處、水野和泉守樣御聞達御吟味被レ下候處、淺草御藏に相納り、御藏の外方は御拂相成候段相知れ候由にて、右代金最初に相願候はゞ、可レ被二下置一筈に有レ之候得共、御停止と申に恐入願後れ相成候、然れども御時節も可レ有との御事にて、今以右五萬千五百兩之銀其儘にて御座候御事、

一享保九年三月廿三日長崎御役所は五ヶ所糸年寄被二召出一、此度江戸より被二仰付一、長崎商人出銀之内より、毎年御運上金五萬兩宛被二召上一候、依レ之諸除等御差出被レ成候得共、糸割符之儀者由緒有レ之、格別に思召候に付、是迄之通糸割符被二　仰付置一候段、御奉行日下部丹後守樣被二仰渡一候、

一寛保三亥年、從二江戸御表一被二　仰渡一有レ之、翌年子年より長崎表半減商賣に被二仰出一候に付、五ヶ所糸割符之儀、長崎御奉行田村阿波守、松波備前守樣より、松平左近將監樣を以御伺被レ上候處、割符之儀者古來より格別由緒有レ之儀に付、是迄之通糸五百丸之高無二相違一、向後共可レ被二下置一旨、唐、阿蘭陀糸持渡無レ之時は、御銀を以五百丸之高　分可レ被二下置一旨、亥十二月十三日五ヶ所糸割符年寄ども被二　召出一、御書付を以て於二長崎立山御屋舖一、被二仰渡一候御事、

御書付寫

來子年より半減商賣被二仰出一候に付、五ヶ所割符糸高も可二相減一筈之處、割符之義者古來之由緒も有レ之候に付、前々之通割符糸高相渡候積り相伺候處、伺之通相濟候に付、向後共唯今迄の通無二相違一申付候、

一每　御年頭御禮之節、糸年寄共ヶ所々々より壹人宛、糸參上寺社御奉行樣御差圖を以、正月三日奉二拜禮一、白綸子奉レ獻二上之一、御服被二下置一候節、往古者　御時服被二下置一候、當時者御銀五枚宛頂戴仕候御事、

一延享二丑年當　御代始之節、五ヶ所糸割符年寄五人、於二江戸御表一寺社御奉行御月番本多紀伊守樣御屋敷へ參上仕、往古之格を以、乍レ恐　御祝儀献上仕度御伺申上候處、中絕之儀も御座候に付、御吟味之上御月番へ被二　召出一御直に被二仰渡一候者、　御代始御祝儀申上度段相願候に付、御伺罷成候處、中絕之儀に候得共、糸割符之儀者由緒も有レ之、年寄　御年頭無二懈怠一相勤候に付、願之通被二　仰付一候段被二　仰渡一候、依レ之古格之通白糸献上仕、奉レ遂二　拜禮一御暇被二下置一候節、　御時服二宛奉二拜領一候、且亦寶曆十辰年　御代始御祝儀、幷天明六年　御代始御祝儀、翌未年正月　御年頭相兼勤、其餘前格之通首尾能相勤、尤拜領物先格之通頂戴仕、難レ有奉レ存候、

一明和二酉年、　日光　御宮御修覆の節、銀御茶碗御蓋、幷銀御茶臺共二通宛奉二献備一、其後御修覆度每修覆被二仰付一候事、

一天明年中長崎安禪寺　御宮唐門續御廊下、新建奉二寄附一候處、寛政十午年　御宮御新建に付、右御廊下横　寄附候處、長崎表話合罷在候、然年寄共翌未年御使僧を以、　御令書左之通奉二頂戴一、冥加至極難レ有奉レ存候、

肥前州長崎

御宮御唐門續御廊下之儀、天明年中面々より新建奉二寄附一候之處、去午年中　御本社御新建の節、有來之御廊下橫幅御手狹に而、御差出義有レ之由に而、猶更に御建廣奉二寄附一候段、別當安禪寺具に申上、則達二高聽一候處　御感賞不レ淺候、依レ之其旨可二申達一旨、仍日光御門立被　レ仰令二執達一候、不備

住楞伽院大僧都　長善　印

寛政十一未年六月

成功德院大僧都　義宣　判

五ヶ所

糸割符年寄中

右之通奉レ蒙ニ　御厚恩一慶長年中より今以相續仕、

冥加至極難レ有仕合奉レ存候以上、

京　糸割符

寛政十二庚申五月改

伊藤權左衞門

中家實錄第一

稱號竝音訓口義

一人伊智茲牟　奉レ稱二主上一、亦稱二伊智乃比登一、則關白之別稱也、

當今唐銀　當帝之宸稱也、

主上種尙　天子之御別稱也、蓋尊居二衆人之上一、而主二安國之事一之義也、（光イ）

今上皇帝琴讓夾帝　當帝之尊稱也、

宸居新御　帝屋也、

太上皇帝駄讓愰帝　自二主上一奉二尊表一供二宣命一、貴二帝親之義一也、最以退院之尊稱也、

法皇法央　帝親御薙染之尊稱也、

仙洞　近代雖レ稱レ院、中古來禁裏ノ惣稱也、

百敷伯鋪或狹林訓二茂々志機一　百官別二職掌之座一、敷二列各席一之義也、

女院　女之字唱二吳音一、連聲引而可レ讀レ之、御[illegible]履之天子尊配之貴稱也、但門號勅許之義者、中古勅補之歟、後之勅裁也、

國母穀茂　□之尊稱也、稱二國摸一者豫不二古躰一歟云々、

女御　女之稱聲唱二吳音一、御亦唱二吳音一、但爲二大納言大將一之人、以二息女一經二女御之職一者、女之字唱二吳音一連聲引之流例也、

更衣更惠吳音　次二女御一之女官也、

太政官駄讓頤　八省經二此官一奏達、諸司諸國之官、決二此官一、太政大臣之太政之訓、尤同唱也、

內大臣奴伊大臣　但近代不レ稱二奴伊大臣一、多以稱二內府一、或內相府尤故實也、

內官竝內武奴伊官奴伊武　內官者八省之諸寮諸司竝六衞府之被官也、內武ハ六衞府之被官竝兵刑之輔丞也、

內記大中小奴伊紀（記イ）

紫宸殿　近代不レ稱二此紫宸之二字一、若古來稱、此二字唱二志々伊一、雖レ然近代稱二南殿一、奈殿之訓、

清涼殿清朗殿
後涼殿後朗殿
南門奈門　諱ニ難南之唱近一也、
南庭檀庭
極官曲官　假令攝家者以ニ攝政關白一爲ニ極官極職一、清花者以ニ太政大臣一爲ニ極官一之類也、至極之義也、
極位曲位　以ニ正一位一爲ニ贈官一、以ニ從一位一爲ニ極位一、現在之叙階之類也、
極務曲武　極務者左大臣之職分也、太政大臣者雖レ爲ニ長官一、則闕之官、而無ニ職掌一、故以ニ左大臣一爲ニ極務一、
極番曲番　極番者大納言之自稱也、大臣以上者、無ニ各別之勤番一、大納言以下宰相以上者、雖レ列ニ太政官一分ニ日時一勤番、爲ニ其長上一之故、以ニ大納言一爲ニ極番一、
比座勾當畢左勾當　古來稱ニ關白一、大嘗會之悠紀之內辨也、
南座勾當檀座勾當　古來以ニ卜部之長上神祇道最一ニ稱レ之、是亦大嘗會主基之外辨也、

六品呂久本

東宮大夫　中宮大夫　左京大夫　右京大夫
修理大夫　大膳大夫

以ニ右之六官一爲ニ六品一、
三職大夫者、　太皇太后宮大夫、皇太后宮大夫、皇后宮太夫、右爲ニ三職一、六品三職之大夫者、各以稱ニ駄伊武一、但稱ニ多伊有一者、五位之異稱、而假令如ニ左近大夫、右近大夫、右衞門大夫、掃部大夫之類一、諸史至レ此誤ニ此訓一、尤大之字小大之大也、筆史多以ニ駄伊武一書ニ大夫一、以ニ多伊有一爲ニ太夫一、其以誤中之大錯也、
膳部或膳夫　禪武之唱也、古來稱ニ膳夫一者內膳司、大膳職、大炊寮、御厨子所、內藏寮、
內藏寮三月三日之蓬之餅飯、七月七夕之蓮之餉、八朔之風儀、重陽之菊閉之羹、亥子ノ亥餉等供レ之、故稱ニ膳部一、

典藥寮　典藥寮者、屠蘇白散、屠障散、蓬酒、菖蒲酒、菊酒竝飲御之二羹等掌レ之、故以二此寮一爲二膳部一、

造酒司　是平素之神酒、御酒惣而諸色之珍酒、此司之所レ知也、故以二此司一爲二膳部一、

中家實錄第二

稱號竝音訓口義

神武仁夢、夢之音吳

綏靖推賛、吳音

孝元孝源

崇神鄒仁

垂仁推任、任之音吳

景行敬庚

成務制夢

應神上下吳音

仁德仁之字吳音

反正判賛、賛之字吳音

允恭胤羌

顯宗賢藏、藏之字吳音

仁賢任賢、任之字吳音

武烈武之字吳音

繼體敬亭

敏達徵妲、妲之字吳音

崇峻寸頓、寸之上音（異本作寸之字吳音）

皇極上下漢音、但後京極攝政用二央曲之唱一、當流如レ字以二漢音一讀レ之、最無二異儀一也、

齊明最銘

天智典茲

天武武之字吳音

持統稚童、統之字吳音

文武上下吳音

元明玄銘

元正支證
聖武證武、武之字吳音
淡路廢帝於保玆乃配大
光仁仁之字吳音
桓武寛牟、武之字吳音
平城
淳和春奈
仁明仁明吳音、但可ㇾ唱二爾伊妙一
文德上下吳音
淸和和之字吳音
陽成成之字可ㇾ唱二貲之音一
宇多羽曖
朱雀寸作、但寸ノ上音(寸之字吳音)イ
冷泉例賛
花山靴佐
白河志呂歌於
堀河保利歌於
崇德寸登久、寸ノ上音(異本作寸之字吳音)
近衞紕惠、惠之字吳音
順德儒得

年號之名義

大化玳靴
白雉伯智
白鳳伯鳳
朱鳥須鳥
大寶大之字吳音
慶雲恐雲
和銅上下吳音
靈龜例規
神龜上下吳音
天平典渉

天平勝寶天渉勝坊
天平神護神之字吳音
神護景雲神之字吳音、景之字漢音
延曆延略
大同上下吳音
弘仁上漢音下吳音
天長典讓
承和上下吳音
嘉祥稼讓
仁壽仁之字吳音、但可ㇾ唱二爾伊儒一
貞觀讓丸
元慶丸堯
仁和上下吳音、但可ㇾ唱二爾伊和一
寛平官ベイ、平ノ字濁ル
延喜延義
延長延讓
天慶天堯
天曆天略
應和上下吳音
貞元讓支
天元典支
永觀陽寛
永延陽延
永祚陽素
正略讓略
長保長坊、保之字吳音
長和和之字吳音
治安慈也牟
萬壽上下吳音
長元上下吳(漢イ)音
長曆上漢音下吳音
永承陽讓
天喜典義
康平庚ベイ、平之音濁

治暦上下呉音　承保讓方
承暦上漢音下呉音　永保陽忘
應徳陽得　寛治關慈
永長陽朝　承徳讓得
康和下呉音　嘉承賀宗
天仁仁之字呉音　天永典陽
永久陽休　元永支映、下漢音
天治典茲　大治上下呉音
天承典讓　長承寵讓
永治（異本有詠慈二字）上漢音下呉音　仁平仁之字呉音、但可レ唱二爾伊一也、平之字呉音併可レ唱二爾以渉一也、
久壽休儒　平治渉茲
保元方支　長寛寵丸
永暦陽略　仁安仁之字呉音、爾牟奈牟
永萬上下呉音　元暦支略
承安尙安　正治證茲
文治分茲　建永乾陽
建仁仁之字呉音

承元讓支　建暦乾略
建保乾忘　承久讓休
貞應讓翁　元仁上漢音下呉音
安貞上下漢音　寛喜綏義
貞永讓用　天福典服、上下漢音
文暦門略　暦仁上下呉音
仁治上下呉音、爾以慈

雜事之音訓

調度讓土、度之字呉音　弓立由牟駄邑
直衣奈於之、但乃於志之訓　小直衣古乃於志
引直衣比幾乃於之　汗衫雅座美
軟障是定、二字呉音　節折與於利
勘文加門　太政官乃加門、八省乃加門、受領乃加門、二要乃加門、但二要者西國而壹岐對馬、關東而陸奥出羽等也、
四箇乃大義　爲二禁闕樞要一、雖レ有二恒例臨時之諸公事一、

來レ可レ及二四節之大義一者也、

四節乃大義

節會　迎二佳節一而會二庶官於禁庭一之義也、

大節會　元日之節會、內辨外辨、文會、於保世智惠、

白馬節會　七日之節會、內辨外辨、武會、波久番阿於牟厩、

男踏歌節會　十四日、於動歌、內外辨、樂會、

女踏歌節會　十六日、兒動歌、內外辨、樂會、

菖蒲節會　五月五日、阿也兒乃節會、兼日有二眞手纏手之弓定等一、內外辨、仙會、

相撲節會　秋來等有レ之、堪二武勇一之上達部、勤二內外辨等一、武會、

菊襲節會　九月九日、幾久雅佐念乃世智惠、內外辨、作文會、

追儺召節會　除夜、但是非二恒例臨時之節會一也、都伊奈兒之、亦奈夜良比事、

官奏寬奏　太政大臣之奏文也、天下之大小務、悉以當官之裁許也、故俗司稱二綱領官一、

叙位　正月五日、古來用二六日一、雖レ然連二白馬節會一之間、近代用二五日一畢、內外辨、

女叙位爾與字叙位　授二宮女等位階一也、

除目慈茂久　正月十一日　縣召除目阿雅他兒之、或雅他兒之等、

右二訓、近代以二雅他兒之一爲レ可也、案縣者一流指二夷中一、但字書云、縣群也、然則禁外之群官任之故、雅他兒志必焉、

司召除目都加佐兒志乃慈茂久　或京官除目計字願乃慈茂久　禁內之諸司任レ之、秋來行レ之、春秋共內辨有レ之、

中家實錄第三

書札樞要之一

宣命　凡詔勅宣命文躰大同小異也、皆上卿奉レ勅仰二內記一令レ作レ之、先奉レ草、次奏二淸書一、神社宣命御二浴殿一後覽レ之、諸宣命只覽レ之給、宣命者遣二神社山陵一竝任二僧綱等一用レ之、又諸節會及任二左右大臣一、以上大概雖レ被レ用二詔勅間一、亦用二宣命一有レ之、但任二僧綱等一、或用二宣命一、或用二宣旨一、雖二依レ時不一レ定、近代皆宣命也、

詔書　凡節會及尋常詔書者、內記依レ例豫書、當日進二參議以上一、臨時詔書上卿奉レ勅命二內記一令レ作レ之、內記作訖、上卿令レ持二內記一奏レ之、時天子御自筆書レ日而返給、即授二中務卿一、卿受二詔書一更宣二大輔一、大輔奉以付二少輔一、少輔御畫日者留爲レ案、別寫二一通一送二辨官一、（辨於二太政官中一、掌下受二付庶事一、署二文案一勾中稽失上故乎、）辨官送二外記一、外記自二中務一來詔書之奥、書二大納言以上姓名一令二各自筆加書一、則大納言奏進、（是曰二覆奏一）則天子御自筆年號之奥書二可字一返給、外記留レ之爲レ案、別寫二一通一告二百官一訖、付二辨官一令二施行一、但禁要辨義內記作訖、上卿召二中務輔若丞一於二軾下一給レ之、愚臣等謹而案レ之、令條說與二後來之所一レ習有二少相違一、但中務卿奉依二親王任一レ之、唯召二輔若丞一仰レ之歟、然而近代之法不レ依二此次第一、皆被レ用二略儀一也、故只以二內記所レ作之詔書一、即被レ施二行之一、

勅書　其躰與二詔書一大同小異也、

宣旨　口宣（句仙）　口宣案

凡宣旨者、藏人頭奉二口勅一書二其趣一而遣二上卿一、謂二之口宣一、以三其口宣留書之在二藏人一謂二之口宣案一、上卿以二其口宣一留二我家一、別寫二一通一下二知外記或史一、然外記史更寫二一通一、年月之下記二自官位姓名一遣二仕人一、是曰二宣旨一、或又藏人不レ奉レ勅而上卿直奉二口勅一、則書二其趣一下二知外記史一、謂二之口宣一、謂三其留書

之在二上卿一爲レ之口宣案、又藏人奉二勅語一不二下知一、上卿書二其趣一而直給二其人一、是謂二口宣一、或是曰二內侍宣一、

官符　自二太政大臣一下二八省及諸國一二要之官二公物等之當書（アラガキ）也、或亦曰、太政官之切下文（キリクダシブミ）、其文法大同小異也、

內書　大書、或西宮之説ニハ、其訓奈伊書、天子御自筆內々ニテ給之御書也、

女房奉書饒忘乃倖書　頗不二古躰一歟、所二其用一見二寬德記一、而自レ彼以上不レ見レ之、勾當乃內侍奉二口勅一以二女文字一而書レ之下レ之、故曰二女房乃奉書一、

綸旨輪紙　其文法與二詔勅一有二少違一、綸者撰也、撰二其事一被レ下之勅書也、

院宣陰禪（吳音）　自二院乃御所一被レ下之御書也、

令旨頁慈　自二東宮一被レ下之御書也、雖レ然近代惣而用二親王家一者、不レ可レ然事也、

敎書堯書　或俗中用二御敎書之名目一未堯書

台書對書

右二ケハ用二三公之家一

中家實錄第四

書札樞要之二

攝政日讀夕見之職可ㇾ唱二世惡正一、　攝錄　司錄　攝官　統錄

試乃攝政　謂ㇾ試者、唐堯擧二虞舜一爲二攝錄一、殷湯王以二伊水乃尹一爲二阿衡一是也、本朝之例又如ㇾ此歟、應神天皇襁褓而踐祚、故先后神功皇后當二攝政之職一、法中之儒不ㇾ用ㇾ之、神功皇后者現之在位也、未ㇾ得二一決一、於二皇后一者不ㇾ可ㇾ准二餘職一者歟、聖德太子、爲二推古天皇一爲二攝政一、爲二齊明天皇一天智天皇爲二攝政一之類、皆是以試乃攝政也、稱ㇾ試者、終可ㇾ至二登極一之君、暫時居二臣下之席一、立二諸官之上一、代二帝位一輔二萬機一、統二衆務一待二時宜一、察二可否一臻二帝極一、依ㇾ之有二試乃名一、

在位乃攝政　或在職乃攝政　謂二在位在職一者、爲二周成王一周公旦爲二統攝一、爲二漢昭皇帝一霍光爲二攝政一是也、本朝之例又如ㇾ此歟、爲二幼帝一淸和外祖父良房公染殿皇妃之父也、爲二攝政一之類、自二良房一爲二恆例一、藤家擧而補二攝政一、他人不ㇾ居ㇾ之、則號二攝家一、稱二在位在職一者、爲二皇帝之輔翼一、令三幼齡女主之登極暫時如二踐祚一、辨二大小之公務一、祀二天神地祇一、爲二衆民之父母一、先二天造地育之德一、含二啻聖昧一、主上元服之後、辭表居二階末一、主上以二他人一令二關白一、若其攝政之臣爲二辨古分今之有德一之時者、有二復辟之宣下一、而稱二復辟一者、復者再也、辟者召也、再召二先德一令二在職一之義也、以二攝政一而補二關白一也、故攝政者、其禮准二院御所一、關白者、現之諸臣之第一人也、

左右大臣奉二攝政一之書

謹呈或拜呈　誠惶稽首某

但左與ㇾ右者其相當等同也、故其書札之禮要無二差別一、雖ㇾ然猶右大臣之人、自二左大臣一豫謙而呈之故實也、

左右大臣奉二關白一之書

謹上或進拜　誠恐頓首某

但左大臣前攝政、而右大臣爲二現之關白一之時者、左

大臣以ニ關白一强而不レ執レ之、猶可レ依ニ時宜一歟、

内大臣奉ニ攝政一之書

大概同ニ左右大臣一、但近代之法、不レ書ニ上所一、（通例之上所也）書ニ胸書大字之上書（書イ）一最流例歟、奉ニ關白一之書、與ニ左右大臣一無ニ差別一者也、

大納言奉ニ攝政一之書

書家之殿上人之兩名假令

何攝政家

呈　官實名主　實恐謹言（某官名）

關白同レ之、但可レ依ニ時宜一歟、

中納言奉ニ攝政一之書竝奉ニ關白一之書

大概同ニ大納言一、

參議奉ニ書於攝關一之義、恒例無レ之義也、依ニ時宜一奉レ之時者、同ニ大中納言之禮一、

太政大臣與ニ攝關之禮要一大略同等禮也、但相國之人爲ニ當帝之外祖父一歟、或爲ニ當今之外舅一之時者、攝關宜レ有ニ有讓之禮一、又前官之時、攝政相國共可レ有ニ其等異之禮一歟、凡太政大臣惣ニ持綱紀一、掌レ治ニ邦國一、燮ニ理陰陽一、師ニ範一人一、儀ニ形四海一、無ニ其人一則闕之職、而外無ニ主掌一、是以爲ニ治國明鑑之官一、

左右大臣奉ニ太政大臣一之書

進上　恐惶謹言（官名）

左右大臣奉ニ前太政大臣一之書

進上前相國閣下　下同ニ以前一

内大臣大略同ニ左右一

大中納言奉ニ太政大臣一之書

呈上殿上人（官名主）　恐々謹言

宰相大概同ニ大中納言一

大中納言奉ニ左右内大臣一之書

謹上　誠恐頓首（官名）

但清花之大臣者、自ニ攝家之大中納言一呈之時、庶子者、同ニ他餘之大中一、至ニ嫡子一者、聊可レ有ニ了簡一之事也、

宰相同ニ大中納言一

凡書札之禮要、自二攝關大臣一、至二雲卿月夫一、及五位六位雲客、上下北面等一、互之贈答返酬、豫不二一躰一歟、時宜任二老少一可レ有二其見聞一事有職樞要也、故附二其略筆一定二大綱一者也、

中家實錄第五

年中行事略

四方拜拜濁音　行事律云、凡四方拜之濫觴者、不レ載二日本書紀一、附二大和比咩之世紀一考レ之、垂仁天皇十一年壬寅正朔、主上拜二四方之春光一云々、是專歲首拜二天神地儀一之義也、故後來有二此事一歟云々、

凡四方拜、元正寅上刻、天皇御自遙二拜於天地四方山陵一、神祇官掌二八平之餉一、關白供二桃花之幣一、用二彫花一、是專天長地久、寶祚安泰、華夷豐饒、而五穀成熟、諸疫秡除之御祈也、主上御祭服著御并懸二木綿襷千磐衣一、諸或作所司着二小忌一、

屠蘇白散　度障散并膏藥等、典藥寮掌レ之、但膏藥者、膏之字不二美之響一故、以二膏之音一爲二陽之音一、此義於二本朝一始者、弘仁年中也、屠割也、蘇鬼名也、用二此仙藥一屠二割鬼魎一之義也、凡屠蘇漢和兩朝之仙藥、而一人服レ之一家無レ病、一家服

レ之一里無レ病云々、舊臘大晦之日、典藥寮點二生氣之方御井一、以二屠蘇白散度障散一盛二絳囊一、結二白木乃小桙一而添二玉瓶一下二御井一、及二元正及二日三日之刻限一、經二宮內卿之下知一、而渡二當日之所司一、則命二侍（一侍イ或イ）醫一令レ掌二試之一、事終而侍二試乃應一而渡二後取之藏人一、元日者四品藏人、二日者五位藏人、三日者六位藏人也、號二後取一者謂里佐登利止謂義也、以二大飲酒之人一而爲二後取一、御器物之御酒不レ殘二一滴一爲二故實一也、 內侍經二御目一召二藥子一令レ飲二初之一、謂二藥子一者、唱二具須理一、其或唱二久須吳一、年不レ滿二十四歲一、月經不レ至之少女爲二藥子一、凡用二少年之人一者、漢家相同、小年者得レ年數多也、老年者得レ年短少而失レ年知二忽然一也、故用二少年一、亦本朝陽德陰蘚之神國也、故用二婦人之少年一也、次第自二若歲一飲レ之、 主上隨二御年之順一而飲、御一獻屠蘇、二獻白散、三獻度障散也、 刻限過而典藥寮內膳司供御齒固乃土大根、 則拜二仕於小板敷一、載二祿於右肩一而退出、

朝賀賀者可レ唱二雅之音一、 亦名二朝拜一漢音 元日辰刻、主上出二御大極殿一之時、群臣著二禮服禮冠一、其法似二即位之禮一、或者一歲之首要似二御字之始一、故用二此法式一、 群臣拜伏有二奏賀奏瑞一、二人用レ之、 立二廣庭一、唱三去歲之嘉儀與二今年之豐饒一而記レ之、則雅樂寮圖書寮役レ之、此禮要者、神武天皇元年正朔、立二都於橿原宮一即位之時、宇麻志摩治命有レ奏二天瑞一、以レ此爲二濫觴一、

小朝拜朝之音可レ唱二讓之音一 元日與二朝賀一同禮、奉レ拜二玉顏一、奉レ賀二歲首一、朝賀無之時被レ行レ之、小朝拜者、朝賀之略禮也、

七曜乃御曆吳音 一歲兩度正月七月陰陽寮就二本省之舉奏一奉レ之、七曜者、注二日月五行八節之氣尋常之年曆一也、

氷樣日乃他兒之 凡氷雪厚大而堅、川谷滿二山野一則年光豐盛也、故主水司就二本省之舉奏一、去歲以下所二秘置一之氷上、隨二今日之節會之次一奏レ之、 木工寮以二曲尺一計レ之、時民部卿令三二寮記二考新舊之記文一、亦典藥寮頭以二其厚薄之氷一和レ之入二金器一、丸器也、外器而嘗レ之、以二金器所レ入之氷水一經二侍醫一供レ之、此事以二仁德天皇六十二年一爲二濫觴一、

腹赤乃御贄波良賀乃味爾惠 膳夫自二九國之受領一受レ之、

昔時直爲二元日之供御之料一、近代用二尋常之魚一膳部供レ之、無二節會之供御一用レ之其法計也、腹赤之魚者鱒魚也、鱒者其腹赤色也、故名レ之、此事自二景行天皇之御宇一始レ之、景行御宇、自二肥後國宇土郡長濱一海人釣レ之奉二京城一、故爲二恒例一

供二若水一　主水司自二舊臘一點二御生氣之方乃御井一、而敢不レ下二玉瓶一、至二立春之平旦一、主水司汲二新水一與二典藥頭一諾レ之、就二本省之擧奏一供レ之、則主上於二朝餉之御間一飲二御之一、以二初汲一之爲二若水一、歲時萬用抄云、元日飲二生氣方之新汲水一時、除二一歲之邪疫一、令二老變一レ若、令三病至二無病一云々、

子日若菜　內藏寮幷內膳司就二本省一供レ之、典藥寮應二兩內之便宜一、兼而嘗二辨木草之可否一而令レ和奏レ之、或七種或十二種、近代惣以爲二七種一、故爲二子日乃七久佐一、所レ用之七種者、

芹　奈都南　於形　鈴志呂　佛乃座　靑菜　澤苣

以二右之一草一取二洛外之七野一、奈々都野、號二七野一者、

北野　內野　禁野　交野　見具流之野　化野　淀野

各以二一種一宛二七野一

歲首出二東野一、服二新摘之春菜一義也、用レ之則爲二年◎脫字歟顏一令三人至二不老不死一云々、見二天地祥瑞志一、往昔者用二上子一、用二上子一者上者第一之儀、用二子之支一者、子者北方之支、而爲二北之獸一、摘レ若摘レ老、根與レ子其訓相近故用レ之、自二延喜十一年一用二正月七日一也、

中家實錄第六

年中行事略

卯日乃御杖　或卯杖宇都沼　或卯槌宇圖智　正月上卯大學寮就二六省一、經二宮內卿一、獻二御杖一、長五尺三寸宛、切レ之爲二一二三束一、結二之若干束一獻レ之、杖之頭彫二五行獸形一祝レ之除二精魅一、天地祥瑞志曰、歲首當二上卯日一以二鐵杖一刻二獸形一除二刻方之鬼魅一、除二掃於年中之疫災一云々、卯者東方之獸也、以方角之支、討刻方●之道理也、●落字歟本朝持統天皇三年正月上卯日、自二大學寮一獻レ之、以レ之爲二濫觴一、亦六衛府之官人獻二卯槌一有レ之、尤以大學寮依二擧奏一也、

二宮乃大饗　二日行レ之、群臣朝賀終、而拜二春宮中宮之兩宮一、則自二二宮一給二大饗一、中宮之大饗者、玄耀門之廊而行レ之、春宮之大饗者、於二坊中一行レ之、

視告朔賀宇佐久不レ讀二視之訓一事固實也　歲首二日被レ行レ之、每月雖レ行レ之、歲首者其法最以嚴重也、陰陽頭就二本省之擧奏一獻レ之、主上覽御、於二月別百官所司之行事所一記之義也、

東寺乃御國忌正月四日　或御國期美古忌　村上天皇之母后之御國忌也、自來以二今日一爲二國忌一、禁內者神事繁多也、故以二東寺一爲二其行所一、是故實也、玄蕃寮圖書寮之所司、就二本司之擧奏一行レ之、

叙位　見二前卷一

御弓乃奏於牟多羅志乃奏　正月七日、待二白馬之奏一、而兵部省獻二御弓一、內辨傳レ之、天竺之貝多羅葉者長七尺八寸也、弓之長又然也、故用二此名一歟、

白馬乃節會　見二前卷一

女叙位八日　見二前卷一

除目十一日　見二前卷一

御齋會奥最沼　大極殿而自二正月八日一、至二十四日一七箇日被レ行レ之、其行法者、七箇日之間、令レ講二最勝王經一、専被レ祈二禱朝野長久之誠信一之義也、天武天

皇九年五月始宮中及諸司而令レ秘ニ講金光明經一、以レ是爲ニ濫觴一、延暦二十一年正月連綿而爲ニ常式一、又謂陸月乃御法（無豆幾乃美乃里）

眞言院御修法　擧國靜泰、而穀物成熟、公私華夷諸病除失之御加持也、自ニ正月八日一修レ之、終ニ同十四日一、或名ニ後七日一、弘法大師准ニ大唐之內道場一、而造ニ營當院於宮中一、自ニ承和五年一被レ行レ之、甲年修ニ金剛界一、乙年修ニ胎藏界一、

太元乃法　治部省而同御齋會被レ行レ之、（七日之間）、其法藏人內藏寮之所司以ニ便宜一給ニ御衣一、即送ニ壇所一、結願之日奉ニ御衣於本寮一、（給ニ御衣一者以ニ御衣一爲ニ生尺一奉レ加ニ持之一也）、小栗栖常曉律師、承和五年入唐而傳ニ法之一、以爲ニ恒例一、

殿上乃內論義　凡十四日者、御齋會之結願也、其修法之中、被レ行ニ內論義一、恒例於ニ殿上間一修レ之、若主上有ニ御物忌一之時者、南殿而行レ之、有ニ問者講師發聲維伊那等一、於ニ君前一令ニ番僧於論義一、故曰ニ內內論義一、

宮內省乃御薪木（美賀摩幾）　百官悉令ニ薪小束一之、以ニ彩繩一結レ之、經ニ宮內省一收レ之、自ニ正月十四日之夜一奉レ之、翌辰供レ之、其則爲ニ十五日之赤小豆之粥之薪料一、正月者未窮陰殘而爲ニ其害一故、木者東方之正木、火者太陽之正色也、故以ニ兩陽之德一刻ニ除窮陰一之義也、天地祥瑞志曰、除宿陰歲首以ニ爆竹之木一火而羹、赤小豆爲レ粥服レ之、年中無ニ災害一云々、本朝之例、天武天皇白鳳二年正月十五日濫觴也、

踏歌　見ニ前卷一

射禮　正月十七日被レ勤レ之、自ニ十五日之拂曉一、兵部省之官人輔以下於ニ本省一、爲ニ手番一、稱ニ手番一者、今日試射禮之射手而調ニ進之一、至ニ當日十七日之曉天一、本省之卿率ニ輔以下一而出ニ建禮門一行レ之、各公卿者著座、無ニ正月一三月行レ之、以ニ天智天皇九年一爲ニ濫觴一云々、

賭弓乃里由美　同十八日被レ勤レ之、左右近衞、左右大將、左右兵衞已下四府之舍人等射レ之、其射手之勝劣、左

右近府之長官定レ之奏レ之、劣方之府官行二罰酒一、又勝方者奏二舞樂一、射手有二左右大將之官領一、(◎管イ)大將儲二其饗一、謂二之返饗一、(加倍里阿流燕)

廿一日内宴　主上在二御於仁壽殿一、使二文人賜一レ題、作レ詩、其與事終而有レ宴、

神祇官乃御麻納(美留佐於佐女)　毎月神祇官獻二御贖物一、其贖物(美阿雅毛乃)之法、作二人形一代二當身一、以除二災害一、是贖二其罪一之義也、漢家有二贖法一、與レ此義大異也、此本朝往昔之固實也、素盞嗚尊爲二日神一爲二不順之罪一、依令三其贖物置二足於千座乃置戸一、至二手之吉惡之去物與一、足之吉二之去物一贖レ之、以レ是和二自己之害一、則是濫觴也、

院乃尊勝陀羅尼會(無二定日一撰二吉日一修レ之)　院宮著二御延隱之御座一、而應二瀧口乃弦走志一、圖書寮銅鉦而始レ之、

中家實錄第七

年中行事略

釋奠(齋天)　二月上丁日被レ行レ之、若有二當日蝕國忌祈年之祭等一、用二中下之丁日一也、本省之卿輔課二試於大學寮之書生一、拜二什於先聖先師九哲之像床一、爲二祭祀一之時、東西之二曹(并)文章博士出題、(◎闕イ)(四カ)而賦二詩文一、對二講六經之要語一、菅江淸中之兩家勤レ之、事終而有二後宴之興一、用二丁日一者、丁者陰火也、取二幽明之火氣一、招二遊魂之神一之義也、

春日祭　二月十一月兩度、用二上申日一行レ之、先未日立二近衞使一、(中少將之中)　當日氏之勅使(并)家門之供奉等有レ之、淸和天皇貞觀元年十一月九日始レ之、

祈年祭(登志古比乃麻都里)　神祇官之所司、二月四日勤レ之、其祭法於二神祇官一、自二八神殿一、覃二三千七百三十二座一祭レ之、辨官兼而課二諸國之召物一、調二白猪白鷄等

之鳥獸、天武御宇自二即位四年一勤レ之、

列見二月十一日、或無二式日、選二吉日一行レ之、　公卿辨少納言外記等、會二太政官一行レ之、此即撰二六位以下有二藝能、而式兵之一（者文官者式部掌レ之、武官者兵部掌レ之、）率レ之參レ官、然則上卿召二二省之藝生一而考二其可否、可者登レ之、否也課レ之、

位祿定

二月行レ之、無二式日、考二群臣之奉勤、而慰二其勞功、暫時而各勅二本官一而給二位祿一各有レ差、以二大寶元年八月一爲レ初也、

率川祭

用二二月上酉日、春日祭之翌日被レ行レ之、南家之諸卿公私共勤レ之、

大原野祭

二月上卯日也、遷都之後和春之社者行程遙焉之故、仁壽元年二月二日依二太皇太后御祈、而令レ遷二社本社於山城國葛野郡大原野一之後、有二此祭事、

季乃御讀經（貴乃美土經）　春秋之二仲行レ之、四箇日之間講二大般若經、第二日有二引茶之法式、（謂二引茶一者可レ唱二陪從、召二經席之僧一給二點茶、典藥寮勤レ之、是專爲レ醒二一座之睡倦一也、）此修法者、天平元年始、（或云、貞觀二比者每季行レ之、）

仁王會（爾伊和字沿）　撰二吉日一行レ之、或三月有レ之、是則於二南殿、講二仁王經、偏令レ祈二朝家安靜、庶民安居一之法也、

自レ此以下年中行事略、罹二應仁丁亥之兵火一燒失云々、

此末脫簡如官本寫之畢、

中家實錄第八

後宮概要幷僧中禮要

中宮　后宮同

太皇太后宮　帝王之祖母

皇太后宮　同母君也

以上三宮也、上古以二三宮一惣曰二之中宮一、初井上內親王爲二光仁皇帝之皇后一、依レ有二重罪一棄レ之、其後天應元年置二中宮職一、故中宮者與二皇后一不二並立一、凡太皇太后宮者始二文武朝庭一、皇太后宮者始二綏靖之時一、皇后宮者始二神武元年一、

女御　女御代　掃設之妾也、漢朝置二八十一女御一、本朝亦給部局置レ之、所謂假令弘徽殿女御麗景殿女御之類也、女御代者以レ不レ住レ殿爲レ代、

御息所美也須無登古呂　東宮顧躬之妾也、

更衣更沿　主上休暇之預也、撰二淸麗之女一而令レ居レ之也、大中納言宰相之類之息女列二女官一之時者、假令大納言之娘者稱二大納言局一、中納言之娘者稱二中納言局一、

小路名

殿上人或名家之上達部之女補號レ之、假令如二綾小路富小路一之類也、

候名佐無良比名 ◎侍イ　諸大夫之女也、假令左兵衞右兵衞、左衞門右衞門、左近右近之類也、

國名　諸大夫或北面社家者流、醫陰之二道之女號レ之、伊豫、日向、伊勢、丹後之類也、

向名無裳名　侍之女補二號之一、假令東西之類也、

僧中禮節略圖

僧正可レ准二參議一、　法務　僧都可レ准二四位殿上人一、　法印　律師可レ准二同五位一、

凡僧可レ准二同六位一、　法眼　諸寺三綱及八幡社司　僧綱可レ准二地下四位諸大夫一、　凡僧可レ准二同五位諸大夫一、但如二日來殿上五位一不レ可レ有二上所一、　威儀司可レ准二五位下北面一、　從儀司可レ准二同六位一、

僧正　僧都　律師　威儀師　從儀師

以上僧之官也、

法印　法眼　法橋　傳灯

以上僧之位也、

座主　長者　長吏　寺務　撿挍　別當　執行　阿闍梨　已講　竪者　注記

以上僧之職也、

中家實錄第九

四武器之圖

凡稱二四武器一者、調度懸、節、鉞、小調度懸也、出陣入駕之時將帥備レ之、

調度懸（圖有二雲圖抄幷弘安禮節一）

弓（六張）箭（六手用二山鳥若尾一、但滋頭、）　長乃中柱（八尺）　柱鼻畫彫金銀之

日月（表日金裏月銀）　弓賦（由牟久配利）　横四尺五寸長一尺（中柱二本貫二本）

趺乃柱三本（長中者中柱也、左右之柱者各左右斜置レ之、七尺五寸、自二弓賦之下一出レ之、）

小調度懸（古讓度加計）

中柱一本（左右無レ之長六尺）　弓一張　征矢一手

節

大將驛路之手印也、盛二漆丹之箆一、以二錦襴之袋一包レ之、

鉞（惠都）

長六尺（鉞刄一尺二寸）　其棒用二黑漆一、自二刄握之下一過二一尺一、

結二紫紅之組糸一、
三要衣参用惡
鎧甲冑之惣號也
冑加布登　甲與呂伊
甲
鬼會於用(◎爾カ)佗麻里　領下也、
月被都幾加都幾(布登イ)　背領也、
神道札並牟動乃佐彌　兩肩乃方處也、
高紐佗賀比母　神道札之下二寸乃穴也、
衡胴加布幾銅　左右乃乳下也、
草靡久佐津里(奈都里イ)　左右乃膝上也、
冑
神宿加牟也登利　謂二頭上一、
三台座　左右之耳邊也、
吹返　左右之襲座也、
筋宿　双顏之盡處也、

中家實錄第十

唐名正誤此中用二略名等一有レ之、

攝政　司錄　阿衡
關白　萬機　博陸侯
太政大臣　大相國或大師、雖レ然相國者用二攝家一、大師者用二清華一、
左大臣　左丞相攝家左槐或左僕射清華
右大臣　右丞相攝家右槐祐會右僕射清花
內大臣　內蓮府攝家或內府淸花內相府名家
大納言　亞槐攝家或羽林名家獻納或次槐淸花
中納言　黃門　央門攝家皇門羽林名家儒門諫議君
宰相　雖レ爲二唐名一近代用二本朝同列之官名一爲二故實一也、亦相公者至重之唐名也、最可レ重之事也、
四重之高官
攝政　關白　將軍　外記
喉舌之職
大納言　中納言　少納言　辨　藏人　雅樂寮　圖書

寮　玄蕃寮　撿非違使廳官　彈正臺　主稅寮　主計
寮

親王之五等

一世親王　當今之皇子、
二世親王　皇孫之皇子、
三世親王　皇孫之子有ニ親王宣下一也、
四世親王　自ニ皇子一四代也、
五世親王　自ニ皇子一五代也、
入道親王　有ニ元服一加ニ俗諱一以後剃髮之親王也、然
則親王宣下元服之後剃髮以前也、
法親王　自ニ童體一未ニ加服一、直遂ニ剃髮一以後有ニ親王
宣下一也、入道親王者其貴重無類也、法親王者其寄
尤劣也、

親王五等之位階

一品親王　當ニ臣下之一位一、
二品親王　當ニ臣下之二位一、品讀可レ爲ニ吳音之梵一
三品親王　當臣下之三位、品之訓同前
有品親王　當臣下之四位
可レ唱ニ字梵一也、暫時諱ニ四字一以レ四爲ニ有之義一也、
雖レ不レ可レ然流例無ニ是非一歟、
無品親王　當ニ臣下之五位一
牟梵之訓也、是則親王之初階也、

中家實錄第十一

年中裝束色目

正月

梅襲 面深紅 裏紅梅　一重襲 面白 裏紅　松襲 面青 裏紫　柳襲 面裏共 薄青也　花柳乃衣 面白 裏青

二月

櫻色 面白 裏紫　薄花櫻 面白 裏紅　椏色 面紫 裏青　藤襲 面紫 裏紫　白藤襲 面薄紫 裏深紫

三月

山吹乃衣 面朽葉 裏黃色　花山吹乃衣 面唐紅 裏紅梅

四月

白襲 更衣也、面白裏薄白、　卯花衣 面裏 共白　蟬乃羽衣 面裏共水色、用二香色一　若楓乃衣 面薄萠黃 裏薄紅

五月

菖蒲襲 面菜種 裏萠黃　樗衣 面紫 裏薄紫　瞿麥乃衣 面紅 裏紫

六月

夏萩乃衣 面青 裏紫

七月

萩乃衣 面青 裏薄萠黃　花薄 面白 裏薄花駄

八月

女郎花衣 面青 裏萠黃　蘭 面紫 裏同　信夫 面薄萠黃 裏青

九月

菊 面白 裏紫　紅菊 面紅 裏青　黃菊 面黃 裏青

十月

白襲 冬更衣、面裏白色、　殘菊 面紫 裏青

十一月

氷襲 面雞卵色 裏白　初雪襲 面白 裏紅色

十二月

雪梅色 面白 裏薄紅梅　雪乃下 面白 裏紅梅　椿色 面蘇芳 裏青色

中家實錄第十二　雜篇

闕字之法

本朝　我朝　神國　我君　當今　主上　當帝　陛下

法皇　太上皇帝　院御所　仙洞　御宇　東宮　儲王

儲君　皇子　前坊　當坊　之類　不レ可二枚擧一、皆以

闕二一行一、

假令前行至二二三字一、其下不レ記レ之、至二次之白行一

擧二一字一書レ之、

二字之闕

行幸主上　御幸院宮　行啓宮　出御主上院　還御主上院　遷

御　渡御　立御　休御　行在所　御服上用二呉音一　御書御字

在レ上用二呉音一、在レ下用二漢音一、　御膳　御前　供御　著御　之類也、

三遙任

常陸　上野　上總

右三州者以レ爲二親王遙任之國一以二親王一稱二太守一、

他伊志宇之唱以レ介稱レ守如レ字（加宇イ）但以三諸國之爲二受領之守一

有レ喚二太守一其時佗伊酒之唱也

喪服之禮

崩御主上院二宮　薨御親王攝關相國　薨大臣諸王　或薨逝　逝去大中納言宰相

遠逝上達部殿上人　落命諸大夫侍　遷化　他界高僧　寂桑門

室中之稱

政所麻登古呂　攝關之室

御臺盤所　大臣之室

簾中　大中納言宰相以上之室

室　上達部殿上人之妻也

犬追物秋被レ行レ之

右青龍　左白虎

牛追物春被レ行レ之

右玄武　左朱雀

東射手二百騎　西同百騎　南同百騎

開二北方一所一北方用二谷川一爲二故實一　犬者用二斑犬一狐色之犬、

牛者用二當色之裝束一、

中家實錄第十三

服器之類

冠　元鳳四年春正月丁亥加ニ元服一、注如淳曰、元服謂三初冠加ニ上服一也、師古曰、如以爲、衣服之服、此說非也、元首也、冠者首之所レ著、故曰ニ元服一、其下 汲黯傳序云、上正元服、是知三謂レ冠爲ニ元服一云々、

初冠　元首　上首　新冠(ニヰカブリ)　元服有ニ著座主座客座一、當人立ニ開盤之上一加冠理髮、打亂泔器(ユスツキ)漆童(ヌリノワラハ)等之所司、

歌林(ウヰカウフリ)

玉冠　或謂、禮冠　金冠　鈿冠　凡以ニ珊瑚瑪瑙玻瓈等幷珠玉一飾ニ冠身一者、依ニ玲瓏璘瓅之響一、敢不レ使三天聽於觸ニ無益之事一、言紛ニ玉音一不レ使レ聽也、

新冠ニヰノカウフリ　万葉集ノ歌「コノコロノワカコヒチカラシルシアツメミヤコニマフサハニヰノカウフリ」謂ニ婚禮之夜冠一也、

飾冠カザリカフリ　即位大禮、三韓入朝、幷節會、叙位除目等、妙年之人、或六十下歲之翁、互爲レ慰ニ其役勞一、以ニ金銀珠玉綾羅錦繡一飾ニ冠身一、以レ是爲ニ飾冠一、

卷纓　左巡之卷(マキ)纓用ニ葬喪一、以ニ黑練一、右巡之卷纓以ニ素練一、用ニ嫁娶元服等一、

叙爵　與ニ元首一大同少異也、五位已上有ニ位田一、主ニ五位一始賜ニ位田八町一、故有ニ此稱一、以ニ五位一總稱ニ他伊宇一、所謂源氏物語之中所々書ニ加宇婦里惠他流一、皆以ニ叙爵一之事也、

透額　用ニ十六未滿及六十下歲一、

厚額　或迎額、用ニ中年一、

月額　與ニ透額一有ニ通用之記一、最以難ニ信用一、

大臣烏帽子　或直衣烏帽子

右之烏帽子者、院宮幷用ニ大臣以上一、

額烏帽子　用ニ大中納言宰相以上一也、

左烏帽子　俗稱ニ左折一、四品以上著レ之、

右烏帽子　俗稱ニ右折一、

風折　或飾折、諸大夫以上著レ之、

侍烏帽子　侍著レ之、

鍬形　所司諸掌等以下直丁以上著レ之、

中家實錄第十四

服器之類

紫衣ムラサキノエ　三位已上之人著レ之、指貫同也、

緋衣　五位以上著、

小忌衣　ヲミノ衣モノヽカンナイラズシテモ可也、舞人著レ之、

天羽衣　殿上之侍臣著服之惣名也、

秋去衣　七夕之朝服也、以二二襲無萌之服一著調也、

紫ノ根摺ノ衣　歌林與二夫婦一樂伏而以泥謂レ留二其色一、又以二寢移一稱レ之、書二寢摺衣一、「コヒシクハ下ニヤオモヘ紫ノ子スリノ衣イロニイツナユメ」顯昭曰、古キ物ニイヘルハ、昔紫ノ衣ヲキテ人ト子タリケルニ、アセニイロノカハリテ、キヌニウツリケルガ、スリ衣ニ似タルヨリ、人ニ逢事ヲバ紫ノ根ズリノ衣色ニ出トイフベケレバ、歌ノ心モ下ニヤオモ

ヘハ、ウハギニシテ人ニナ見セソトヨメル也、チズリノ衣、又說ニ紫ノ根ノ色メヨケレバ、根ヲ用ルモノナレバ、根ニテスルト云也、柿ノ根ズリト云同ジ事也、所々ウツリタルガ紫ノ根ズリノ衣トモ云べカラントノタトヘナリ、

鴛鴦羽衣チソノ羽ゴロモ　謂嫁娶之夜ノ夫婦ノ白服、鴛鴦相ヤハラグ德アレバ、万世祖有ニ嫁娶一之夜、借ニ其貞德一用ニ今夜一也、

稚乃妻衣ワカノツマギヌ　コレハ宮女之有ニ對屋一既頒、出ニ對屋一之時加レ沐成レ浴、當ニ其下躰一之服也、歌林以レ此用爲ニ戀之詞一用ニ三幅一也、

中家實錄第十五

要實

二樞之職　攝政　關白揚名之攝關非ニ此限一

鏡職　大中納言、宰相、七辨、外記、史以上、

邊要之官　陸奥出羽按察使府、鎭守府將軍、太宰相府、或太宰府、

烹鮮爲父之職　諸國受領、彈正臺、大少弼、大少忠、大疏、

察肝之職　式兵之二省同屬之下、大學寮及諸儒門、

掌悲之官　典藥寮、悲田院、療病院、救病院、

二考之史官　主計寮、主税寮、

二棟梁ニトウリヤウ　木工寮、修理寮、

二庭之要職　掃部寮、主殿寮、

主身之職　織部司、縫殿寮、

三樂家　四辻、西園寺、滋野井、

三儒門　清家、菅家、◎江家脫歟、
兩算道　三善氏、小槻氏、
　臨祭之辨
南曹　左顧（サコ）中辨
　擬祭主
左右大辨　神祇副
　臨時之長者
南座勾當　大嘗會即位
玉鬘之納言　多是大納言、用二中納言一希例也、　侍從中納言定家宰相之時被レ勤レ之、希例也、稱二玉鬘一者、著二女房之裝束一侍二關白之直盧一、辨二具事一、膝前掛二帷之軟障一、和歌之鴻會、或源華伊和直講之時、有レ勅被レ問二御於要語秘歌一之時、講師之左右暫時問レ之、復奏レ之、故有二此稱一、
放免之使官　用二撿非違使大少志、或看督長一、稱二放免一者、當日蒙二勅免一著二麹塵或禁色一、放二勤當職一、故有二此號一、主上院宮攝關大臣家或將軍家二宮之行幸雨宮三社之神幸等之時、蒙レ召之著物行粧而勤レ之、
垂撥之童子　稱二垂撥一者、其撥形之長七尺或六尺、橫七寸或六寸、中央用二曲釘一從二使（便カ）所一立二置之一、行幸御幸將軍家出域之時、內藏寮藏府司率二其童子一奉レ之、童子臨二朝堂一撥レ之、下勤之垂撥者爲二立花飾花詠字之料一也、最以此法秘式也、
以二此一冊一爲二當家之要職一、

中家實錄第十六

諸調度

晝御座御劔　習二天德以降之寸規一、柄首用二龍龜之形一彫レ之、都美波用二鈷金一、鞘梓之中目用二紅漆一用二亂金一、

萬歲旗長二丈五尺竿三丈五尺　用二紅白之綾巾一、

太常旗　習二周之制一、長八尺橫三尺

用二國機一　山科家奉レ之、中古以前大炊御門之流、雖レ有二用之例一其職掌斷絶、用レ飾畫二日月星辰三十六禽一有二大禮一之時建レ之、伯家常預レ之、

百備机物　大中之祭或大新嘗會等用レ之、用二千拔篠之直骨一、綾都三十六本、象二三十六禽一、

眞床覆衾　隨二神代之事故一而皇子御誕育之時、被レ用レ之、其制與二神代之事故一小同大異也、

高御座　臨二御于朝堂一之時、座御之御器也、方柱八基四梁四本、飾以二珠瓔鬘一、掛用二玉机米一、綬長八尺或六尺、丈二尺四方、象二十二時一、

露臺飾樓　用二大嘗會之時一、於レ此有二露臺亂舞一、亦帳臺之試樂以後、於二此臺一有二舞姬之亂舞一、稱二露臺一、依二露臺上無二屋梁一也、

文笈　高中棟四尺、垂擔三尺二寸、二尺六寸、四圍中棟之上用二金雀或葱花一、有二二轅笈胴一以二珠玉金錦一飾、此笈中可レ容二宣命詔勅書一、三韓入朝之璽簡之料也、

雜幄　即位及大禮等之時、垂二雜帷一、幄之飾或著雜二用綾羅錦繡一、專爲レ防二具非香一也、置二朝堂之前階一、

式筥　用二榛黙蘗之板一、或用二珊瑚蒔繪之筥一、

大禮諸節會等并除目叙位等之時、中文勘文祿之机定額日記成撰之短册等載レ之、長一尺六寸、橫一尺、

御書格　其板者同二式筥一、

天子長自二下趺一至二板頭一一尺二寸橫二尺幅一尺、自レ其以下一尺、

一尺八寸　九寸

雜供

醴酒　臨政臨祭之前夜制レ之、故號二比登與佐計一、

麹糵二斤　酒米三升　栢實一升

爲二一瓶一

羮餅餉三貫　二生　五澤

以二生氣之器一盛レ之、

屠蘇

蜀椒仁一斤　宮桂二十兩　細辛十兩　紅角豆一升　川芎十兩

右大盡之申後、典藥寮點二來歲之生氣之井水一、以レ瓶投二入井中一、待二夜氣天明之水煙相浮一爲レ期之、且及二三正日一供レ之、御齒固之大根、同應二內膳司之擧奏一、典藥寮供レ之、

白散或神明白散

白芷二十兩　白朮五兩　糯米粉二十兩　茴香五兩　陳皮五兩

爲二粉散一、以レ之入二屠蘇酒盃之中底一、

屠障散

川芎十兩　白芷同　香附子同　陳倉茶同　甘艸三兩

年三之日、典藥寮供レ之、

太乙萬應膏

荷葉　荏油　芭蕉　梓莖　良桐子

以二元日及二日三日之佳日一、自二天子一及レ至二庶人一附レ之、紙

乞巧殿星供

案上菓　楮公紙　仙實桃
陽帝瓜　彩君五色糸
干水御酒　萬計早煎稻
鷄冠赤飯

亥子玄猪或嚴調

寸二分圓　紅白之餅

初以二紅葉與一レ菊添レ之、
後以紅　菊添レ之
冬至之熟粥
紅用豆　婉豆　山藥〔◎擧カ〕　陳倉米
以二典藥寮幷陰陽寮之奉奏一、内膳司供レ之、

中家實錄第十八

服忌

高祖父　服七十五日　忌三十日
曾祖父　服九十日　忌四十日
祖父　服百日　忌五十日
高祖母　服六十日　忌二十日
曾祖母　服八十日　忌三十日
祖母　服九十五日　忌四十五日
父　服十三月　忌百日
母　服十三月　忌百日
但先父之母者、其服十ヶ月忌六十日、
夫婦　服各百日　忌各五十日
外祖父　服六十日　忌二十日
外祖母　服五十日　忌十五日
舅　服六十日　忌三十日
姑　服五十日　忌二十日
伯祖父　服三十日　忌十五日
伯祖母　同上
叔祖父母　同上
伯父母　服六十日　忌三十日
仲父母　同上
叔父母　同上
季父母　同上
兄弟姉妹　服各六十日　忌各二十五日
嫡子　服七十五日　忌三十二日
庶子　服六十日　忌二十日
但七歲未滿者不レ守二嫡庶一無二服忌一、

從兄弟　服三十日 忌十五日　再從兄弟 服二十日 忌七日
養父母　請二其家督一之後、同二實父母之服忌一、實父母之服忌減二其半一、
四足之類　七十五日之觸
鷄兎　三十日之觸　血之觸　二十日
產穢　七十五日
日向守師貞記曰、產穢者辨二甲乙丙一、同七十五日以
下除二一十日一而殘除各十爲二甲乙丙之分一、
流產　三十五日
甲乙丙除二十日一殘隔二各五一、
死觸之穢
但馬前司行兼勘文曰、假令行二葬所一之人者、雖レ非二
血肉之親一忌二七日一、爲二甲之穢一、行二甲家一之人穢三
日、爲二乙之穢一、行二乙家一之人爲二丙之穢一、但甲家食二
葬家之私食一食二私陽一之時歸レ家而乙家行二其家一而
食二傳食一、丙家行二乙家一而食二傳食一之時者、共爲二七
日之穢一、
有餘

痢及瘡之穢
治疱後忌七日、但其香暫時不レ殘之時、可レ有二用捨一
者歟、
禽獸之死穢
禽獸共畜二其家一底物者忌七日、自レ外來之物者忌三
日、

中家實錄第十九　續篇

諸器之圖

文篋蒔中挾　入二短册宣命綸旨口宣等一、或書記之箱也、
橫一尺八寸　竪一尺四寸　長五寸、花趺從レ所二其好一用二諸節一
硯格　圓形二尺五寸、上下用二五寸之緣一、延板長四寸、
用二三花趺一、
筆臺　長四寸、橫三寸、竪一尺二寸、用二花趺一但上下用二二ヶ趺一、
冠盤　長一尺五寸、橫一尺、竪一尺、用二花飾趺一、多者
用二山形駒尾等一、板厚六分各、
衣柯用二漆朱一　衣柯者、掛二裝束及衣冠將衣諸服之器一
也、
長三尺五寸、橫二尺五寸、　柱二本、橫柱三本、
用二花趺一、多是彼木瓜、二ヶ所、
木綿襷掛　柱臺趺、用二圓形一、一尺圓、或用二梅形櫻形一、
柱一本八寸圓、額柱半月之形用二八寸一、

民部省之規升　有二大中一、大盛二五升一、中盛二二升五合一、
小五酌、皆以用二圓形一、毎年四十之月兩度主計寮爲二
法家之勘文一、而課二木工寮一作レ之、受二少納言之外
印一、但用二燒印一、

中家實錄第二十

天文地象

元日之雲氣有ニ東方曉更一、

赤　旱　白　大雪　黑　水　青　風

黄　地震

三月三日有ニ巳之刻一、

東　白氣　害ニ人主一

西　赤氣　起ニ疫疾一

南　赤氣　王道次ニ三代一

北　黑氣　五穀大熟

蟻單

生ニ棟梁一則謹ニ火災一、

蝗蟲

有ニ溝田一之則五穀不レ熟、

用ニ思之祝詞一避ニ其害一、民業富饒也、

蟹行

有ニ田間一則五穀生無レ實、中江之二家卜家等用ニ澤田之祝詞一、其害日減民人歌ニ堯舜之道一、

馬牛之疫

用ニ鰥寡之合淫遊氣之道一、則其害消盡焉、

自レ此後數十枚、罹ニ丁亥之災一燒失、

中家實錄破終

書大躰 廿五品

問題條廿五箇條

一綸旨等規式事

就二公家之政務職事一、辨官奉二勅命一所レ被レ書之敎命也、院司之公卿之所レ書號二院宣一、官史之所レ書號二官符宣一、撿非違使別當之書下號二別當宣一、諸國吏務之書下號二國宣一、如レ斯之類其文非レ一、依レ事而躰異、以二綸旨一爲レ最乎、上二上所等一詞者、依二所レ遣之人一品有二等差一者也、

一爲二武家一被レ進二公家門跡一御書事

公家者總名也、攝家三家淸華名家及諸大夫北面等家々勝劣在レ之、公家中之法者見二于弘安禮一、雖レ爲二同官同位一、有二堂上地下之次第一、有二公家武家之差別一乎、爲二武家一被レ進之御書者、依二兩方之御官位一之故、其禮不レ定者哉、

被レ進二執柄一御書

恐惶謹言

何月日　于時大臣 義ー

二條殿

被レ遣二大納言一

謹言

何月日　同

新大納言殿

被レ遣二四位雲客一

可レ被二知行一之狀如レ件

何月日　御判

左中辨殿

大數如レ斯不レ遑二具陳一

次門跡事、御室者爲二法中之最長權一、始是王子孫王也、故皆有二親王之宣一也、其外叡山之三門跡、或五跡、三井寺之貫首、南都之兩門主、東寺之長者、醍醐之座主、大小門跡之號數多也、或依二寺跡之本末或俗姓之優劣一

禮儀不二一等一、且又依二武家之御官位一有二等差一乎、

被レ進二御室一御書

恐惶敬白

何月　日　　　　　　　　　　　　義―（大臣時）

菩提院僧正御房（家司名也）

被レ進二三門跡一

恐々敬白

何月　日　　　　　　　　　　　　義―

青蓮院殿（于時准后）

敬白

妙法院殿（于時僧正）

三門跡

梨本（號二梶井一）　靑蓮院　妙法院　蔓行院（竹内）

淨土寺（號二五門跡一）

三井貫首

圓滿院　聖護院　實相院

南都兩門主

大乘院　一乘院

大概如レ此、餘皆例レ之可レ知、但古世與二近代一有レ異、於二近代一中有二小異一乎、

一被レ遣二三職等一御書事

凡武家中之書札等差執則不二分明一歟、執事職（近代者號二管領一、）者雖レ爲二隨分之重職一、至二御書一者、被レ遣二自餘之大名一亦无二差異一乎、

大明人來朝之船、着岸之由其聞候、任二先例一進二發于津湊一警固之者、可レ被レ加レ下二知西國御家人等一候也、

何月　日　　　　　　御判

右京大夫殿

自餘大躰同レ之

一被レ遣二諸大名一御書有二高下一否事

如レ載二前條一御書之禮強无二差異一、仍被レ遣二御一家中并自餘之大名一之書札文躰同篇也、若就二文辭一論レ之、可レ被レ存二知之一、可レ令レ存二知之一、令二喜悅一候、

被二悦思食一候、有二如レ斯之異一乎、

一被レ遣二大名并陪臣一御書殿文字同異事

武家中之御書、古者殿字有二眞草之別一乎、至二近代一者、多分被レ用二草文一、仍差異不レ詳、且可レ依二執筆一之故實乎、

一御教書事

公家者、依二執柄之仰一被二書出一之狀、是稱二御教書一乎、武家者、執事之書出號二之御教書一、公武之所レ用其旨相似哉、而訴論裁斷之狀號二下知狀一、就二御下文被レ成被レ遣之狀號二御施行一、自餘御成敗之狀、總稱二御教書一、先代當世所レ稱是同、又被レ載二公方御判一事在レ之、號レ之謂二御判之御教書一、依レ事被レ用レ之乎、

一奉書事

依二主君之命一所二書出一之狀、總號二奉書一乎、仍御教書奉書文躰相同、引付頭人、侍所地方政所執事、評定衆、右筆衆等書下皆是奉書、或一人之署判、或數輩之加判、隨二事躰一有二別異一乎、次竪文折紙差別事、

古者大略用二竪文一、近代多爲二折紙一、且略儀歟、但又古來用二折紙一事在レ之、

一諸大名并陪臣遣二五山十刹一書事

對二于住持長老一之禮事歟、禪律之徒者无二位階之一、或於二聖道家一者、中古以來就二于公請一置二僧綱一被レ定二僧位一訖、至二禪律家一者、且依二才智一、且依二道德一、或爲二一朝之帝師一、或爲二三公之尊一者、是和漢之流例也、故无二書禮之法令一乎、爲二諸大名一被レ進二東堂西堂一之狀者、大半進上恐惶也、先代亦如レ此乎、於二陪臣一者、直進聊可レ有二斟酌一歟、對二于侍者僧一進レ之者可レ宜哉、

一同被レ遣二禪家時衆一書札爲二律家一可レ爲二恐々敬白一乎否事

禪律兩宗之書禮載二先條一訖、時衆者爲二淨土宗之末葉一乎、但依二其人一可レ有二差異一、被レ遣二藤澤住持遊行上人一御書者、爲二等同之禮一云々、然者大名中之書狀者、可レ准二禪律家之長老一歟、其外都鄙之間、

可レ然寺院之住持者恐々敬白无二子細一乎、陪臣之禮者同二于前條一、

一聖道家眞言天台花嚴法相三論倶舍成實□□（◎出世カ）淨土宗何可レ有二恐々謹言一歟否事

右諸宗是聖道門所學之敎也、書札之禮者、依二字乘一不レ可レ有二分別一乎、且隨二官位之高卑一、且依二居住之寺跡一、可レ有二等差一哉、大名中對二于門跡之出世坊官諸寺之住侶等一書狀、粗被レ用二等同之禮一乎、但出世者之中或有二卿相之具一、或有二御一家之族一、依二其種姓一聊可レ有二會釋一乎、次淨土宗者、可レ准二據禪律之類一乎、而賜二上人號一著二香衣一者、准二僧正一之由有二其說一、至二如然之倫一者、可レ有二恭敬一哉、

一同被レ遣二諸社神官一書狀事

伊勢祭主賀茂松尾等社務者叙二三位一、八幡別當者任二法印一、吉田神主、近代叙二二位一、剰被レ宣二下神祇長上之號一訖、然者諸神官中可レ謂二最長一乎、公家者依二堂上地下之別一有二書札之一、或於二武家之儀一者、雖レ有二勝劣一、大略被レ用二等同禮一乎、但不レ知二其官位一至二都鄙之神官一者、難レ分二別之一、次陪臣禮事先蹤不レ詳、隨二主人之禮節一宜レ被二斟酌一乎、

一社務神主禰宜祝戸内大夫御子巫次第事

社務者、令レ執二務內外事一職也、仍爲二社官之長一乎、石淸水松尾平野以下諸社普有二此號一、神主者、百官中有二伊勢神主一、司祭主任レ之乎、以二其准據一諸社皆用二神主號一乎、或又社務神主有二通用之儀一、禰宜祝者神官之通名也、仍大小社名有二此號一乎、然者高卑不定哉、次戸內大夫者、何社之神司哉未レ聞レ之、御子者（神子云也）陪二于社頭一舞女之名也、巫者携二笛鼓一而助二神子之歌舞一之士也、此二者至二諸社之祭禮一莫レ不レ相二從之一、其是凡卑之男女歟、

一諸大名陪臣遣二醫陰兩道輩一書札事

典藥陰陽二寮頭者五位官也、依レ之以往者爲二五位禮一乎、雖レ然近來就レ被レ重二此道一叙二四位一、或昇二上階一哉、於二大名中一陪臣等之書禮一者、准二神官一可レ知

レ之、抑自二武家執二政務權一之以來、爲二公家一甚被レ重レ之、然間雖レ爲二同官同位一公家武家相對之禮、用捨事異乎、

一同被レ遣二京都諸奉行一書禮事

近代武家之書禮、不レ謂二官位之高下一不レ論二氏族之勝劣一之故、必无二甲乙之別一乎、被レ遣二奉行衆一之書札、皆等同之禮也、於二陪臣一者、或存二慇懃之儀一或致二等同之禮一且依二其人之故實一者哉、但至二三職之陪臣一者、公私之禮儀異二于他家一次御一家中與二自餘之大名之陪臣一又有二小異一乎、

一同被レ遣二京都奉公面々近習衆一書札事

大底同二于前段一但雖レ爲二近習奉公之仁一於二御一家之族一者可レ有二會釋一乎、

一連署連判次第事

此條謂二署判之前後一歟、公家之連署、多以上官載二于左一武家亦從レ之、或以二上首一載レ右事在レ之、希有之儀也、於二武家之書一者未レ見レ之、又至二執筆輩一者、不レ依二次第一日下書二我名一是普通之例也、

一恐惶敬白與二恐々敬白一事

恐惶者奉二上官一之詞、恐々者遣二等輩一之詞也、次敬白者遣二法中一之詞也、對二俗人一者不レ用二此詞一歟、

一進上與二謹上一事

進上者對レ上之禮、謹上者等輩禮也、是公武之所レ用亦同乎、

一進上與二上進一事

兩詞爲二同意一乎、但至二書札之表所一者、未レ見二上進詞一

一拜進與二拜上一事

於二公武之書札一未レ見二此詞一仍優劣難レ分レ之、而詳二家々消息一常用二如レ此之詞一雖レ爲二俗人一對二禪徒一用二此等詞一者有二何事一乎、

一內封事

封者書札之名也、以二內儀一書狀號二內封一本式之書札者、用二禮紙一不レ書二緘封一內之消息者、不レ用二禮

紙一而封レ之、是故稱二內封一乎、

一書狀結撚目事

結二書札之上下一事、洛中之往來者常不レ結レ之、然而禮紙中卷二加文書一事在レ之、至二其時一者不レ流二遠近一結レ之、或又爲二恭敬之儀一云々、

一實名下判形寄二於左右一事

實名之加判、古人多寄二於傍一載レ之、其儀未レ詳、古者以二名字之草形一爲レ判、仍以判號二草名一、公家之書狀官姓之下載レ判者常事也、名字下加判者不レ見二其例一、公家者以レ手爲二證驗一、武家者以二判形一爲二肝心一、是如二讓狀之證文一、公家者謂二之前狀後狀一、武家者謂二之前判後判一乎、又奉二主人貴所一之書札者、書二姓名於其面一、載二草名於其裏一、是古近之通法也、案レ之實名下加レ判事非二正儀一乎、且又實名與二草名一爲二同字一之謂歟、如レ此之故實、古人多寄二於左右一載レ之乎、

一三郎左衞門尉四郎左衞門尉等至二或書札一者略二上字一載二左右衞門尉一、（普賢院御代マデ有レ之當時无レ之）幷初書狀到來時官途不分明事

左右衞門府左右兵衞府者爲二武官最長一、故古來爲二武士一之輩、以二此二府一爲二規摸一、仍傍官同族之中口多有二件官一、依二同官難一レ別レ之、或太郎次郎之假名、或加二源平等氏字一而已、卿相之中、大納言宰相者、現任之員惟多、然間至レ如二散狀一者、若加二稱號一、若加二氏字一、冷泉大納言、高倉中納言、源宰相、藤宰相等之類也、是亦與二儀彼一相同、於下載二位署一狀上者、依レ爲レ本、或除二假名字一注二本官本爵一也、次書狀到來時官途不二分明一事、於二返答之當所一者可レ隨二來書之名一、若載二姓名一不レ注二官途假名一者、只可レ載二其人之稱號一乎、（武家者、以二稱號一謂二名字一乎、）

一侍分上口對二凡下輩一遣二書狀一事

諸國庄園之名主沙汰人遣レ書下者常例也、至二凡下百姓一者、直遣之事未レ見二先蹤一、若有下可レ加二下知一子細上者、或當二于主人一、或對二于地頭一成レ書下之條、古今傍例也、

時文明大亂洛之秋、東夷之人適拋二五々之品題一、潜案二一人之述語一焉、披而看レ之、蓋是公武之札示也、雖二豈達一豈皆容易乎、翔於二巷一之性一乎、雖レ然就二來志之篇一、忘二下情之拙一、信レ筆記レ之、蓋述二今案之邪說一聞攝二先哲之遺言一也已、唯概レ貽二譏於兒孫一焉、庶幾後覧之人、改レ云正レ之亦以爲レ幸、

釣雪老人誌

右此本者齋藤越前入道淨玄、依下越後國上杉所望賜二類皆五ヶ條一聞ち之云々、以二下津入道源孝相傳之證本一書レ之、

永正二乙丑年十一月九日夜

長　與

大安寺碑文一首并序

原夫六合之外、老莊存而不談、三才之中、周孔論而未盡、探微索隱、寧通八卦之疇、設教流規、唯山（◎止カ）五禮六樂、文繫窮乎視聽、心行滯於名言、莫識三性之間、誰辨四諦之理、偉哉妙覺起茲大夢、物我雙泯、空有兼謝、不皦不昧、非道聲之可求、無來無去、豈迎隨之能測、於是浮般若之檝、拯溺愛河、導非之津梁、救焚火宅、遂使不言之化、施洽四生、無緣之慈、澤周三界、既而眞教西秘、像化東馳、八万法門、自五天而被漢地、十二分教、從百濟而集皇朝、佛法傳來、蓋有緣也、大安寺者、聖德太子之創興也、初太子奉爲國家、祈天永命、於熊凝村立道場焉、舒明天皇龍潛之日、爲問病詣太子宮、太子以此道場付屬天皇、其後太（◎恐脫子字）殂落、寺遇兵亂、僧徒闕其無人、堂宇毀而靡搆、於今莫（◎恐有脫文）其攝處、

可爲長歎息矣、舒明天皇即位十一年歲次己亥春二月、天皇念太子之付屬、憫此寺之[illegible]搆、爰詔有司、於百濟邑建九重塔、名百濟大寺、施三百戶爲寺封、院之側先有子部神社、有司便斫社樹、爰搆堂塔、社神大怒飛焰焚寺、未修復間、天皇尋崩、遺詔曰、此寺葉熟於簣功、遂於巓瓶、朕今遘疾彌重、志遂不果、王公卿士等、彌勵經始之功、副我臨終之願、時屬諒闇、未遑他事、新羅引兵滅百濟、淡海聖帝以爲、昔有苗弗率、尙勞大禹之駕、葛伯仇餉、猶動成湯之師、況彼新羅、附餉小國、敢逆皇命、彌我雄英、若不致誅、何以懲肅、爰奉太后、巡幸笁志、將欲遣兵問罪之間、太后奄然登霞、于時行宮太后臨崩、託于時聖帝以此寺之事、因言先奉遂聖詔是吾願也、聖帝撫心則痛結風枝、擧目則悲纏露葉、虔奉遺旨、就築前基社、神猶銜怨、吐焰不已、故遷高市村新作造焉、增七百戶、改名大官寺、今殿安置尺迦牟尼丈六尊像、幷二菩薩、是淡海天朝馭宇

昊天寶令開闢天皇之所造也、佛工構化、無レ有二再來一、以レ之誦レ之、不二虛應一矣、爰天人降臨、讚二相好之妙躰一矣、瑞頻告顯二能仁之深德一、爰神鑒無レ隱、靈應有レ徵、凡所二祈願一、無レ不レ蒙レ祉、所以遐邇歸レ心、崇仰無レ替、其後和銅三年歲次庚戌、皇都遷二于乃樂之京一、伽藍亦隨同時遷矣、然彼火灾時猶不レ輟、架築之事歷レ歲未レ成、爰有二道慈律師一、梵門之領袖也、幼稚悟聰、夙彰貞敏、往二遊唐國一十有七年、學完二五明一、智洞二三藏一、粤以二天平元年歲次己巳一、詔遣二法師一修二營此寺一、法師◎衍カ以爲、不レ滅二妖火一、功業難レ成、拾レ是一無上表請下爲二寺業一、每年四月設中般若寺會上、天皇嘉レ之、制二詔有司一、親施二寺物一、官供二其事一、自レ爾以來、火難絕矣、若天皇居奥壤、帝里名區、北望二平岡一、揭二震耀於紫闕一、南瞻二去野一、泛二仙氣拾碧峯一、東嶺嵯峨、煙嵐之所二搖蕩一、西阜隱軫、日月於レ焉蔽虧、信上京之勝地也、於レ是人揆二光景一、工展二規矩一、然比靈◎恐有誤脫墟創二玆梵宇一、鍾樓經藏、開二峻牖於千雲一、像殿講堂、起二高甍於蔽日一、長廊南軒丹蕚映枝、光函北砌口、鏘々寶鐸、風傳二般若之聲一、靄々仙鑪、浮二解脫之馥一、乃登眞之淨刹、是諫國之良緣也、由レ是道璿律師、澄二心戒定一、超海賑而來遊、菩僧正、凝二神惣持一、涉二流沙一而戾止、三綱衆僧、研二機二一諦一、尅二心三明一、諫二持律儀一、薰二修定惠一、積二善因於紺宇一、資三勝福於丹園一、寺內東院皇子大禪師者、淡海聖帝之曾孫、今上天皇之愛子也、希世持挺際神、命世爲二德回レ時建、道在レ人弘、悲二正教之陵遲一、痛二迷塗之危幻一、於レ是永厭二生死一、志求レ菩、捨二樂宮一而出家、甘二苦行一而入道、以二此伽藍丈六尊像是聖睿願所作一、緬惟祖德、情深追遠、登二梵宇一而懷願三餙以二崇麗一、遂乃流霞澹彩飛霧擒英縟干艷十瑒楹圖八相之銀壁、姮娥辭レ漢、引二月鏡一以照レ梁、仙務遁レ宵、聚二星瑠一而照レ梠、扣二霜鍾雲閣一、則釋衆成レ行、散二金花於玉堂一、則梵音揚レ響、結構之功、誰窮二妙於往年一、而輪煥之姸、良畫二美於今日一、夫前賢前哲、有レ功必刻二銘鼎一、又勒二碑於宗廟一、世雖レ遠而業逾顯、人雖レ古而名更新、是以皇子、思レ所下以懸二盛烈乾

坤一、流中鴻名於日月上、爰詢二翰苑之容（◎客歟）一、載求二絕妙之詞一、下二走影蓁桑榆一、文倦二彫龍之筆一、高命難レ辭、謬擒二士鳳之章一、仍乃作レ頌云、

眞性邈矣、玄猷湛然、仁霑二有截一、德被二無邊一、圓鏡長懸輪法恒轉、弘濟二四生一、炳發二三衍一、於穆立良、作二民慈父一、煩降二國祈一、創二玆梵宇一、露往霜來、移レ都改レ市、風墟有レ北、雲構無レ跡、前岡後岡、建レ塔建レ堂、淸徽誰遠、至法餘光、赫我聖帝、開二玆寂像一、神力潛通、感應如レ響、道慈上人、法門領袖、識量宏博、功思兼秀、明々帝子、厭レ俗慕レ眞（恐誤）、赫々靈舍、餙レ故成レ新、經臺殘嶦、像殿玲瓏、庄嚴千號、彫刻千工、道以レ人弘、理由レ言顯、敢頌眞靜、流聲谷岸、

寶龜六年四月十日作正四位淡海眞人三舟

近江天皇曾孫也

天平元年己巳至二于長和六年丁巳一積年二百八十九

校了　重校了　又校了先口

右碑文一章以二醍醐三寶院所藏古寫本一寫　杉園

三州俗聖起請十二箇條事

內心問答所案起請十二箇條事

一問、依ニ衣服厚薄一有ニ万病與一如何、答、依ニ果報一生レ病、專不レ依ニ衣服之厚薄一、經云、一聞ニ我名一惡病除愈云、又云、專心稱ニ我上服寶衣一云、寶服上衣者、除ニ寒苦幷万病一也、苟老翁晝夜口名號何有ニ爲レ之病一乎、仍始レ自ニ寬弘元年一、永脫ニ綿衣於霜節一矣、

アケハトクスクハムトナクトリタニモ
ケフトモシラストコソイフナレ

一問、以ニ愚昧之心一可レ讀ニ誦大乘一哉否、答、可ニ讀誦一、不レ可ニ疑念一、故法花經云、諸求ニ三乘一人若有ニ疑悔一者、佛當爲除斷令ニ盡无ニ有餘一云、老翁未レ離ニ有漏身一、何時期ニ解脫一、何世得ニ惠眼一、懸ニ心於大乘一、寧无益乎、

一問、可ニ斷酒一乎可ニ飲酒一否、答、有ニ二種一、一可レ斷レ之、是爲ニ懈怠之便一也、有下問ニ酒家一之人指以教上レ之、其人五百生得ニ无指之報一、因レ之尤可レ斷也、二者不レ可レ斷、是加行之便也、如ニ婦人一者、以ニ飲酒之緣一救ニ多人之命一、爰老翁身不レ著ニ綿衣一、不レ好ニ溫食一、意不レ思ニ豐饒一、三業共淸淨也、但至ニ于飲酒一者未レ抛、世路務者僧俗上下、即仰ニ於老翁一、似レ誹ニ謗衆人之飲酒一、仍未レ斷レ之、依ニ飲酒未レ爲ニ巨罪一、又爲ニ延年之便除ニ寒苦等一也、先達云、若使ニ榮期兼解レ醉、應下言ニ四樂一不上レ言レ三云、偏非レ思ニ榮樂一、只憚ニ自達之謗一也、是爲ニ一身一也、何他見レ之哉、

ツネモナキミソトシル〱ヲノツカラ
イツツノタマヲヒトツカクカナ

一問、婬事可レ犯如何否、答、不レ可レ犯、有ニ十種之過一、一者流ニ轉生死之海一、計只依ニ此婬事一也、二者斷ニ佛種之因一、三者懈怠長障而已、已上出世 四者棄レ業朽レ身、五者得ニ怨敵一、六者當有ニ非常之恐一、七者遠近奔波不レ知ニ多耻一、已上俗道 八者退ニ修學之業一、永後ニ等輩之者一、

九者雖レ祈ニ於佛神一、更不レ得ニ其感應一、十者受ニ万人
之誹謗一、於ニ人受ニ譏訕一ニ三寶之罪等也、已上備道苟老翁
斷ニ件婬事一之後、已及ニ五箇年一也、文云、女人惡根本
一犯五百生輪廻六趣中不レ聞ニ佛名字一云々、適得ニ
難受之身一不レ可レ還ニ本道一、意依ニ一念之妄心一入ニ生
死之海一、以來被レ閉ニ无明之病一妄ニ本覺之道一也、至ニ
于此條一者、万人可レ犯ニ知際一者也、努々矣、

アキノヨヲアカスカタラフワキモコカ
ミテサマタクルコトソアヤシキ

一問、可レ食ニ魚鳥蒜宍一乎如何、答、不レ可レ喰レ之、有ニ
多種之罪一、何鹿依ニ老病一死、何鳥依ニ風熱之病一死、
何魚依ニ食物之難一死乎、只韈ニ口鹸蚯之峯一不レ能
レ見ニ量於愚眼一、不レ覆ニ弓於廣野一者不レ能レ得レ蹄、不
レ下ニ深淵一者不レ得レ鱗、不レ儲ニ網廣天一者不レ得ニ一
翼一者也、何鳥鹿捨レ命、何鱗不レ惜レ命乎、何生類非ニ
父母一、何群類非ニ知識一乎、非ニ彼害切之[illegible]苦ニ我等之
苦一、如何霜朝入ニ深水一、極熱暮口汗從頸歎レ之、乘馬
係レ命、此等苦尤甚、何況後世之苦不レ可ニ勝計一、因
レ之絕ニ不淨之食一、已及ニ六箇年一也、抑釋尊之長壽、
因ニ不害生之戒一也、我等短命、因ニ无始之害生一也文、
不レ害ニ衆生命一及絕ニ於飮食一、如レ是二種因得ニ命長
遠一、意寧捨ニ身命一定破ニ此願一乎、

クフハタソクハルヽモノハナニモノソ
ヲヤコモシラスクラフヨノナカ

一問、麁食麁衣可レ厭レ之如何、答、更不レ可レ厭レ之、最所
レ好也、所以者何、美妙飮食遂成ニ不淨一、麁惡之水草同
活レ命、腹中有レ食更不レ好ニ他美一、腹中无レ食專不
レ嫌ニ麁美一、以レ之知レ此只爲ニ生命一也、專不レ好ニ豐
饒一、至ニ于黑白調美一者、是我慢之所レ致也、隨分活
命、麁食可レ足レ之焉、

ツユタニモアサヒマツマハホトフナリ
ナニヽヤシナフワカミナルラム

一問、僧忠[illegible]法之間、從ニ音侶類一、爲ニ不背之念一、可ニ捨離一
乎可ニ同心一乎如何、答、可ニ捨離一不ニ同心一、所以者何

文云、妻子珍寶及王位、臨二命終時一不レ隨レ身、布施持戒不二放逸一、今世後世爲二伴侶一云々、苟老翁存二此理一、盍レ障二此廣緣一乎、

ワレヒトリクラキ、ホノホニマトフトモ
タレカアハレトイハムヤアミタフ

一問、不レ知二果報一偏可レ企二𦬇之思一哉否、答、可レ企、更不レ可二疑念一、所以者何、吾身是具縛之凡夫、以二煩惱一爲二身躰一、適遺法之比不レ企二白業一者、何世期二解脫一乎、故文云、野鹿難レ繫家狗自狎也云、意者煩惱家犬之打レ之如レ不レ去、𦬇者由鹿之狎而似レ遠、以レ之謂レ之尙可レ期レ𦬇也、努々不レ可二忽諸一矣、

ユクスヱノナカキクルシヒシラヌヒト
イテヤアハレヤナモヤアミタフ

一問、最後一念者以二何因緣一生レ之乎、答、尋常之時常修二念佛一隨レ分作二善根一之輩。最後值二善知識一將レ致二一念一而已、爰老翁寔難二在俗一常奉二念諸佛一、所レ期二上品蓮臺一也、何值二知識一不レ生二一念一乎、

カケカクシムツノチマタニイマスナル
ミチノシルヘニアフヨシモカナ

一問、菩提心者可レ作二田畠一乎否、答、縱雖二𦬇心者一可レ有二二種一、在俗可レ作出家之輩不レ可レ作、耕作之間被二害切一之虫、已有二其員一、因レ玆出家之輩尙有レ憚、但至二于像形一者、偏爲二佛法興隆一、又爲レ利二益衆生一作レ之何有レ疑乎、若世俗不レ作レ之者、有界聖人何便二修定一乎、爲レ令二法久住一者万事可レ无レ咎、苟老翁繼二正法一、慈尊出世之曉、必可レ期レ解二脫之一、因仍爲二十界衆生活計一未レ抛二田畠之務一矣、

ノリノタメソテヲシシホリツクルタハ
イツレノイケノミツカイルラム

サキノヨニカククハタテヽツクリセハ
ホトケノタネニナリハテナマシ

敬白十方三寶言命終時起請等

右臨終之時更不レ可レ定二墓處一、亦不レ可レ令レ知二愛子兄弟等一、其心有レ三、所謂一者公私奔波之間遠近不レ任

心、是爲迷孤大事也、二者伴類之中十分之九者貪財、仍難致其敎養、是自他共无益也、三者葬送以後卅九日之間、人被忌有其煩、不知之時已无穢氣、是存生之間翁所念也、夫以葬送之粧、專不可爲極樂之便、只以犬葬爲本意、不可撰路頭、若存生之時、結緣道俗有善知識之本意者、被唱一念佛者欲聞其寶號、是則爲聞法也、若臨終之時雖有變改之輩、更不可遺恨、一世之恨永妨𦬇故也、遠近親疎不可毀譽、死去之日若同所有人者伴亡者之身不可取動、但可奉取出持佛經等、是則依正敎同宿之恐也、又若有遺物者、隨役人之程可分取、不可諍論、是若有物事也、財物是浮雲不有不无、又爲亡者周忌報恩等更不可修之、一枚諷誦不可修、何況乎余事乎、老翁年來之間、奉念彌陀如來及諸佛𦬇、依其念佛之力、定可往生極樂界上品蓮臺也、先聖寂心仙白十方淨土之中、西方爲望九品蓮臺之間、下品可足者、件聖往生之其一人也、老翁苟欲追彼仙路、然沒後之无量善根方々无益、所以者何、若如本意往生極樂者、娑婆之善根无益、何況墮三惡者、何時聞鐘聲哉、但至于有志之輩、念佛讀經之可唱寶號而已、以前起請雜事三寶可照之、更不可有相違、十方諸佛可施助成、敬白、

アサホラケクサハニカヽルツユヨリモ
　アタナルミナリナモヤアミタフ

南无釋迦牟尼佛三返

蜜々問答、老翁未出家、其心如何、自問可出家哉如何否、答有二種云、文曰、大乘故必不可出家、小乘之故必可出家云々、意者四衆誰非佛弟子、只以有道心之有无定其實不實耳、故適有道心者必不可出家、若至于小乘心者、爲得出家之功德、抛万事早可出家、切一髮之間、斷卅万億之重罪、故也、苟老翁安住大乘、雖頂白髮未墮邪見、俗書云雖頂白髮不惡賢人云々、是非違背正敎陳所懷也、但爲新發意不可被露、穴賢穴賢焉、

南无法文聖敎六根淸淨云

イヘハテヽマタタヒヤトリトルヨリハ
　カクテヲモヒノミチニイラハヤ

アヒミテハイツカハマタハシラナミノ
　ウキヽノアナニア・ムトスラム

ワカレテノノチノイノチノヲシカラハ
　ナニカハノチノシルヘナルヘキ

ツトメテノホトヽコソキケナニヽカハ
　イトヽカクテヤヤトハトルヘキ

三州俗聖起請文

元興寺智光頼光兩僧從二少年時一同室修學、頼光及レ暮與レ人不レ語、似レ有レ所レ失、智光恠而問レ之、都无レ所レ答、數年之後、頼光入滅、智光自歎曰、頼光者是多年親友也、年來无二言語一无二行法一徒以逝去、受生之處、善惡難レ知、二三月間至心祈念、智光夢到二頼光所一見レ之、似二淨土一、問曰是何處乎、答曰是極樂也、以二汝懇志一示二我生處一也、早可二歸去一非二汝所一レ居、智光曰、我願生二淨土一何可レ還耶、頼光答曰、汝无二行業一不レ可二暫留一、重問曰、汝生前无レ所レ行何得レ生二此土一乎、答曰、汝不レ知二我往生因緣一也、我共披二見經論一欲レ生二極樂一、靜而思レ之知レ不二容易一、是以捨二人事一絶二言語一四威儀中唯觀二彌陀相好淨土莊一、爰多年積レ功今纔來也、汝心意散亂善根微少未レ足レ爲二淨土業因一、智光自聞二斯言一悲泣休、重問曰、何爲決定可レ得二往生一、頼光曰、可レ問二於佛一、即引二智光一共詣二佛前一、智光頭面禮拜白レ佛言、得下修二何善一生中此土上、佛告二頼光一曰、可レ觀二相好淨土莊嚴一、智光言、此土莊嚴微妙廣博心眼不レ及、凡夫不慮何得レ觀レ之、佛即擧二右手一而掌中現二少淨土一、智光夢覺忽命二畫工一餘レ圖二夢所レ見之淨土相一、一生觀レ之終得二往生一云々、

道如自二元和中年一日夜六時專讀二誦法花經一數返一万余部、於レ是比房有二老僧一、忽死已過二七日一、乃得二蘇生一、則往二道如所一淸談云、吾始歸二冥途一之時、如レ夢形惛惛、適到二閻羅王宮中一有二別床一、其座上在二地藏菩薩一乃告二老僧一云、汝隣房道如法師未レ離二攀緣癡忘一句偈

雖三數滿二千万卷一未レ納二法藏一、方今持二此眞言一授二與彼道如法師一告知、每レ讀二誦經典一可レ令レ誦二此眞言三返一、設雖レ有二忘闕一皆悉如說成就、故名二補闕眞言一、

天治貳年十一月二日書了僧智印之

有二願文一云佐

眞如宮裏三明之月更朗、菩提樹下七覺之花彌鮮、功德林中迎四八相之秋月、白骨散二於草上一返知二我身一、千金多寶既非二出世之寶一、一善十因遂成二種智之因一、僞鐘遠響滅二百万之罪一、漫々海路人跡難レ及、眇々山河鳥道纔通、晚浪相似補陁界之梵聲、曉風不レ異清凉山之唄響、常啼三大士焦二骨髓一、於二數處一得レ值二般若一、石室雕佛雲埋二無來無去之蹤一、巖塔納經苔封二難解難入之字一、

天治貳年十一月七日書之

釋氏求法沙門智印之者也

僧妙達蘇生注記

僧妙達蘇生注記云、龍花寺常住斷穀人也髴事多歟本口八行者无、破也、越後國人也、炎魔王宣、抑汝者非業、其由何者未レ盡レ刧、但命終之後、都率天可二往生一、仍速擬二返遣一、但娑婆作二善人一、惡人敎二示後報一者、筑前介紀忠宗者知哉止宣、不レ知申、彼忠宗者天別台山千供僧經年奉仕也、依二彼功德力一十六大國生也、但彼妻依二斗升大少罪一、東山懸二下野國立山一、至二于今一无レ所レ到、如二浮雲一、又信濃國高橋安道依二大般若奉レ書力一舍衛國長者成也、陸奥國大目壬生良門、千部法花以二金泥一依二奉レ書之力一、十六大國王生也、上野大掾三村正則奉レ書二大般若一、幷依下橋度二大河一之力上、今在二卌六年一可レ召二置大國王一、又出羽國田川郡大荒木景見五丈御堂奉レ造、其內安二置无量壽如來幷左右佛并一、依二是善力一、舍衛國王成、又上野介藤原惟永依下書二大般若一部法花經百部一之力上、十六大國之第一長者生也、經二三代一之後、大國王可レ生、越後國浦原郡司守部有茂、三重搭一基奉レ造功德力、圍羅國王生也、遠江國島田有相依二施行之心一大國王生、下總國伴今國奉レ造二三丈五尺御堂一、其內安二置无量壽如來幷左右佛并一、依二是種々大善力一、舍衛國東北五十里之內、爲二彼人一造二置屋員五百五十宇一、其內積二无量財物一早可二來往一、雖レ然遺願依レ未レ果暫留也、但奉レ書二最勝王經半分一被レ納、今半分者經師飮酒、因レ之不レ被レ納也、越前國生江豐門、依下奉レ書二大般若幷曼陁羅一補一、奉レ造二堂搭數宇一力上、憍薩國王生也、伊勢國船木良見子僧供力、大唐國第五王生也、上野介藤原興連、越後國同緣風等、雖レ奉レ書二一切經一、取二用人之物一、仍各成二人人功德一、而更爲二願主一无レ所レ得、不レ被レ寄二帝釋宮一、千里之外被二追捨一也、即日三度受二辛苦一、甲斐國大掾永原興藤、依二大般若奉レ書之力一大唐國生也、又炎魔王宮廳前敷二半疊一、而今坐二妙達一、即炎魔王宣、汝三生人也、一生內奉二讀法花一也、仍故汝令レ知二如レ是善惡事一

也、汝不ニ忘失一而早歸ニ向娑婆一令レ告ニ知道俗一、炎魔王宣ク、汝居住國川野郡南山竹澤寺住規眞ト云師者、依下一生之內絕ニ五穀一食ニ草菓一以宛ニ施他一之力上、都卒內院可レ生、常陸國新治郡東條竹馬鄉居住藤原元景、六丈御堂幷貞菩奉レ造、八部法花以ニ金泥一奉レ書、一万三千佛奉ニ圖繪一、依ニ是功德一、帝印國第五人被レ定レ緣者大唐王可レ生、同國住常蓮、五丈御塔一宇、幷三尺彌勒佛左右佛菩像、百部法花以ニ金泥一奉レ書也、依ニ是功德一大國生也、那珂郡居住大中臣佐眞、二丈五尺御堂作ニ藥師左右菩像奉ニ安置一、又八部法花奉レ書也、佛即伴金色經又一部書了、殘七部書寫之間經師飮酒、加以遂果之內、不淨人以ニ食物一備ニ置師前一也、因レ之不レ被レ納ニ龍藏一ト宣、武藏國車持貞吉、依下奉レ造ニ藥師佛一之力上、波羅奈國王生也、六奧國行方郡寺座主僧眞義者、一生之間時法花大般若經奉讀之力切利天生、下野國住定祐師者、一顆之內兩分受用絕ニ五穀一雖ニ寺塔造一、慳貪人物之罪、我城北方一丈五尺相却在獄可ニ召居一、兩分之受用報等也、信濃國在眞蓮師者、水內郡善光寺本師佛花米餅油等受用、依ニ是果報一在ニ面八一三丈五尺大蚫成也、越後國岡前寺別當眞蓮師者、一生之間彼寺花米餅油妻子共受用、依ニ是報一四丈五尺大蚫成也、出羽國山本郡在天台別院別當持法師天台座主增命弟也、彼增命存生日成ニ置彼寺別當一、頗有ニ无慚一、仍百年之內所ニ辛苦一、又天台座主等居處者知也ト宣、彼座主等者、受戒者強令ニ惱亂一、依ニ其報一我城死作用石獄入置宣、太政大臣藤原忠平在所者知哉ト宣、彼朝臣者、除目之日成ニ阿容一依ニ人物多受用之罪報一九頭龍成也、受ニ大苦惱一也、下總國居住平將門、一府之政禁斷城東惡人之王也、彼禁斷之緣則日本州之惡王可レ被ニ召遣一、是前生可レ治ニ領天王一者也、而天台座主尊意者、爲ニ國王師一、隨ニ其詔命一修ニ惡法一、而將門ヲ令レ殺、依ニ是罪報一經ニ十一劫一不レ可レ得ニ人身一、故將門與ニ尊意一者一日之內十度合戰无レ間、同國在天台內永絕ニ五穀一、一心觀ニ菩惶一奉レ造ニ多寶塔一、依ニ是功德力一兜率天生、戌亥角金

銀瓦葺屋立、可㆑令㆑坐㆓其上㆒、又下野國在天台別院座主臺南師者、犯㆓用佛物㆒之上在下多上前之踏㆑穢、因㆑之頭在㆑人腰下大虵成死、我城丑寅角火柱爲令㆑壞、又同國在大光寺㆒如ト云師者、修㆓國中大願所々堂㆒達㆓行事㆒取㆓大少僧分㆒罪五百世大虵成、同國在恭寺住僧敎理師者、无慚而受㆓十方施主信施㆒、不淨物食、交㆓妻子㆒共食亂罪、呑㆓鐵丸㆒千度受㆓无量大苦㆒、不㆑可㆑得㆓人身㆒、毛斑牛生而彼施主等可㆑被㆓打仕㆒、武藏國在證賀師者、一生之內无㆑所㆑犯、而奉㆓讀法花㆒力都率天內院銀高座上可㆓安樂㆒、河內國深貴寺明蓮師者、卅年之內奉㆓讀法花㆒、无量罪除、兜率天內院高座之上可㆑講㆓法花經㆒、下總國豐內郡住仁高師者、九種得㆓罪報㆒、一雇人非業人咒咀殺罪、二同法咒咀罪、三佛物用罪、四同心俗人同法令㆑恥罪、五受㆓信施物㆒妻婚罪、六偷㆓宍鳥魚類㆒食亂罪、七寺內娶㆓女人㆒罪、八誹㆓謗佛法僧㆒罪、九佛物受用罪、五百世之內受㆓大苦惱㆒可㆑成㆓大虵㆒、上野國群馬郡在石殿座主禪惟師、石殿之側明神料花米餅油等貪取不㆑行㆓他人㆒、只己猶貪取罪大虵成、石殿之側伏、同國妙見寺花餅油等貪取女人食罪地獄无量苦惱受、妙達居住世界作㆑罪輩如㆓網目結㆒、天台山出火、佛殿僧房燒輩者炎上无量刧可㆑被㆓焚燒㆒者也、爰炎魔王宣云、汝早返遣□蓓凹處未㆓荒懷㆒之前歸返云々、牛頭獄卒二人相副ヲ妙達之前後立行之、現天台山幷京化他師之受㆑苦所々令㆑見給、炎魔王宮城辰巳角去三里許雲晴者荷石立也、同城未申角祚源者戴㆓六角石㆒在也、同城戌亥角立去里許談祐者懷㆓銅火柱㆒居也、同城丑寅角平塞者令㆑荷㆓運万里許石㆒、同城戌亥角去三里許延寂者戴㆓八尺石㆒立也、是衆生之施受用而不㆑致㆓觀行㆒貪食罪、九町許渭中成㆓裸鳥㆒荷㆓渭水㆒令㆓運上㆒、法座上飮酒輩者大地獄受㆓大苦惱㆒令㆓運㆑水洗濤㆒、又上野國大般若奉㆑書人々、件今行、伊福部安則、市中〔喜歟〕秋宗、山口盛吉、淸階道忠、尾張利富、同國大名僧元明、長祐、明玄等也、件經幷法花各別帝釋宮不㆑被㆑收、其由者師請㆓施供㆒飮酒而奉書、仍被㆓棄捨㆒、同國在禪金師者不

意爲レ人被レ害死、是則非業人咒咀殺果報已至也、引ニ
知識一奉レ書ニ大般若一擬ニ開題名一之間、諸人物乞取不
レ奉ニ請衆僧一、而己自用ニ願之一、妻死自レ是西方去八里
許渭水大虵成伏ニ其中一大苦惱、彼渭水色宛如ニ炎燒一、
更是苦不レ可レ免、信濃國在清水寺住僧利有師者、以ニ金
泥一奉レ書ニ一切經一、依ニ此功德一都率内院生ニ師子座上一
了、天台山座主增命者、一生之間觀ニ世間无常之理一、因
レ之炎魔王宮万會講師請定、其後都率天内院可レ坐、但
炎魔王宮我城經ニ卅年一可レ行ニ六万會一、次第請僧之定
作給、先七僧者、講師近江國平意、咒願信濃國在惠基、
讀師甲斐國在貞寂、三禮美濃在安日、咀趣後在勢仁、
散花武藏國在无念、堂達出羽國在吉仙者、又證師者越
後國在令疑、同國在觀曉等、六十僧次第依レ有レ恐多々
不ニ注載一、又越前國藤原高茂幷愁行事大難等ト宣フ、又
上總國小藏郡居住海金吉依ニ年三齋食力一、忉利天第四
御子生也、又相模國在ニ村弟子町修ニ年三齋戒一、幷奉
レ造ニ六丈ノ堂一宇一造ニ立印佛幷一同經卅卷、依ニ信力堅
固一、離ニ五障女身一可レ成ニ天人衆一之由、帝釋炎魔王付
レ帳了、又炎魔王之宣、汝妙達歸ニ向娑婆一能々可ニ勸
行一、更无念可レ往ニ生都率天内院一者、又以ニ是行事一愁ニ
告天下一、眞言大疑如レ是、

天治貳年十月晦日書了一交之

美福門院御文 大納言阿闍梨事

おもふやうありて、今日よりしてこにしたてまつるなり、佛の御しるべにやあらん、かくおもひそむることは、高野のでんほうゐんに、こゝろをかけまいらせて、いかでもとおもへども、女のつみのふかさは、御山へもまいらぬこゝろうければ、ひとへにかく申つけて、わがかはりとおもひて、でんほうゐんにあらせんれうなり、このこゝろざしたがへらるまじ、かうやの人のこなどはおほかれども、をなじこゝろなることもかたきに、中將殿おなじこゝろにて、あはれなる人なれば、かた〳〵におもひよりたるなり、ながくひじりにしたがひて、ひろく衆生をみちびく心ありて、おこなはせ給へ、おほきになりたまはざらんさきに、いかにもなりなば、おもひこゝろざすこともしられざらんがくちをしければ、かくてたてまつるなり、のちのよのことのおそろしければ、ひとへにそのれうとおもひてぞ、かならず〳〵□そとふらはせ給べし、又わが身のけむかいひじりのでしにてあらまほしきかはりと、ふた心なくおもふ也、

仁平四年二月五日

六條判官源爲義書狀

そのゝちなに事か候覽、ひさしくこそ申候はね、よろづひとへにたのみまいらせて候なり、よく〳〵いのらせ給べし、女院御前に御心にいり御恩候べきよし、又今年除目にかならずよろこびつかまつり候べき由、能々祈念せさせ給べし、さては神宮の沙汰のれうに、侍近正まいらせ候、これにおほせつけて、さたせさせ給べく候、返々よく〳〵いのりしてたぶべし、あなかしく、よろづ又々申べく候、

八月廿二日　　在判

高野聖人御房

はゝか所らうの候て、こひ候へ共、むかへにまいらせ候、そのゝちこのほせさせをはしまして、又むかへさせをはしますべし、くはしくはこの御なはさうし候ぬ、

御文くはしくみ候ぬ、おほせ事候事、きはめたる道理に候、もとも爲義こそはさたつかまつり候べき事にて候へ、此あひだはしらせをはしまして候らん、院のきそくのあしく候へば、よにはゞかりて何事もしらぬやうにて候也、いかでをろかに半さふらはん、くはしくはこの御房まうさせをはしましなん、ちかまさが事にをき候ては、さなくて候なん、そのゆへは、のりよしきはめてひさうの物にて候、さだめてそら事ども申つけ候はゞ、爲義も心えぬ物におもはれまいらせ、又ちかまさがためにもよしなき事にて候なん、けをこさうたのみまいらせて候に、すこしも心えぬ物に半いかでかおもはれまいらせ候はん、あなかしく、

二月五日　　在判

おかはさもさふらひぬべくば、あけさせをはしま

すべし、
御文こまかにみ候ぬ、何事もひたぶるにたのみまい
らせて候也、さてはおもひかけぬ事にかゝりて候、そ
のいのりしてたぶべし、又女院にいとほしき物にお
ぼしめせと、いのらせをはしますべし、ゐんへまいら
んとおもひ候、まいるばかりいのりてたびおはしま
せ、何事も〳〵よく〳〵いのりしてたぶべく候、あな
かしく、

十月廿三日　在判

くはしき事又々申べく候、又いかなる事候とも、を
のづから心えずおぼしめさん事半（ハ）、こまかに仰つ
かはすべく候、あなかしく、
先日御返事委承候にき、抑あふか（相賀）の庄事、なを〳〵親
正にあづけたぶべし、河北方を可ㇾ預給ㇾ候、親正にも
さまでふかくの沙汰はつかまつり候はじ、又そのよ
しはみなめしおほせ候ぬ、たゞさく〳〵あづけたぶ
べし、こまかに半（ハ）、ちかまさ申べく候、あなかしく、

三月六日　源在判

聖人御房

源義經搜索之事宣下請文

源義經改二名於前伊豫守源義顯一隱レ身之間搜
索可二搦出一宣下之事

法隆寺謹請

宣旨一通被レ載レ應下三綱隨二官使到着一搜二索當寺四至內及末寺庄薗一不日搦中進伊豫守源義顯上事

右件義顯幷從類可二搜尋一之由　御宣下、以二今月十九日一到二來寺家一、抑當寺者、上宮太子建立救世觀世音聖跡、佛法最初伽藍、日域精舍興基、積二六百餘箇歲之星霜一、破壞顚倒無レ據、纔留所太子拳內ノ御舍利幷妹子將來妙典安置之精舍許也、全以如レ然黨類寄宿之所無レ之、名躰不レ及二於見聞一、然間以二十九日一官使到來、即官使寺家相共、一日同時搜搜索畢、雖レ然一切不レ見二彼姿一、雖二自今以後一、若彼黨類見來者、可レ令レ搦二進其身一矣、若虛言申者、太子聖皇伽藍鎭守、惣日本六十餘州大小諸神冥罸神罸、每二寺僧等一一々毛孔可二罷蒙一者、謹所レ請如レ件、

文治二年十二月廿二日

都維那　師　唯世
寺主大法師　慶安
權寺主大法師長曜
上座大法師　嚴與
權上座大法師範覺

五師

傳燈大法師　賴融
傳燈大法師　林曉
傳燈大法師　禪覺
次兩人舊記依二破壞一不レ見

興福寺法隆寺牒狀

興福寺神木動座牒狀 中綱仁智仕丁是延飮酒公文所

欲レ被レ共二奉　春日大明神御進發一狀

興福寺大衆牒　法隆寺衙

牒、去比於二和泉國一依下被レ燒二失御榊一陵轢仕丁神人等上、來廿日所レ可レ有二御進發一也者、任二牒送旨一、欲レ被二共奉一、乞也衙察レ狀、莫二緩怠一、以牒、

建久九年十月八日

法隆寺太子御入洛牒狀

法隆寺牒　興福寺衙

早欲下被レ依二累歲寺訴一、奉上レ進二本願御入京一、貴寺宜二同心合力一狀

牒、當寺者、扶桑佛法之濫觴、日域仁祠之權輿、蓋如須達在二西竺一建二精舍之基一、摩騰本來二東漢一留二白馬之跡一、誰有識會不二崇重一哉、而當寺領播州鵤庄西三箇下司、猥募二武威一、恣行二非法一、依レ之住侶貧貯忽及二闕如一、勝鬘大會速令二斷絕一、所以於二六波羅家一頻雖レ訴レ之、更無二□□之成敗一、還似レ萌二彼敵方一、然者自由政道人力爭詠レ之、所詮任二嘉祿之例一、奉レ進二太子御入洛一、欲レ遂二寺門之欝望一矣、夫貴寺與二當寺一、既有二三聖一身法水源流之好一、何無二同心共許之助一矣、牒送之趣、詮要在レ斯而已、書不レ盡レ言、乞也衙察レ狀、勿レ處二疎略一、故一牒、

乾元二年癸卯潤四月日法隆寺衆徒等牒

元文元年丙辰秋八月、雨中徒然之餘、拾二集餘多舊帋一書二寫之一、爲二一條一、然寫本文字闕分許多、而又三寫烏馬之誤頗多、依レ之於下有二明據一者上補二其闕一、於下无二其據一者上以レ圍記レ之、愚情甚有恐、視人取捨可レ仕レ心者也

鵤寺中院　良訓大僧都

宋人陳和卿濫妨停止下文

院廳下　諸國在廳官人幷東大寺所司等

可下早停二止宋人和卿濫妨一任二去建久九年院宣一宛中顯密佛事用途料當寺領庄庄上事

播磨國大部庄

伊賀國阿波廣瀨山田有丸

周防國宮野庄

右彼寺三綱等、去三月　日解伏偁、謹考二案內一、件寺領等者、勸進上人大和尙、或申二請顚倒之寺領一、或申二賜沒官之地一、或以二私寄一進文書一、所二建立一之寺領也、子細各見二于宣旨院宣等一、而經二奏聞一之刻、可レ充二賜宋人和卿一之由被二言上一者、造寺造佛之間、所二召付一之巧匠也、爭無二衣食一哉、豈不レ賜二作料一哉、仍以二此等之所出一、先者宛二彼用途一、終者爲レ經二寺用一也、而佛像堂宇未二出來一前、可レ被レ寄二寺領一之由言上之條、有レ憚之故、後條奏狀之面難レ載、宋人事素意者、偏存下可レ爲二寺領一之由上、入二若干之功費一、口身心而造營之傍所二申立一之庄庄也、且和卿知二此子細一之故、最前寄二進寺領一畢、仍重經二奏聞一之處、各被レ下二宣旨一、成二不輸之寺領一畢、加之以二此庄庄地利一可レ充二色色佛事一之由、院廳御下文明鏡也、寺領之條勿論事歟、然而於二宮野一所一者、年來一向預二賜和卿一、不レ及二餘人之口入一、爰大和尙至二去年一始被レ致二沙汰一者、且和卿代官庄務□徹之間、所當有名無實之由風聞、且又乍レ號二寺領一、不レ經二寺用一、送二星霜一之條不便之故、成二加沙汰一者、可レ全二南方所當一之由、上人申二含和卿一之處、庄務又不レ可レ交二他人一、寺家之年貢、又可レ辨二進一斛一云云、申狀頗似二狂言一歟、仍抑而令レ致二沙汰一之間、偏爲二私領一之由、付二甲乙之緣一、欲レ取二放寺家一之刻、敵二上人一致二種種讒奏一、剩自餘庄庄、同企二押領一、猛惡不當之至、無レ物二于取レ喩、凡和卿作法、嗔恚憍慢

增感之上、嫉妬狂氣相加之間、當寺居住之後、所行不當不レ可二稱計一哉、或大佛冶鑄時、妬二日本鑄師一、其鑄形之中籠レ土入レ瓦、或佛殿造營之始、切二破數丈之大柱一、忽造二私之唐船一、或造寺間不レ用二上人之下知一、企二自由作事一之故、裳層垂木拔下、見者恠レ之、瓦葺之遲怠職而由レ之、凡如レ此之所行不レ遑二毛擧一、每人知レ之、寺中隱然而依二優一德一不レ顧二萬過一、已送二年月一畢、況此七八年以來、全以レ交二造寺之操一、且寺家木工久馴二其功一、彼之工頗無用之上、動背二上人命一、粗失錯出來之故、然者於レ今者一德已闕畢、不レ足二抽賞一歟、又押二妨寺領一、違二背上人一可レ謂二往寺之緣云盡、心惡自露顯一歟、凡召仕道道之工、所所之例雖レ多、云二憐愍一云二施物一、未レ聞二如レ此邊地之田畠一、京都之敷地、奉加之財寶、善惡之布絹等、都以不レ知二其數一云云、恩賞餘レ身作料過分也、全不レ及二庄薗之抑留一者歟、就レ中召二付造佛一知二行庄務一之條、偏上人引級也、直無レ蒙二上仰一不レ知レ恩之至更不レ足レ言哉、何況去年冬、此上人令レ奏二達庄子細一之時、進退只可レ有二上人意一之由被二仰下一畢、其上猶搆二種々謀一付二强强緣一廻二領知之秘計一云々、不レ顧二違勅一不レ恐二冥罰一之條、尤可レ有二遺迹一歟、與二依法造營一之昔者、雖レ似二一分之助緣一、妨二正法資緣一今者、已爲二三寶之怨敵一、早處二重科一可レ被レ宛二行其罪一也、當時御歸依口當代者施入、縱無二傾動陵怠一、末世之將來者、顛倒猶以難レ知歟、仍宮野等三箇之領、永停二止和卿之濫妨一、爲二不輸之寺領一、顯密佛事之用途、不レ可二退轉一之由被レ成二下廳御下文一、欲レ備二後代之龜鏡一、望請鴻慈且任二建久九年院宣一、重被レ成二下　院廳御下文一者、寺漸復二本願之當初一、人彌奉レ祈二聖朝御願一矣者、件庄庄等永停二止宋人和卿濫妨一、任二建久九年院宣一、不レ可レ退二轉顯密佛事用途等一之狀所レ仰如レ件、在廳官人幷所司等、宜承知不レ可二違失一、故下、

元久三年四月十五日

主典代中宮大屬兼春宮大屬安倍朝臣花押

別當皇太弟傳藤原花押

判官代少納言兼行侍從中宮權大進藤原朝臣花押

前權大納言藤原朝臣同

防鴨河使左衞門佐兼中宮大進藤原朝臣同

中納言兼左衞門督源朝臣同

春宮大進藤原朝臣同

中納言藤原朝臣同

宮内權大輔藤原朝臣同

民部卿兼春宮權大夫藤原朝臣同

右少辨藤原朝臣同

參議修理太夫兼備中權守藤原朝臣同

參議右衞門督兼伊與權守藤原朝臣同

參議近江權守藤原朝臣同

右近衞權中將兼播磨守藤原朝臣同

修理右宮城使左中辨兼中宮亮藤原朝臣同

筆海要津上

佛法

報身應身、濟二度衆生一之德長傳矣、相待絕待、演二暢妙法一之義不朽焉、一念必有レ感、譬猶三以レ蓮擡二九乳之洪鐘一、小善是無レ嫌、則類三以レ蠡酌二萬里之溟海一、佛法之冲邈、不レ可レ稱者歟、

同

苦輪難レ出、憑三運載於二妙法圓融之車一、愛河未レ超、任三朝宗於二弘願四十之海一、彌陀法花、不レ可二測量一者歟、

同

娑婆穢惡之鄕、雖レ慚三輪廻於二五濁之雲雨一矣、凡聖同居之境、唯憑三引攝於二一念之涓露一矣、彌陀之願、被レ于二此界一者也、

同

安養淨刹、有二一導師一、號二之阿彌陀佛一矣、娑婆世界、

有二一實語一稱二之妙法經王一焉、衆生離苦之良緣也、垂三引攝於二十萬億土之西一諸佛出世之本意也、顯三眞實於二四十餘年之後一一念至心之輩、必登二嚴淨之寶蓮一半偈染神之人、遂到二轉依之妙果一彌陀法花、不レ可二測量一者歟、

同

彼岸雖レ難レ到焉、艤二六度之船一者、必越二愛河一朽宅雖レ難レ出矣、脂二一乘之車一者、必達二露地一佛法之沖邈、得而不レ可レ稱者歟、

同

西域牟尼之敎、遙傳二波母山之風一東方君子之邦、遂化二月氏國之俗一佛法之繁昌、蓋在レ于二吾土一者歟、

同

惠日揚レ光、任三照臨於二煩惱之朽宅一焉、慈航鳴レ棹、期三濟度於二菩提之彼岸一矣、

同

長者圓融之車焉、轉三一乘於二法界之月一安養開敷之蓮矣、任三九品於二觀門之風一佛法之沖邈、得而不レ可レ稱者歟、

善根勸發

常陸守母堂願文

夫以赴二萬里之長路一者、以二寸步之力一得レ達、爲二千仞之崇山一者、以二一簣之土一得レ成、然則□下發心與二不發心一行道與中不行道上而已、

散樂正遠願文

同

春秋空謝、悲二飛鳥過目之喩一盛衰不レ常、無二扁鵲治老之藥一若不レ修二眼前之少善一豈敢證二身後之大果一

造佛寫經

佛則一丈六尺焉、遙期二凝觀寺之因緣一經亦二十八品矣、不レ異二耆闍崛之演說一

血經

奉レ書二寫血字般若心經阿彌陀經轉如成佛經各一卷一

手自出ニ身血ニ所ニ書寫ニ也、其間偏斷ニ白檀ニ、殊凝ニ丹地ニ、
即仰ニ藥王燒臂之先蹤ニ、感ニ梵志剝皮之弘願ニ也、

破ニ手跡ニ爲ニ料紙ニ

奉レ書ニ寫妙法蓮花經一部八卷、開結等經各一卷ニ、破ニ
幽靈手跡ニ和ニ彩牋ニ、一日之中所ニ書寫ニ也、經行之冬朝、
坐禪之春夜、或問ニ三衣之寒温ニ、或訪ニ一鉢之虛實ニ、字
字皆是慈愛之詞也、句々莫レ非ニ恩德之旨ニ、以ニ此言業ニ
資ニ彼妙果ニ、

逆修

方今就ニ如來之遺敎ニ、尋ニ證果之方便ニ、徒自資ニ追善於ニ
夢後ニ、不レ若レ營ニ逆修於ニ眼前ニ、是即牟尼善逝之演說、
人以爲ニ龜鏡ニ、普光菩薩之對楊、世以爲ニ規模ニ故也、

放生

或遇ニ漁鈎之客ニ、救ニ鱗介ニ、誘ニ屠獵之人ニ、放ニ禽獸ニ、

散樂正遠願文

法會

道儀

梵唄高唱、髣ニ髴於ニ魚山之曉嵐ニ、洪鐘閑報、宛ニ然於ニ
鷲峯之昔日ニ、

同

于レ時梵唄高唱、宛ニ然鷄籠山之曉嵐ニ、辨舌不レ狂、髣ニ
髴鷲峰嶺之昔日ニ、

同

靑眼赤髭之滿ニ法莚ニ、薜荔之風連レ色、五莖四照之散ニ
講肆ニ、簷蔔之露讓レ粧、

同

敬嘱ニ四日照曜之才ニ、以講ニ八年醍醐之敎ニ、梵唄緩唱、
髣ニ髴于ニ鷄籠之曉風ニ、辨舌不レ窮、宛ニ然于ニ鷲頭之昔
日ニ、

同

敬展ニ一日之錦莚ニ、以嘱ニ數口之白足ニ、花則開ニ合掌ニ、
何必石崇金谷之粧、香亦出ニ至心ニ、何必韓壽西域之貢、

時節

于レ時秋花之備ニ庭實ニ、自同ニ薝蔔之粧ニ、寒蟬之噪ニ林

梢一、暗和二鐘磬之響一、

同

香則出二至心一、還咲二荀令三日之座一、花又開二合掌一、更
嫌二簡栖四照之粧一、殘螢飛而點レ叢、自添二燈明之光一、寒
蟬噪而滿レ樹、遙和二鐘磬之響一、

同

燒二至心一、代二雨天之粧一、捧二合掌一、爲二迎佛之使一、于レ時
林蟬噪而秋風冷、自助二浮磬之聲一、庭蘭開而白露香、暗
添二散花之艶一、

同

花菊之栽數叢、髣髴燃燈佛五臺之粧、香煙之聳一穗、
宛然荀文君三日之座、

同

智惠月朗矣、髣髴鷲子之古風、辨說泉沸焉、宛然鷲頭
之昔日、覽三老菊之殘二籬根一、自添二薝蔔之餘香一、寒鴈之
叫二雲表一、遙和二鐘磬之逸韻一、

同

老菊之殘二故籬一、自供二人中之樹一、寒雪之飛二幽砌一、還
疑二天上之花一、

同

于レ時巖泉咽、嶺猿吟、暗動二梵唄之聲一、松蓋傾、苔茵
滑、自添二佛庭之餝一、

伽藍

畫堂之插二青雲一也、魯般能施二其巧一矣、金容之懸二秋
月一也、梵天無レ見二其頂一焉、樓殿玲瓏、佛陀里之風讓
レ聲、水石淸冷、甘露峯之月耻レ色、誠是地境勝絕、靈驗
揭焉者也、

東大寺羂索院夏衆等願文

同

伏惟淸水寺、海內之靈地、洛東之名區也、尋二其舊主一、
弘仁亞相右將軍矣、智勇敵二万夫一、謂二其本佛大悲千手
觀世音一焉、利益洽二千界一、草創年深、月老二松栢之故
山一、薰修日久、人滿二現當之勞地一、求二官福一者獲二官
福一、求二壽命一者保二壽命一、其應急二於箕畢之風雨一、其感

超二於鏡谷之影響一、

清水寺別當長圓供養勝軍地藏願文

神道

夫泰山府君者、居二天孫之巖岳一、主二海內之禍福一、百鬼從二其威風一、万靈浴二其惠澤一、專二頻繁之禮一者、願念同二印下之泥一、備二祭祀之儀一者、感應喩二鏡中之影一、崔趙之先蹤、既載二竹帛一。

泰山府君都狀

同

氣比大明神者、越州第一之靈社、北陸無雙之神祠也、專二祭祀之儀一者、感應同二鏡谷之影響一矣、運二往詣之步一者、利益類二箕畢之風雨一焉、上自二國宰一下至二州民一、莫下不三靡然嚮二神德一者上也、

水田施入狀

陰陽不レ測、擅二威靈於千變万化之中一、權實惟同、施二利益於和光同塵之際一、謂二之神明一、誰不二欽仰一、氣比明神者、內證惟貴、外用難レ識、垂二靈跡於北陸之境一、致二潛衛於南面之君一、求レ福者得レ福矣、素願同二印下之泥一、求レ壽者得レ壽焉、丹祈喩二鏡中之影一、

祈願

國家

俗歸二粟陸一、化同二栢皇一、姑射山之月、送二千秋一而無レ變、堯母門之風、經二万歲一而鎮靜、凡四海之內、九州之外、男勤二耕耘一、女務二織紝一、

上皇

黃河縱如レ帶、汾水之浪鎮靜、泰岳縱如レ砥、射山之月無レ傾、

同

臨汾之遊、春秋無レ限、具茨之宴、日月不レ傾、金母算二木父壽一、獻二其天年一焉、嶗嵣桃二崆峒依一、供二斯仙廚一矣、

公卿

金印紫綬者、久所レ裝也、願至二亞相之重職一、錦障珠履者、素所レ有也、願超二季倫之先蹤一、一門之中、熊軾隼旟之職無レ絕、万歲之間、木父金母之壽久保、

堂舍

黃河如レ帶、月輪之色不レ傾、泰山如レ砥、雲軒之構無レ動、

同

紺殿畫閣之基、久期星宿刧之寒暑、香花燈明之勤、永至二阿逸多之下生一、

清水寺別當長圓供養勝軍地藏願文

感應

昔魯陽公之廻二戈矛一矣、斜日反二三舍之輝一、漢耿恭之正二衣冠一焉、枯泉飛二一眼之液一、信超二梁杜一福何啻指、

泰山府君都狀

亡者得脫母、僧尼、

生死者、巫峽之水也、非レ棹二弘願之船一、誰得レ渡、煩惱者、大行之山也、不レ乘二圓融之車一、誰得レ超、幽靈若歸二輪廻之故鄉一、以二此慧業一、早出二有爲世一矣、幽靈若到二安養之寶土一、以二此善根一、速得二无生忍一焉、

同

雖二煩惱之遺塵未一レ除、梵風吹而掃二罪障一、雖二輪廻之故鄉難一レ出、覺月照而示二正道一、

同

所レ寫者、即身成佛之妙文也、願令三先妣同二龍女見女之芳緣一、所レ造者、安養淨刹之化主也、願令三先妣託二上品中品之蓮胎一、

同

昔目連之救二悲母一、擅二榮樂於忉利天宮之風一、今弟子之報二幽儀一、期二引攝於安養淨界之月一、孝敬之志、旨趣惟同者歟、

同

无生法忍者、雖レ不レ祈可レ得矣、願以二此善根一、早轉二摩尼輪一、百法明門者、雖レ不レ求可レ悟焉、願以二此惠業一、忽昇二究竟即一、

同

所レ歸者、九會四重之諸尊也、定遊二戲法界空之煙霞一矣、所レ凝者、一心三觀（五智三等）之素念也（妙覲）、必感二會寂光土（密嚴土）之風

同

雲一焉、

同

木叉者、平日所レ携也、豈敢煩二六趣之險路一、蓮文者、多年所レ誦也、定知昇二九品之寶臺一、以二此善根一、忽到二法雲地一矣、以二此功德一、遂登二究竟即一焉、

無常

世尊遂現二四枯之相一、沙羅林之春花含レ怨、天人未レ免二五衰之悲一、歡喜園之秋露添レ淚、无常之理其不レ然哉、

同

阿闍世王之結二五夢一也、傷二心於三更之曉月一、迦葉尊者之禮二雙足一也、攬二淚於七日之春風一、无常之理不二其然一乎、

同

沙羅林之春風、遂含二四枯之聲一、歡喜園之秋露、猶帶二五衰之色一、況閻浮沫泡之鄉哉、況分段霜露之質哉、

同

藍子之上二非想一也、八万劫之春秋空過、桂父之得二神仙一也、三千歲之凉燠不レ留、況閻浮沫泡之鄉哉、況分段生死之身乎、

同

耿々九枝之燭、青嵐吹而空消、泛々一葉之舟、白浪激而易レ沒、人之在レ世、取喩可レ知、

女弟子從五位下藤原季子願文

同

万物者、蟬翼也、一生者、蝸角也、

同

石氏河陽之春花、遂有二隨レ風之色一、子猷山陰之夜雪、豈無二向日之光一、

同

巫女之妖艷也、忽化二陽臺之暮雨一、舒姑之麗容也、空變二嶺泉之曉波一、

同

巫女廟之春花焉、猶遺二恨於零落之色一、舒姑泉之秋波矣、更含二悲於絃歌之聲一、

筆海要津下

筆海要津下

人倫

帝皇德化

我國家聖主受レ圖、賢相輔レ化、內以撫二諸夏一、外以綏二萬邦一、率土之誇二豐年一也、餘粮栖而露猶重、邊城之不レ警レ夜也、戎樓荒而月獨淸、至如彼遐方子來異類賓、（◎賓下原本闕疑脫貢字）葱嶺西、沙漠北、悉荷二仁壽之賜一焉、文身俗、辮髮鄉、遙歸二愷悌之化一矣、何唯周文王之有二至德一、虞芮斷レ訟、唐太宗之致二泰平一、胡越許レ交而已哉、

釋尊序

博陸歸佛法

德軼二伊呂一之故、輔二皇猷一而致二畫一之政一、心信二因果一之故、崇二釋典一而竭二無二之誠一、因茲暫卷二東閣賢俊之席一、忽講二中道圓融之文一、彼霍氏金鳳之車、未レ轉二眞乘之寶輪一、周公羽爵之浪、猶隔二法水之餘流一、

殿下御八講導師表白文

大臣謙退

謬以二相將之遺種一、叨厠二喉舌之淸斑一、居二龍作一而顏厚焉、未レ免二尸素之責一、對二鳳衙一而股戰矣、苦瀝二心丹之誠一、況乎三二公者、上應二星文一、下掌二地理一之官也、周物隔レ智、何忝二周室祝鳩之任一、漢丙謝レ才、豈追二漢家問牛之蹤一、◎周物物字可疑姑仍原本

右大臣辭表

賢佐

謝安者、風流之士也、宣二敎令於司馬之朝一、蕭何者、卯宿之精也、理二陰陽於衆龍之代一、

右大臣辭表

天文博士自謙

幼日嗜二門業一、壯年繼二家慶一、爵級之帶二五品一也、早備二朝淸之位一焉、官斑之佩二一印一也、幸爲二秘書之監一矣、況復謬以二愚魯之質一、猥居二羲和之官一、登二候臺一而淸レ魂、眼迷二列星之卅五一矣、望二分野一而勞レ思、心暗二周天之十二一焉、內則懼二鬼瞰一、外亦慙二世論一、王事靡レ盬、僶俛從レ事、昔晉郭璞之長二龜筮一焉、未レ歸二鵜王滿德之尊一、齊甘德之望二雲物一矣、豈仰二覺月圓明之光一、

天文博士廣賢願文

刺史好學自謙

泉州藤刺史者、我道之好事也、畜二賢智一而立レ朝、携二詩書一而仕レ國、入二趁鸞臺一之昔、人以爲三馮仲文之直二漢國一、出二割虎符一之今、世以爲三白樂天之在二蘇州一、雅譽之美、不二其然一哉、

詩序

同

智雖レ非二英賢一、職唯撫二草民一、廉名難レ施、謝二一錢於劉會稽之先蹤一、令德未レ顯、耻二兩岐於張漁陽之故事一、

同

昔仕二文景之朝一、早繼二金張之業一、好爵之帶二四品一也、黷二紫綬於榮路之風一、修良之致二數州一也、分二銅符於吏途之月一、

撿非違使 自謙

謬稟二庸隟之性一、猥忝二刑辟之官一、戴二笏冠一而鬢已衰、漸理秋霜之千莖、横二鳳劒一而腰空疲、惏帶二曉氷之三尺一、況復議讞之塲、觸レ類多二失誤一、愚惷之性、於レ事有二懈緩一、爲レ人雖レ不レ與二重比之詞一、取レ身猶爲二罪障之因一、

武士 褒美

外平二夷落一、內固二王室一、折二衝於千里之外一、齊朝之明月謝レ譽、垂二功於万代之間一、衞氏之古風耻レ德、

清水寺別當長圓供養勝軍地藏願文

散樂

出二環堵之裏一、長二窮巷之間一、所レ好者、猖狤之業、我以爲レ受二之天一焉、所レ習者、嗚嘶之風、世以爲レ軼二於人一矣、然而猶謝尙鴝鵒之舞矣、耻下其能不上レ及二於往賢一、魏收獮猴之戲焉、思下其姿不上レ如二於先哲一、況哉每接二狂歌之莚一、交二沈醉之座一、唯期二賓客之解頤一、不レ顧二妻孥之反脣一者也、

散樂正遠願文

主君

日居月諸、久遊二泛恩澤之万頃一矣、自レ幼至レ老、唯匍二匐德山之千仭一矣、

夫婦

琴瑟之調克和、涼燠自積二於齊眉之中一、松蘿之契漸久、風霜轉舊二於嬿婉之下一、

老人

徂年難レ駐、鏡中之影、逐レ日兮變、壯齒不レ歸、鬢上之霜、先レ秋兮寒、

散樂正遠願文

僧

德行

法門之樞鍵、苦海之津梁也、久弘二遺敎於吾朝一、遙施二雅譽於皇宋一、智劔淬而治、其及不レ待二南昌之直一焉、法燈明而挑、其光還徧二靑玉之影一矣、況復偏歸二彌陀之一佛一、久望二安養之九品一、蔕二芥浮生一、錙二銖榮路一、

祭源信僧都亡魂文

同

以㆓忍辱㆒爲㆑衣、何必迦葉付屬之衣、以㆓慈悲㆒爲㆑室、何必淨名方丈之室、

同

限㆓薰修於千日㆒、積㆓苦行於一心㆒、晝夜不㆑斷、折㆑花供㆑佛、于㆑朝于㆑夕、所㆑捧者五莖之芳艶、迯㆑暑迯㆑寒、所㆑燒者百步之口香、

東大寺羂索院夏衆等願文

同

幼日染㆑衣、長年歸㆑眞以降、所㆑習者秘密敎、洗㆓心於五智灌頂之水㆒、可㆑期者安養界、懸㆓望於九品結跏之蓮㆒、況一鉢屬㆑空、不㆑奈㆓顏氏之瓢簞㆒、三衣易㆑破、猶同㆓原憲之百結㆒、彼惠遠之隱㆓廬山㆒、空避㆓人世之毀譽㆒、今弟子之慕㆓淨土㆒、久修㆓觀門之二八㆒、

高貴

家稟㆓尊貴㆒、位極㆓綱維㆒、靑眼律師之在㆓姚秦㆒、未㆑忝㆓一千坐主之師範㆒矣、自是和尚之仕後魏、猶隔㆓博陸相門之貴種㆒、

同

出㆓負扆履石之後胤㆒、爲㆓羅襟薜衲之上首㆒、織㆓忍辱㆒以爲㆓付屬之衣㆒、搆㆓慈悲㆒以爲㆓方丈之室㆒、學窮㆓三密㆒、傳㆓秘旨於靑龍之雲㆒、身師㆓一人㆒、致㆓潛衞於金鑾之月㆒、誰不㆑謂㆓之釋門之樞鍵㆒、誰不㆑謂㆓之法器之瑚璉㆒、

自謙

謬以㆓亞羊之質㆒、猥登㆓師子床㆒、顧㆓碩量㆒而赧㆑面、迷㆓布鼓之和於雷門㆒、對㆓智德㆒而消㆑魂、慙㆔螢火之逢㆓烏輪㆒（◎下疑脫句）

殿下御八講導師表白文

同

幼日染衣之昔、稟㆓智證大師之門塵㆒、壯年負笈之時、纔傳㆓顯密兩宗之軌躅㆒、性是魯愚、步失㆓晉退㆒、雖㆑退㆓賜紫之位㆒、只求㆓養素之方㆒、

同

出㆓槐路之末葉㆒、爲㆓桑門之附枝㆒、才雖㆑非㆓一角㆒、業是

傳三三論一、學費二氣力一、殆多二尸素之譏一、器耻二斗筲一、猶隔二賜紫之位一、纔雖レ歷二三會之講莚一、猶不レ堪二陸沈之愁緒一、

謙退

泰山府君都狀

謬以二斗筲之器一、猥忝二崇班之職一、顧二耆德於膝下一焉、第三伏之汗、夏泱レ背、望二智侶於席上一矣、數百步之氷、春隨レ步、非下唯懼中塞二賢路一之責上、猶亦耻下汚二聖朝一之罪上者也、

八幡撿挍辭狀

病入二膏肓一、未レ得二花元他之方一、性好二山水一、欲レ逐二支道林之跡一、

女

褒美

生二累葉繁花之家一、備二四德六行之禮一、桃顏春濃焉、自假二夏姬之艶態一、蕙開日新矣、猶超二秋胡之貞廉一、

上總守泰重爲亡室追善願文

同

殊艶尤態焉、雖レ無二其姿之絕レ世、柔範婉順矣、猶有二其性之軼レ人、

中宮宣旨爲亡女追善願文

同

柔範稟レ性、婉順在レ心、女誡之七篇、以レ之正レ禮、婦道之四德、以レ之文レ身、曹班之在二扶風一矣、雖レ謝二彼明慧一、曹娥之出二會稽一、均其至孝焉、

女弟子從五位下藤原季子願文

同

出二槐門蓮府之遺種一、稟二柔範貞操之性一、夢結二熊蛇一也、男女之子族旁滿レ堂、德均二鳲鳩一也、撫育之仁恩更軼レ人、

大輔姬君爲母追善願文

同

柔範稟レ性、婉順在レ心、蘭蕙雪◎按一字闕之立レ身、巾櫛之勤匪レ懈、男女子息之滿レ室、鳲鳩之仁惟均、

出家

昭君村之邊、春柳黛變、貞女峽之中、曉浪聲老以降、忽落二蟬鬢一而欠二蟬翼一、久忍二鵝珠一而歸二鵝口一、蒼々秋月之入レ窓之夜、只修二觀念於三昧一、凜々白霜之點レ叢之朝、偏懺二罪障於六根一、

同　　常陸母堂願文

昔厭二綾羅錦一、久歸二佛法僧一、所レ著者僧伽利商那和主之衣裴レ身、所レ戴者妙法蓮維摩長者之冠在レ首、

同

昔脫二吳綾一早落二周羅一以來、厭二榮名於俗間一、求二菩提於身後一、窓月傾レ西之秋夜、偏凝二想觀於二八一、林霜變レ紅之冬朝、唯期二罪障於消除一、一生無二喜怒之色一、唯歸二淨眞念彌陀之蹤一、四衞專二警巡之威一、還咲二花色化輪王之貌一、

得脫先蹤　文字落歟

引接不レ疑矣、同二忍山之昔儀一、往生無レ妨焉、類二汾陽縣之故事一、

同　　女弟子從五位下藤原季子願文

彼耆婆公主之證二三果一焉、即是羅什法師之智力也、韋提夫人之出二八難一矣、豈非二目連尊者之方便一哉、

人事

謙退

仁恩之溢二涯分一也、還迷二溺身之波一、卑謙之切二方寸一也、動耻二口足之誠一、心歟

同

臧文仲之海鳥、永隔二鏡皷之樂一、陶朱公之池魚、空遂二江湖之心一、

知恩父母　　八幡撿校光清辭狀

妙高八萬之勢、非レ不レ大、若比二慈親之恩一者、卑レ自二培塿一焉、勃溟万里之浪、非レ不レ深、若喩二悲母之德一者、淺二於潢潦一矣、欲レ報二之德一、昊天罔レ極矣、

同

牟尼善逝之昇ニ忉利一也、敎ニ化摩耶於九旬之間一、目連尊者之富ニ神通一也、拔ニ濟悲母於八難之裏一、報酬之道、不ニ其然一哉、

同

有爲輪廻之間、難レ堪者恩愛之別矣、無始生死之口可レ報者恩愛之德焉、

同

昔時鞠養之恩、鼈山還卑、今日微報之志、牛涔猶淺、

同

甘露温潤之慈、分ニ恒沙身一而難レ答、白華至孝之志、歷ニ微塵劫一而無レ窮、母子之愛、誰間然哉、

同

如來之說ニ四恩一也、以ニ父母之恩一爲レ最、人倫之有ニ百行一也、以ニ孝悌之行一爲レ先、欲レ報ニ之德一、昊天無レ極者歟、

孝行

晨省昏定焉、華顏怡色之養是深、心面入告矣、劉卓孟等之心非レ懈、

同先蹤

昔董永之有ニ至孝一、神祇感ニ其精誠一、今弟子之報ニ親恩一、佛陀照ニ此懇志一、

同

昔曹娥之哭ニ慈父一也、徒灑ニ七朝之淚一、今弟子之酬ニ亡親一也、泣祈ニ三明之因一、

出家

及ニ彼世上之榮寵已足、人間之希望漸少一、遂落ニ軟雲之髮一、早歸ニ滿月之尊一、

同

深厭ニ塵網一、彌歸ニ眞乘一、造次顚沛、唯誦ニ法華一、行住坐臥、偏念ニ彌陀一、相待絕待矣、所レ憑者、妙法之圓融也、日想水想焉、所修者、觀門之十六也、

厭離

夫邪見之稠林未レ伐、廣劫之春秋多積、煩惱之苦海難

レ超、多生之歳月幾廻、輪廻之郷、尤可ニ厭離一者歟、

臥病

頃年以來、霧露結レ氣、寢膳乖レ和、葛稚川之靈方、百餘失レ驗、華元他之奇書、十餘少レ効、

別離

前途程遠、必悵ニ然於巴山楚水之煙嵐一、歸洛期遙、定不レ堪ニ於一日三秋之戀慕一、

上總守泰重爲亡室追善願文

卑賤

生ニ隴畝之間一、長ニ丘樊之裏一、性是魯愚也、雖レ耻ニ容儀於蜉蝣之楚々一、心猶鄭重也、竊仰ニ果位於鴿雀之翩々一、

藤井行里願文雜色歟

勸學

學者所ニ以立レ身也、期ニ祿養於父母一、垂ニ佳名於竹帛一、孫弘晩年讀ニ春秋一、朱雲暮齒受ニ論語一、以レ之登ニ丞相一、以レ之爲ニ尙書一、

奉納之尊閣書

癈學

學者所ニ以求レ益也、故孔子曰、耕也餧在ニ其中一矣、學也祿在ニ其中一矣、蓋古學者爲レ己以補レ不レ足、今學者爲レ人空說レ之、唯欲レ使ニ名浮レ實、不レ欲ニ人勝レ己、見レ賢則不レ思レ齊、疾レ之如三鷹鸇之逐ニ鳥雀一矣、聞レ能則不レ思レ愛、却レ之如三風麟之拂ニ煙塵一焉、因レ玆李白不レ免ニ飛鸞之禍一、仲尼招ニ喪犬之譏一、癈學之心、旨趣在レ斯、

奉納之尊閣書

禁奢

昔以レ杏爲レ梁、李開府之荒門跡絕、口以レ椒塗レ屋、石季倫之故園草長、是皆所下以高ニ其門一大中其室上、以レ色作レ媚、以レ財期レ進之故也、

東山祈亭記

窮困

趙壹者、東漢之名士也、悲ニ窮鳥之入レ懷、卞彬者、南齊之詞人也、恨ニ枯魚之臥レ轍、所謂文士多ニ數奇一、詩人又

命薄、文籍雖レ滿レ腹、不レ如二一囊錢一、

奉納之尊閣書

欣二淨土一

謝靈運者、宋康樂郡守也、劉程之者、晉柴桑縣令也、共棄二中朝之榮名一、同修二西土之業因一、彼二賢、尤足二庶幾一、

奉納之尊閣書

哀傷 女主君 僧尼

心源塞而難レ通、九廻之膓欲レ斷矣、淚泉湛而不レ抑、三巴之水猶急焉、何西何東、蒼黃展轉而摧レ心、如レ存如レ亡、精神恍忽而失レ度、

師尊母爲亡息追善願文

同

憂火燃而無レ益、一寸之灰欲レ消、淚泉湛而何爲、千斤之珠易レ亂、況聞下寒鴈叫二雲端一之聲上者、則髣二髴於芳訓之留一耳焉、見下霜菊殘二籬根一之色上者、亦宛二然於慈顏之想目一矣、

同

茶蓼之悲難レ休、百千万行之哀淚未レ乾、槐檀之燧頻改、十有二律之光陰空謝、

同女

愁膓欲レ斷、呑二鑽鄉一而割レ心、悲情難レ抑、含茶蓼而消レ魂、嗟呼入二鶴帳一兮問二安否一、春園見二桃李一、握二鸞鏡一兮求二形容一、秋水無二芙蓉一、別二良人一如レ昨焉、墳墓之松二三見、哭二長女一幾日矣、哀痛之淚百千行、

中宮宣旨爲亡女追善願文

同

翠帳空兮跡永斷、餘香纔染二鴛衾一、玉匣掩兮塵方深、粉顏無レ寫二鸞鏡一、

女弟子從五位下藤原季子願文

同

屬二椒花已落之期一、逢二命葉忽萎之悲一、如レ夢非レ夢、如レ幻非レ幻、淚玉落而易レ亂、疑移二藍田於襟上一、憂火燃而難レ消、省蒔二薫然於胷中一、彼留置二東都一、欲レ催二旅行

之昔一、猶有二秦呉絶國之愁一、瞻二望北芒一而空添二悲緒之今一、爭堪二生死分段之別一、

同僧尼

千行万行、涙徒滿二羅襟一、夙歎夜歎、寢不レ安二繩床一、三界無安之宅、難レ（◎雖カ）知二生者必滅之理一、五濁有爲之郷、不レ堪二樂盡哀盛之愁一、

同

哀膓斷而難レ續、如レ呑二風胡於胷中一、悲涙灑而無レ乾、有レ湛二河漢於襟上一、船師永逃、期二何時一渡二生死海之嶮波一、名醫空去、就二誰人一求二煩惱病之良藥一、

同

殘菊之無レ識、猶含二啼粧於疎籬之露一、晤蛬之無レ情、更添二怨聲於古壁之風一、嗟呼經卷殘而衲（衣歟）衣留、所レ見者、唯先師慈悲之芳顏、□房荒而苔扉掩、所レ灑者、亦遺弟戀慕之哀涙、

同

竹戸寂々兮主不レ歸、添レ怨者悲風颯々聲、松墳壘々兮人無レ到、斷レ場（◎當作腸）者愁雲處々色、

同

竹戸寂々兮主不レ歸、傷レ心者微月朦朧之色、松墳壘々兮、人無レ到、添レ恨者悲風蕭條之聲、觸境之感、誰間然者哉、

主君

新墳三尺、哀涙共二墳土一而未レ乾、□松兩株、悲風先二秋天一而忽盡、觸境之感、不二其然一哉、弟子謬以二犬馬之微情一、久迷二恩德之霑一レ身、一事一言、未三曾拜二不快之色一、觸レ事觸レ類、唯聞二眷顧之詞一、二十九年朝暮之官矣、誠是廣刧之宿縁、百千万行纏縻之涙焉、猶如二昨日之離別一、

亡者 母 師 夫婦

母

痛哉哀哉、早不レ報二乳海之德一、寤哭寐哭、猶迷二涙泉之悲一、

同

春花飛レ園、秋葉落レ庭、風樹之思未レ休焉、温顏留レ目、

遺言在レ耳、水菽之報已空矣、

同

半日不レ拜二慈顏一、猶如二三秋一、况自レ冬及レ春哉、片時不レ聞二芳訓一、難レ散二一鬱一、况送レ寒迎レ暑哉、排二松扉一兮欲レ問二安否一、則經卷殘無二遺音一焉、入二紙窓一兮欲レ致二晨昏一、又衲衣留有二餘香一矣、

師

有爲世之間、難レ堪者生死之別、無漏道之裏、可レ報者師資之恩、內爲二葭莩之親一、外結二師弟之契一、氣岸雖レ淺、久歷二陶染於三密五智之波一、才峯雖レ疎、猶致二蒙霧於百界千如之月一、誠廣刧之宿因也、豈今生之所緣哉、而今羽翼未レ成、宛如二鳥雀之覆レ巢、池沼忽竭、猶同二魚鼈之上レ陸、昔道深之報二景雲一矣、立二石塔於虎溪之南一、今弟子之酬二先師一焉、營二口容於風（◎鳳カ）城之左一、

夫

契之至深者、無レ過二夫婦之契一、悲之至切者、無レ過二生死之悲一、賤妾有二難レ忍事一、世尊照二見幽憤一、伏惟、亡者琴瑟合調、絲蘿結レ好以降、日居月諸、同穴之儀不レ變矣、寒來暑往、合卺之禮無レ乖焉、然間艶陽初月廿有五日、忽辭二有涯之里一、永告二无常之別一、嗟呼如レ夢非レ夢、如レ幻非レ幻、意愛難レ忘、秋霜二十廻焉、別緒猶深、涕淚百千行矣、合歡衾空在、思二餘香一兮銷レ魂、相思枕徒拋、拂二芳塵一兮醉レ意、方今戀慕之思未レ休、祚栖（疑作檜訛）之燈屢改、空自結二暗恨於綿々一、不レ如レ祈二證果於冥々一、昔共姜之戀二世子一、永貽二栢舟之詠一焉、今賤妾之報二幽儀一、泣祈二蓮臺之因一矣、

婦

野亭荒而曉嵐冷、遺口纔留二鴛鴦之衾一、山館閒而夜燈盡、殘夢空斷二相思之枕一、視聽所レ觸、心肝如レ春、常憶指二黃河一而爲レ誓、遙期二偕老於千年一、豈圖歸二華洛一而添レ憂、獨撫二偏孤於數輩一、昔德言之別二陳氏一、空分二鸞鏡之光一、今弟子之訪二亡魂一、泣祈二烏瑟之相一、存沒所レ異、旨趣唯同、

上總守泰重爲亡室追善願文

寛元三年三月廿八日、於二醍醐寺西南院一馳レ筆了、抑此書者、仁和寺海惠僧都、尋二得祖父通憲之遺作一、聊分二部類一所二抄出一也、傳聞、禪門者即學家之梁棟也、海公者亦法器之瑚璉也、筆作之餘勢、類聚之意巧、珍也又美也、其與不レ少、可二秘藏一哉、此本者即彼僧都自筆也、但草案之間文字頗不レ審也、尋取二彼遺作一、重可二見合一也、

東寺沙門親快

永祿拾七廿八日　實相寺金剛珠院

權律師亮秀

元祿五年南呂八旦

金剛珠院第六葉之住弟

阿闍梨亮恕

右者醍醐寺之地藏院大僧正親快門主之眞筆也、當院代々之住書也、亮秀僧正、惠能僧都、亮昌律師、眞朝僧正、亮恕、如レ此相傳之書也、

金剛珠院

上賀茂松下氏文書

さしたる事候はずとも、とうゐんどのゝへんへおほせられ、かよはかして候べく候、又びんをすごさず、御ふみ給はり候べし、いのち候はゞ、げんざんする事も候はんずるに候、

いではの入道のびんに候し、御ふみの御返事は、さきのびんに申候し、定めてまいりて候けん、なに事もこまかに申候き、御所中たうじは、べちの御事なく候、さては上にあそばされて候御もんじ佛一ふく給はらせ給候也、むかしほうこうの人々、御心ざしおもひまいらするに、給はられ候也、たしかにまいりて候よし、びんに申させ給べし、さきにも申候しやうに、たうじはたゞやしろのほうこう、をこたらず候はん事、めでたく候なん、なにかのき候べからず候、さても今年もくれ候ぬる、かさなく候、むなしく年月のみつもり候、心中おほやけわたくしをしはからせ給べく候也、なに事もまた〳〵申候べく候、女房べちの事なく候、をなじ事にて べちに御ふみまいらせ候はぬ よし申候、つねにはそらうにてのみ候也、あなかしこ〳〵、

十二月廿三日　西蓮

うち王大夫とのへ　（嘉禎四年二月につく）

この御ふみかきて、かゝるゝになり候へども、をなじ事にてまいらせ候、なに事もこまかにおほせられ候べく候、つく〳〵とさてわたらせ給候、こゝろくるしさ、申ばかりなく候、あまりに御としもつもりて、わらはにて、あしくもおもはせ給はゞ、をさこにもならせ給候へかし、さいしやうのちうじやうどのへも、さこそはおほせられても候へば、なに事も又々申候べし、

七月廿九日御ふみ、八月廿八日うけ給はり候ぬ、なに事もあまりに、おぼつかなく候つるに、よろこびおも

ふたまへ候、この御所中べちの事なく候也、御身のありさま、まことにおもひわづらはせ給候覧、事はりに候、この御ふみのをもふき、よく〳〵ひろうつかまつり候ぬ、事々おぼしめしはなたれぬやうには候へども、いかやうに、たうしは、御はからひ候べしともなく候、さりとも〳〵とのみまち候、よの中もむなしくのみすぎまかり候へば、いつをまつべきこゝちもせず候、これへまいらせ給事をば、さすがかいまぎれてあるべき事にても候はぬあひだ、すこにおほせあはせられて候しに候、御返事に申て候しは、なにと候はず、かいまぎれて候べき人にても候まじければ、わが心一にて、くるしく候はじと、はからひ申候はん事、きこえもおそろしく候へば、かまへて、このよしを申つかはし候はん、いかゞ候べきと申て候しあひだ、それは又すこがもとより、いひやらずとも候ぬべき事にて候へば、さらばたうじは、さやうにてこそはあらめ、またさるついでいでき、なを御はからい候し

也、これはこぞのふゆごろ、かやうに御さたは候しなり、これほどこまかには、いまだ申さぬおぼえ候、御こゝろにかゝりては、ひまなくおぼしめされて候へども、かやうに候へば、いまついでいできなんとて候、さりとも大明神すておぼしめされず候はゞなどかは、やうもなくて候べきとこそはおぼえ候へ、こゝろつよくおもはせ給候べし、はゝの御ふみに、御身のやうおもはせ給て候、すぢこまかにおほせられて候、よにあはれにおぼえ候、こかうぬしどの、おほせられつけ候し事、いかでかいのちのいきまはりて候はんかぎりは、たといいかなる山中に候とも、おもいわすれまいらせ候べき、おなじ心におぼしめして候へば、ゆくすへもたのもしく、まいりあふ事もなどか、なくて候べきとおぼえ候、又ひせんの御りやうの事、くにゝつき候らん、あさましく候、おほかたは、かやうの事を、この御所より人のもとへも、おほせつかはされん事を、御をしはかり候べし、かゝる御ありさま

にて、よの事にいろいおほせらるべきやうも候ぬあひだ、さうなくたいしやうどのへも、おほせられぬかにて候也、かきり候神事ようとうの所にても候へば、まつたうすくに申てや御覧ずべかるらんと、おぼえ候。いかゞ候べき、それもおほせられいれ候ぬべきかた候はずば、四郎はうぐわんのもとへ、わたくしにふみをもつかはしてみ候はん、このよの中のていには申て候へばとて、かいあるべくは候はねども、せめての事に、もし御ようにやなりぬべきとて申候、かやうによなり候てのち、いまだふみをもつかはし候はぬあひだ、さうなくもつかはし候はず候、かさねておほせられ候はんに、したがい候べし、あなかしこあなかしこ、

九月十九日　　西蓮

うちわうとのへ
御返事

びんをばすごさず、御ふみたまはり候べし、なに事も、ゑちぜんどのゝ御つぼねに、申あはせさせたまうやうにてや、わたらせたまうべし、はゝの御ふみにも、さおほせられて候也、げざんには、よく〳〵いれまいらせ候也、さてつく〴〵とわらはにて、わたらせたまう、いかにわびしく、おもはせたまい候らんを、さは候とも、たうじは、しばらくさてわたらせたまうべし、しばし、よのやうをもみさせたまうべし、又ねうゐむの御所へ、とき〴〵は、かならずまいらせたまうべし、ひるなど、まいらせたまはん、うるさくもおもはせたまはゞ、よるにても候べし、

十一月七日御ふみ、正月四日これへまいりつきて候、なに事も、おぼつかおもひまいらせ候へつるに、よにうれしく候、この御所には、たうじまでは、べちの御ことなく候也、御みのありさま、まことにたのもしき人も、もたせたまはず、さなどさぞおもはせたまい候らんと、御こゝろのうちをしはかられ候、又いづくへ

もまいらせたまいなどし候はん事は、このよのなかのならいにて候へば、さりとては、さこそは候べきに、いかにも〳〵、いづくへもさしいづまじきなりなど、御ふみにもみえ候、よにありがたくおぼえ候、この御ふみ、よく〳〵かみのげざんにいれ候ぬるに候、まいらせたまう事は、かみにもなに事につけても、よかりぬべくおぼしめされては候が、人かよいも、あまりにたやすからず候あひだに、さすが又たゞなにとなき人にも、しられぬ御事にても候はず、かまくらのきこえも、いかゞなど御はからい候げに候也、さりとも、いますこし人のかまいも、たやすきさまにも候はゞ、いかさまにもまいらせたまい候はんずるに候、御きそくもかやうに候也、又こがうぬしどのゝわたりたまいしより、さぞと申そめて候し事なれ、いかに候はんよまでも、いのちのいきめぐりて候はんかぎりは、おもひわすれまいらする事も、候まじく候也、その御こゝろにも、さやうにおぼしめすべく也、又あやのこうぢの、ちりばかり候なるところめして候らん、まことにいかゞせさせたまい候はんずる、さすが人のならいにて候へば、いのちいくるほどの事なくては、いかにこゝろつよくおもへども、かなはぬ事にて候へば、かへす〳〵こゝろくるしくおぼえ候、これらほどの事をだにも、かみよりも、え御さたなき事にて候、よのなかのこゝろうさ、いまさらためて、よのなかもこゝろうくおぼえ候、はゝの御ふみ、御返ことまいらせ候、御やまゐのことうけたまはり候、かへす〳〵おぼつかなくおもひまいらせ候、なにごとも又々申候べし、あなかしこ〳〵、

正月廿六日　　さいれん

うちわうどの御返こと

御ふみたしかにうけたまはり候ぬ、まいらせたまうあひだのこと、はゝごぜんのよきやうに御はからい候、よにありがたく候よし、ない〳〵御きそく候な

り、まことにたゞひとりもちまいらせさせたまいて、なにともかとも、たのみまいらせてこそは、わたらせたまい候らめ、はるかなるところへ、はなちたてゝまいらせむなど、まうさせたまいて候、きみの御ことををもひまいらせさせたまいて候ほど、御こゝろの品品も、みゆるやうなるありがたきことなりなど、御さた候なり、たといまいらせたまはぬ御事候とも、御こころのうちはみえ候にたれば、まいらせたまいたる、をなじ事なりなど、御さた候なり、又いかにも、だいみやうじんをこそ、たのみまいらせさせたまい候はんずる御みにて候へば、みやこをはなれて、はるかへくだらせたまはむ事も、しんりよはかりがたき事、いちぢやうにもなり候はゞ、よく〳〵きせいをもして御らんも候べきよし、ない〳〵も御さた候なり、又もじえまいらせたまはぬ事も候はゞ、さいしやうの中じやうどのゝもとにて、をそこにならせたまうべきよし、おほせごとも候なり、さやうに候べし、なにごとも、又々申候べし、あなかしこ〳〵、

四月四日　　西蓮

うちわうどのへ御返事

御みも、よはきやうにならせおはしまして候らん、いかにいよ〳〵うぢわうどのゝ御事、こゝろぐるしく思ひまいらせさせたまい候こと、おしはかられ候、もしいのちいきめぐりても候はゞ、いかにもみはなちまいらせ候まじく候也、うぢわうどのにも、よく〳〵申をかせ　たまうべく候、あなかしこあなかしこ、

御ふみたしかにうけたまはり候ぬ、うぢわうどのゝあひだの御事、こまかにひろうつかまつり候ぬ、ないない御きそく候は、さしもたゞ一人もちまいらせさせたまいて候人を、さしもはる〳〵と候御すまいのあさましく候ところへ、はなちたてゝまいらせんなど、申させたまいて候こと、御心のそこもみえて、あ

りがたく候、いまは、たさいびんぎわるくて、えまいらせたまはぬ御事候とも、御こゝろざしは、みえ候にたる、ありがたく申させたまいたるよし、御さた候也、まことによにありがたくおぼえ候、もしまいらせたまう事、いちぢやうにさだまり候はゞ、いまこうぢどのより、おほせられ候はむずらん、ともかくもおほせにしたがはせたまうべく候、又まいらせたまうこと御さた候とも、かなうまじきやうにも候はゞ、さてつくづくと、わらはにてわたらせたまうべきことにても候はねば、あはのさいしやうの中じやうどのゝもとにて、をとこにならせたまうべきよし、おほせごと候なり、又もしまいらせたまうやうに、御さた候はば、きやうよりなどいでたちて、まいらせたまはむことは、人ぎゝもことごとしきかたも候ぬべくば、はりまへんに、御ゆかりある人々の御もやうなど、候やうにきこえ候しかば、きやうをばそれへ、くだらせたまうやうにて、いでさせたまうやうに、御はからひも候べし、なにごとも、いそぐびんにて、とめ候ぬ、あなかしこあなかしこ、

四月四日

假面譜序

翁者何、神樂也、興二于綏靖帝之朝一、至二推古帝之時一、作二能數種一、所三以廣二益彼翁一也、後稱二今樣一者、流二行世上一、以傳二民間妓娼之屬一、優二雜男女之間一、是有二猿樂號一云、星霜換易、新曲數出、所レ謂今樣亦爲二古曲一也、鹿苑院義滿公之時、翁之神樂能猿樂、混合爲二以今之能一、遂用二國家之大禮一焉、自レ是以來、連綿張行、今也公侯之家、各從二其爵一、分二定其式一、實如二八佾六佾一、又自二公侯之胄子一、以至二庶人之子童一、幼二習其小曲一、猶二舞レ勺舞レ象、竟爲二萬世不易之雅樂一也矣、其假面者、古物數多、其作者、有二高貴一、有二卑賤一、是夫三樂混雜故也、而新古勝劣、家々之傳、紛々不レ一、余家背藏二秘說之書一尙矣、且弘索二數家之說及口決一、集以成二一册一爲二童蒙之助一、固淺學之管見、謬誤不レ少、實懼二杜撰之罪一、而門人之需、不レ可レ辭、遂記レ之、寛政九年丁巳夏六月、書二於相州温泉舍一、

喜多　古能

私に云、古能若年より五十餘歳にいたるまで、假面をみる事一千餘に及べり、心に誠に古作と極むべきものわづかに十に滿たず、つら〳〵おもふに、其古作と稱するもの皆五百年餘にいたる、今世にある事稀なるべし、いはんや彩色繪具全きものはなをさらなり、又中作と號るもの却てまれなり、大閤時代とよぶものも亦すくなし、たま〳〵これありといへども、かたちよからず、用ひがたき物多し、これを以て考るに、世に古作と稱る物は、これらの類なることをしるべし、此外口傳多し、目利の事は別書にあらはす、唯其一條をこゝにあらはすのみ、

又云、予が家に傳る書は、兒玉近江より傳る所にして、享保中御尋の節、祖父その趣を申上しなり、然れどもいまの世、諸家に傳るものと相違する事もあり、今こゝにしるすは、近江が傳をとり、諸家にいひ傳るところを加へ、取べきをとり、すつべきをすてゝ、一樣にして傳るなり、

假面譜

喜多古能著

聖德太子 人皇三十一代敏達天皇、元辰年誕生、千二百二十六年、

淡海公 人皇三十八代齊明天皇、五未年生、千百三十九年、

弘法大師 人皇四十九代光仁天皇、寶龜五寅年生、千十四年、

春日トモ云 トリノ作 人皇三十四代推古天皇之御時、百濟國ヨリ佛工來ル、改名倉部ノ登利ト云、大和國春日ノ里ニ住ス、故ニ春日ト云、凡千二百年餘、

右之外、十作ヨリ以前之作ヲ神作ト云、

十作

日光 近江國三井寺ノ僧、凡八百七十年餘、

彌勒 年數同

夜叉 年數同

福原文藏 一說ニ、福原住文藏主ト云出家也ト云、福原又永原トモ云、凡七百年餘、

石川龍右衛門重政 人皇九十代後宇多院、弘安年中ノ人、山城國四條住、弘安ヨリ今年迄五百二十年、

赤鶴吉成一透齋 時代龍右衛門同、越前國大野住、一說ニ、吉成神太夫ト云能者也ト云、

日氷宗忠 時代龍右衛門同、越中國日氷郡住、一說ニ、法華宗ノ僧ト云、

越智吉舟 人皇百代後圓融院、永和年中ノ人、和泉國貝塚住、越智姓ノ人、永和ヨリ今年迄四百二十三年、

小牛清光 時代越智同、大和國竹田住、

德若忠政 時代越智同、相摸國鎌倉住、一說ニ、徵若大夫ト云能者也ト云、鎌倉安野太子德若ト彫付有モノ稀ニ有、子細不分明、

六作

增阿彌久次 人皇百代後圓融院、永和年中ノ人、山城國京都住、足利義滿公同朋也ト云、一說久治、永和ヨリ今年迄四百二十三年、

福來石王兵衛正友 人皇百一代後小松院、應永年中ノ人、越前國一條住、一說石翁兵衛、應永ヨリ今年迄四百五年、

春若 丹波守ト云、德若ノ甥也、一說ニ、春若太夫ト云、時代福來同、

寶來 福來ノ子、凡三百八十年餘、

千種 惣テ彫物ノ上作也、鍔ニモ作ル、皷ノ筒上作也、凡三百七十年餘、

三光坊 人皇百四代後土御門院、文明年中ノ人、初越前國平泉寺住、後近江國比叡山住、文明ヨリ今年迄三百二十九年、

右十六人ヲ十作六作ト云、一說ニ、福來ト石王兵衛ヲ二人トシ、夜叉ト春若ヲ一人ト云、又一說ニ、福來ト石王兵衛ヲ二人トシ、初ノ十人ニ三光坊ヲ加ヘテ、十一人ヲ實作ト稱ス、依ニ古傳一十六人トス、

般若坊

眞角

東江

千世若

ヒコイシ

心能

虎明　一說トラアキラ

等月

右ヲ古作トイヒ傳レ𪜈、一面ノミ作ルトミエテ外ニ聞エズ、

中作

愛若　春若ノ子也、一說ニ、愛若大夫ト云、

慈雲院　伊豫國ヤカタノ住

宮野　南部若宮ノ社人

財蓮　越前國永平寺ノ僧、一說西蓮、

吉常院　南部興福寺ノ僧

智恩坊　右ニ同

大光坊幸賢　越前國平泉寺ノ僧、三光坊ノ弟子、

右ノ類ヲ中作ト稱ス、凡年數三百年許、中作ノ內ニ上作ノ物多シ、目利口傳、

中作以後

角ノ坊　初若狹守ト稱ス、山城國醍醐角ノ坊ノ住僧、光盛法印ト號、醍醐ノ土橋ト云所ニ舊跡有ト云、

ダンマツマ　如レ此ニ彫附アリ、名不レ知、長命德右衞門ト云者ノ伯父ノ由、

山田嘉右衞門　ダンマツマ弟子

野田新助　秀能井ト彫附アリ

棒屋孫十郎

此類太閤時代ト云、世ニ是閣時代ト云、ソノ中ニモ上作ノ物出ル、目利口傳、

井關家

三光坊弟子
○上總介親信 近江國海津住 凡三百年許

次郎左衛門 住所同

備中掾 住所同

河内大掾家重 初近江國ニ住、後武州江戸ニ住ス、正保二戌年ニ死、百五十二年、

上總介ヨリ備中迄、三代ヲ近江井關ト云、イセキト彫附有、依レ之世ニ片假名イセキト唱フ、近江井關上作物多シ、目利口傳、河内ハ古今比類ナキ上作ナリ、後ニ業ヲ易ルト云ヘリ、依テコノ子孫面打無シ、

河内弟子
大宮大和眞盛 法名木工入、初南部ノ社人ノ由、後武州江戸ニ住ス、寛文十二子年死、百二十六年、

出目家 大野出目トヨブ

大光坊弟子
○是閑吉滿 初越前國大野ニ住シ、後山城國京都ニ住ス、太閤時代元和二辰年死、百八十二年、

友閑滿庸 承應元辰年死、百四十六年、

助左衛門 面打タズ

洞白滿喬 初名加兵衛、後備後掾又淡路掾、初滿永弟子、夫ヨリ滿昌ニ從フ、後助左衛門養子ニナレリ、正德五未年死、八十三年、

洞水滿矩 又滿昆 初名木工之助 享保十四酉年死、六十九年、

甫閑滿猶 初名半藏 寛延三年死、四十八年、

友水庸久 初名木工之助、後義恩ト號、明和三戌年死、三十二年、

石井三右衛門

長雲庸吉 初名木工之助 安永三午年死、二十四年、

洞雲庸隆 今年四十三歳

出目家

三光坊甥
○二郎左衛門滿照 越前國府中新町ニ住ス、是面打ノ始ナリ、凡三百年許、

二郎左衛門則滿 住所同

源助秀滿 古源助ト稱ス、初名源次郎、後常心坊又常慶トモヨブ、府中村安祥寺ニ住ス、

右満照ヨリ秀満迄ヲ越前出目ト稱ス、上作ノ物多シ、目利口傳、

元休満永（ゲンキウミツナガ）又満長　初名源助、京都ニ住シ、後江戸ニ住ス、古元休ト稱ス、寛文十二子年死、百二十六年、

元休満茂（ミツシゲ）初名源兵衛　享保四亥年死、七十九年、

元休満總（ミツフサ）初名休兵衛　寶暦八寅年死、四十年、

元休満眞（ミツザネ）初名十八　今年六十六歳

仲満忠（ナカミツタヽ）今年十九歳

兒玉（コダマ）家

初満永養子
近江満昌（ミツマサ）初名左源太、満永養子トナリ、出目ト號ス、後離縁シテ兒玉ト號ス、初江戸ニ住シ、後京都ニ住ス、寶永元申年死、九十四年

長右衛門朋満（トモミツ）又満貞　後近江ト改ム、京都ニ住ス、終年不知

長右衛門能満（ヨシミツ）初名市郎右衛門

弟子出目

満永聟
○元利榮満（ゲンリヨシミツ）江戸ニ住ス、古元利ト稱ス、寶永二酉年死、九十三年、

元利壽満（カツミツ）初名淺右衛門　終年不知

源助上満（タカミツ）壽満弟

元利右満（スケミツ）初名二郎太夫

弟子打

近江弟子
宮田（ミヤタ）筑後　京都ニ住ス

近江弟子
梅岡次郎兵衛（ムメチカ）　江戸ニ住ス

洞白弟子
兼子（カチコ）儀右衛門　江戸ニ住ス

予若かりしより、世々に作置るおもてを見て、其古き新き、又よきあしき、あるはまことなる、さならざるを、わかつ事を學ぶ、今五十年に過ぬれど、尙其事を極めえず、然ども若き人々の予につきて學ぶ者多し、一日來りて上古より作れる物をくはしく書てよと乞ふ、予がつたなく、はた學ぶところも淺ければ、いかで記さんと、いなみつれど、猶さらに需む、げにいはざれば學ぶに便なし、記さゞれば習ふにしるしなし、さればしゐていなみがたく、唯學ぶ人のたすけとならん事をおもひ、世のわらひをかへりみず、もとめにまかせて書てをくりぬ、其いはれを初にしるし、又こゝに自記する事も、はゞかりの闕の憚多けれど、かゝる事世人に乞てせんは、中々貂を狗尾にかざるに似たり、因て自其ことを有のまゝに記すのみ、

古能

ますかゝみくもりあれともこれをもて
みかく學ひのたすけとはなせ

和學講談所御用留抄

寛政五癸丑歳

一二月脇坂淡路守殿ニ差出候願書寫

奉レ願候覺

近來文華歳を追而相ひらけ、殊更御改正以後、諸道繁榮仕候處、和學而已未行れ不レ申候、尤神學歌學之儀者、其家々も御座候而、志有レ之候輩修行相成申候得共、歷史律令之類者、差當りたより所無ニ御座一候、依レ之會所定置、同志之人々申合相勵書生引立候はゞ、行々出情之ものも有レ之、國學永くすたれ申間敷と奉レ存候間、講讀所幷文庫取立候地所、拜借仕度奉ニ願上一候、可ニ相成一筋にも御座候はゞ、何卒御憐愍之程奉ニ願上一候以上、

寛政五丑年二月　　塙撿挍印

寺社御奉行所

（頭書）四月廿九日、願之通被ニ仰付一候間、場所見置可レ申趣、脇坂淡路守殿申渡之義、林家之御留ニアリ、

一五月廿八日、淡路守殿ニ差出候拜借地願書寫、

拜借地奉レ願候口上覺

私儀國學講讀所幷文庫、取建候地面拜借仕度旨、先達而奉レ願候所、先月廿九日於ニ當御奉行一所願之通被ニ仰付一、猶亦場所之儀見立候樣、被ニ仰渡一難レ有仕合奉レ存候、依レ之所々承合候所、裏六番町小普請近藤左京殿御支配、小泉新三郎殿上地六百坪之內、三百坪之地所、別紙繪圖面之通、何卒拜借被ニ仰付一被ニ下置一候樣奉レ願候以上、

寛政五丑年五月廿八日　　塙撿挍

寺社御奉行所

屋敷　裏六番町 小普請 小泉新三郎殿上地

六百坪

右屋敷御書院番妻木佐渡守殿組與頭榊原主計殿ニ三

百坪被ㇾ下、殘三百坪右主計殿に圍込御預に罷成候、
此地所拜借奉ㇾ願度奉ㇾ存候以上、

五月

一七月廿三日、淡路守殿より被ㇾ仰ニ渡左之通一、

塙檢校

國學講談所幷文庫取建候付、裏六番町小泉新三郎
上ヶ地之內三百坪、願之通、拜借地被ニ仰付一候、

一八月四日、淡路守殿より左之通申來、

塙檢校

拜借地、明五日晴雨とも四時、御普請奉行支配向出
役、右地所相渡候間、傍示杭五本、且杭認候硯墨筆
致ニ用意一受取之もの、印形持參罷出可ㇾ申候、

八月四日

一八月五日、淡路守殿に差出御屆書寫、

御屆申上候口上覺

私願之通、裏六番町小泉新三郎殿上ヶ地之內三百
坪、拜借被ニ仰付一候所、今日

御普請方改役　林部善太左衞門
御普請方假役　端山定五郎

出役被ㇾ致御引渡有ㇾ之候に付、私爲ニ名代一門弟高橋
市五郎を差出、地坪無ニ相違一請取難ㇾ有仕合奉ㇾ存
候、依ㇾ之御屆申上候以上、

丑八月五日　塙檢校

南
道
西　河內八兵衞
九間五尺餘　三拾間三尺餘
塙檢校拜借地
三百坪
三拾間三尺餘　九間五尺餘
東　榊原主計
北　布施藤兵衞

裏六番町小泉新三郎上ヶ地之內、今度願之通、拙者拜
借仕被ㇾ成ニ御渡一之四方間數坪數、右御繪圖之面、御定
杭之通相違無ニ御座一請取申候、爲ニ後日一仍如ㇾ件、

寬政五丑年八月五日　塙檢校

名代
門人　高橋市五郎

御普請方改役
林部善太左衛門殿
御普請方仮役
端山定五郎殿

一拝借地普請出來に付、十一月八日引移、翌九日より
會始之、

會頭
奈佐久左衛門殿　　屋代太郎殿
横田孫兵衛殿　　松岡平次郎
後清助死去前清左衛門ト改

寛政六甲寅歳

一二月十三日、御目附間宮諸左衛門殿より左之通申
來、御自分拝借地搆者、組合廻り場持に付、搆內之
儀者格別、外廻り者、諸事被二取計一候に不レ及候間、
可レ得二其意一候以上、

二月十三日

尚々右持場之義に付、願等被レ致候に不レ及候間、是
又左樣可レ被二心得一候以上、

一九月十五日、奥御祐筆組頭近藤吉左衛門殿に差出
候書付寫、

奥御右筆組頭支配
支配勘定格奥御右筆所詰
屋代太郎
御書院番頭
勝田安藝守組與力
横田孫兵衛

私開板仕候群書類從之儀に付、右兩人萬端引請世
話仕候以上、

寅九月　　塙撿挍

寛政七乙卯歳

一九月六日、寺社御奉行青山下野守殿より被二仰渡一
之寫、

塙撿挍

和學講談所永續爲二御手當一小傳馬町三丁目、馬喰
町壹丁目、龜井町、橋本町壹丁目、川通り上納地壹
ヶ所被レ下候、尤地面之儀者、町年寄方に而、預り罷
在、壹ヶ年取立金五十兩宛、町奉行より相渡筈候
旨、伊豆守殿以二御書付一被二仰渡一候間、可レ得二其

意一候、

塙撿挍

和學講談所之儀者、以來林大學頭致二支配一、和學御用筋も有レ之節者、大學頭指揮に而相辨候樣、同人ゟ被二仰渡一候間、可レ得二其意一候、尤身分之儀者、是迄之通に候旨、伊豆守殿以二御書付一被二仰渡一候間、可レ得二其意一候、

一同日堀田攝津守殿より、林大學頭殿ゟ御渡被レ成候御書付寫、

塙撿挍和學講談所、永續爲二御手當一、町屋敷地代金年々五拾兩宛被レ下、其段寺社奉行より相達候、右講談所之儀者、以來其方支配被レ致、和學御用筋之儀も有レ之節者、相辨候樣可レ被二取計一候、塙身分之儀者、是迄之通候間、可レ被レ得二其意一候、尤右之趣、寺社奉行ゟも可レ被レ談候、

一同日大學頭殿より、町御奉行小田切土佐守殿ゟ、御掛合之書面左之通り、

塙撿挍和學講談所、永續爲二御手當一町地面被レ下、講談所之儀者、拙者致二支配一、右地代金は御役所に而、取立御渡被レ成候樣被二仰渡一候付、左之條々及二御掛合一候、

一此度貴樣、御取扱被レ成候付而者、永々北之御役所之持に相成候哉、又は御月番持に相成候哉、

附札　御書面之趣、永々拙者御役所に而取扱申候、

一請取人は、塙和學之門人共之內致二帶刀一候者指出し、御玄關ゟ罷越、御用人中ゟ掛合候樣可レ致哉、尤兼而印鑑差出置、請取に罷出候者、塙印判致二持參一帳面ゟ、印判等致し請取可レ申哉、

附札　兼而塙撿挍印鑑差出置、金子相渡候節者、名代之者、印形幷撿挍印鑑も持參可レ致候、其外御書面之通に而可レ然候、

一七月十二月初に、來る何日請取人差出可レ申旨、拙者方ゟ、可レ被二仰越一哉、又者塙方ゟ、御用人中より可レ被二申越一哉、或者二季に、定日御立置可レ被レ致

哉、
附札 當年分地代金者、當十二月幷來正月中、兩度に相
渡可ㇾ申、來辰年分者、同年七月幷翌年正月中、右
兩度に相渡可ㇾ申、尤以來とも七月正月と兩度に
可ニ相渡一候、勿論請取人差出候儀者、其節貴樣
方に、可ㇾ及ニ御掛合一候、
卯
九月　小田切土佐守
右之段御附札に而、御答被ニ仰越一候樣致度候以上、
九月　林大學頭
一十二月晦日、大學頭殿より被ニ仰渡一之寫、
銀拾枚　塙撿校
右編集いたし候群書類從、開板之分差上候付、爲ニ
御褒美ニ被ㇾ下候、
寛政九丁巳歳
一二月二日板木入置候藏地願書之寫、
近來文華年々に開候處、本朝之書、未一部之叢書に
組立、開板仕候儀無ニ御座一候故、小冊子之類、追々
紛失も可ㇾ仕哉と歎ヶ敷奉ㇾ存候、安永亥年より取
掛り百丁以下之品、凡一千貳百七拾三部入手仕、群
書類從と仕立、寛政寅年迄十六ヶ年に、纔に四拾三
冊開板仕候、然處不ニ存寄一御事共に而、追々成就、
殊更去辰の二月よりは、毎月四冊宛出來仕候故、當
年より十一年程には、大成可ㇾ仕候、是迄出來仕候
板木も、餘程之員數に在ㇾ之、出火之節等、甚心勞仕
候、依ㇾ之如何樣成場末に而も宜敷候間、右板木入
置候土藏取立候爲、拜借地願候義は、相成申間敷
哉、板木凡積一万七八千程も御座候間、二通り並に
置候積に而、三間半之藏十程も立申度含に御座候
得共、場所無ニ御座一候哉、拜借地之事、偏に奉ㇾ願度
奉ㇾ存候、先此段申上候以上、
巳二月　塙撿校
一同日御書物拜借願書之寫
群書類從取立候儀、數年心勞仕候處、近來不ニ存寄一
御事共に而、追々成就も仕、難ㇾ有仕合奉ㇾ存候、去

辰二月より毎月四冊宛、出來候積都合相成候間、格別はかどり大成も不ㇾ遠儀と奉ㇾ存候、尙又出情も仕候はゞ、毎月四冊之所、其餘も隨分出來可ㇾ仕候得共、夫にては入銀連中差支候仁も有ㇾ之候哉之樣子に付、態と毎月四冊宛に定置候間、餘暇も御座候義に御座候、夫に付國史律令、是迄有來候本は、誤字脫文も多候間、右手透を以、篤と挍合仕、追ては開板も仕度心願に御座候、依ㇾ之恐入候義には奉ㇾ存候得共、公儀御文庫之國史等、拜借挍合仕度奉ㇾ存候、若私宅江下ケ候義難二相成一候はゞ、御家迄御下ゲに相成、扨私門人一兩人も召連、罷出挍合仕度奉ㇾ存候、此段可二相成一義にも候はゞ、偏に奉ㇾ願候以上、

巳二月　塙檢挍

一十二月藏地願書之寫

口上之覺

群書類從幷追々開板仕候國史律令等之板木差置候藏地、左に申上候地所之內にて、可二相成一儀に御座候はゞ、拜借被二仰付一被ㇾ下候樣仕度奉ㇾ存候、

品川御殿山下土取場、大久保百人町大筒稽古場、駒場御藥園

右之內土取場者、番人差置候間、別紙繪圖面之通、拜借仕度奉ㇾ存候、大筒稽古之儀者、矢場守御座候に付、右之者江賴爲ㇾ守候ても相濟可ㇾ申哉に付、三百坪程、外に往來之通六七通拜借仕度奉ㇾ存候、是者園內之儀に付、繪圖面仕兼申候以上、

十二月　塙檢挍

寬政十戊午歲

一二月廿四日、藏地拜借之儀に付、林家より左之通申來る、

以二手紙一致二啓上一候、然者先達而藏地之ため、拜借御願被ㇾ成候三ケ之地所、彼是障り哉之趣に付、尙又外に御心當り之地所も御座候はゞ、御申出被ㇾ成候樣にと之旨に御座候、尤是迄之地所も、急度

難ニ相成一事にも無ニ御座一候得共、又外に宜地も可レ有ニ御座一哉と申御沙汰之由、是等之趣御達し可レ被レ申候得共、態々御呼出し候程之事にも無く、且者此節爰許も至而取込のみに御座候故、書面を以御達し申候樣にと、大學頭被レ申候以上、

二月廿四日

大學頭内
澤五郎兵衛
佐藤半助

塙検校様

一三月藏地之義に付申上候覺

先達而相願候板木藏拜借地之儀、初筆に相認候品川土取場、舟運送之都合等も宜敷御座候得ば、何分奉レ願度奉レ存候、萬一御年貢上納地樣之事にも御座候はゞ、矢張是迄之通り之上納金仕候而、拜借仕度奉レ存候、自由ヶ間敷申上方には候得共、何分奉レ願候以上、

三月　塙検校

一五月廿三日、藏地拜借被ニ仰付一候御達書之寫、

塙検校

御殿山下土取り場外空地ども千六十坪餘、願之通拜借被ニ仰付一候、尤右地代金并林錢とも是迄之通、可レ致ニ上納一旨、攝津守殿被ニ仰渡一候、

一六月九日、藏地御引渡之義に付、林家より左之通り申來る、

以ニ手紙一致ニ啓上一候、然者明十日晴雨共四時、御普請方御役人被ニ相越一、品川御殿山下、板木藏として、今度御拜借之地所、引渡有レ之候旨、御普請奉行方より、大學頭江申來候、依レ之爲ニ請取一、御門人印判持參、御指出し可レ被レ成候、且傍示杭七本、早々御用意被レ成、右杭認候硯墨筆も、御用意被レ成、請取人爲レ持被レ越候樣、御申付可レ被レ成候、尤大學頭方より立合之家來差出し候間、六時迄、大學頭屋敷迄、請取人諸品持參、屋敷より立合人同道に而、品川迄相越候樣可レ致候、是等之趣御達申候樣、大學頭申付如レ此御座候以上、

六月九日　澤五郎兵衛
佐藤半助
塙撿挍様
（拜借地繪圖面略之）
品川御殿山下土取塲外空地共、今度願之通、拙者拜
借仕被レ成ニ御渡ー之、四方間數坪數、右御繪圖之面、
御定杭之通、相違無ニ御座ー請取申候、爲ニ後日ー仍如
レ件、
寛政十年年六月十日　塙撿挍
名代門人　山縣養吉郎
御普請方改役　鈴木喜太郎殿
御普請方　鈴木平吉殿
一同月十七日、尾州様ゟ御出入相濟、
以ニ手紙ー致ニ啓上ー候、嚴暑之節御座候得共、彌御安
泰可レ被レ成ニ御勤ー、芽出度奉ニ珍重ー候、然ば先達而
塙撿挍殿、當屋形ゟ御出之儀、御手前様より被ニ仰
入ー候之處、右者御勝手次第御出有レ之候様、御通辭
可レ被レ成候、此段御手前様迄申入候様、役人共就ニ
申付候、如レ此御座候以上、
六月十七日
猶々中玄關より御出入有レ之様、是又御申通辭被
レ下度候以上、
横田孫兵衛様　平川善阿彌
一七月廿日、藏屋敷地代金御免之御達書寫　塙撿挍
右先達而拜借被ニ仰付ー候品川御殿山下、土取塲地
代金貳兩貳分幷林錢、是迄之通、上納いたし候様
相達候處、地代金貳兩貳分は、上納に不レ及候間、右
地所に附候年貢幷ニ役高掛り物等、是迄仕來り之
通、年々指出し候様、可ニ申渡ー之旨、攝津守殿被ニ仰
渡ー候、
一藏屋敷御年貢高割合之覺
一高壹石壹斗三升九合　塙撿挍拜借地　武州荏原郡　北品川高内

此反別貳反三畝拾九歩半
此取永五拾貳文壹分
外
空地
林錢塲反別壹反貳畝歩
此取永貳拾四文
取永合七拾六文壹分
一米壹合　御傳馬宿入用
一米貳合　六尺給米
右二ヶ條、年々冬御張紙直段三兩增を以石代之
積り、其年々大貫次右衛門より申達候積り、
一永貳文八分　御藏前入用
一永貳文三分　口永
一國役銀
是者年々掛高銀、極り次第員數、同人より申達候
積り、
一永五文七分　村小入用

是者年々不同有ㇾ之候得共、村方割合相濟候上、
割合候而は村勘定差跨候間、近來見合平均を以、
以來年々書面之通定置、村方に相渡候積り、
一包分銀　但金百兩に付銀五匁掛り
是者年々不同之品に付、惣納迠相極次第、同人よ
り申達候積り、
右者支配御代官大貫治右衛門方に而取調、年々塙
撿挍に申達、請取候積りに有之候、
七月
一十月十九日、御代官大貫治右衛門殿より、藏地御年
貢之義申來候返書扣、
御手紙致㆓拜閲㆒候、然者北品川拜借地、當午御年貢
并國役高掛物等、合永九拾三文九分、此錢六百拾
文、來月中相納候樣被㆓仰下㆒奉ㇾ畏候、且以來納方
之儀に付、家來に御直段被ㇾ成度旨、是又承知仕候、
御年貢相納候節、門人共之內、差出候樣可ㇾ仕候、左
樣御承知可ㇾ被ㇾ下候以上、

十月十九日
小島專右衛門樣
酒卷淸藏樣　　塙撿挍

一十一月十二日、藏屋敷御年貢幷國役高掛物等上納受取證文寫、

覺

割印一永九拾三文九分　　但六貫五百文替
此錢六百拾文

右者北品川宿地內、板木藏御拜借地、當午御年貢幷國役高掛物等、書面之通請取申候以上、

寛政十午年十一月十二日
大貫次右衛門手代
酒卷淸藏印
同人手附
小島專右衛門印

塙撿挍殿

一十二月御金拜借被二仰付一候御達之寫
塙撿挍

右國史律令挍正之善本出來に付、後世にも傳候樣、今度右之書ども開板いたし度に付、拜借金之儀相願、則願之通金五百兩拜借被二仰付一候、返納之儀者、來る酉年より、十ケ年に上納いたし候樣、可二申渡一旨、攝津守殿被二仰渡一候、

但金五百兩之半金貳百五拾兩は、當暮渡り、殘貳百五拾兩は、來未年七月相渡候間、左樣相心得可レ申候以上、

午十二月

一同月　拜借金受取證文之扣

請取申拜借金之事

高金五百兩之內
金貳百五拾兩

右者國史律令挍正開板に付、願之通金五百兩拜借被二仰付一、返納之儀者、來る酉年より拾ケ年賦、上納可レ仕旨被二仰渡一候に付、右金高之內、此度書面之通、請取申所如レ件、

寛政十午年十二月　　塙撿挍印

堀內小膳殿

小倉孫左衛門殿
富安九八郎殿
鵜飼次兵衛殿
右之通、相違無ニ御座一候以上、
林大學頭印

寛政十一己未歲
一五月寺社御奉行植村駿河守殿より、座中取締り役御免幷銀二十枚被レ下候旨、御達之扣、
申渡
取締役
藤植撿挍
塙撿挍
其方共、退役願之儀、御老中より伺之上、願之通取締役御免被ニ仰付一候、尤以後之儀は、都而前々仕來通相心得、且此以後難ニ捨置一儀も出來致候はゞ、惣錄派頭共申談申出候はゞ、勝手次第之事に候間、其旨可ニ相心得一、
銀二十枚宛
座中取締方之儀、久々致ニ出情一骨折候に付、御褒美被レ下レ之
未五月
一七月廿五日、紀國樣御出入相濟候節、左之通申來、
以ニ手紙一申入候、御自分已來紀伊殿屋形に、勝手次第御出入被レ在レ之候樣にと存候、將亦來る廿八日、紀伊殿逢可レ被レ申との儀候間、當朝五半時赤坂屋形に、御越可レ有レ之候、依レ之申入候已上、
七月廿五日
尙々屋形向不案內にも可レ被レ在レ之に付、來る廿八日朝、此方より案內之者差進可レ申候間、御同道被レ在レ之候樣存候以上、
橋本織部

享和元辛酉歲
和學講談所永續御手當地代金、當酉の春夏分貳拾五兩、今日受取申候、依レ之御屆申上候以上、
酉七月十四日
塙撿挍

享和二壬戌歲

一七月廿四日

御目附衆より、拙者拜借地之譯合、御尋被レ成候趣、御達に付、則左に申上候、

一拙者住居仕候、裏六番町拜借地之義者、和學講談所并文庫取立候地所として、小普請小泉新三郎殿上地之內三百坪、寛政五丑年七月廿三日拜借被二仰付一候、右講談所永續御手當として小傳馬町三丁目、馬喰町三丁目、鍋井町、橋本町壹丁目川通上納地、同七卯年九月六日拜領被二仰付一候、其節講談所之儀者、林大學頭殿支配に被二仰付一、和學御用筋御同人御差圖を以、相辨候樣被二仰渡一候、

一北品川拜借地之儀者、板木差置候藏地として、御殿山下土取場外空地共、千六十坪餘、寛政十午年五月廿三日拜借被二仰付一候、

右之通御座候以上

戌七月廿四日

塙撿挍

一八月十七日

一札之事

此度北品川宿地內、御拜借御地面近邊之畑主、百姓七兵衞并同人悴七藏、不埒之義仕候段、奉二恐入一候、已來御拜借地近邊之百姓、所持之畑主并小作百姓共、心得違等仕間敷旨、締可レ仕旨被二仰渡一承知仕候、若此後右躰心得違有レ之候はゞ、何樣にも可レ被二仰立一候、爲二後日一一札差出申處如レ件、

享保二戌年八月十七日

北品川宿
百姓代
源七印

塙撿挍樣
御役人中樣

一九月

御內々申上候口上覺

私開板物之儀、諸家樣御留主居之內、懇意之者四五人申聞候者、万石以上之御方、御三家樣御附まで、御連入之儀申入見候方可レ然候、万石以上者御小家

と申候而も、江戸御在所を合候而者、餘程之御人ゆへ、一通り御收藏被レ成、御家來之內望之者へは、御借被レ遣候はゞ、日本之事辨へ候者も、追々出來可レ申候間、類役出會之節、咄し合御世話可レ致と申にまかせ、近比申入候所、貳百軒餘に相成、其內百四拾軒計、御速入相濟申候、兼而申上候通、於二講談所一和書類開板有レ之候趣、此節御沙汰被二成下一候樣に者、相成申間敷哉、左候はゞ早速諸家樣相濟可レ申と奉レ存候、以上、

九月　塙撿挍

享和三癸亥歲

一正月地所替奉レ願候覺

和學講談所、地所替之義、先達而申上候趣も御座候處、追々寄宿門人等相益、勤學場所手狹に相成、其上御用書寫品數多有レ之、筆者も時々寄八九人も罷越候に付、折々は講席差支候義も御座候間、可二相成一候はゞ、右地所御引替被二成下一候樣仕度、尙又奉レ願候、以上、

亥正月　塙撿挍

一閏正月十三日藏板物町觸之事

六國史幷群書類從、塙撿挍和學講談所にて、板行に致し候、望之者は撿挍ゟ申談相調候樣町觸之事、町奉行ゟ相達候、右之儀万石以上幷御直參之面々等ゟ觸之義者、例も無レ之候間、右之向々は撿挍手寄次第申談、望之方ゟ者、相弘め候樣可レ致事、

一十一月四日林家ゟ差出候書附寫

群書類從之儀六百三十五冊有レ之候處、今少之事に而、千卷之書に可二相成一候間、何分心掛、此上續集取立可レ然旨、先年御勸被二成下一候、以後最早八九年にも罷成、追々心掛候所、別紙之通續編に可レ仕品相揃候間、目錄下書を以奉レ入二御覽一候、前編開板皆出來迄に、又々取出候書も有レ之候ハヾ、此外にも差加候存寄御座候、右大凡片付候に付、手透にも相成候間、先達而御沙汰有レ之案文仕立差上候史

料之儀被仰付候はゝ、取掛り申度奉存候、且實之儀は、多年心掛候事に御座候得共、私老衰仕候而は、記臆も薄く可相成候に付、一年も早く取掛り申度奉存候、依之御様子奉伺候、以上、

亥十一月四日

文化元甲子歳

一十月十七日左之通內々にて差出す

和學講談所御地面之儀、先達而申上候通、間口九間餘にて、手狹に御座候處、大御番淺野中務少輔殿御組小林權太夫殿、私門人にて手狹之樣子、兼々被致承知、右權太夫殿、拜領屋敷者、表六番町入口左角にて、八百坪餘有之、當時無人にて掃除等も行屆兼候間、講談所御地面と御引替被下候樣には、相互申間敷哉、左候得ば、双方都合宜旨被仰聞候間、御內々申上候、

文化二乙丑歳

一正月十六日、寺社奉行水野出羽守殿より被仰渡左之通、

表六番町小林權太夫拜領屋敷　八百四拾坪

右表六番町拜借地、御用に付可差上候、爲代地、書面之場所、拜借地に被仰付候、

塙撿校

一同日寺社役近藤角太夫被渡候御書付左之通、

右小林權太夫拜領屋敷と、拜借地振替被仰付候付、家作等之儀者、双方勝手次第之事、

塙撿校

一同月十八日、水野出羽守殿江差出し候書面左之通、

申上候口上覺

一私拜借地御用に付被召上、爲代地、小林權太夫殿拜領屋舖、拜借被仰付、難有仕合奉存候、夫に付先年拜借地被仰付候節、御禮申上候箇所申上候樣、被仰渡奉畏候、寛政五丑年七月、和學講談所地面拜借被仰付、并右講談所永續爲御手當、同七卯年九月、小傳馬町三丁目、馬喰丁三丁目、龜井町、橋本町壹丁目川通、拜領被仰付候砌、兩御丸、御

老中方、若御年寄衆、當御奉行所、不レ殘廻勤仕候、勿論御用掛、御側衆、御懇意にも御座候間、是又相廻り申候、此度も右之振合にて忌明之節、御禮可ニ申上一と奉レ存候、以上、

正月十八日　塙撿挍

一同廿五日御同所より被ニ仰渡一左之通

塙撿挍

表六番町小林權太夫上地、明後廿七日晴雨共、四時御普請奉行支配向罷越、相渡可レ申候間、傍示杭五本幷杭認候硯墨致ニ用意一、名代之者印形持參、右場所ぃ可ニ差出一候、且又裏六番町拜借上地即刻可ニ受取一候間、其旨可ニ心得一候、

正月廿五日

一同廿七日地面御引渡しの御役人中、名前左之通、

御普請方下奉行　矢島藤藏

御普請方改役　淺見啓助

御普請方假役　田口祐右衛門

御普請方同心肝煎役　谷榮次郎

同　同心　水上喜左衛門

同地割棟梁　本多安右衛門

同　天野傳兵衛

（繪圖面略之）

一十一月廿二日林家ぃ差出

口上覺

當春被ニ仰付一候、小林權太夫殿上地別紙繪圖面之通、門表六番町に有レ之候處、講談所へは高位之方も、品により御出御座候間、商人等之雜人と混雜不レ仕樣、朱書之所へ右講談所之門付申度奉レ存候、依レ之奉レ伺候、以上、

十一月　塙撿挍

一九月廿九日、鳥居丹波守殿御留守居、伊藤安右衛門より來ニ書付一、左之通り、

以二手紙一致二啓上一候、追々冷氣罷成候得共、彌御安全珍重奉レ存候、然者御拜借地、以來番町御厩谷通り道造、幷壹番町御茶園内下水溜枡兩所之御組合ゐ入候旨、昨日御普請方御役所ゐ御呼出に而、御普請方增田源三郎殿被二申聞一、右之趣私より御通達申候樣と、同人被二申聞一候間、得二御意一候、左樣御承知可レ被レ下候、且又爲レ念、昨日御普請方御役所ゐ差出候御請書寫も、掛二御目一申候、右之段得二御意一度、如レ此御座候、以上、

九月廿九日

別紙寫左之通り、

表六番町小林權太夫上ケ地

間口三拾壹間

右者塙撿挍、拜借地被二仰付一候に付、番町御厩谷通り道造組合ゐ八間百石之割合を以、組合に入可レ申事、

右者先主小林權太夫組合候ヶ所に有レ之候間、書面之通、小間割を以、組合に入候樣、塙撿挍ゐ可二相達一旨被二仰渡一奉レ畏候、以上、

九月廿八日

年番
鳥居丹波守家來
伊藤安右衞門

一同月同日、成瀨隼人正殿御留主居二宮半右衞門より左之通申來る、

以二手紙一致二啓上一候、當廿八日御普請方御役所より、御呼出候に付、半右衞門罷出候所、御普請方增田源三郎殿出會、表六番町小林權太夫樣上ケ地、間口三拾壹間御拜借地被二仰付一旨、就而者壹番町下水大溜枡定倹組合ゐ八間百石半減之割合を以、御組合入被レ成候樣、御通達可レ申旨、源三郎殿被二申渡一候、此段爲レ可レ得二貴意一、如レ此御座候、以上、

九月廿九日

溜枡定倹年番
南部主稅内
金井卯右衞門

成瀨隼人正内
二宮半右衞門

前田大和守内
寺尾彦四郎
永井信濃守内
阿部仲右衛門

塙撿挍様

文化三丙寅歳

一四月

奉レ伺候口上覺

一私儀去年中、十老入仕候に付、致二上京一候様、職十老より、追々申越候間、差當御用向も無二御座一候者、上京仕度奉レ存候、勿論當時御寫物御用御座候付、五六十日も、在京仕候得者、右御用向申立、一先歸府可レ仕候、此段奉レ伺候、以上、

寅四月　塙撿挍

同廿九日相濟

一十一月廿五日、御普請奉行小長谷和泉守殿へ差出す表六番町拜借地、東之方地境別紙繪圖面朱引之通、長四拾八間四尺、石垣築立申度奉レ存候、依レ之奉レ伺候、以上、

十一月廿五日

一同廿八日、御普請奉行御役所に差出す、

表六番町拜借地、東之方地境長四拾八間四尺、今度石垣築立候に付、道式に三尺出張築立申、別紙繪圖面朱引之通、假板圍仕度奉レ存候、依レ之奉レ伺候、以上、

十一月廿八日　塙撿挍

一十一月廿八日撿見として被二罷越一候名前、

御普請下奉行　矢島藤藏
同改役　淺見啓助
御普請方　舞木都三郎
同　同心　足立專十郎
同地割棟梁　三橋喜衛門

一十二月

奉レ願候覺

表六番町拜借地、東之方石垣仕度御普請方に奉レ伺、

此間御見分被ニ成下一候處、地境庭樹に相懸申候由、右庭樹之儀者、百年餘も有來之古木に而、火之防にも罷成、文庫之ためにも御座候間、切取不レ申、石垣築立申度奉レ存候、依レ之可ニ相成一筋にも御座候はば、石垣しろさして、別紙繪圖面朱引之通、拜借仕度奉レ願候、以上、

十二月　塙撿挍

一同十六日

表六番町拜借地續末之方、增拜借地被ニ相願一候場所、明十七日晴雨共四時、爲ニ見分一罷越候間、有來垣並木際ゟ送り繩張等相成候樣、手當可レ被ニ致置一候、

十二月十六日　同　改役

御普請方　下奉行

塙撿挍殿

一同十七日見分姓名

御普請方下奉行　矢島藤藏

同改役　淺見啓助

御普請方　舞木都三郎

同同心肝煎役　水上喜左衞門

同同心假役　木暮兎七

地割棟梁　中村三左衞門

同　清水半藏

一同廿九日、寺社御奉行松平右京亮殿御役人より、左之通申來る、

先達而拜借地被ニ相願一候節、何れ之奉行所へ被ニ相願一候哉否、御報被ニ御申聞一候之樣存候、以上、

十二月廿九日　松平右京亮　役人

塙撿挍殿

一同返答

御切紙拜聞仕候、然者先達而拜借地奉ニ願上一候節、何れ之御奉行所へ願出候哉と御尋之趣奉レ畏候、寛政五丑年裏六番町拜借地願候節は、脇坂淡路守樣へ奉レ願候、其後卯年和學講談所永續御手當として、町地ニ拜領被ニ仰付一候節、講談所之義は、林大學頭殿御支配に被ニ仰渡一候に付、北品川藏地拜借願候節は、右大學頭殿へ奉レ願候、去丑年講談所地狹ニ而、表六番町御引替被ニ成下一候節者、表向願候儀無ニ御座一候、此度表六番町石垣築立候に付、增拜願御儀者、當月十一日大學頭殿へ願出申候、右御請申上度、如レ此御座候、以上、

十二月廿九日　　塙撿校

一同日寺社御奉行脇坂中務大輔殿へ罷出被ニ仰渡一候

覺

表六番町拜借地、東之方なだれ地貳拾四坪餘之處、此度增拜借地に被レ仰ニ付之一、

表六番町拜借地、東之方なだれ之場所廿四坪餘、增拜借、願之通被ニ仰付一候旨、今日脇坂中務大輔殿被ニ仰渡一難レ有奉レ存候、依レ之御屆申上候以上、

寅十二月廿九日　　塙撿校

文化四丁卯歲

一正月六日脇坂中務大輔殿（寺社奉行）より御達し左之通、

右表六番町拜借地東之方なだれの場所增拜借地、明後八日晴雨共四半時、御普請奉行支配向差出可ニ相渡一間、傍示杭四本、且杭認候硯墨筆致ニ用意一名代之者印形持參、右場所に可ニ差出一候、

正月六日　　塙撿校

一同月八日脇坂中務大輔殿に差出候書付左之通、

表六番町拜借地東之方なだれの所貳拾四坪餘、舊冬增拜借被ニ仰付一候に付、今日右之場所御引渡有レ之、受取申候、依レ之御屆申上候、以上、

卯正月八日

右同文言にて大學頭殿へも差出す、

（繪圖面略之）

裏六番町小普請組近藤左京殿御支配小泉新三郎殿上地之内三百坪、寛政五丑年八月塙撿校願之通、拜借地に被㆑成㆓御渡㆒候處、文化二丑年正月右拜借地御用に付差上、同年同月表六番町大御番淺野中務大輔殿御組小林權太夫殿上地、八百四拾坪餘爲㆓代地㆒被㆑成㆓御渡し㆒候、然處今度拜借地、東之方御厩谷通地境、なだれ之場所石垣築立申度、增拜借地奉㆑願候處、願之通增拜借地貳拾四坪餘、朱引之通被㆑成㆓御渡㆒候間、坪數御繪圖之面御定杭之通相違無㆓御座㆒請取申候、都合八百六拾四坪餘之拜借地に罷成候段、被㆓仰渡㆒奉㆑畏候、爲㆓後日㆒依如㆑件、

但東之方石垣御定杭より出張候所、并垣根出入有㆑之候處、繪圖證文通、眞曲尺に相直候樣、被㆓仰渡㆒奉㆑畏候、

文化四卯年正月八日　塙撿校名代 米山右八印

御普請方下奉行 矢島藤藏殿
同改役 淺見啓助殿
御普請方 舞木都三郎殿

一三月五日御普請方より左之通申來

先達而被㆓申立㆒候、表六番町拜借地構、石垣出來形爲㆓見分㆒、明六日四時過、晴雨共罷越候間、間竿御用ヒ名代之もの、右場所に可㆑被㆓差出㆒候、

三月五日　御普請方 下奉行
　　　　　御普請方 改役

塙撿校殿

一同六日石垣見分衆中名前

御普請方下奉行 矢島藤藏
同改役 淺見啓助
御普請方 舞木都三郎
御普請方同心肝煎役 水上喜左衞門

御普請方同心假役 木幕兎七
同地割棟梁 三橋喜右衛門

寛政九巳年二月

一十二月三日林家御達し書

塙撿挍

其方拝借金上納之儀、當巳暮より返納年減金貳拾五兩宛、十四ヶ年賦、午年迄ニ皆濟に被ニ成下一候事、

文化十癸酉年

一閏十一月　林家ゟ差出す

御内々御話申上候覺

一聖堂御開刻御用金之内、御有餘も御座候はゞ、五千兩致ニ拝借一、史料幷續類從開板仕度奉レ存候、御用金之儀者、千種惣十郎願之通に被ニ成下一候はゞ、彼地町人共何程に而も差出し可レ申候、

一史料之儀、折角被レ遊ニ御取立一候而も、追々傳寫仕候はば、誤字致ニ出來一、後々には讀かね候樣にも可ニ相成一候間、兼而私ゟ被ニ下置一候、中書開板仕度奉レ存候、書林之内身元宜き者ゟ、紙百枚に付金拾兩宛も無利足にて貸附、三四ヶ年にも取立候はゞ、彫刻の願人如何程も出來可レ申候、

一群書類從之儀、六百六十五卷之內、當暮迄に五百九十九卷致ニ出來一、殘り六十六卷に相成候間、續集も引續き開板仕度奉レ存候、別紙目錄奉レ入ニ御覽一候通り、正續にて三千餘部も開板致し置候はゞ、是又永々國益に相成可レ申と奉レ存候、

一五千兩之儀、町人共よりは、三朱之利足にて差上候處、冥加之爲、五朱之利相納可レ申候、

一五千兩之内、千兩御渡し被レ下、四千兩公儀ゟ御預り置、御代官衆にて貸附被ニ仰下一、被ニ下置一候はゞ、利分年壹割之積りにて、年々四百兩集り候に付、此內より五朱之利、貳百五拾兩づゝ上納仕、貸附諸入用引候而も、百兩計りは殘り可レ申候間、其中より

最初御渡被レ下候千兩、六ヶ年目より毎暮百兩づゝ貸附之方へ入置、十五ヶ年目不レ殘上納可レ仕候、若私萬一之事御座候とも、御代官衆にて被二取扱一候故、上納之差支無レ之、開板之儀も和學所相續之者、致二世話一候間、無レ滯出來仕可レ申候、十五年と申候ては、年久敷樣に相聞へ候得共、惣十郎願之趣にては、御下金も有レ之候得者、年延候方、却て町人共は悅可レ申哉と奉レ存候、以上、

酉閏十一月　塙檢校

文化十一甲戌年

一八月廿五日林家に差出す

覺

私取立候群書類從之義、安永亥年より六百貳拾卷餘開板仕、最早四拾壹貳卷に相成候處、近年致二世話一呉候大坂表門人、去暮之御用金にて彼地不通用に相成候とて、當年斷候間、江戶表にて漸四冊彫立候所、夫も益前料物不寄に付、其後開板相休居申候、私追々老年にも罷成候間、何卒類從計も早く皆出來爲レ致度奉レ存候、可二相成一筋にも御座候はば、御金三百五拾兩拜借仕度奉レ存候、上納之義は、和學所別御手當として、申年より十ケ年之間、毎暮百五拾兩づゝ被二下置一候御金を以、年々七拾兩づつ相納可レ申候、此段御勘辨之上、可レ然被二仰立一被レ下度奉レ願候、以上、

戌八月廿五日　塙檢校

一九月廿九日大學頭殿被二仰渡一候御書付寫

塙檢校

右群書類從開板之儀に付、拜借金相願候、追々老年にも相成候儀に付、格別之譯を以、金三百五拾兩拜借被二仰付一候、返納之儀者、和學所別御手當金百五拾兩之內を以、五ヶ年賦返納可レ仕候、

右攝津守殿御書付を以、被二仰渡一候に付申渡候、

一十月

請取申拜借金之事

金三百五拾兩者

右者群書類從開板に付、拜借金相願候處、追々老年にも相成候儀に付、格別之譯を以、金三百五拾兩拜借被ニ仰付一、返納之義は、　和學所御手當金百五拾兩之内を以、來亥より卯迄、壹ヶ年金七拾兩づゝ、五ヶ年賦返納可レ仕旨被ニ仰渡一候に付、　書面之通請取申所仍如レ件、

文化十一戌年十月　　塙撿挍印

堀内小膳殿
青柳伊右衞門殿
西井孫太夫殿
西新太郎殿

文化十二乙亥年

一正月晦日大學頭殿に差出す

願之趣御内慮奉レ伺候覺

私儀數年無レ滯御用相勤、町地面迄被ニ下置一、冥加至極難レ有仕合奉レ存候、　此上申上候は奉ニ恐入一候得共、段々之御用も廿年餘相勤、　史料も追々出來仕、何を申も盲人之身分、　外に願と申も無ニ御座一候得共、　最早撿挍之座順追々相進み、　惣撿挍に間も無レ之候、左候へば先例にて御目見被ニ仰付一候得共、夫は撿挍に付候而之御目見に御座候、　私儀内願と申候は、是迄盲人に例無レ之御用共被ニ仰付一候事に御座候へば、何卒盲人之官之御目見を離れ、多年御用相勤候に付、別段御目見被ニ仰付一被レ下候樣仕度心願に御座候、　左候へば年久しく和學心掛候規摸にも相成、世之和學出精之人々之勵にも可ニ罷成一候、神學にては吉川家、歌學にては北村家、何れも御目見以上之家に相成申候、　私はいかやうにても宜御座候へども、和學之儀輕く相成候所、　殘念に奉レ存候、可ニ相成一筋にも御座候はゞ、御醫師衆之格式にも被ニ成下一度奉レ存候、　私最早七十歲に罷成候得者、　餘命難レ計、實に右之外願と申も無ニ御座一候に付、御内慮奉レ伺候、御勘辨之上、宜御取扱被ニ成下一

候樣仕度奉ㇾ存候、以上、

亥正月　　塙撿挍

一四月六日堀田攝津守殿より御奉書寫

明七日四時

御城ゟ可二罷出一候

以上

四月六日　　堀　攝津

塙撿挍

一四月七日

右今七日四時

御城ゟ罷出候樣、堀田攝津守殿御差圖に付、罷出申

候、以上、

四月七日　　塙撿挍

一四月七日

和學御用向多年相勤、書物類校正差上、骨折候に

付、御序之節、御目見可ㇾ被二仰付一候、

右於二躑躅之間一、土井大炊頭殿被二仰渡一之、若年寄

中侍座、

一四月十一日差出し十四日濟

此度私儀御序之節、御目見可ㇾ被二仰付一段、被二仰

渡一候に付、御目見之節、兩御丸ゟ獻上物之儀、如何

相心得可ㇾ申哉、此段奉ㇾ伺候、以上、

亥四月　　塙撿挍

付札
壹束一本充獻上可ㇾ仕候、

一四月　日御目付高井山城守殿ゟ承合候處、左之通

申來る、

一下乘迄は不二相成一候、大手にて下乘可ㇾ仕事、

一西丸ゟは御禮謁に可ㇾ出事、

一御目見醫師之通り心得宜事、諸觸等者御目付方

にて相達候事、

右之通、御心得可ㇾ有ㇾ之候、

四月廿七日　　山城守

塙殿

一四月廿七日植村駿河守より御奉書寫

猶以壹束一本可ニ差上一候、
大納言樣ゟも御同樣獻上可ㇾ仕候、
明廿八日御目見之御序有ㇾ之候間、五時御城ゟ
可ニ罷出一候以上、
四月廿七日　植駿河
塙撿挍

一四月廿八日　塙撿挍
右今廿八日五時御城ゟ罷出候樣、植村駿河守殿御
差圖に付、罷出申候以上、
四月廿八日

文化十二亥年

一七月　日林大學頭殿より御達之書面寫
塙撿挍
右年始等御禮伺御支配方ゟ差出候所、正月二日御
醫師之內にて御禮可ニ申上一旨、御指圖相濟候、御醫
師衆も高下御座候者故、其當り如何相心得居可ㇾ申
哉之段、同人內談申聞候、仍ては各樣方御心得之所
承り置申度、此段及ニ御問合一候以上、
七月
付札 書面塙撿挍儀、御目見醫師之振合に相心得可ㇾ然
と存候、

一十二月　日小笠原近江守殿ゟ差出す
私儀當四月御目見被ニ仰付一候に付而者、來年始御
禮之節、兩御丸ゟ獻上物之儀如何可ㇾ仕哉、此段奉
ㇾ伺候以上、
亥十二月　塙撿挍
付札 扇子一箱充可ㇾ有ニ獻上一候

文化十三丙子年

一正月廿三日林家ゟ出す
奉ㇾ伺候覺
史料調方之義、此節朱雀記淸書認掛り候に付、私少
少手透にも御座候間、見合に可ニ相成一書籍取入之

爲、上京仕度奉ㇾ存候、且無ㇾ程惣撿挍之順にも相成、彼是相談も御座候に付、往來共八十日程御暇奉ㇾ願度、此段奉ㇾ伺候已上、

子正月　　塙撿挍

付札
可ㇾ爲二勝手次第一候

一二月七日大學頭殿佐渡守殿兩名之書面寫

御指出被ㇾ置候伺書、昨日御附札を以近江守殿御渡有ㇾ之候間、則御達申候、御入手可ㇾ被候以上、

二月七日

一二月八日佐渡守殿ゑ出す

奉ㇾ伺候覺

此度私上京之義、伺之通被二仰渡一難ㇾ有仕合奉ㇾ存候、右に付、史料取調之見合に可二相成一書籍、幷古文書古器之類寫取之爲、出役生田半平指添罷越候樣仕度奉ㇾ存候、入用之義は、盆[illegible]受取候御金之内にて取計に候間、別段に被二下置一候には不二及申一候、此段奉ㇾ伺候以上、

二月　　塙撿挍

文化十三子年

一二月十六日柳生主膳正殿ゑ差出扣

覺

御用向此節少々手透に付、見合にも可二相成一書籍取入之ため、來る廿一日出立にて上京仕候間、何卒東海道筋人馬指支無ㇾ之樣御聲かゝり被二成下一度奉ㇾ願候、文化九午年九月上京之節も、御蔭にて差支無ㇾ之、難ㇾ有奉ㇾ存候、此段宜敷被二仰上一可ㇾ被ㇾ下候以上、

二月十六日　　塙撿挍

一二月十九日柳生主膳正殿より書面寫

以二手紙一致二啓上一候、然者今度御上京に付、品川宿ゑ聲懸候儀、去る午年九月中御上京之節振合を以、被二急度聲掛一候樣、同所支配御代官大貫次右衛門ゑ申達被ㇾ置候、左樣御心得可ㇾ被ㇾ成候、此段自二拙者共一申進候樣、主膳正申付、如ㇾ此御座候已上、

二月十九日

岡本彌九郎
河野宇内
水品大助

上書
塙撿挍樣

一二月　日內藤豐前守殿ゟ出す

座中定之儀に付、職十老惣代として、文化三寅年阿部主計頭殿ゟ伺書差出し候處、御退役之砌、松平和泉守殿ゟ御附送りに相成、度々御呼出し有レ之、御調御座候處、被二仰渡一無レ之內、又々御退役にて、此方樣御掛りに相成候哉と奉レ存候、右伺書之儀に付、此末御尋等御座候はゞ、時之惣錄御呼出し被二下置一候樣仕度奉レ存候、且私儀此節御用向少々手透に付、見合せに可二相成一書物爲二取入一、來る廿一日上京仕候間、御屆旁此段申上候以上、

子二月

文化十四年丁丑

一八月十四日大學頭殿へ出す

奉レ伺候覺

諸國撿挍之內、舊き者十人在京仕、座中之事公事訴訟に至迄取扱申候、其筆頭を職と唱、惣撿挍に被二仰付一、夫より二老三老と次第に十老迄相唱候處、私當時三老にて御座候、二老本田撿挍多病に付隱居仕度間、內內申來候、左樣候得者、私二老に轉候處、職島浪惣撿挍八十歲餘にて、明日にも病氣之處難レ計候間、永在京不レ仕候へば相成不レ申候、勿論當時御用向被二仰付一有レ之候身分にて、上京之義奉レ願候は、恐入候事に御座候得共、二老迄進み候得ば、座中冥加之爲、惣撿挍に昇進仕度御座候、尤繼目之御禮申上候はゞ、早速辭退仕、是迄之通、御用相勤候存寄に御座候、此段奉レ伺候已上、

八月

塙撿挍

別紙

本紙之趣は、座法を以申上候得共、惣撿挍辭退仕る上は、隱居に御座候、前々より隱居に迄、御用相勤

候例は、無レ之樣覺申候、御用蒙り候者、江戸表にて惣撿挍被二仰付一候例、左之通に御座候已上、

杉山惣撿挍

元祿五年五月鍼治御用にて、二十七人目より惣撿挍被二仰付一御差留之處、同七年病死仕候、

三島惣撿挍

元祿七年八月同斷御用にて、惣撿挍に被二仰付一、寶永六年十月隱居奉レ願候、是は幾人目と申事相知不レ申候、

島浦惣撿挍

寶永六年十月同斷御用にて、八十九人目より惣撿挍に被二仰付一、元文元年二月隱居奉レ願候、江戸表に惣撿挍有レ之候時も、京都は職撿挍と而已唱申候事御座候以上、

八月　　　塙撿挍

一十二月　日林大學頭へ出す

和學所開板入用之義、大坂表町人用立呉候に付、御代官衆において御貸付に被二成下一候樣奉レ願候處、願之通被二仰渡一、難レ有仕合奉レ存候、右に付、上坂仕度事御座候處、此節御用向少々手透にも御座候間、可二相成一は、往來之外六十日程御暇被二下置一候樣仕度奉レ存候、且弟子共之內、撿挍成二心掛一居候者御座候間、彌調ひ候はゞ、歸府十日餘りも延引可レ仕候、此段宜被二仰立一可レ被レ下候已上、

丑十二月　　塙撿挍

一十二月十八日林大學頭殿へ出す

和學所開板入用之義、大坂表增本屋安兵衛差出候はゞ、御貸附相成候內、金貳百兩御下げ被二成下一候樣仕度奉レ存候、私儀無レ程七十三才に罷成候得ば、史料開板少しも早く取掛申度奉レ存候、尤貳百兩之利年壹割之勘定を以、每暮貳拾兩づゝ相納、元金之儀は、戌年之拜借明後卯年納切に相成候間、辰年より未年迄四ヶ年に、町地面地代金を以、五拾兩宛相納可レ申候、右之段宜被二仰立一可レ被レ下候已上、

丑十二月　　塙撿挍

一十二月廿二日榊原主計頭殿へ差出書面

覺

御用向此節少々手透に付、大坂表用事相急、史料取立御用見合にも可ニ相成一書籍寫取之ため、門人兩人召連、來る廿五日出立にて罷登候間、何卒道中筋人馬差支無レ之樣、御聲懸り被ニ成下一度奉レ願候、尤登り東海道、下り中仙道往來可レ仕と奉レ存候、去子年二月上京之節も御威光を以無ニ差支一通行仕難レ有奉レ存候以上、

丑十二月廿二日　　塙撿挍

一十二月廿三日榊原主計頭殿より書面之寫

以ニ手紙一致ニ啓上一候、然者今度大坂表に御出立に付、品川宿并中仙道宿々に、聲懸候儀、去る午年九月中御上京之節振合を以て、急度聲懸候樣、御代官大貫次右衛門に申達被レ置候、左樣御心得可レ被レ成候、此段拙者共より申進候樣、主計頭申付、如レ此に御座候以上、

十二月廿三日　　稻村儀平太

天利右中

赤間丈左衛門

文化十五戊寅年

正月晦日松平和泉守殿より野田殿（名代田村殿）へ御渡被レ成候御書付寫

一今度二老に相進、在京可レ仕座法之由に候へ共、和學所御用も有レ之候間、其儘在府仕可ニ相勤一候、

塙撿挍

文政二癸卯年

一四月朔日榊原主計頭殿へ差出候書付寫

御用向此節少々手透に付、史料取調方見合にも可ニ相成一書籍爲ニ寫取一門人兩人召連、來八日出立にて上京仕候間、何卒道中筋、人馬差支無之樣、御聲掛被ニ成下一度奉レ願候、尤東海道を上り、尾州名古屋立寄、夫より伊勢兩宮之神庫を探り、上京仕、歸路

は中仙道往來可レ仕と奉レ存候、去々丑十二月上京之節も、此方樣御威光を以、差支なく通行仕難レ有奉レ存候以上、

別紙

尾州名古屋へ立寄候義は、眞福寺と申寺に古書多く有レ之候間、尾張樣へ奉レ願、右之文庫を探り申候、伊勢兩宮之義は、先年伊豆守殿へ申立、林崎豐宮崎之書目取寄、追々寫取候得共、猶又此節取寄、吟味仕度奉レ存候、

一四月三日主計頭殿より來書狀寫

以二手紙一致二啓上一候、然者今度京都へ御出立に付、東海道通り尾州名古屋へ立寄、夫より伊勢兩宮へ罷越、中山道通り御旅行之義、去々丑年御上京之節振合を以て、急度聲懸け候樣、御代官大貫次右衞門へ申達被レ置候、左樣御心得可レ被レ成候、此段拙者共より申進候樣、主計頭申付如レ此御座候已上、

四月三日　　稻村義平太

天利右仲

赤間丈右衞門

塙撿挍樣

一同七日林家へ出候書付

御屆申上候覺

一明八日出立仕、東海道を上り、尾州名古屋之眞福寺へ立寄、勢州內外宮之文庫を探り、上京仕候而、歸路者、中仙道を下り可レ申と奉レ存候、

一日數之儀、先達而不二申上一候得共、是迄之通往來之外六十日程御暇被二下置一候樣仕度奉レ存候、

一留守中御用之筋、飯島平次郎より申上、私用者金田元橋より可二申上一候樣可レ仕候以上、

四月七日　　塙撿挍

一六月九日浦和溜にて、八ッ時歸宿致し、其樣直に御用番へ御屆に被レ出、青山下野守殿小笠原近江守殿出立之節之御用番、水野出羽守殿、堀田攝津守殿、

一同日榊原主計頭殿差出候書付左之通

當四月中上京仕候に付、道中筋へ御聲懸之義奉レ願候處、御威光にて人馬無ニ差支一往來致、今日罷歸、難レ有仕合奉レ存候、依レ之御屆奉ニ申上一候以上、

六月九日　塙撿校

文政四年

一調進書物四部之事

史料其外獻上之書物、去六日土井大炊頭殿差出され申候由、無レ滞相濟申候旨、成しま方御買上之（群書類從なり）分去ル七日林肥後守殿を以差出候由申來候、

四月十四日　四番町

佐山久米吉様

此時差出候書物は、史料村上帝記、家記、類從、續類從、目錄之四部也、内家記は、去ル巳十二月十二日東條殿迄相廻し置、

一群書類從御買上御代金受取之事

群書類從出板仕候卷數之儀、先年目論見出板仕候節、五百册餘ニ可ニ相成一見込ニ御座候處、當時全部成就仕候得者、都合六百三十五册ニ相成申候、左様ニ御座候得ば、先々御内々御買上金として、前金三拾五兩御下ヶ被レ下候處、此節全部之上ニ而不レ殘取調候得者、拾三兩壹分不足仕候、何卒可ニ相成一義ニ御座候はゞ、右不足之分、御下ヶ被ニ下置一候様、偏奉レ願候以上、

午四月廿七日　塙次郎

右之通書付相認、翌廿八日成島邦之助殿江差出ス、御同人方御用掛り林肥後守殿江被ニ差出一候處、御評儀之上、五月十三日御金拾三兩壹分御下ヶ、邦之助殿方受取、

右一件は、成島邦之助殿江、東條源右衞門殿被ニ申談一事、五月廿日林家并成島江、爲ニ御禮一次郎罷出、

一六月十四日林家より

相達儀有レ之候ニ付、明十五日九半時、拙宅江可レ被ニ相越一候以上、

六月十四日　林大學頭

林又三郎

塙撿校

猶以病氣不ニ相勝ー候はゞ、爲ニ名代ー次郎可ㇾ被ニ差出ー候、尤麻上下可ㇾ爲ニ着用ー候以上、

六月十五日則次郎麻上下着用、林家江罷出之處左之通御達

塙撿挍
名代 次郎

銀三拾枚

編集いたし候、群書類從全部差上候付、御褒美として被ㇾ下之、

右紀伊守殿被ニ仰渡ー候ニ付申渡候、

六月十五日

一七月三日跡目願書本紙并扣共貳通雨富撿挍持參林家江山田久助受取（朱書）本紙程村調印、控は美濃紙ニ相認印ト計認、上包いづれもみの

私儀去巳年八月中瘧疾相煩、其後勞役之症與成、其上持病之積氣も加り、久々相惱候ニ付、醫療仕候得共、老年之儀、段々不ニ相勝ー近日者絶食相成候ニ付快氣之程無ニ覺束ー奉ㇾ存候、年來奉ㇾ蒙ニ御厚恩ー和學御用向相勤、冥加至極、難ㇾ有仕合奉ㇾ存候、若養生不ニ相叶ー相果候者、忰次郎儀講談所相續被ニ仰付ー引續和學御用相勤候樣、被ニ成下ー候者、難ㇾ有仕合可ㇾ奉ㇾ存候、何卒右內願之次第、若年寄方江御願被ㇾ下候樣、偏奉ニ願上ー候以上、

文政五壬午年七月三日　塙前惣撿挍㊞

林大學頭殿

林又三郎殿

一七月九日左之兩通御屆書、林家江佐山久米吉持參上下着用山田久助受取

御屆書

父塙前撿挍儀、去巳八日中ゟ病氣之處、養生不ニ相叶ー今九日卯ノ刻死去仕候、依之御屆申上候以上、

午七月九日　塙次郎

忌服御屆書

父塙前惣撿挍今九日卯刻死去

忌五十日 七月九日より八月廿九日迄

服十三月（七月より來未七月迄）

右之通忌服請申候以上

午七月九日　塙次郎

一九月三日先考御年齡、且予之歲數、林家より御尋ニ付、左之通認、柴田義一迄差出ス

塙前惣撿挍
午七拾七歲

塙次郎
午拾八歲

一九月七日林家より左之通剪紙到來

御用之儀候間、明八日五半時、我等宅に可ニ罷出一候以上、

林又三郎

九月七日　林大學頭

塙　次郎殿

袖書
猶以麻上下可レ有ニ着用一候以上、

一九月八日麻上下着用、林家に予能出之處、左之通被ニ仰渡一

塙撿挍子
塙次郎

塙撿挍事、年來和學筋御用出精相勤候付、次郎に御扶持方五人扶持被レ下、撿挍跡御用筋引續可ニ相勤一候、依之拜借地町屋敷共、其儘ニ被ニ成下一之、

右堀攝津守殿被ニ仰渡一候ニ付申渡候、

續々群書類從第十六　大尾

明治四十二年十月一日印刷
明治四十二年十月五日發行

非賣品

東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地
國書刊行會代表者
編輯兼發行者　市島謙吉

東京市神田區蠟燭町八番地
印刷者　武木信賢

東京市神田區三河町三丁目四番地
印刷所　武木印刷所